協働環境委員会資料
令和8年11月6日提出

男女共同参画に関する市民意識調査
結果報告書

令和８年３月

飯　塚　市

目　次

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的 …… 1
２．調査項目 …… 1
３．調査の性格 …… 1
４．回答者の属性 …… 2
５．調査結果利用上の注意 …… 6

Ⅱ　調査結果

第１章　男女共同参画に関することについて

１．男女共同参画の関心度 …… 7

第２章　家庭生活や子どもの育て方について

１．家庭での男女の役割分担 …… 9
２．性別役割分担意識 …… 27
３．子どもの育て方についての考え方 …… 30
４．男女共同参画をすすめていくために、学校教育の場で力を入れること …… 34
５．男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なこと …… 36

第３章　地域活動について

１．この１年間に参加したことがある地域活動 …… 38
２．地域の役職・公職につくことについて …… 40
（１）地域の役職・公職への就任や立候補を依頼された場合の対応 …… 40
（２）地域の役職・公職を断る理由 …… 43
３．政策の企画・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由 …… 45
４．災害に備えるために必要な男女共同参画の視点 …… 47

第４章　就労について

１．職業の有無 …… 49
２．職場における男女の扱いについて …… 51
３．女性が職業を持つことについての考え方 …… 54
４．男性が育児休業などを取得しない（できない）理由 …… 57
５．男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件 …… 60

第５章　人権に関することについて

１．ドメスティック・バイオレンスについて …… 63

（１）ドメスティック・バイオレンスだと思うもの ····· 63
（２）ドメスティック・バイオレンスの経験 ····· 67
（３）ドメスティック・バイオレンス被害の相談先 ····· 72
（４）ドメスティック・バイオレンス被害について相談をしなかった理由····· 74
２．セクシュアル・ハラスメントについて ····· 76
（１）セクシュアル・ハラスメントの経験 ····· 76
（２）セクシュアル・ハラスメント被害の相談先 ····· 78
（３）セクシュアル・ハラスメント被害について相談をしなかった理由····· 80

第６章　女性の性と生殖に関する健康・権利（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）について
１．リプロダクティブ・ヘルス／ライツについての考え方 ····· 82

第７章　悩みや困りごとについて
１．悩みや困りごとについて ····· 86
（１）悩みや困りごとの有無 ····· 86
（２）悩みや困りごとの相談先 ····· 88
（３）悩みや困りごとを相談しなかった理由 ····· 90
２．悩みや困りごとを解決するためにあるとよいと思う環境や支援····· 92

第８章　男女の平等観について
１．分野別にみた男女の地位の平等観 ····· 94

第９章　男女共同参画社会の実現について
１．男女共同参画に関する言葉やことがらの認知 ····· 111
２．男女共同参画社会を実現するために望む施策 ····· 115
３．男女共同参画推進センター「サンクス」について ····· 117
（１）男女共同参画推進センター「サンクス」の認知 ····· 117
（２）男女共同参画推進センター「サンクス」で参加や利用したことがあるもの···· 119
（３）男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業····· 120

Ⅲ　調査結果のまとめ

調査結果からみえる特徴と今後の課題 ····· 123

◎参考資料
使用した調査票 ····· 131

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

この調査は、市民の男女共同参画に対する意識、家庭生活や地域活動における男女共同参画の状況、就労や人権に関する状況や意識を把握し、今後の「男女共同参画社会」実現に向けての施策推進の基礎資料を得ることを目的として実施した。

２．調査項目

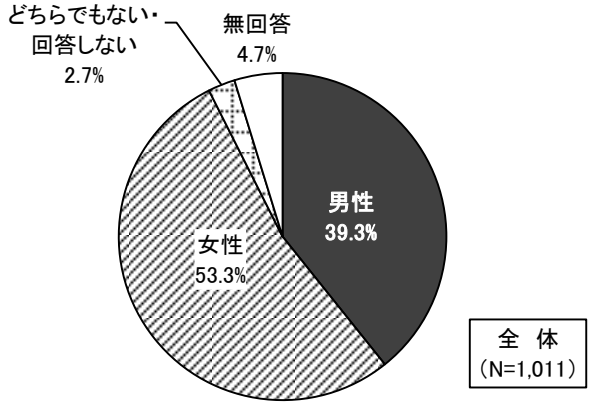
（１）男女共同参画に関することについて
（２）家庭生活や子どもの育て方について
（３）地域活動について
（４）就労について
（５）人権に関することについて
（６）女性の性と生殖に関する健康・権利（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）について
（７）悩みや困りごとについて
（８）男女の平等観について
（９）男女共同参画社会の実現について

３．調査の性格

（１）調　査　地　域　　飯塚市全域
（２）調 査 対 象 者　　市内在住の 18 歳以上の男女　３，０００人
（３）回　　収　　率　　有効回収　１，０１１件　　有効回収率３３．７％
（４）抽　出　方　法　　住民基本台帳から無作為抽出
（５）調　査　方　法　　郵送法（郵送による配布、郵送・WEB 併用回収、協力依頼ハガキを１回発送）
（６）調　査　期　間　　令和７年１０月１０日～１０月３１日
（ただし、令和７年１１月２８日回収分までを集計に含めている。）
（７）調 査 の 企 画　　飯塚市市民協働部　男女共同参画推進課
（８）調 査 の 実 施　　特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所
（９）結果の分析・総括　　武藤　桐子（福岡ジェンダー研究所　理事）

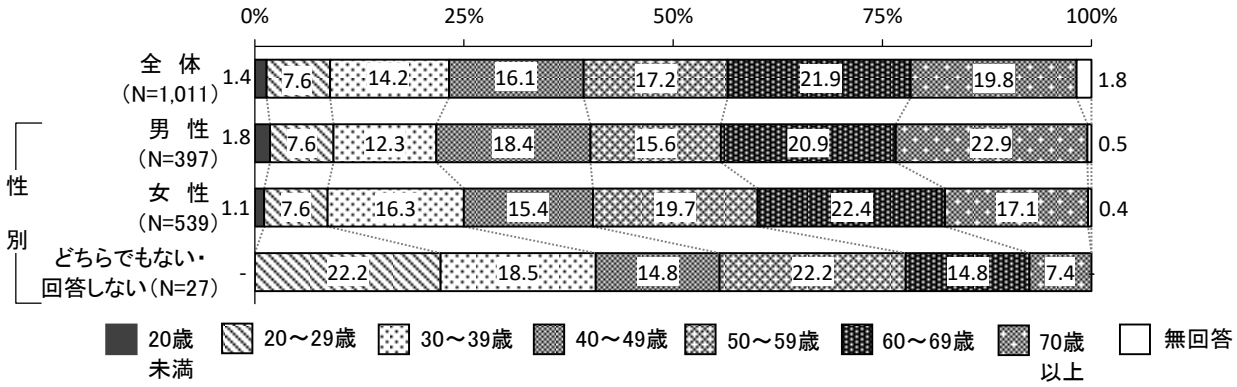
４．回答者の属性

◎性別



回答者の性別は「男性」が 39.3%、「女性」が 53.3%と女性が男性より 14.0 ポイント高い。「どちらでもない・回答しない」は 2.7%である。

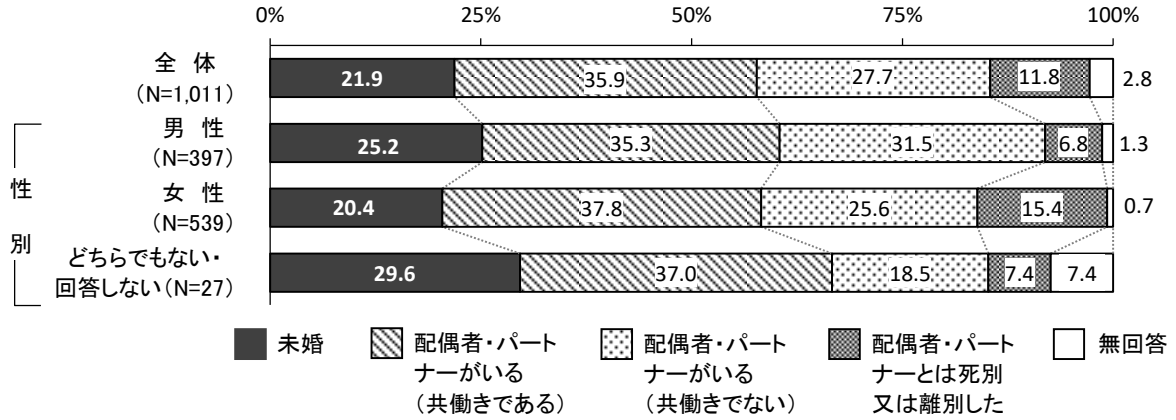
◎年齢



回答者の年齢は、「60～69 歳」（21.9%）と「70 歳以上」（19.8%）が約２割と多い。以下、「50～59 歳」が 17.2%、「40～49 歳」が 16.1%、「30～39 歳」が 14.2%、「20～29 歳」が 7.6%、「20 歳未満」が 1.4%となっている。

性別にみると男性は「70 歳以上」（男性 22.9%、女性 17.1%）が 5.8 ポイント女性よりも高く、女性は「50～59 歳」（同 15.6%、19.7%）が 4.1 ポイント、「30～39 歳」（同 12.3%、16.3%）が４ポイント男性よりも高い。その他の年代は同程度である。

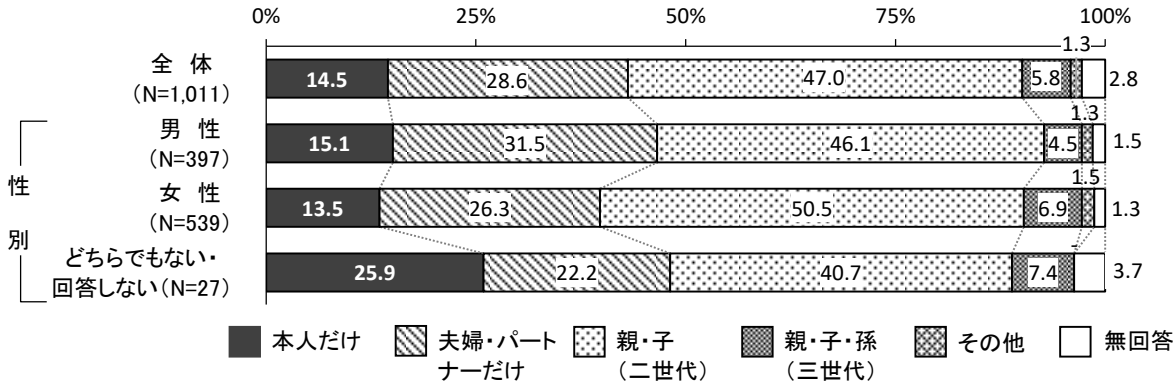
◎配偶関係



回答者の配偶関係は「配偶者・パートナーがいる（共働きである)」が 35.9%、「配偶者・パートナーがいる（共働きでない)」が 27.7%と共働きが 8.2 ポイント高い。「未婚」は 21.9%、「配偶者・パートナーとは死別又は離別した」は 11.8%である。

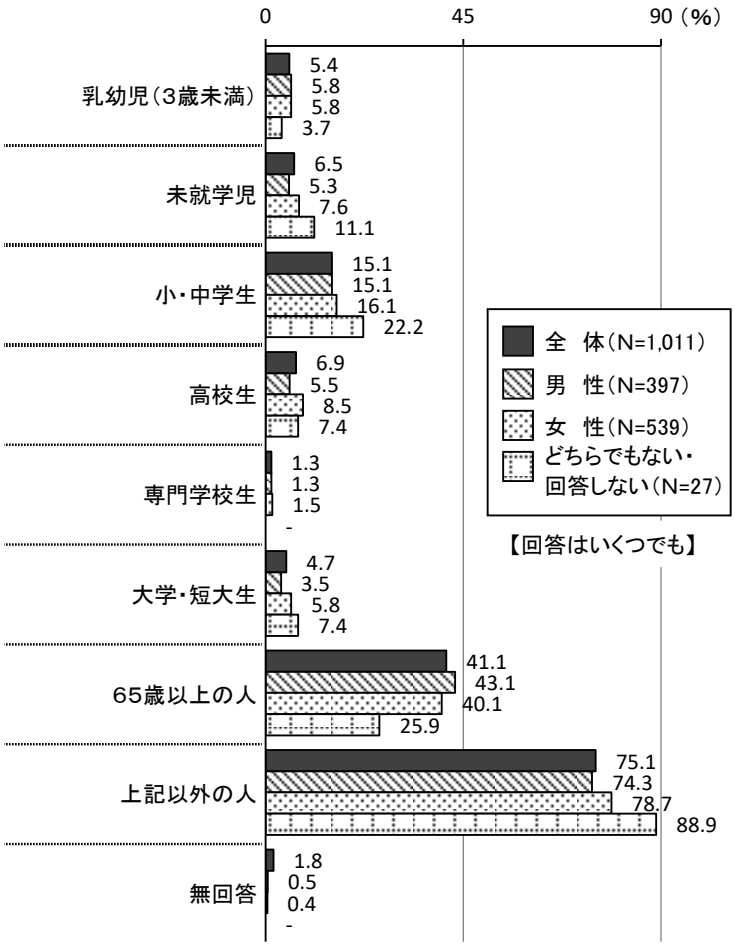
男性は「未婚」（男性 25.2%、女性 20.4%）が 4.8 ポイント、「配偶者・パートナーがいる（共働きでない)」（同 31.5%、25.6%）が 5.9 ポイント女性よりも高く、女性は「配偶者・パートナーとは死別又は離別した」（同 6.8%、15.4%）が 8.6 ポイント男性よりも高い。

◎同居の家族



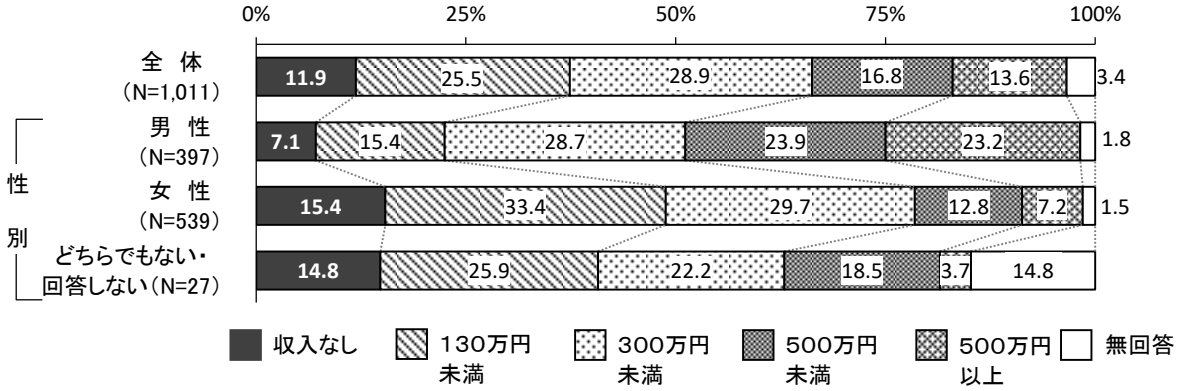
回答者の同居の家族は「親・子（二世代)」が 47.0%で最も多く、次いで「夫婦・パートナーだけ」が 28.6%、「本人だけ」が 14.5%、「親・子・孫（三世代)」が 5.8%である。

◎同居家族



回答者を含む同居家族は、「65 歳以上の人」41.1%、「小・中学生」15.1%、「高校生」6.9%、「未就学児」6.5%、「乳幼児（３歳未満)」5.4%などである。

◎あなたの年収



回答者の年収は、男性は「300 万円未満」(28.7%)、「500 万円未満」(23.9%)、「500 万円以上」(23.2%) が各々２割台であるが、女性は「300 万円未満」(29.7%) は男性と同程度の割合であるものの、「500 万円未満」「500 万円以上」の割合は男性より 10 ポイント以上低い。女性は「130 万円未満」(33.4%)、「収入なし」(15.4%) の割合が男性よりも高い。

年齢別にみると、男性の 30 代は「500 万円未満」が 51.0%、40 代は「500 万円以上」が 49.3%と約５割あるが、同年代の女性は「130 万円未満」と「300 万円未満」が２割台半ばから３割台で多い。

配偶関係別にみると、既婚の共働きの男性は「500 万円未満」（31.4%）や「500 万円以上」（45.0%）が約３割から４割台半ばで多く、女性では「130 万円未満」（31.9%）や「300 万円未満」（34.3%）が３割台で多い。共働きでない男性は「300 万円未満」が 44.0%、女性は「130 万円未満」（41.3%）や「収入なし」（34.8%）が３割台半ばから約４割で多い。死別又は離別した男女は「300 万円未満」が４割台で最も高い。

(%)

		標本数	収入なし	130万円未満	300万円未満	500万円未満	500万円以上	無回答
全体		1,011 100.0	120 11.9	258 25.5	292 28.9	170 16.8	137 13.6	34 3.4
年齢別	男性:18～29歳	37	10.8	37.8	18.9	29.7	2.7	－
	男性:30～39歳	49	4.1	4.1	14.3	51.0	24.5	2.0
	男性:40～49歳	73	2.7	6.8	19.2	21.9	49.3	－
	男性:50～59歳	62	11.3	6.5	12.9	33.9	35.5	－
	男性:60～69歳	83	9.6	10.8	39.8	16.9	20.5	2.4
	男性:70歳以上	91	5.5	29.7	49.5	8.8	4.4	2.2
	女性:18～29歳	47	21.3	34.0	21.3	19.1	2.1	2.1
	女性:30～39歳	88	15.9	27.3	33.0	15.9	6.8	1.1
	女性:40～49歳	83	14.5	24.1	28.9	21.7	10.8	－
	女性:50～59歳	106	14.2	22.6	32.1	15.1	14.2	1.9
	女性:60～69歳	121	17.4	39.7	28.9	9.1	4.1	0.8
	女性:70歳以上	92	12.0	52.2	30.4	1.1	3.3	1.1
	どちらでもない・回答しない	27	14.8	25.9	22.2	18.5	3.7	14.8
	無回答	52	9.6	19.2	23.1	1.9	9.6	36.5
配偶関係別	男性:未婚	100	17.0	24.0	23.0	26.0	8.0	2.0
	男性:配偶者がいる(共働きである)	140	－	6.4	17.1	31.4	45.0	－
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	125	8.0	15.2	44.0	16.0	16.0	0.8
	男性:配偶者とは死・離別した	27	3.7	25.9	44.4	18.5	3.7	3.7
	女性:未婚	110	20.9	26.4	24.5	19.1	7.3	1.8
	女性:配偶者がいる(共働きである)	204	2.9	31.9	34.3	18.1	11.3	1.5
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	138	34.8	41.3	18.8	1.4	2.9	0.7
	女性:配偶者とは死・離別した	83	7.2	33.7	43.4	10.8	4.8	－
	どちらでもない・回答しない	27	14.8	25.9	22.2	18.5	3.7	14.8
	無回答	57	8.8	22.8	22.8	1.8	8.8	35.1

５．調査結果利用上の注意

（１）数字は、百分比の小数点以下第２位を四捨五入しているので、回答比率の合計は、必ずしも 100%になるとは限らない。

（２）２つ以上の回答を要する（複数回答）質問の場合、その回答比率の合計は、原則として100%を超える。

（３）数表、図表、文中に示すＮは、比率算出上の基数（標本数）である。数表で、分析項目によっては対象者が限定されるため、全体の標本数と合わないことがある。

（４）問○-○は前問で特定の回答をした一部の回答者のみに対して続けて行った質問である。

（５）文中の選択肢の表記は「　」で行い、選択肢のうち、２つ以上のものを合計して表す場合は『　』とした。

（６）今回の調査は、次の資料と比較分析を行っている。

飯塚市　「男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書」令和３年４月実施

福岡県　「男女共同参画社会に向けての意識調査」令和６年１２月実施

内閣府　「男女共同参画社会に関する世論調査」令和６年９月実施

Ⅱ　調査結果

Ⅱ　調査結果

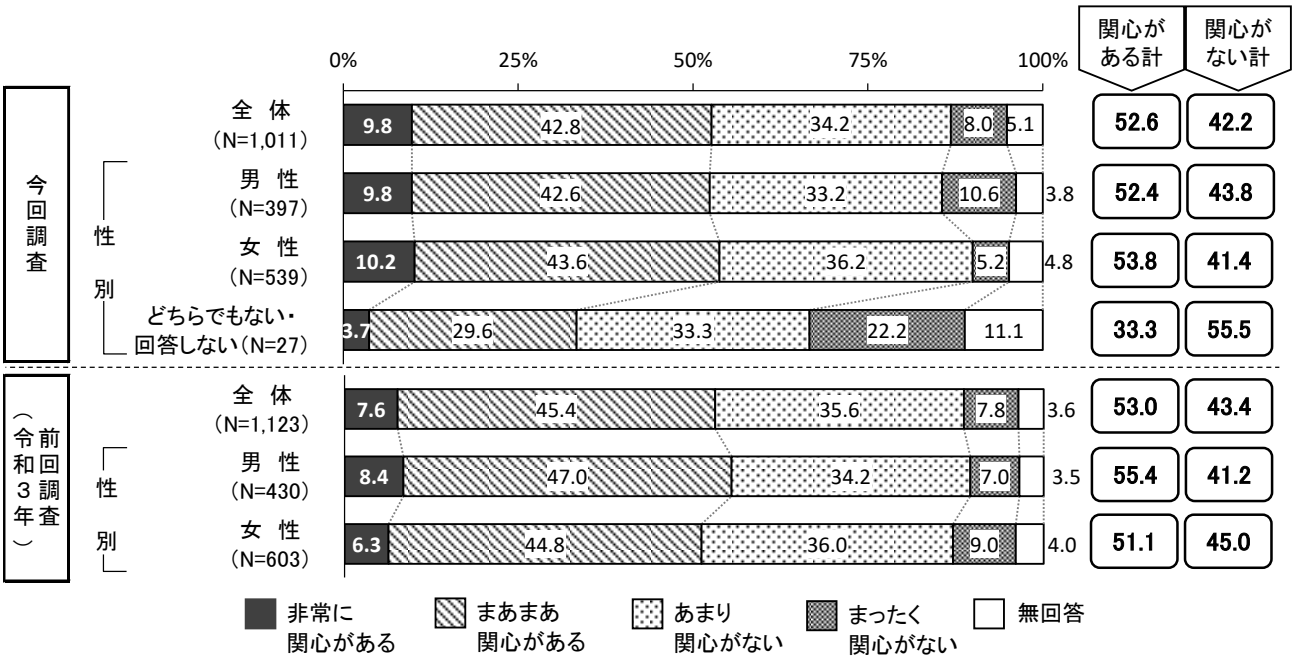
第１章　男女共同参画に関することについて

１．男女共同参画の関心度

問１　あなたは、男女共同参画に関心がありますか。（○は１つ）

●男女共同参画への関心は『関心がある』が５割強、『関心がない』が４割強。男女とも同程度の割合。
●前回調査と比べて、あまり大きな差はみられない。

図表１－１　男女共同参画の関心度［全体、性別］（前回調査比較）



男女共同参画の関心の程度をたずねた。「まあまあ関心がある」が 42.8％と最も高く、「非常に関心がある」は 9.8％でこれらをあわせた『関心がある』は 52.6％と５割を超える。次いで「あまり関心がない」が 34.2％で「まったく関心がない」（8.0％）をあわせた『関心がない』は 42.2％と関心がある人の方が 10.4 ポイント高い。

性別にみると、『関心がある』は男性が 52.4％、女性が 53.8％と同程度、『関心がない』も男性が 43.8％、女性が 41.4％と同程度である。

令和３年４月に実施された「男女共同参画に関する市民意識調査」（以下、前回調査という）と比べると、女性で『関心がない』が 3.6 ポイントとわずかに減少しているが、男女ともそれほど大きな変化はみられない。

図表１－２　男女共同参画の関心度［全体、年齢別］

（%）

		標本数	非常に関心がある	まあまあ関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	無回答	**関心がある**	**関心がない**
全体		1,011 100.0	99 9.8	433 42.8	346 34.2	81 8.0	52 5.1	**532 52.6**	**427 42.2**
年齢別	男性:18～29歳	37	10.8	43.2	32.4	10.8	2.7	**54.0**	**43.2**
	男性:30～39歳	49	2.0	34.7	44.9	16.3	2.0	**36.7**	**61.2**
	男性:40～49歳	73	13.7	46.6	20.5	16.4	2.7	**60.3**	**36.9**
	男性:50～59歳	62	17.7	38.7	29.0	9.7	4.8	**56.4**	**38.7**
	男性:60～69歳	83	8.4	43.4	38.6	8.4	1.2	**51.8**	**47.0**
	男性:70歳以上	91	6.6	44.0	36.3	5.5	7.7	**50.6**	**41.8**
	女性:18～29歳	47	14.9	51.1	21.3	10.6	2.1	**66.0**	**31.9**
	女性:30～39歳	88	4.5	39.8	42.0	11.4	2.3	**44.3**	**53.4**
	女性:40～49歳	83	10.8	47.0	28.9	6.0	7.2	**57.8**	**34.9**
	女性:50～59歳	106	8.5	45.3	39.6	2.8	3.8	**53.8**	**42.4**
	女性:60～69歳	121	13.2	43.0	38.0	1.7	4.1	**56.2**	**39.7**
	女性:70歳以上	92	10.9	39.1	38.0	3.3	8.7	**50.0**	**41.3**
	どちらでもない・回答しない	27	3.7	29.6	33.3	22.2	11.1	**33.3**	**55.5**
	無回答	52	7.7	46.2	21.2	9.6	15.4	**53.9**	**30.8**

年齢別にみると、男性の 40 代と女性の 18～29 歳で『関心がある』が６割台と高い。男女とも 30 代では『関心がない』（男性 61.2%、女性 53.4%）が他の年代に比べて高い。

第２章　家庭生活や子どもの育て方について

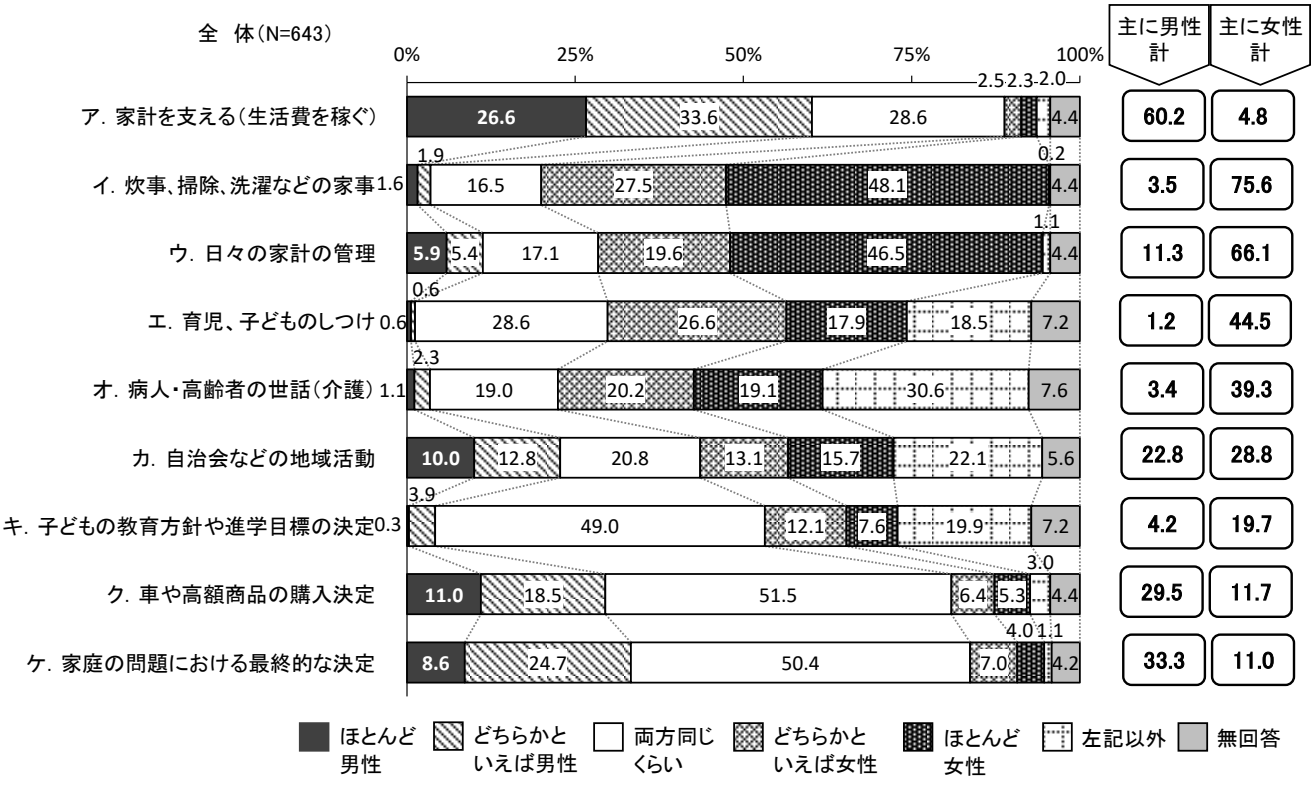
１．家庭での男女の役割分担

【現在「配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している方」におたずねします。】

問２　あなたのご家庭では、男女の役割分担はどのようになっていますか。次のア～ケの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

●家庭での役割分担で『主に男性』が高いのは「家計を支える（生活費を稼ぐ）」が約６割。
●『主に女性』が高いのは「炊事、掃除、洗濯などの家事」が７割台半ば、「日々の家計の管理」が６割台半ば、「育児、子どものしつけ」が４割台半ば、「病人・高齢者の世話（介護）」が約４割。
●「自治会などの地域活動」は男女とも自分が行っているとの認識が強い。「子どもの教育方針や進学目標の決定」「車や高額商品の購入決定」「家庭の問題における最終的な決定」などは「両方同じくらい」の割合が約５割と高いが、進学目標の決定は女性、購入決定や最終的な決定は男性に偏る傾向もみられる。
●前回調査より「両方同じくらい」の割合は「家計を支える（生活費を稼ぐ）」で男女とも増加、「炊事、掃除、洗濯などの家事」「車や高額商品の購入決定」「家庭の問題における最終的な決定」は女性で増加。

図表２－１　家庭での男女の役割分担［全体］



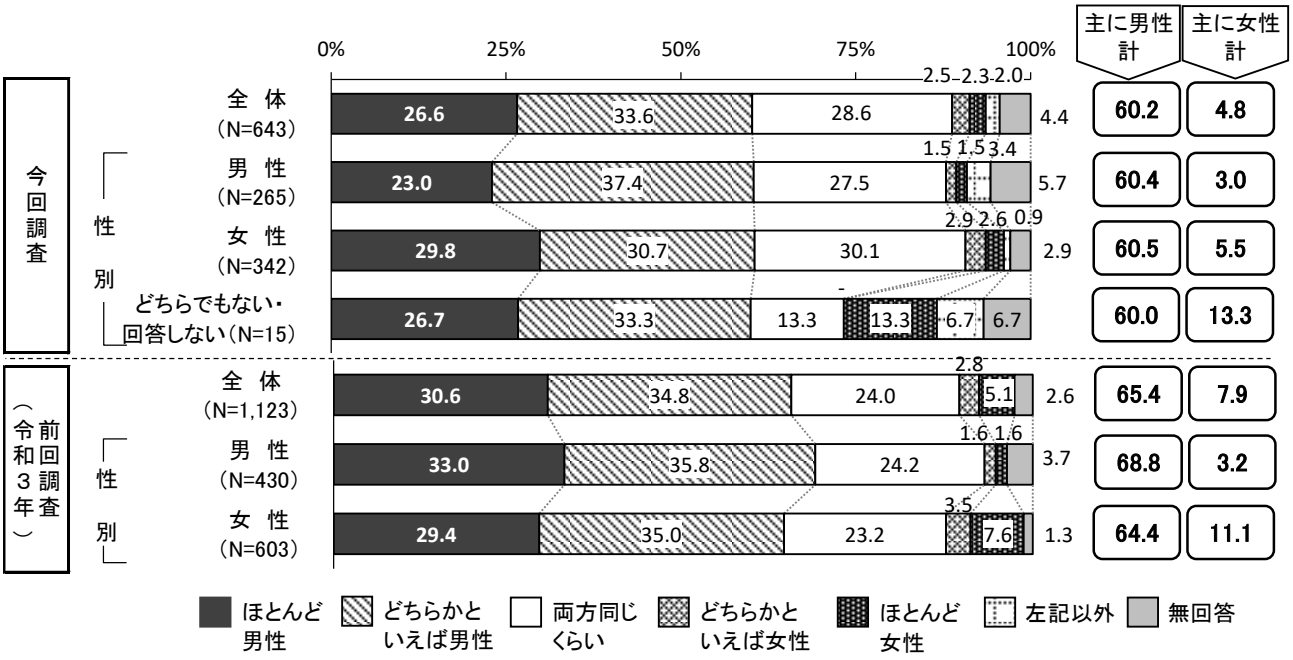
現在、配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している方に家庭内での役割分担についてたずねた。「ほとんど男性」と「どちらかといえば男性」との合計を『主に男性』、「ほとんど女性」と「どちらかといえば女性」との合計を『主に女性』とする。

Ⅱ　調査結果

本設問に関しては、前回調査と比較する場合、今回の調査では現在、配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している人に回答してもらっていること、「左記以外」の項目が増えていることから、留意が必要である。

ア．家計を支える（生活費を稼ぐ）

図表２－２　家計を支える（生活費を稼ぐ）［全体、性別］（前回調査比較）



「家計を支える（生活費を稼ぐ）」ことについては、『主に男性』が 60.2%、「両方同じくらい」が 28.6%、『主に女性』が 4.8%で、生活費を稼ぐのは主に男性の役割となっている。

性別にみると、『主に男性』（男性 60.4%、女性 60.5%）の割合は男女とも約６割であるが、その内訳をみると、女性は「ほとんど男性」が 29.8%と男性（23.0%）より 6.8 ポイント高い。また「両方同じくらい」（同 27.5%、30.1%）も男女とも約３割と同程度である。

前回調査と比べると、男女とも『主に男性』が 3.9～8.4 ポイント低くなり、「両方同じくらい」が 3.3～6.9 ポイント増えている。

図表２－３　家計を支える（生活費を稼ぐ）［全体、年齢別］

（%）

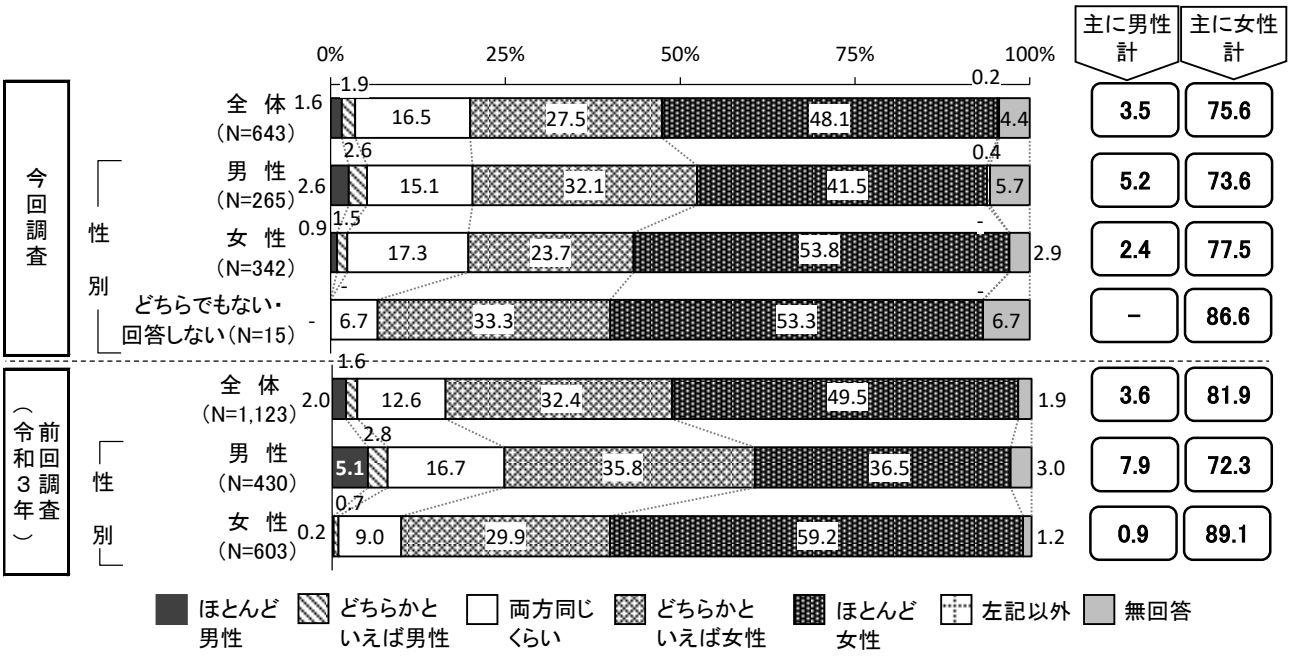
		標本数	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性	左記以外	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		643	171	216	184	16	15	13	28	387	31
		100.0	26.6	33.6	28.6	2.5	2.3	2.0	4.4	60.2	4.8
年齢別	男性:18～29歳	9	11.1	33.3	44.4	－	－	11.1	－	44.4	－
	男性:30～39歳	32	28.1	31.3	34.4	－	－	3.1	3.1	59.4	－
	男性:40～49歳	48	18.8	50.0	22.9	4.2	2.1	－	2.1	68.8	6.3
	男性:50～59歳	41	17.1	43.9	26.8	2.4	2.4	－	7.3	61.0	4.8
	男性:60～69歳	60	26.7	31.7	28.3	1.7	3.3	1.7	6.7	58.4	5.0
	男性:70歳以上	75	25.3	33.3	25.3	－	－	8.0	8.0	58.6	－
	女性:18～29歳	12	16.7	41.7	41.7	－	－	－	－	58.4	－
	女性:30～39歳	61	32.8	29.5	27.9	4.9	4.9	－	－	62.3	9.8
	女性:40～49歳	60	30.0	36.7	23.3	3.3	3.3	－	3.3	66.7	6.6
	女性:50～59歳	70	28.6	28.6	32.9	2.9	4.3	－	2.9	57.2	7.2
	女性:60～69歳	86	38.4	25.6	29.1	－	－	2.3	4.7	64.0	－
	女性:70歳以上	53	17.0	34.0	35.8	5.7	1.9	1.9	3.8	51.0	7.6
	どちらでもない・回答しない	15	26.7	33.3	13.3	－	13.3	6.7	6.7	60.0	13.3
	無回答	21	19.0	33.3	28.6	9.5	－	－	9.5	52.3	9.5

年齢別にみると、男女の18～29歳で「両方同じくらい」が４割台と高い。『主に男性』は男性の40代で68.8%と最も高く、また女性の40代でも66.7%と女性の中で最も高い。

Ⅱ　調査結果

イ．炊事、掃除、洗濯などの家事

図表２－４　炊事、掃除、洗濯などの家事［全体、性別］（前回調査比較）



炊事、掃除、洗濯などの家事をすることについては、『主に女性』が 75.6％と高く、「両方同じくらい」は 16.5％、『主に男性』は 3.5％である。生活費を稼ぐは男性に偏っていたが、家事は女性に偏っている。

性別にみると、女性の『主に女性』（男性 73.6％、女性 77.5％）は男性と 3.9 ポイント差であるが、内訳をみると「ほとんど女性」の割合は 53.8％と男性（41.5％）より 12.3 ポイント高い。「両方同じくらい」は男性 15.1％、女性 17.3％と同程度となっている。

前回調査と比べると、女性の『主に女性』の割合が 11.6 ポイント減少し、「両方同じくらい」の割合が 8.3 ポイント増加している。男性はあまり大きな差はみられない。

図表２－５　炊事、掃除、洗濯などの家事［全体、年齢別、共働き別］

（%）

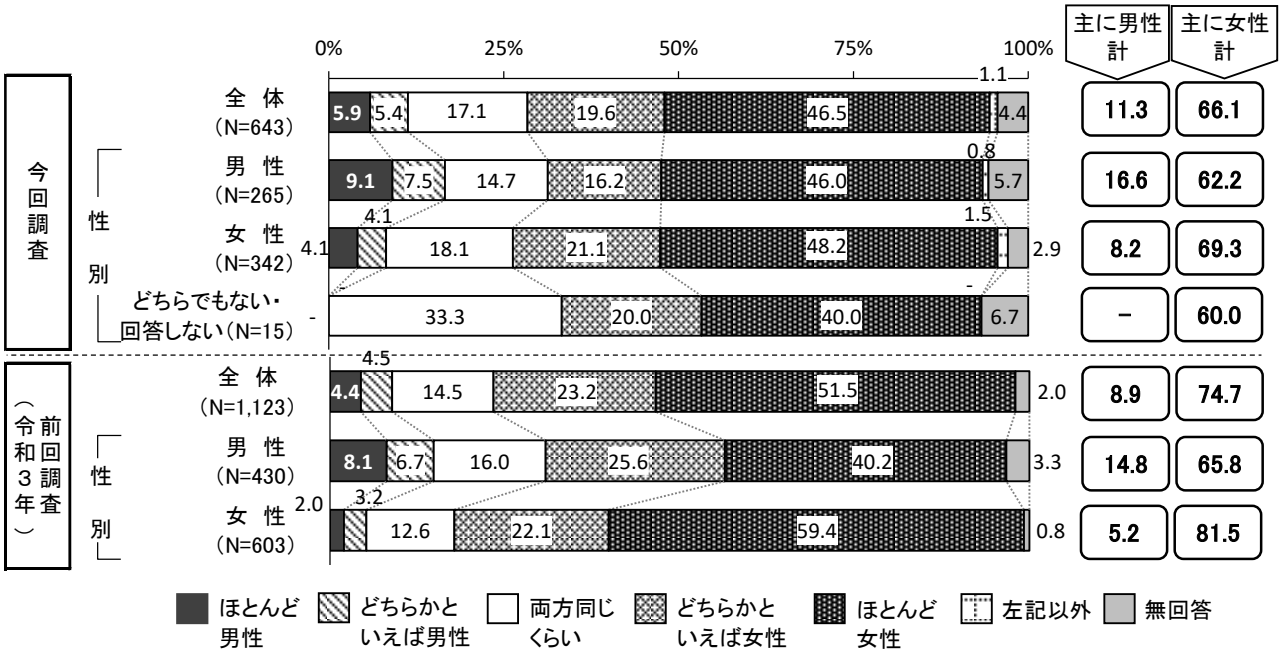
		標本数	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性	左記以外	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		643 100.0	10 1.6	12 1.9	106 16.5	177 27.5	309 48.1	1 0.2	28 4.4	**22 3.5**	**486 75.6**
年齢別	男性:18～29歳	9	11.1	－	44.4	22.2	11.1	－	11.1	**11.1**	**33.3**
	男性:30～39歳	32	3.1	－	31.3	28.1	31.3	3.1	3.1	**3.1**	**59.4**
	男性:40～49歳	48	8.3	－	16.7	35.4	37.5	－	2.1	**8.3**	**72.9**
	男性:50～59歳	41	－	7.3	12.2	31.7	41.5	－	7.3	**7.3**	**73.2**
	男性:60～69歳	60	1.7	1.7	11.7	36.7	43.3	－	5.0	**3.4**	**80.0**
	男性:70歳以上	75	－	4.0	8.0	29.3	50.7	－	8.0	**4.0**	**80.0**
	女性:18～29歳	12	8.3	8.3	33.3	8.3	41.7	－	－	**16.6**	**50.0**
	女性:30～39歳	61	1.6	3.3	26.2	19.7	49.2	－	－	**4.9**	**68.9**
	女性:40～49歳	60	－	－	11.7	23.3	61.7	－	3.3	**－**	**85.0**
	女性:50～59歳	70	－	1.4	15.7	30.0	50.0	－	2.9	**1.4**	**80.0**
	女性:60～69歳	86	－	1.2	12.8	25.6	55.8	－	4.7	**1.2**	**81.4**
	女性:70歳以上	53	1.9	－	18.9	20.8	54.7	－	3.8	**1.9**	**75.5**
	どちらでもない・回答しない	15	－	－	6.7	33.3	53.3	－	6.7	**－**	**86.6**
	無回答	21	－	－	28.6	28.6	33.3	－	9.5	**－**	**61.9**
共働き別	男性:共働きである	140	2.9	2.1	22.9	35.0	32.1	－	5.0	**5.0**	**67.1**
	男性:共働きでない	125	2.4	3.2	6.4	28.8	52.0	0.8	6.4	**5.6**	**80.8**
	女性:共働きである	204	1.0	1.5	17.6	25.0	51.0	－	3.9	**2.5**	**76.0**
	女性:共働きでない	138	0.7	1.4	16.7	21.7	58.0	－	1.4	**2.1**	**79.7**
	どちらでもない・回答しない	15	－	－	6.7	33.3	53.3	－	6.7	**－**	**86.6**
	無回答	21	－	－	28.6	28.6	33.3	－	9.5	**－**	**61.9**

年齢別にみると、男性の 30 代以下では「両方同じくらい」が約３割から４割台半ばと高い。女性の 30 代以下も「両方同じくらい」２割台半ばから約３割と女性の中では高いが、いずれの年代も『主に女性』の割合は５割から８割台半ばと高い。

共働き別にみると、男性の共働きの「両方同じくらい」は22.9%、共働きでないで6.4%と16.5ポイント差があり、『主に女性』は共働き 67.1%、共働きでない 80.8%で 13.7 ポイント差がみられる。女性は共働き、共働きでないにかかわらず、「両方同じくらい」『主に女性』の割合に大差はみられない。

ウ．日々の家計の管理

図表２－６　日々の家計の管理［全体、性別］（前回調査比較）



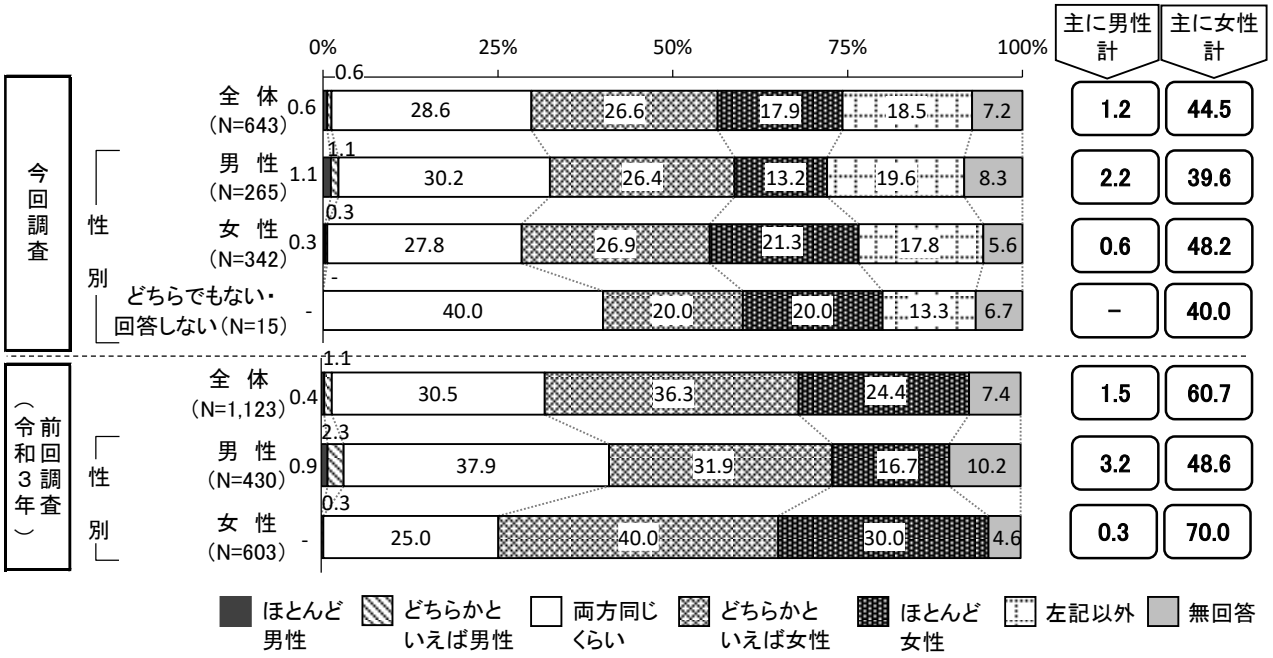
日々の家計の管理は、『主に女性』が66.1%と高く、「両方同じくらい」は17.1%、『主に男性』が11.3%で、日々の家計の管理は女性に偏っている。

性別にみると、『主に女性』は女性で69.3%と男性（62.2%）より7.1ポイント高いが、「両方同じくらい」も女性が18.1%で男性（14.7%）より3.4ポイント高い。

前回調査と比べると、女性は『主に女性』が12.2ポイント減少し、「両方同じくらい」が5.5ポイント増加しており、女性の認識に変化がみられる。

エ．育児、子どものしつけ

図表２－７　育児、子どものしつけ［全体、性別］（前回調査比較）



育児、子どものしつけについては、今回調査では「左記以外」の割合が 18.5%を占め、以下の割合は現在、育児、子どもしつけをする人の割合となっている。『主に女性』が 44.5%、「両方同じくらい」は 28.6%、『主に男性』は 1.2%となっている。育児や子どものしつけも女性に偏っているが、「両方同じくらい」は炊事、掃除、洗濯などの家事や日々の家計の管理に比べると 11.5～12.1 ポイント高い。

性別にみると、『主に女性』（男性 39.6%、女性 48.2%）は女性の方が 8.6 ポイント高いが、「両方同じくらい」（同 30.2%、27.8%）はあまり大きな差はみられない。

今回調査では「左記以外」の割合が男女とも約２割を占め、前回調査と比べると『主に女性』の割合が 9.0～21.8 ポイント減少しており、特に女性で大きい。

図表２－８　育児、子どものしつけ［全体、年齢別、同居家族別］

(%)

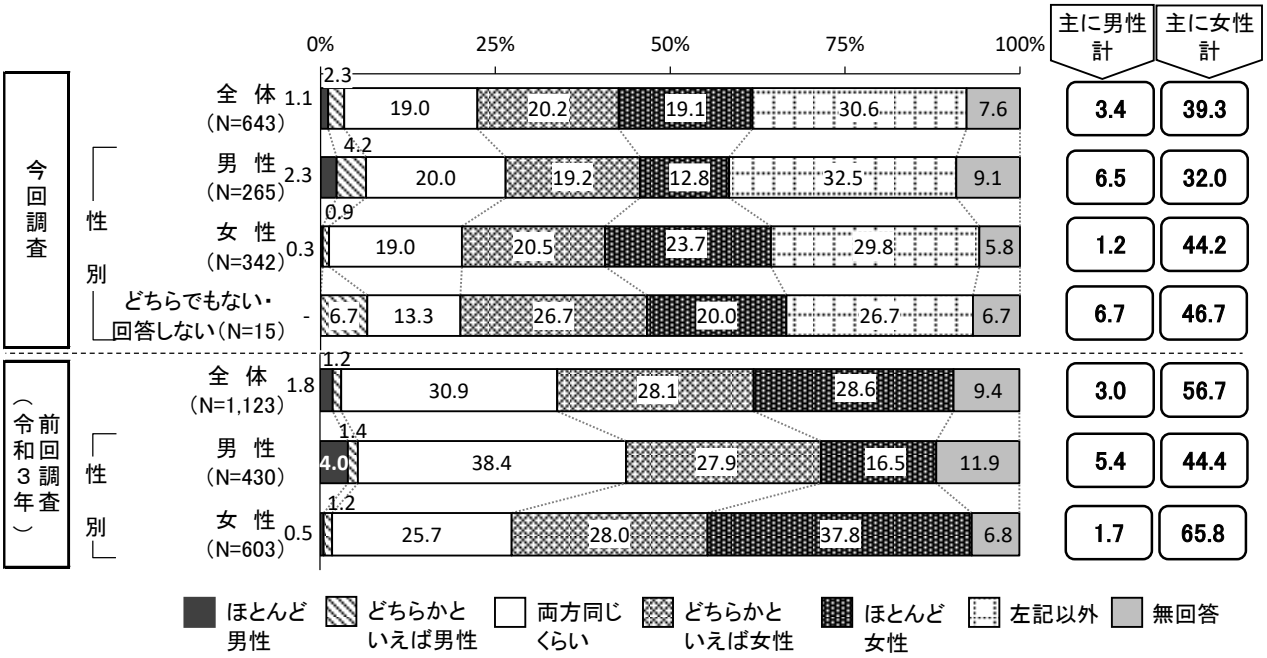
		標本数	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性	左記以外	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		643	4	4	184	171	115	119	46	8	286
		100.0	0.6	0.6	28.6	26.6	17.9	18.5	7.2	1.2	44.5
年齢別	男性:18～29歳	9	－	11.1	22.2	33.3	－	11.1	22.2	11.1	33.3
	男性:30～39歳	32	3.1	－	25.0	40.6	3.1	25.0	3.1	3.1	43.7
	男性:40～49歳	48	4.2	2.1	31.3	33.3	12.5	14.6	2.1	6.3	45.8
	男性:50～59歳	41	－	－	39.0	17.1	19.5	14.6	9.8	－	36.6
	男性:60～69歳	60	－	－	26.7	28.3	16.7	21.7	6.7	－	45.0
	男性:70歳以上	75	－	1.3	30.7	18.7	13.3	22.7	13.3	1.3	32.0
	女性:18～29歳	12	－	－	25.0	33.3	8.3	33.3	－	－	41.6
	女性:30～39歳	61	1.6	－	27.9	27.9	26.2	13.1	3.3	1.6	54.1
	女性:40～49歳	60	－	－	31.7	28.3	26.7	10.0	3.3	－	55.0
	女性:50～59歳	70	－	－	27.1	28.6	22.9	17.1	4.3	－	51.5
	女性:60～69歳	86	－	－	24.4	26.7	16.3	24.4	8.1	－	43.0
	女性:70歳以上	53	－	1.9	30.2	20.8	18.9	18.9	9.4	1.9	39.7
	どちらでもない・回答しない	15	－	－	40.0	20.0	20.0	13.3	6.7	－	40.0
	無回答	21	－	－	14.3	28.6	19.0	19.0	19.0	－	47.6
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	54	1.9	1.9	29.6	50.0	14.8	－	1.9	3.8	64.8
	未就学児	61	3.3	－	29.5	34.4	29.5	1.6	1.6	3.3	63.9
	小・中学生	133	0.8	－	36.8	32.3	22.6	4.5	3.0	0.8	54.9
	高校生	53	1.9	－	43.4	24.5	24.5	1.9	3.8	1.9	49.0
	専門学校生	9	－	－	55.6	11.1	33.3	－	－	－	44.4
	大学・短大生	27	－	3.7	33.3	25.9	37.0	－	－	3.7	62.9
	65歳以上の人	259	0.4	0.8	27.4	22.4	19.7	19.7	9.7	1.2	42.1
	上記以外の人	474	0.6	0.4	30.6	27.4	17.7	17.3	5.9	1.0	45.1

年齢別にみると、男性の 50 代は「両方同じくらい」が 39.0%と『主に女性』(36.6%) よりも割合が高い。その他の年代は『主に女性』の割合が最も高く、特に女性の 30 代から 50 代は５割を超えて高い。

同居家族別にみると、乳幼児（３歳未満）や未就学児がいる家庭では『主に女性』の割合は６割を超え、小・中学生でも 54.9%あり、「両方同じくらい」の割合を上回っている。

オ．病人・高齢者の世話（介護）

図表２－９　病人・高齢者の世話（介護）［全体、性別］（前回調査比較）



病人・高齢者の世話（介護）については、今回調査では「左記以外」の割合が 30.6%を占め、以下の割合は現在、病人・高齢者の世話を行っている人の割合となっている。『主に女性』が 39.3%、「両方同じくらい」が 19.0%、『主に男性』が 3.4%である。

性別にみると、『主に女性』（男性 32.0%、女性 44.2%）は女性の方が 12.2 ポイント高く、「両方同じくらい」（同 20.0%、19.0%）は男女とも同程度となっている。

今回調査では「左記以外」の割合が男女とも約３割を占め、前回調査と比べると『主に女性』の割合が男女とも 12.4～21.6 ポイント減少し、「両方同じくらい」も 6.7～18.4 ポイント減少している。

図表２ - 10　病人・高齢者の世話（介護）［全体、年齢別、同居家族別］

(%)

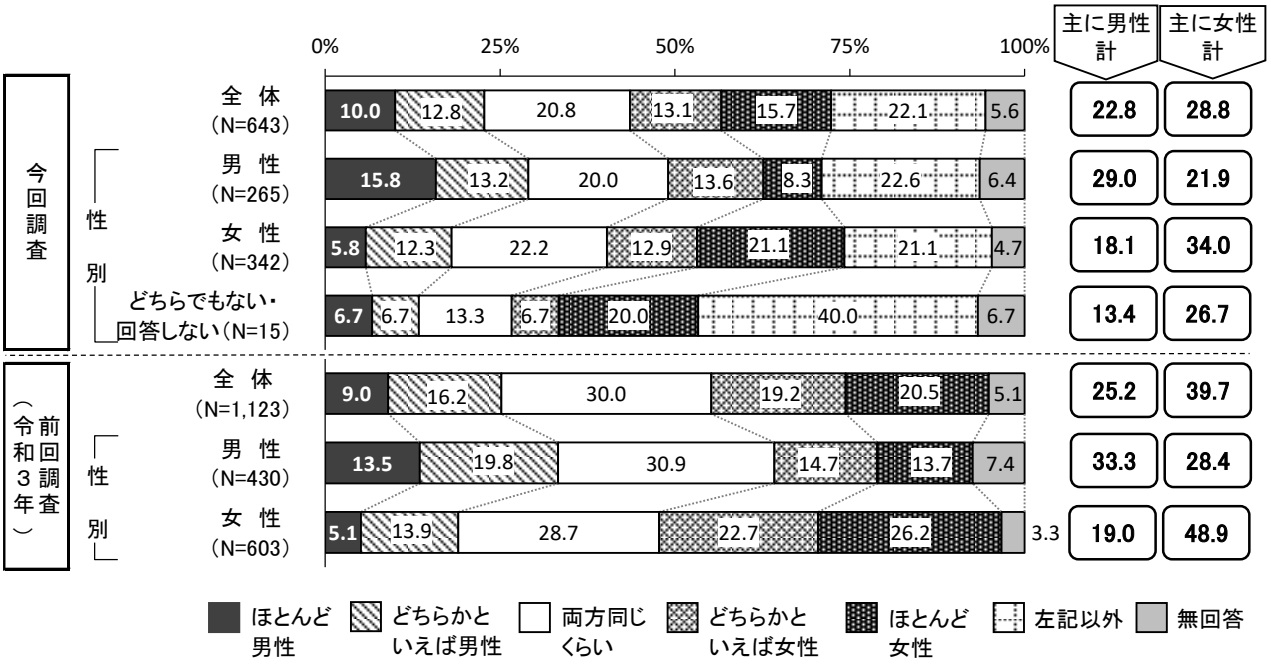
		標本数	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性	左記以外	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		643 100.0	7 1.1	15 2.3	122 19.0	130 20.2	123 19.1	197 30.6	49 7.6	**22 3.4**	**253 39.3**
年齢別	男性:18～29歳	9	－	－	11.1	－	11.1	44.4	33.3	－	**11.1**
	男性:30～39歳	32	－	3.1	15.6	15.6	－	62.5	3.1	**3.1**	**15.6**
	男性:40～49歳	48	4.2	4.2	20.8	18.8	14.6	35.4	2.1	**8.4**	**33.4**
	男性:50～59歳	41	2.4	2.4	17.1	17.1	19.5	31.7	9.8	**4.8**	**36.6**
	男性:60～69歳	60	5.0	5.0	23.3	25.0	13.3	20.0	8.3	**10.0**	**38.3**
	男性:70歳以上	75	－	5.3	21.3	20.0	13.3	26.7	13.3	**5.3**	**33.3**
	女性:18～29歳	12	－	－	8.3	－	16.7	75.0	－	－	**16.7**
	女性:30～39歳	61	－	－	19.7	14.8	18.0	42.6	4.9	－	**32.8**
	女性:40～49歳	60	－	－	16.7	18.3	23.3	36.7	5.0	－	**41.6**
	女性:50～59歳	70	1.4	2.9	22.9	28.6	24.3	17.1	2.9	**4.3**	**52.9**
	女性:60～69歳	86	－	1.2	18.6	19.8	26.7	25.6	8.1	**1.2**	**46.5**
	女性:70歳以上	53	－	－	18.9	24.5	26.4	20.8	9.4	－	**50.9**
	どちらでもない・回答しない	15	－	6.7	13.3	26.7	20.0	26.7	6.7	**6.7**	**46.7**
	無回答	21	－	－	9.5	23.8	23.8	23.8	19.0	－	**47.6**
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	54	－	－	13.0	16.7	13.0	53.7	3.7	－	**29.7**
	未就学児	61	1.6	－	21.3	21.3	16.4	34.4	4.9	**1.6**	**37.7**
	小・中学生	133	0.8	3.0	19.5	18.0	21.8	33.1	3.8	**3.8**	**39.8**
	高校生	53	5.7	3.8	15.1	22.6	22.6	26.4	3.8	**9.5**	**45.2**
	専門学校生	9	11.1	－	11.1	11.1	44.4	22.2	－	**11.1**	**55.5**
	大学・短大生	27	－	3.7	22.2	33.3	29.6	7.4	3.7	**3.7**	**62.9**
	65歳以上の人	259	1.2	1.9	18.5	24.7	21.2	22.8	9.7	**3.1**	**45.9**
	上記以外の人	474	1.1	2.5	18.8	20.0	18.6	31.9	7.2	**3.6**	**38.6**

年齢別にみると、男性の 40 代から 70 歳以上で『主に女性』は３割台であるが、同年代の女性は約４割から５割と男性より高い。

同居家族別にみると、65 歳以上の人がいる家庭では『主に女性』の割合は 45.9％と「両方同じくらい」（18.5％）の割合を大きく上回っている。

カ．自治会などの地域活動

図表２ - 11　自治会などの地域活動［全体、性別］（前回調査比較）



自治会などの地域活動については、今回調査では「左記以外」の割合が 22.1%を占め、以下の割合は自治会などの活動を行っている人の割合となっている。『主に女性』が 28.8%、『主に男性』が 22.8%、「両方同じくらい」が 20.8%となっている。

性別にみると、男性は『主に男性』が 29.0%と女性（18.1%）より 10.9 ポイント高く、女性は『主に女性』が 34.0%と男性（21.9%）より 12.1 ポイント高いなど、男女とも自分が行っているという認識が強い。

今回調査では「左記以外」の割合が男女とも約２割を占め、前回調査と比べると男女とも『主に女性』「両方同じくらい」の割合が減少している。

図表２ - 12　自治会などの地域活動［全体、年齢別］

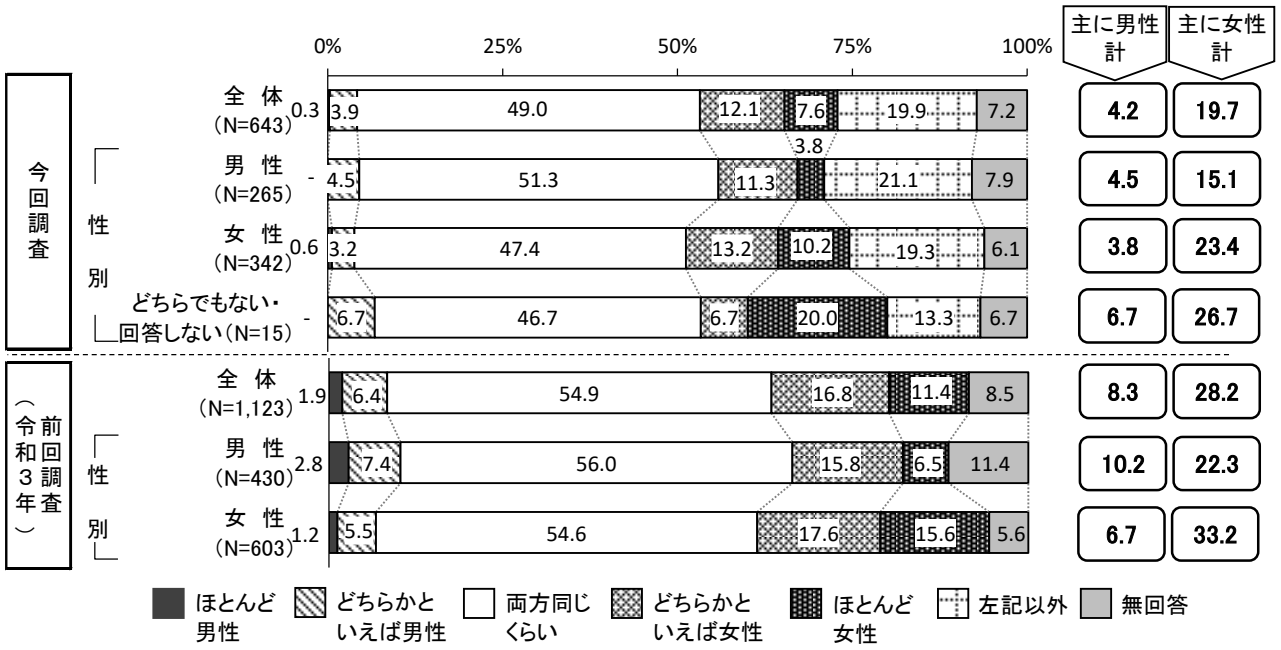
(%)

		標本数	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性	左記以外	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		643 100.0	64 10.0	82 12.8	134 20.8	84 13.1	101 15.7	142 22.1	36 5.6	**146** **22.8**	**185** **28.8**
年齢別	男性:18～29歳	9	－	11.1	22.2	11.1	－	33.3	22.2	**11.1**	**11.1**
	男性:30～39歳	32	9.4	15.6	15.6	6.3	3.1	46.9	3.1	**25.0**	**9.4**
	男性:40～49歳	48	14.6	10.4	16.7	12.5	10.4	33.3	2.1	**25.0**	**22.9**
	男性:50～59歳	41	14.6	7.3	22.0	14.6	14.6	19.5	7.3	**21.9**	**29.2**
	男性:60～69歳	60	21.7	20.0	16.7	15.0	8.3	11.7	6.7	**41.7**	**23.3**
	男性:70歳以上	75	17.3	12.0	25.3	16.0	6.7	14.7	8.0	**29.3**	**22.7**
	女性:18～29歳	12	－	－	16.7	－	－	83.3	－	－	－
	女性:30～39歳	61	－	13.1	24.6	9.8	14.8	32.8	4.9	**13.1**	**24.6**
	女性:40～49歳	60	5.0	6.7	13.3	10.0	28.3	33.3	3.3	**11.7**	**38.3**
	女性:50～59歳	70	10.0	12.9	24.3	17.1	18.6	14.3	2.9	**22.9**	**35.7**
	女性:60～69歳	86	7.0	18.6	20.9	10.5	24.4	12.8	5.8	**25.6**	**34.9**
	女性:70歳以上	53	7.5	9.4	30.2	20.8	22.6	1.9	7.5	**16.9**	**43.4**
	どちらでもない・回答しない	15	6.7	6.7	13.3	6.7	20.0	40.0	6.7	**13.4**	**26.7**
	無回答	21	4.8	19.0	14.3	14.3	19.0	19.0	9.5	**23.8**	**33.3**

年齢別にみると、男性の60代では『主に男性』が41.7%と最も高く、女性の70歳以上では『主に女性』が 43.4%と最も高い。女性の 40 代から 60 代でも『主に女性』の割合は３割台半ばと同年代の男性よりも割合は高い。

キ．子どもの教育方針や進学目標の決定

図表２ - 13　子どもの教育方針や進学目標の決定［全体、性別］（前回調査比較）



子どもの教育方針や進学目標の決定については、今回調査では「左記以外」の割合が 19.9%を占めているが、「両方同じくらい」が 49.0%と、９分野中３番目に割合が高い。『主に女性』は 19.7%、『主に男性』は 4.2%である。育児や子どものしつけも女性に偏っていたが、子どもの将来に影響を与える重大な決定については男女とも同じ程度に関わっているようである。

性別にみると、「両方同じくらい」（男性51.3%、女性47.4%）は男女とも同程度であるが、『主に女性』（同 15.1%、23.4%）は女性が男性を 8.3 ポイント上回っている。

今回調査では「左記以外」の割合が男女とも約２割を占め、前回調査と比べると男女とも「両方同じくらい」が 4.7～7.2 ポイント、『主に女性』が 7.2～9.8 ポイント減っている。

図表２ - 14　子どもの教育方針や進学目標の決定［全体、年齢別、同居家族別］

(%)

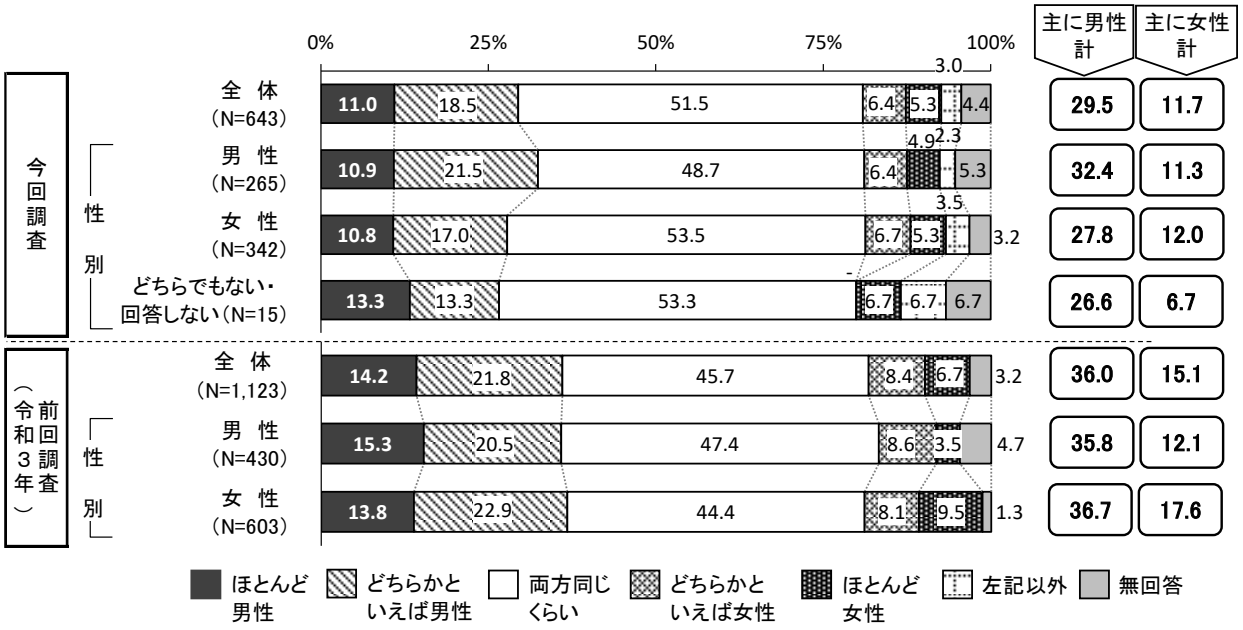
		標本数	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性	左記以外	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		643 100.0	2 0.3	25 3.9	315 49.0	78 12.1	49 7.6	128 19.9	46 7.2	27 4.2	127 19.7
年齢別	男性:18～29歳	9	－	－	55.6	－	－	22.2	22.2	－	－
	男性:30～39歳	32	－	3.1	59.4	9.4	－	25.0	3.1	3.1	9.4
	男性:40～49歳	48	－	2.1	68.8	10.4	2.1	14.6	2.1	2.1	12.5
	男性:50～59歳	41	－	4.9	43.9	17.1	9.8	14.6	9.8	4.9	26.9
	男性:60～69歳	60	－	－	50.0	16.7	3.3	23.3	6.7	－	20.0
	男性:70歳以上	75	－	10.7	41.3	6.7	4.0	25.3	12.0	10.7	10.7
	女性:18～29歳	12	－	－	50.0	8.3	－	41.7	－	－	8.3
	女性:30～39歳	61	1.6	4.9	54.1	11.5	8.2	16.4	3.3	6.5	19.7
	女性:40～49歳	60	－	3.3	48.3	16.7	15.0	13.3	3.3	3.3	31.7
	女性:50～59歳	70	－	2.9	48.6	20.0	7.1	15.7	5.7	2.9	27.1
	女性:60～69歳	86	1.2	3.5	39.5	11.6	10.5	25.6	8.1	4.7	22.1
	女性:70歳以上	53	－	1.9	49.1	5.7	13.2	18.9	11.3	1.9	18.9
	どちらでもない・回答しない	15	－	6.7	46.7	6.7	20.0	13.3	6.7	6.7	26.7
	無回答	21	－	4.8	47.6	9.5	4.8	19.0	14.3	4.8	14.3
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	54	1.9	5.6	75.9	9.3	3.7	1.9	1.9	7.5	13.0
	未就学児	61	－	3.3	72.1	11.5	6.6	4.9	1.6	3.3	18.1
	小・中学生	133	－	3.8	59.4	17.3	10.5	6.0	3.0	3.8	27.8
	高校生	53	－	5.7	64.2	7.5	17.0	1.9	3.8	5.7	24.5
	専門学校生	9	－	11.1	66.7	－	11.1	11.1	－	11.1	11.1
	大学・短大生	27	－	3.7	44.4	25.9	25.9	－	－	3.7	51.8
	65歳以上の人	259	－	5.0	46.7	10.4	8.5	20.1	9.3	5.0	18.9
	上記以外の人	474	0.4	3.2	50.0	13.1	8.2	18.8	6.3	3.6	21.3

年齢別でみると、男女ともいずれの年代も「両方同じくらい」の割合が最も高いが、40 代では「両方同じくらい」が男性で 68.8%に対し、女性は 48.3%と 20.5 ポイントも差があり、女性の『主に女性』の割合は 31.7%と高く、同じ年代でも性別による差が大きい。

同居家族別にみると、標本数は少ないが、大学・短大生がいる家庭では、『主に女性』が 51.8%と最も高く、「両方同じくらい」（44.4%）の割合を上回っている。乳幼児（３歳未満）や未就学児がいる家庭では「両方同じくらい」が７割台、また小・中学生や高校生、専門学校生がいる家庭でも「両方同じくらい」は約６割から６割台半ばと高い。

ク．車や高額商品の購入決定

図表２ - 15　車や高額商品の購入決定［全体、性別］（前回調査比較）



車や高額商品の購入決定については、「両方同じくらい」が 51.5％で９分野中最も高い。次いで『主に男性』が 29.5％、『主に女性』が 11.7％である。

性別にみると、女性は「両方同じくらい」（男性 48.7％、女性 53.5％）が男性よりより 4.8 ポイント、男性は『主に男性』（同 32.4％、27.8％）が女性より 4.6 ポイント高い。

前回調査と比べると、女性は「両方同じくらい」の割合が 9.1 ポイント増加し、『主に男性』が 8.9 ポイント低くなっている。男性はあまり大きな変化はみられない。

図表２ - 16　車や高額商品の購入決定［全体、年齢別］

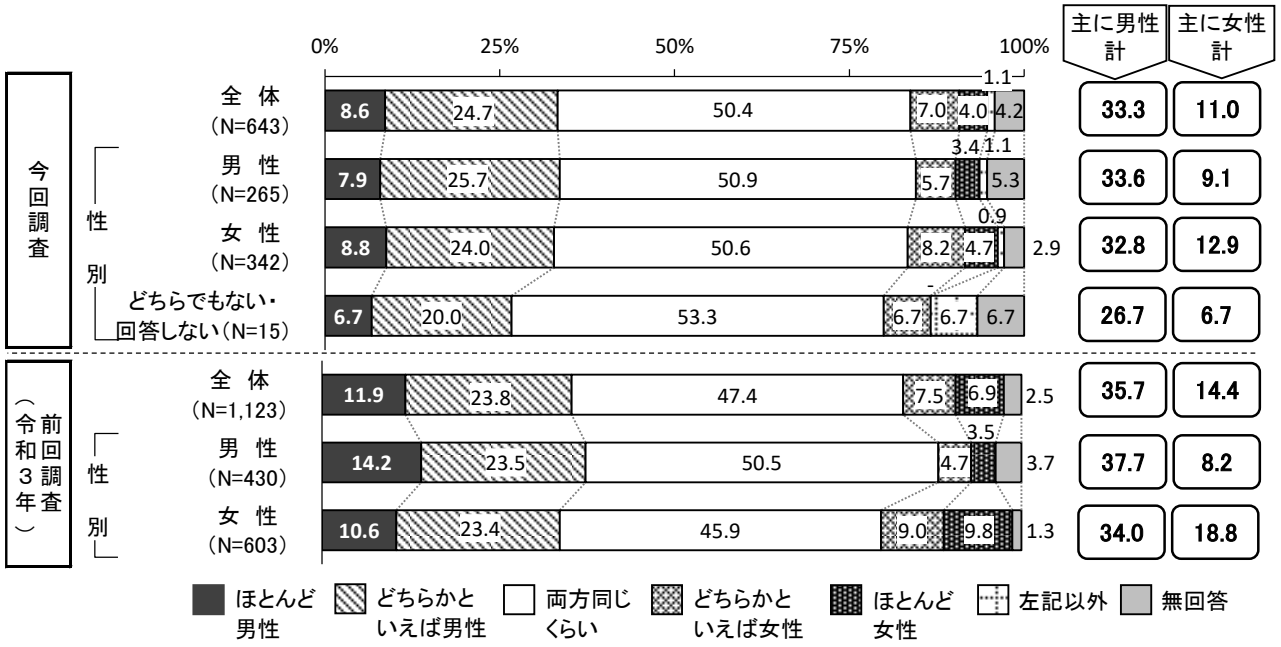
(%)

		標本数	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性	左記以外	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		643 100.0	71 11.0	119 18.5	331 51.5	41 6.4	34 5.3	19 3.0	28 4.4	190 29.5	75 11.7
年齢別	男性:18～29歳	9	11.1	－	55.6	－	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1
	男性:30～39歳	32	12.5	25.0	43.8	6.3	3.1	6.3	3.1	37.5	9.4
	男性:40～49歳	48	8.3	20.8	58.3	2.1	6.3	2.1	2.1	29.1	8.4
	男性:50～59歳	41	14.6	19.5	48.8	2.4	7.3	－	7.3	34.1	9.7
	男性:60～69歳	60	8.3	16.7	50.0	13.3	6.7	－	5.0	25.0	20.0
	男性:70歳以上	75	12.0	28.0	42.7	6.7	1.3	2.7	6.7	40.0	8.0
	女性:18～29歳	12	8.3	50.0	25.0	8.3	－	8.3	－	58.3	8.3
	女性:30～39歳	61	11.5	14.8	57.4	6.6	6.6	3.3	－	26.3	13.2
	女性:40～49歳	60	6.7	16.7	55.0	10.0	8.3	－	3.3	23.4	18.3
	女性:50～59歳	70	11.4	27.1	44.3	7.1	4.3	2.9	2.9	38.5	11.4
	女性:60～69歳	86	10.5	12.8	58.1	5.8	3.5	3.5	5.8	23.3	9.3
	女性:70歳以上	53	15.1	5.7	58.5	3.8	5.7	7.5	3.8	20.8	9.5
	どちらでもない・回答しない	15	13.3	13.3	53.3	－	6.7	6.7	6.7	26.6	6.7
	無回答	21	14.3	9.5	52.4	4.8	9.5	－	9.5	23.8	14.3

年齢別にみると、標本数は少ないが、女性の 18～29 歳では『主に男性』が 58.3%と最も高く、「両方同じくらい」（25.0%）を上回っている。その他の年代では「両方同じくらい」の割合が４割台半ばから約６割と高い。

ケ．家庭の問題における最終的な決定

図表２ - 17　家庭の問題における最終的な決定［全体、性別］（前回調査比較）



家庭の問題における最終的な決定については、「両方同じくらい」が 50.4％と９分野中２番目に高い。次いで『主に男性』が 33.3％、『主に女性』が 11.0％である。

性別にみると、男女とも「両方同じくらい」（男性 50.9％、女性 50.6％）、『主に男性』（同 33.6％、32.8％）の割合は同程度となっている。

前回調査と比べると、女性は「両方同じくらい」の割合が 4.7 ポイント増加している。男性はあまり大きな差はみられない。

図表２ - 18　家庭の問題における最終的な決定［全体、年齢別］

(%)

		標本数	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性	左記以外	無回答	主に男性計	主に女性計
全体		643 100.0	55 8.6	159 24.7	324 50.4	45 7.0	26 4.0	7 1.1	27 4.2	**214** **33.3**	**71** **11.0**
年齢別	男性:18～29歳	9	11.1	－	77.8	－	－	－	11.1	**11.1**	**－**
	男性:30～39歳	32	9.4	12.5	59.4	6.3	6.3	3.1	3.1	**21.9**	**12.6**
	男性:40～49歳	48	8.3	29.2	47.9	8.3	2.1	2.1	2.1	**37.5**	**10.4**
	男性:50～59歳	41	7.3	17.1	58.5	2.4	7.3	－	7.3	**24.4**	**9.7**
	男性:60～69歳	60	6.7	30.0	51.7	3.3	3.3	－	5.0	**36.7**	**6.6**
	男性:70歳以上	75	8.0	33.3	41.3	8.0	1.3	1.3	6.7	**41.3**	**9.3**
	女性:18～29歳	12	8.3	8.3	75.0	－	－	8.3	－	**16.6**	**－**
	女性:30～39歳	61	4.9	21.3	60.7	8.2	4.9	－	－	**26.2**	**13.1**
	女性:40～49歳	60	8.3	21.7	46.7	10.0	10.0	－	3.3	**30.0**	**20.0**
	女性:50～59歳	70	8.6	30.0	47.1	10.0	－	1.4	2.9	**38.6**	**10.0**
	女性:60～69歳	86	11.6	25.6	45.3	10.5	2.3	－	4.7	**37.2**	**12.8**
	女性:70歳以上	53	9.4	22.6	50.9	1.9	9.4	1.9	3.8	**32.0**	**11.3**
	どちらでもない・回答しない	15	6.7	20.0	53.3	6.7	－	6.7	6.7	**26.7**	**6.7**
	無回答	21	14.3	28.6	38.1	4.8	4.8	－	9.5	**42.9**	**9.6**

年齢別にみると、男女とも 30 代以下では「両方同じくらい」が約６割から約８割と高い。男性の 40 代と 70 歳以上、女性の 50 代と 60 代では『主に男性』が約４割と高い。

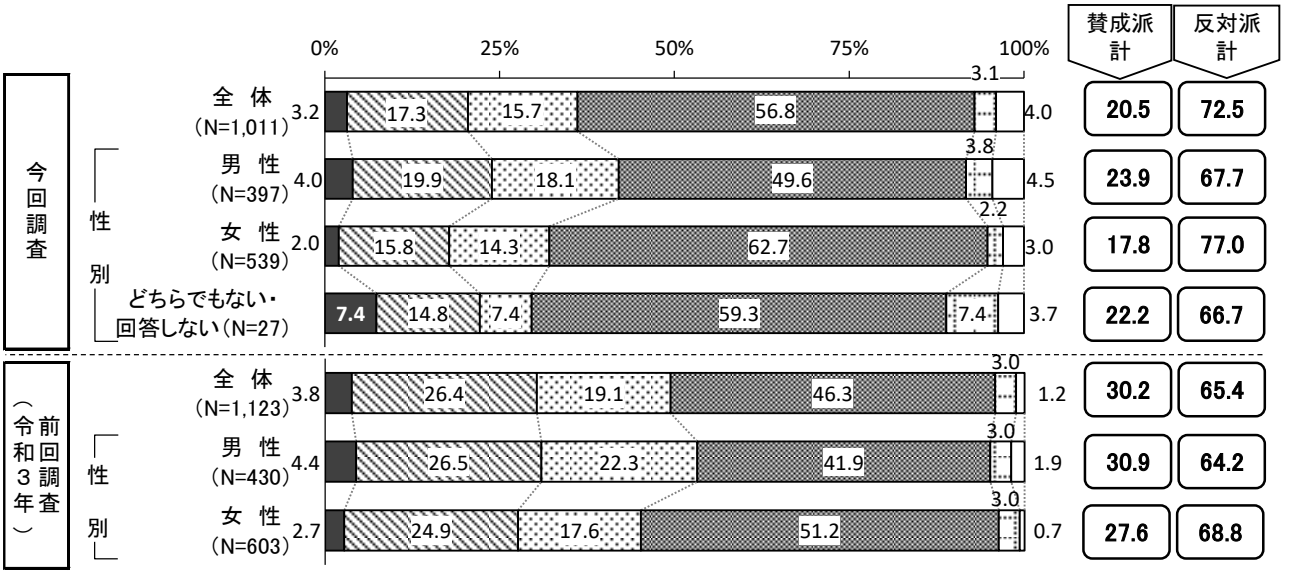
２．性別役割分担意識

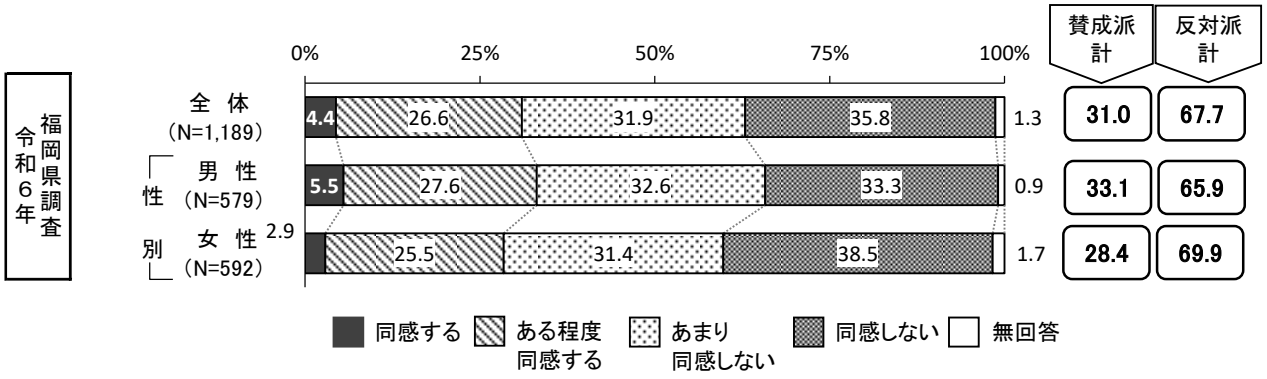
問３　あなたは、次のような考え方に対してどのようにお考えですか。ア～ウの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

ア．「男は仕事、女は家庭」

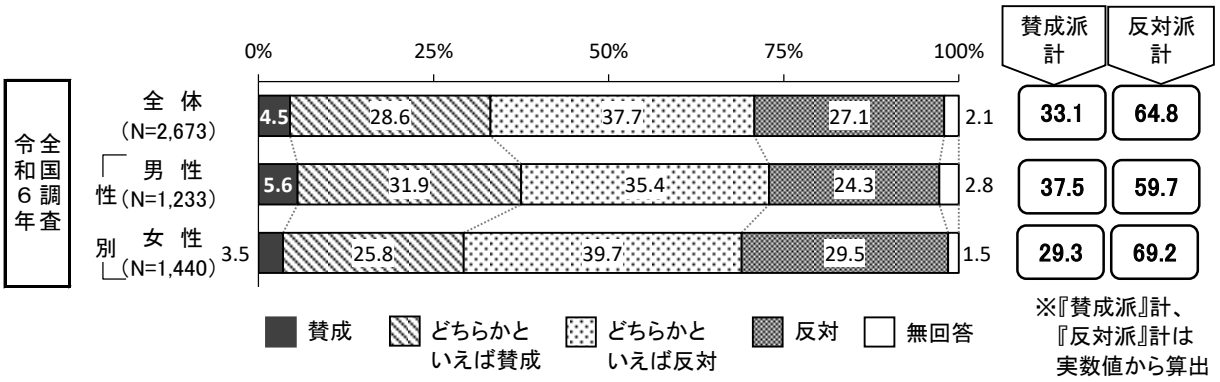
●「男は仕事、女は家庭」を容認しない『反対派』は男性が約７割、女性が約８割。前回調査よりも『反対派』は増加。特に強い反対の「そう思わない」は男女とも約８～12 ポイント増加。
●女性は『反対派』の割合が福岡県・全国調査よりも約７ポイント高い。

図表２ - 19　「男は仕事、女は家庭」という考え方について［全体、性別］
（前回・福岡県・全国調査比較）





資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和６年 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査結果

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「そう思う」（3.2%）と「どちらかといえばそう思う」（17.3%）をあわせた『賛成派』は 20.5%で、「そう思わない」（56.8%）と「どちらかといえばそう思わない」（15.7%）をあわせた『反対派』は 72.5%と性別役割分担意識を容認しない人が 52 ポイント上回っている。

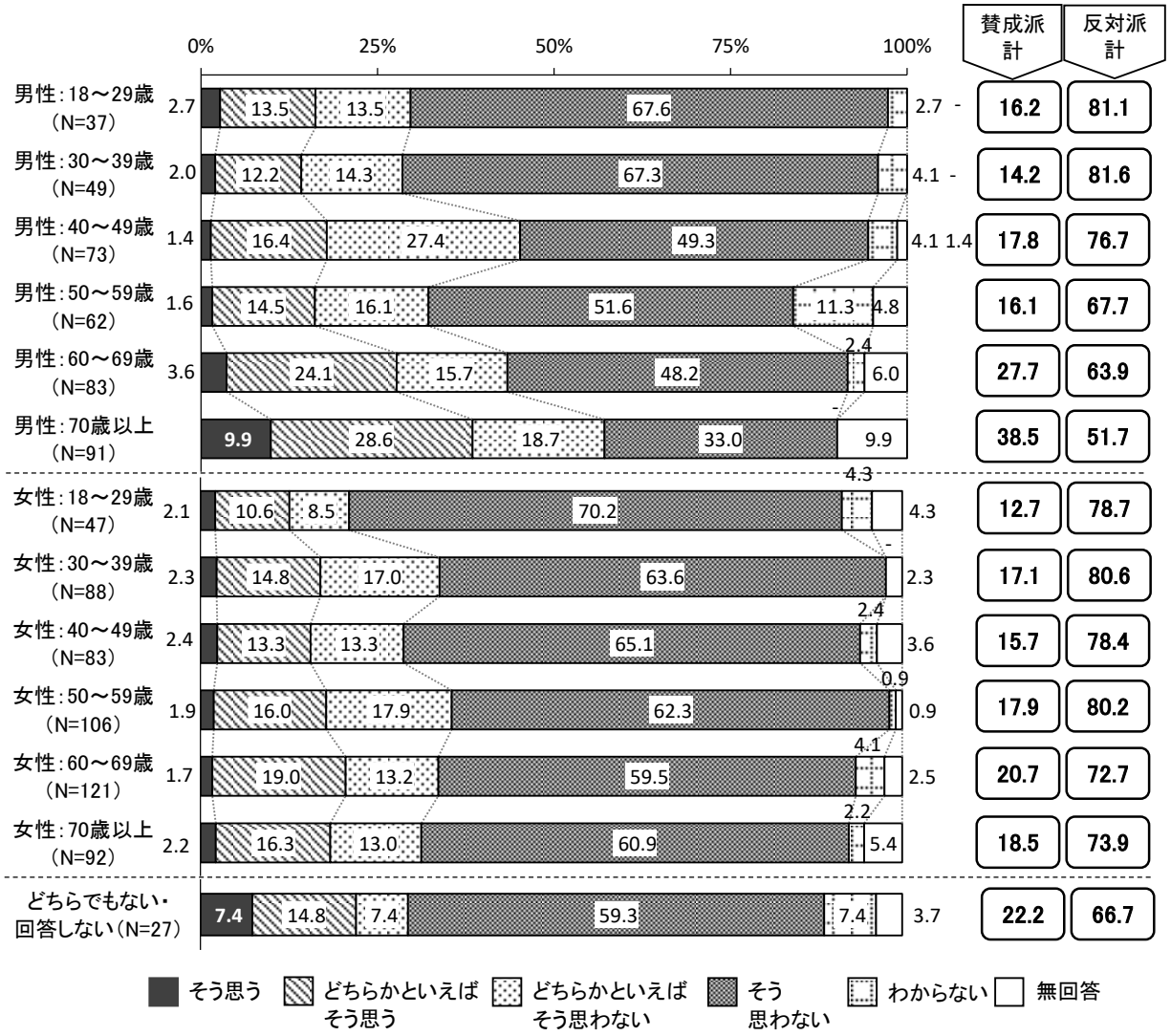
性別にみると、女性の『反対派』は 77.0%で男性（67.7%）を 9.3 ポイント上回り、その内訳をみると強い反対の「そう思わない」は、女性は62.7%、男性は49.6%と 13.1 ポイントと差が大きく、女性の方が『反対派』の中でも強い反対の人が多い。『賛成派』は男性が 23.9%と女性（17.8%）よりも 6.1 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも『賛成派』が 7.0～9.8 ポイント減少し、『反対派』が 3.5～8.2 ポイント増え、特に女性で大きい。

令和６年 12 月に実施された福岡県「男女共同参画社会に向けての意識調査」（以下、福岡県調査という）と比べると、女性の『反対派』は7.1ポイント今回調査の方が高い。男性は『反対派』の割合はあまり変わらないが、強い反対の割合が福岡県調査よりも 16.3 ポイント高い。

令和６年９月に実施された内閣府の「男女共同参画社会に関する世論調査」（以下、全国調査という）と比べると、女性の『反対派』は 7.8 ポイント今回調査の方が高い。男性は『反対派』の割合は 8.0 ポイント高く、強い反対の割合が全国調査よりも 25.3 ポイント高い。国や県と比べ男女とも性別役割分担を容認しない人は本市の方が多い。

図表２ - 20　「男は仕事、女は家庭」という考え方について［全体、年齢別］



年齢別にみると、男性は年齢の低い層で『反対派』の割合が高くなる傾向がみられ、18～29 歳、30 代では８割を超えている。女性は 30 代と 50 代では約８割でその他の年代も７割を超えている。

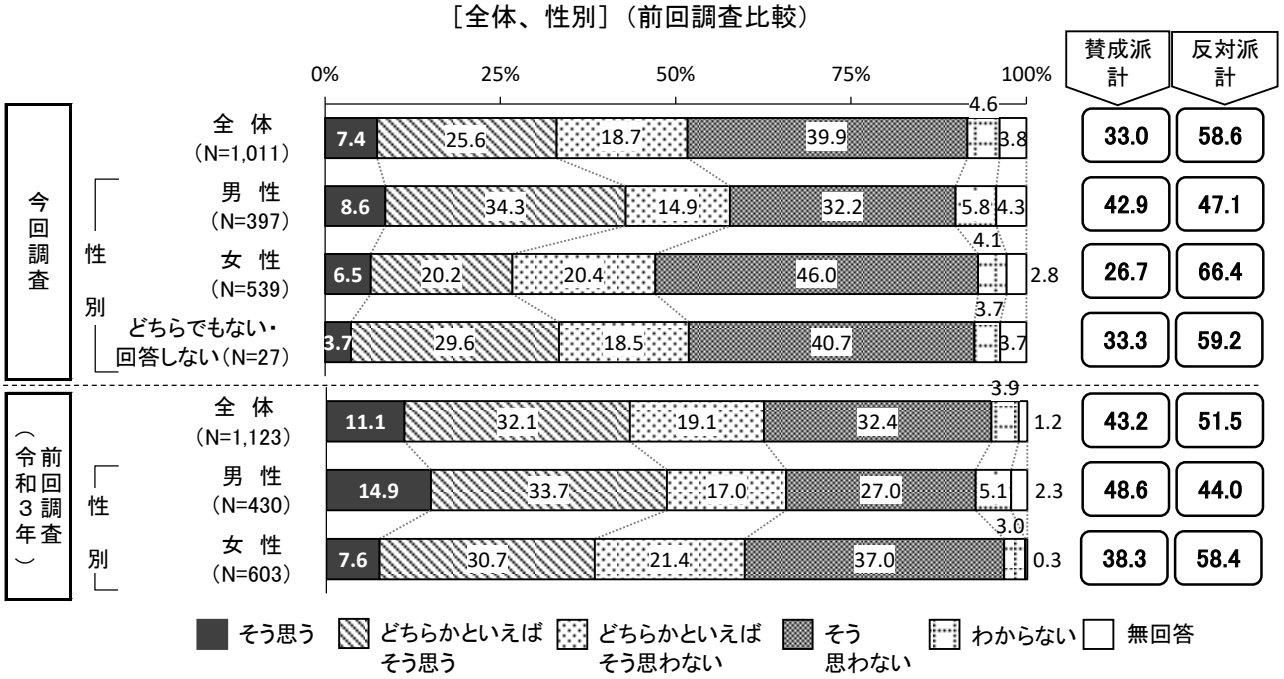
３．子どもの育て方についての考え方

問３　あなたは、次のような考え方に対してどのようにお考えですか。ア～ウの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

●「男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい」という考え方は、前回調査よりも男女とも支持しない人が増え、特に女性に顕著である。
●「子どもが３歳までは母親の手で育てる」という考え方は、前回調査よりも男女とも支持しない人が増え、今回調査では『反対派』の割合が『賛成派』の割合を上回っている。

イ．男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい

図表２ - 21　男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよいという考え方について［全体、性別］（前回調査比較）



子どもの育て方についての考え方をたずねた。

「男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい」という考え方について、「そう思わない」が 39.9%と「どちらかといえばそう思わない」が 18.7%これらをあわせた『反対派』は 58.6%と『賛成派』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）（33.0%）を 25.6 ポイント上回っている。

性別にみると、男性は『賛成派』が 42.9%と女性（26.7%）を 16.2 ポイント上回り、女性は『反対派』が 66.4%と男性（47.1%）を 19.3 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、女性は『賛成派』が 11.6 ポイント減り、『反対派』が 8.0 ポイント増えている。男性も『賛成派』が 5.7 ポイント減り、『反対派』が 3.1 ポイント増えているが、女性の方が減り幅や増え幅は大きい。

図表２ - 22　『男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい』という考え方について
［全体、年齢別］

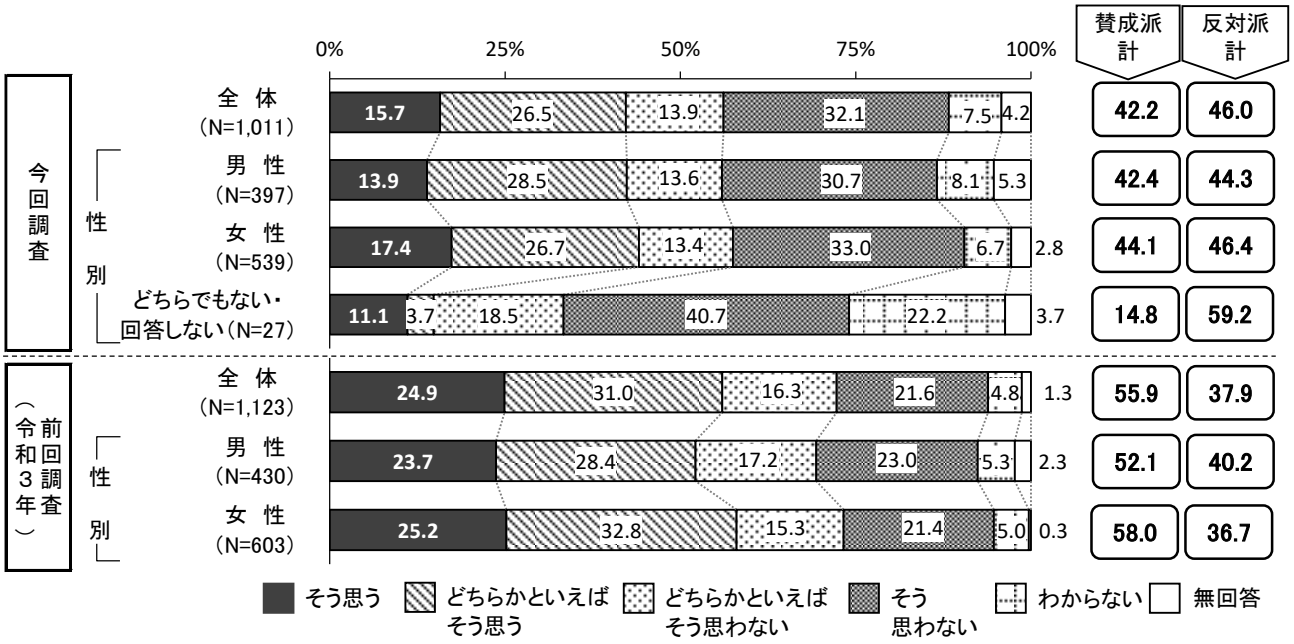
(%)

		標本数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	賛成派計	反対派計
全体		1,011	75	259	189	403	47	38	**334**	**592**
		100.0	7.4	25.6	18.7	39.9	4.6	3.8	**33.0**	**58.6**
年齢別	男性:18～29歳	37	－	29.7	13.5	45.9	10.8	－	**29.7**	**59.4**
	男性:30～39歳	49	8.2	30.6	8.2	49.0	4.1	－	**38.8**	**57.2**
	男性:40～49歳	73	12.3	24.7	23.3	32.9	5.5	1.4	**37.0**	**56.2**
	男性:50～59歳	62	9.7	37.1	9.7	30.6	8.1	4.8	**46.8**	**40.3**
	男性:60～69歳	83	4.8	43.4	15.7	25.3	4.8	6.0	**48.2**	**41.0**
	男性:70歳以上	91	12.1	35.2	15.4	24.2	4.4	8.8	**47.3**	**39.6**
	女性:18～29歳	47	6.4	14.9	19.1	51.1	4.3	4.3	**21.3**	**70.2**
	女性:30～39歳	88	2.3	17.0	17.0	56.8	4.5	2.3	**19.3**	**73.8**
	女性:40～49歳	83	7.2	9.6	24.1	50.6	6.0	2.4	**16.8**	**74.7**
	女性:50～59歳	106	8.5	24.5	24.5	35.8	5.7	0.9	**33.0**	**60.3**
	女性:60～69歳	121	5.8	25.6	19.8	43.0	3.3	2.5	**31.4**	**62.8**
	女性:70歳以上	92	7.6	23.9	17.4	44.6	1.1	5.4	**31.5**	**62.0**
	どちらでもない・回答しない	27	3.7	29.6	18.5	40.7	3.7	3.7	**33.3**	**59.2**
	無回答	52	11.5	13.5	28.8	34.6	1.9	9.6	**25.0**	**63.4**

年齢別にみると、男性は年齢の低い層で『反対派』の割合が高くなる傾向がみられ、18～29 歳、30 代、40 代では５割を超えている。女性は 40 代で 74.7%と最も高く、18～29 歳、30 代でも７割台である。また、50 代以上でも６割を超えている。

ウ．子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい

図表２ - 23　子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよいという考え方について
［全体、性別］（前回調査比較）



「子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい」という考え方について、「そう思わない」が 32.1%と最も高く、「どちらかといえばそう思わない」（13.9%）をあわせた『反対派』は 46.0%となっている。『賛成派』は 42.2%で『反対派』が 3.8 ポイント上回っている。

性別にみると、男女とも『反対派』『賛成派』の割合に大差はみられない。

前回調査と比べると、男女とも『賛成派』の割合が 9.7～13.9 ポイント減少し、『反対派』が 4.1～9.7 ポイント増えている。前回調査までは男女とも『賛成派』の割合が『反対派』を大きく上回っていたが、今回調査では『反対派』の割合がやや上回るようになっている。

図表２ - 24　子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよいという考え方について
［全体、年齢別、同居家族別］

(%)

		標本数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	賛成派計	反対派計
全体		1,011	159	268	141	325	76	42	**427**	**466**
		100.0	15.7	26.5	13.9	32.1	7.5	4.2	**42.2**	**46.0**
年齢別	男性:18～29歳	37	2.7	8.1	21.6	54.1	13.5	－	**10.8**	**75.7**
	男性:30～39歳	49	4.1	16.3	14.3	57.1	8.2	－	**20.4**	**71.4**
	男性:40～49歳	73	8.2	32.9	15.1	34.2	8.2	1.4	**41.1**	**49.3**
	男性:50～59歳	62	11.3	30.6	11.3	29.0	12.9	4.8	**41.9**	**40.3**
	男性:60～69歳	83	18.1	36.1	13.3	21.7	4.8	6.0	**54.2**	**35.0**
	男性:70歳以上	91	26.4	29.7	11.0	14.3	5.5	13.2	**56.1**	**25.3**
	女性:18～29歳	47	6.4	19.1	19.1	36.2	14.9	4.3	**25.5**	**55.3**
	女性:30～39歳	88	8.0	21.6	11.4	48.9	8.0	2.3	**29.6**	**60.3**
	女性:40～49歳	83	21.7	22.9	10.8	34.9	7.2	2.4	**44.6**	**45.7**
	女性:50～59歳	106	17.0	30.2	17.0	27.4	7.5	0.9	**47.2**	**44.4**
	女性:60～69歳	121	16.5	30.6	12.4	31.4	6.6	2.5	**47.1**	**43.8**
	女性:70歳以上	92	29.3	29.3	12.0	23.9	－	5.4	**58.6**	**35.9**
	どちらでもない・回答しない	27	11.1	3.7	18.5	40.7	22.2	3.7	**14.8**	**59.2**
	無回答	52	15.4	25.0	19.2	26.9	3.8	9.6	**40.4**	**46.1**
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	55	10.9	25.5	10.9	45.5	3.6	3.6	**36.4**	**56.4**
	未就学児	66	7.6	19.7	10.6	56.1	3.0	3.0	**27.3**	**66.7**
	小・中学生	153	14.4	24.8	13.7	37.3	7.2	2.6	**39.2**	**51.0**
	高校生	70	18.6	25.7	12.9	31.4	11.4	－	**44.3**	**44.3**
	専門学校生	13	23.1	23.1	7.7	38.5	7.7	－	**46.2**	**46.2**
	大学・短大生	48	8.3	20.8	16.7	39.6	10.4	4.2	**29.1**	**56.3**
	65歳以上の人	416	20.4	29.3	15.4	23.1	5.0	6.7	**49.7**	**38.5**
	上記以外の人	759	12.4	25.7	14.4	36.5	8.7	2.4	**38.1**	**50.9**
	無回答	18	11.1	38.9	11.1	22.2	－	16.7	**50.0**	**33.3**

年齢別にみると、男女とも18～29歳と30代で『反対派』の割合が高く、特に男性では約７割から７割台半ばと同年代の女性の５割台半ばから約６割を上回っている。また、男女とも 50 代以上になると『賛成派』の割合が『反対派』を上回るようになる。

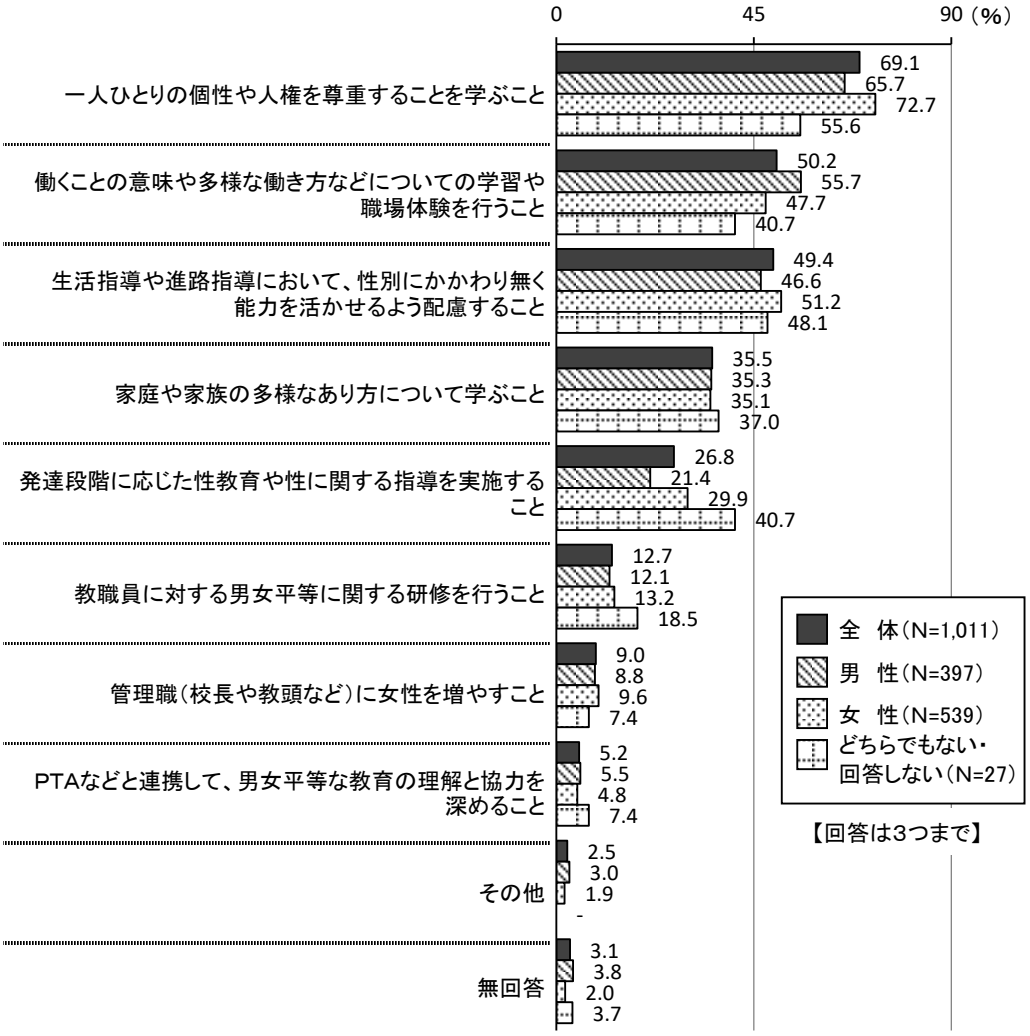
同居家族別にみると、未就学児がいる家庭では『反対派』が 66.7%と最も高く、乳幼児（３歳未満）がいる家庭でも 56.4%と５割を超えている。

４．男女共同参画をすすめていくために、学校教育の場で力を入れること

問４　これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○は３つまで）

●男女共同参画をすすめていくために、学校教育の場で力を入れることは「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が約７割で第一位。

図表２ - 25　男女共同参画をすすめていくために、学校教育の場で力を入れること［全体、性別］



男女共同参画をすすめていくために、学校教育の場で力を入れることは、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が 69.1%と最も高く、次いで「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」が 50.2%、「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」が 49.4%となっている。

性別にみると、女性は「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」（男性 65.7%、女性 72.7%）や「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」（同 46.6%、51.2%）、「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」（同 21.4%、29.9%）などが男性よりも 4.6～8.5 ポイント高い。男性は「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」（同 55.7%、47.7%）が女性よりも 8.0 ポイント高い。

図表２ - 26　男女共同参画をすすめていくために、学校教育の場で力を入れること
［全体、年齢別、同居家族別］

（%）

		標本数	一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと	発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること	家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと	生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること	PTAなどと連携して、男女平等な教育の理解と協力を深めること	働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと	管理職（校長や教頭など）に女性を増やすこと	教職員に対する男女平等に関する研修を行うこと	その他	無回答
全体		1,011	699	271	359	499	53	508	91	128	25	31
		100.0	69.1	26.8	35.5	49.4	5.2	50.2	9.0	12.7	2.5	3.1
年齢別	男性:18～29歳	37	78.4	35.1	27.0	54.1	8.1	43.2	8.1	5.4	2.7	2.7
	男性:30～39歳	49	63.3	24.5	51.0	38.8	－	59.2	2.0	14.3	4.1	2.0
	男性:40～49歳	73	52.1	24.7	45.2	43.8	4.1	49.3	11.0	9.6	4.1	4.1
	男性:50～59歳	62	61.3	29.0	46.8	37.1	3.2	50.0	3.2	11.3	1.6	4.8
	男性:60～69歳	83	71.1	14.5	25.3	53.0	7.2	57.8	13.3	13.3	4.8	3.6
	男性:70歳以上	91	72.5	12.1	23.1	50.5	8.8	64.8	9.9	15.4	1.1	4.4
	女性:18～29歳	47	70.2	44.7	40.4	40.4	4.3	34.0	12.8	10.6	2.1	4.3
	女性:30～39歳	88	73.9	42.0	39.8	35.2	3.4	42.0	12.5	9.1	3.4	1.1
	女性:40～49歳	83	63.9	34.9	42.2	47.0	4.8	43.4	13.3	13.3	2.4	3.6
	女性:50～59歳	106	74.5	21.7	34.9	48.1	3.8	50.0	10.4	12.3	0.9	1.9
	女性:60～69歳	121	75.2	25.6	31.4	65.3	8.3	50.4	6.6	15.7	1.7	0.8
	女性:70歳以上	92	75.0	20.7	27.2	60.9	3.3	56.5	5.4	16.3	1.1	2.2
	どちらでもない・回答しない	27	55.6	40.7	37.0	48.1	7.4	40.7	7.4	18.5	－	3.7
	無回答	52	63.5	30.8	40.4	51.9	5.8	44.2	5.8	7.7	5.8	7.7
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	55	63.6	45.5	34.5	50.9	5.5	49.1	7.3	9.1	3.6	－
	未就学児	66	68.2	48.5	37.9	51.5	1.5	42.4	9.1	7.6	4.5	1.5
	小・中学生	153	66.7	32.7	46.4	51.0	2.0	51.6	6.5	10.5	2.0	1.3
	高校生	70	64.3	32.9	32.9	45.7	4.3	55.7	10.0	12.9	2.9	1.4
	専門学校生	13	76.9	38.5	61.5	46.2	－	46.2	－	15.4	－	－
	大学・短大生	48	72.9	22.9	41.7	47.9	6.3	41.7	12.5	16.7	2.1	2.1
	65歳以上の人	416	73.6	21.9	30.3	57.7	6.5	52.4	7.2	14.7	1.9	2.9
	上記以外の人	759	67.9	27.7	38.7	45.5	5.1	48.5	9.4	13.2	2.8	2.8
	無回答	18	61.1	27.8	33.3	50.0	－	66.7	11.1	11.1	－	11.1

年齢別にみると、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」は男性の 18～29 歳で 78.4%と最も高く、60 代以上でも７割台で、女性は 40 代を除く年代で７割を超えている。「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」は男性の 70 歳以上で 64.8%と最も高く、30 代や 60 代でも約６割と高い。「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」は女性の 60 代以上、「家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと」は男性の 30 代で 51.0%、「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」は女性の 18～29 歳と 30 代で４割を超えて高い。

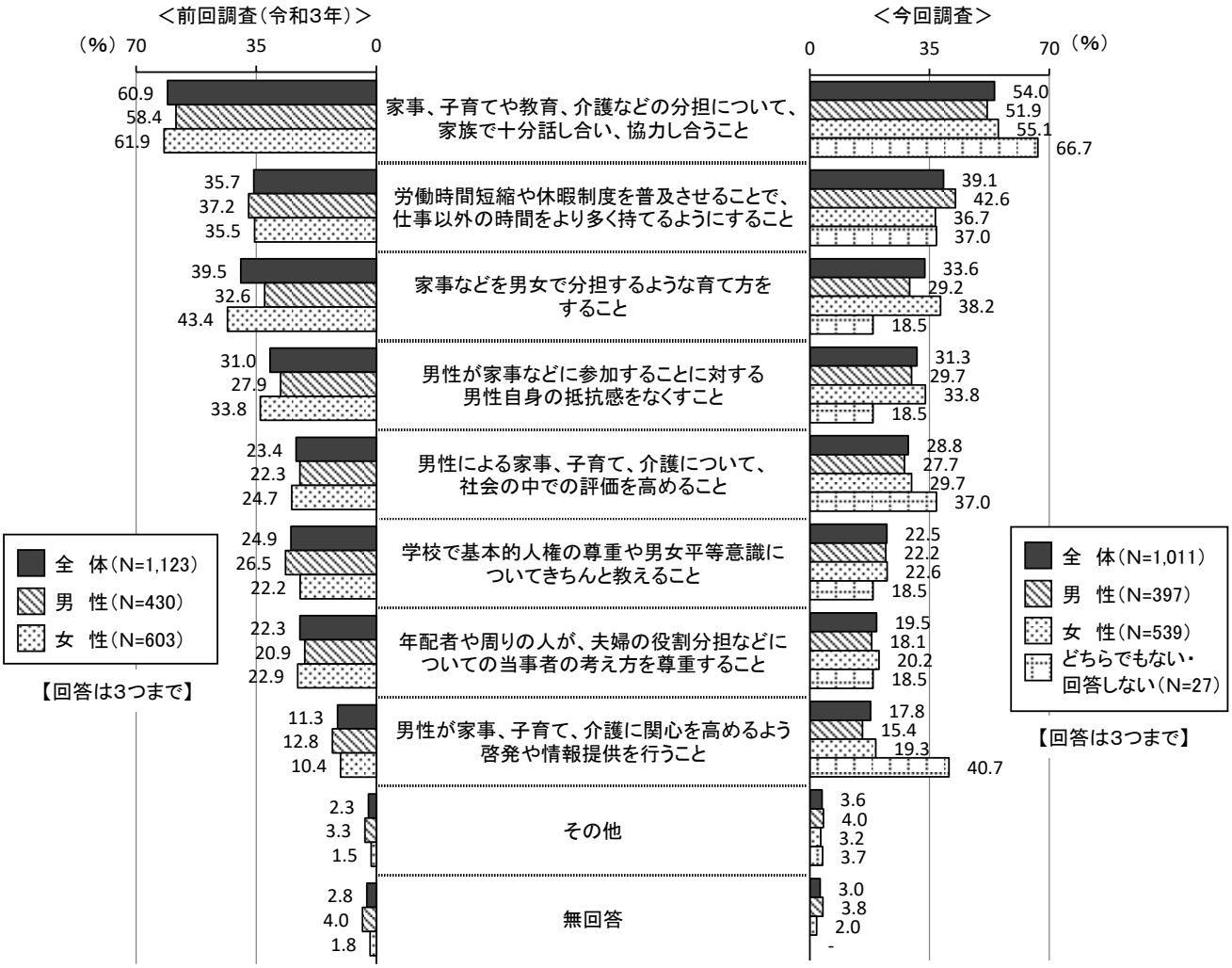
同居家族別にみると、乳幼児（３歳未満）や未就学児から高校生がいる家庭では「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」が約３割から約５割と高い。

５．男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なこと

問５　あなたは、男性が女性と共に家事、子育て、介護に積極的に参加していくためにどのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

●男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なことは「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」が第１位。「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は前回調査第３位から第２位へ。

図表２ - 27　男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なこと［全体、性別］（前回調査比較）



男性が女性と共に家事、子育て、介護に積極的に参加していくためにどのようなことが必要だと思うかたずねたところ、「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」が 54.0%で最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が 39.1%、「家事などを男女で分担するような育て方をすること」が 33.6%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 31.3%となっている。

性別にみると、女性は「家事などを男女で分担するような育て方をすること」が 38.2%と男性（29.2%）より 9.0 ポイント高く、また「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 33.8%で男性（29.7%）より 4.1 ポイント高い。男性は「労働時間短縮や

休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が 42.6%で女性（36.7%）を 5.9 ポイント高い。

前回調査と比べると、「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」は男女とも 6.5～6.8 ポイント、「家事などを男女で分担するような育て方をすること」は 3.4～5.2 ポイント減少している。「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は男性で 5.4 ポイント増加し、前回の３位から２位に上がっている。また、「男性による家事、子育て、介護について、社会の中での評価を高めること」は男女とも 5.0～5.4 ポイント増加している。

図表２ - 29　男女が共に家事、子育て、介護に参加するために必要なこと［全体、年齢別］

(%)

		標本数	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと	年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	男性による家事、子育て、介護について、社会の中での評価を高めること	労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	家事などを男女で分担するような育て方をすること	学校で基本的人権の尊重や男女平等意識についてきちんと教えること	その他	無回答
全体		1,011	316	546	197	291	395	180	340	227	36	30
		100.0	31.3	54.0	19.5	28.8	39.1	17.8	33.6	22.5	3.6	3.0
年齢別	男性:18～29歳	37	24.3	62.2	16.2	29.7	48.6	16.2	24.3	18.9	0.0	5.4
	男性:30～39歳	49	36.7	49.0	16.3	38.8	55.1	16.3	12.2	14.3	6.1	0.0
	男性:40～49歳	73	26.0	45.2	26.0	38.4	54.8	9.6	28.8	12.3	4.1	1.4
	男性:50～59歳	62	30.6	38.7	16.1	27.4	32.3	17.7	27.4	17.7	4.8	8.1
	男性:60～69歳	83	25.3	61.4	18.1	25.3	42.2	13.3	25.3	26.5	4.8	3.6
	男性:70歳以上	91	33.0	53.8	14.3	15.4	31.9	19.8	45.1	35.2	3.3	4.4
	女性:18～29歳	47	31.9	57.4	21.3	27.7	46.8	19.1	31.9	19.1	6.4	6.4
	女性:30～39歳	88	25.0	53.4	18.2	28.4	50.0	12.5	36.4	21.6	8.0	1.1
	女性:40～49歳	83	28.9	44.6	25.3	32.5	45.8	20.5	39.8	15.7	3.6	3.6
	女性:50～59歳	106	36.8	52.8	20.8	34.9	30.2	18.9	40.6	18.9	1.9	0.0
	女性:60～69歳	121	34.7	60.3	23.1	25.6	31.4	19.0	43.8	24.0	1.7	1.7
	女性:70歳以上	92	42.4	59.8	13.0	29.3	25.0	26.1	31.5	34.8	0.0	2.2
	どちらでもない・回答しない	27	18.5	66.7	18.5	37.0	37.0	40.7	18.5	18.5	3.7	0.0
	無回答	52	26.9	55.8	23.1	21.2	36.5	7.7	28.8	23.1	3.8	7.7

年齢別にみると、「家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと」は男性の 18～29 歳で 62.2%と最も高く、その他男女の 60 代でも約６割と高い。「労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は男性の 30 代と 40 代、女性の 30 代で５割台と男女とも年齢が低い層で割合が高い。「家事などを男女で分担するような育て方をすること」は男性の 70 歳以上と女性の 60 代で４割台半ば、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は女性の 70 歳以上で 42.4%と高い。「学校で基本的人権の尊重や男女平等意識についてきちんと教えること」は男女とも 70 歳以上で３割台半ばと年齢の高い層での割合が高い。

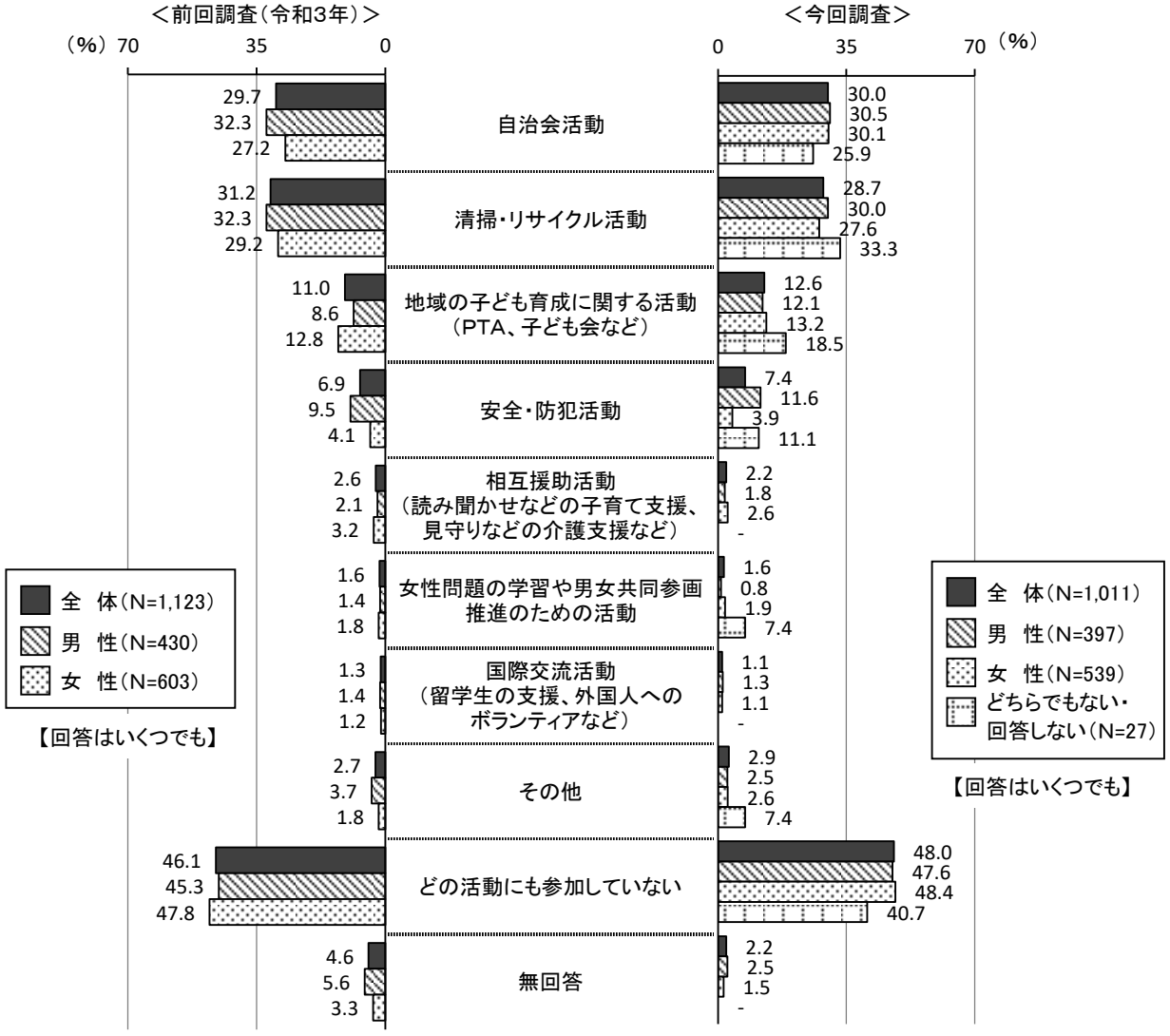
第３章　地域活動について

１．この１年間に参加したことがある地域活動

問６　あなたは、この１年間に何か地域活動に参加したことがありますか。参加したことがあるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

●この１年間の地域活動への参加状況は「どの活動にも参加していない」が約５割。
●活動内容は「清掃・リサイクル活動」「自治会活動」が約３割で高く、男性の 70 歳以上、女性の 60 代以上の参加が多い。

図表３ - １　この１年間に参加したことがある地域活動［全体、性別］（前回調査比較）



この１年間に参加したことがある地域活動について「どの活動にも参加していない」が 48.0%と最も高い。参加している活動の中では「自治会活動」（30.0%）と「清掃・リサイクル活動」（28.7%）が約３割と高い。

性別にみると、男性は「安全・防犯活動」が女性よりも 7.7 ポイント高いが、その他の活動に男女差はあまりみられない。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな差はみられない。

図表３－２　この１年間に参加したことがある地域活動［全体、年齢別］

(%)

		標本数	地域の子ども育成に関する活動（ＰＴＡ、子ども会など）	自治会活動	清掃・リサイクル活動	安全・防犯活動	相互援助活動（読み聞かせなどの子育て支援、見守りなどの介護支援など）	国際交流活動（留学生の支援、外国人へのボランティアなど）	女性問題の学習や男女共同参画推進のための活動	その他	どの活動にも参加していない	無回答
全体		1,011 100.0	127 12.6	303 30.0	290 28.7	75 7.4	22 2.2	11 1.1	16 1.6	29 2.9	485 48.0	22 2.2
年齢別	男性:18～29歳	37	13.5	5.4	18.9	8.1	5.4	8.1	－	5.4	67.6	－
	男性:30～39歳	49	16.3	10.2	12.2	10.2	－	4.1	2.0	－	63.3	－
	男性:40～49歳	73	16.4	23.3	26.0	16.4	－	－	－	1.4	53.4	2.7
	男性:50～59歳	62	11.3	32.3	29.0	8.1	－	－	－	－	48.4	3.2
	男性:60～69歳	83	15.7	37.3	33.7	12.0	3.6	－	2.4	6.0	38.6	2.4
	男性:70歳以上	91	3.3	49.5	44.0	12.1	2.2	－	－	2.2	34.1	4.4
	女性:18～29歳	47	6.4	2.1	8.5	－	2.1	2.1	－	－	83.0	－
	女性:30～39歳	88	19.3	14.8	10.2	1.1	1.1	－	1.1	1.1	67.0	－
	女性:40～49歳	83	22.9	25.3	18.1	4.8	2.4	1.2	2.4	6.0	53.0	1.2
	女性:50～59歳	106	16.0	27.4	29.2	4.7	3.8	1.9	0.9	1.9	46.2	0.9
	女性:60～69歳	121	6.6	44.6	38.0	5.8	3.3	0.8	2.5	4.1	28.9	4.1
	女性:70歳以上	92	7.6	47.8	47.8	4.3	2.2	1.1	3.3	1.1	35.9	1.1
	どちらでもない・回答しない	27	18.5	25.9	33.3	11.1	－	－	7.4	7.4	40.7	－
	無回答	52	5.8	26.9	26.9	9.6	1.9	－	1.9	5.8	51.9	7.7

年齢別にみると、「どの活動にも参加していない」は男女とも年齢が低い層で割合が高く、18～29 歳では男性は 67.6%、女性は 83.0%である。「自治会活動」と「清掃・リサイクル活動」は男女とも年齢の高い層で割合が高く、男性の 70 歳以上で４割台半ばから約５割と女性の 60 代と 70 歳以上で約４割から５割と高い。「安全・防犯活動」は男性の 30 代、40 代、60 代以上で１割を超えて高い。「地域の子ども育成に関する活動（ＰＴＡ、子ども会等)」は女性の 40 代で 22.9%、30 代が 19.3%と子どもがいる世代の女性で高くなっている。

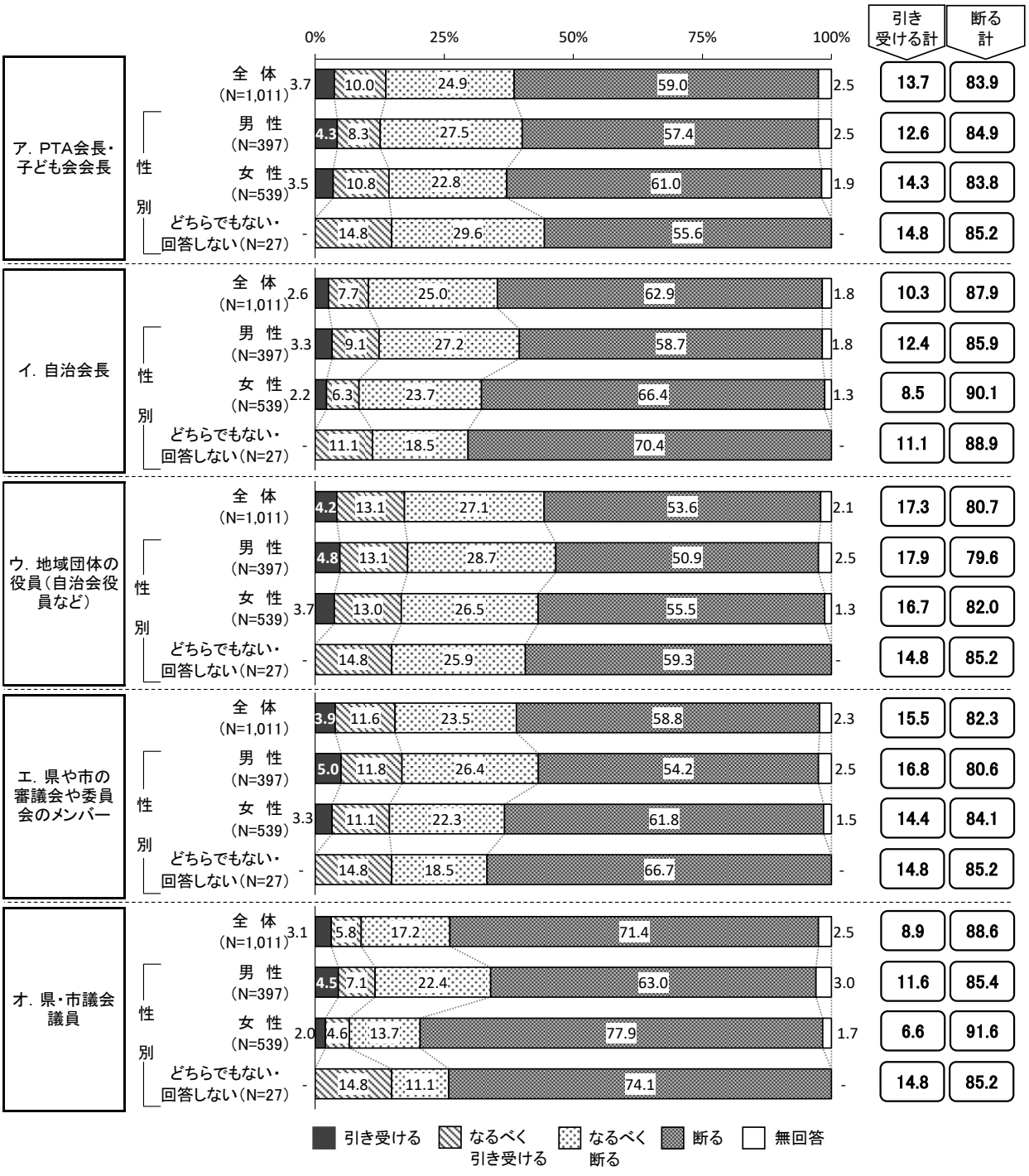
２．地域の役職・公職につくことについて

（１）地域の役職・公職への就任や立候補を依頼された場合の対応

問７　仮にあなたが、次のような役職・公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。次のア～オの各項目についてあてはまる番号を選んでください。
（○はそれぞれ１つずつ）

●地域の役職・公職につくことについて、ほとんどの分野で男性より女性の『断る』割合が高い。

図表３－３　地域の役職・公職への就任や立候補を依頼された場合の対応［全体、性別］



役職・公職への就任や立候補を依頼された場合にどうするかを５分野でたずねた。いずれの役職も「断る」の割合が約６割から７割と高く、これに「なるべく断る」の割合をあわせた『断る』はいずれも８割を超えている。特に「自治会長」や「県・市議会議員」は約９割となっている。

性別にみると、「ＰＴＡ会長・子ども会会長」を除く４分野で男性より女性の『断る』割合が高い。女性で比較的『引き受ける』割合が高いのは「地域団体の役員（自治会役員など）」（16.7%）である。

図表３ - ４（１）　地域の役職・公職への就任や立候補を依頼された場合の対応［全体、年齢別］

(%)

		標本数	ア. PTA会長・子ども会会長							イ. 自治会長						
			引き受ける	引き受けるなきべく	なるべく断る	断る	無回答	引き受ける計	断る計	引き受ける	引き受けるなきべく	なるべく断る	断る	無回答	引き受ける計	断る計
全体		1,011	37	101	252	596	25	138	848	26	78	253	636	18	104	889
		100.0	3.7	10.0	24.9	59.0	2.5	13.7	83.9	2.6	7.7	25.0	62.9	1.8	10.3	87.9
年齢別	男性:18～29歳	37	8.1	24.3	21.6	45.9	－	32.4	67.5	5.4	13.5	32.4	48.6	－	18.9	81.0
	男性:30～39歳	49	8.2	8.2	28.6	55.1	－	16.4	83.7	6.1	4.1	30.6	57.1	2.0	10.2	87.7
	男性:40～49歳	73	4.1	6.8	21.9	67.1	－	10.9	89.0	1.4	6.8	23.3	68.5	－	8.2	91.8
	男性:50～59歳	62	4.8	4.8	24.2	64.5	1.6	9.6	88.7	3.2	6.5	21.0	67.7	1.6	9.7	88.7
	男性:60～69歳	83	2.4	12.0	27.7	54.2	3.6	14.4	81.9	3.6	13.3	28.9	53.0	1.2	16.9	81.9
	男性:70歳以上	91	2.2	2.2	35.2	53.8	6.6	4.4	89.0	2.2	9.9	28.6	54.9	4.4	12.1	83.5
	女性:18～29歳	47	6.4	19.1	34.0	40.4	－	25.5	74.4	4.3	12.8	36.2	46.8	－	17.1	83.0
	女性:30～39歳	88	3.4	11.4	22.7	62.5	－	14.8	85.2	2.3	5.7	19.3	72.7	－	8.0	92.0
	女性:40～49歳	83	3.6	7.2	31.3	57.8	－	10.8	89.1	2.4	4.8	25.3	66.3	1.2	7.2	91.6
	女性:50～59歳	106	2.8	8.5	24.5	64.2	－	11.3	88.7	－	3.8	29.2	67.0	－	3.8	96.2
	女性:60～69歳	121	4.1	14.0	19.0	60.3	2.5	18.1	79.3	2.5	8.3	21.5	65.3	2.5	10.8	86.8
	女性:70歳以上	92	2.2	7.6	13.0	69.6	7.6	9.8	82.6	3.3	5.4	17.4	70.7	3.3	8.7	88.1
	どちらでもない・回答しない	27	－	14.8	29.6	55.6	－	14.8	85.2	－	11.1	18.5	70.4	－	11.1	88.9
	無回答	52	1.9	11.5	25.0	51.9	9.6	13.4	76.9	1.9	9.6	25.0	55.8	7.7	11.5	80.8

		標本数	ウ. 地域団体の役員（自治会役員など）							エ. 県や市の審議会や委員会のメンバー						
			引き受ける	引き受けるなきべく	なるべく断る	断る	無回答	引き受ける計	断る計	引き受ける	引き受けるなきべく	なるべく断る	断る	無回答	引き受ける計	断る計
全体		1,011	42	132	274	542	21	174	816	39	117	238	594	23	156	832
		100.0	4.2	13.1	27.1	53.6	2.1	17.3	80.7	3.9	11.6	23.5	58.8	2.3	15.5	82.3
年齢別	男性:18～29歳	37	5.4	18.9	32.4	43.2	－	24.3	75.6	5.4	18.9	27.0	48.6	－	24.3	75.6
	男性:30～39歳	49	6.1	10.2	26.5	55.1	2.0	16.3	81.6	10.2	10.2	20.4	57.1	2.0	20.4	77.5
	男性:40～49歳	73	2.7	11.0	27.4	58.9	－	13.7	86.3	5.5	16.4	23.3	54.8	－	21.9	78.1
	男性:50～59歳	62	4.8	9.7	27.4	56.5	1.6	14.5	83.9	6.5	11.3	22.6	58.1	1.6	17.8	80.7
	男性:60～69歳	83	7.2	15.7	26.5	48.2	2.4	22.9	74.7	3.6	15.7	31.3	47.0	2.4	19.3	78.3
	男性:70歳以上	91	3.3	14.3	31.9	44.0	6.6	17.6	75.9	2.2	3.3	29.7	58.2	6.6	5.5	87.9
	女性:18～29歳	47	4.3	10.6	40.4	44.7	－	14.9	85.1	4.3	12.8	31.9	51.1	－	17.1	83.0
	女性:30～39歳	88	3.4	13.6	14.8	68.2	－	17.0	83.0	4.5	13.6	12.5	69.3	－	18.1	81.8
	女性:40～49歳	83	3.6	8.4	26.5	60.2	1.2	12.0	86.7	6.0	7.2	22.9	62.7	1.2	13.2	85.6
	女性:50～59歳	106	2.8	9.4	34.0	52.8	0.9	12.2	86.8	1.9	12.3	26.4	59.4	－	14.2	85.8
	女性:60～69歳	121	5.8	17.4	30.6	45.5	0.8	23.2	76.1	2.5	14.0	27.3	54.5	1.7	16.5	81.8
	女性:70歳以上	92	2.2	16.3	17.4	59.8	4.3	18.5	77.2	2.2	6.5	15.2	70.7	5.4	8.7	85.9
	どちらでもない・回答しない	27	－	14.8	25.9	59.3	－	14.8	85.2	－	14.8	18.5	66.7	－	14.8	85.2
	無回答	52	5.8	11.5	21.2	53.8	7.7	17.3	75.0	1.9	11.5	17.3	59.6	9.6	13.4	76.9

図表３－４（２）　地域の役職・公職への就任や立候補を依頼された場合の対応［全体、年齢別］

(%)

		標本数	オ. 県・市議会議員						
			引き受ける	なるべく引き受ける	なるべく断る	断る	無回答	引き受ける計	断る計
全体		1,011	31	59	174	722	25	90	896
		100.0	3.1	5.8	17.2	71.4	2.5	8.9	88.6
年齢別	男性:18～29歳	37	5.4	13.5	35.1	45.9	－	18.9	81.0
	男性:30～39歳	49	8.2	6.1	24.5	59.2	2.0	14.3	83.7
	男性:40～49歳	73	8.2	6.8	24.7	60.3	－	15.0	85.0
	男性:50～59歳	62	6.5	8.1	14.5	69.4	1.6	14.6	83.9
	男性:60～69歳	83	－	10.8	24.1	61.4	3.6	10.8	85.5
	男性:70歳以上	91	2.2	1.1	17.6	71.4	7.7	3.3	89.0
	女性:18～29歳	47	4.3	10.6	31.9	53.2	－	14.9	85.1
	女性:30～39歳	88	3.4	4.5	9.1	83.0	－	7.9	92.1
	女性:40～49歳	83	2.4	2.4	7.2	86.7	1.2	4.8	93.9
	女性:50～59歳	106	0.9	4.7	16.0	78.3	－	5.6	94.3
	女性:60～69歳	121	1.7	5.0	14.9	76.9	1.7	6.7	91.8
	女性:70歳以上	92	1.1	3.3	10.9	78.3	6.5	4.4	89.2
	どちらでもない・回答しない	27	－	14.8	11.1	74.1	－	14.8	85.2
	無回答	52	3.8	3.8	17.3	67.3	7.7	7.6	84.6

年齢別にみると、ほとんどの分野で男女の 18～29 歳で『引き受ける』割合が高い傾向がみられるが、「地域団体の役員（自治会役員など）」は女性の 60 代で『引き受ける』が 23.2%と女性の中では最も高い。

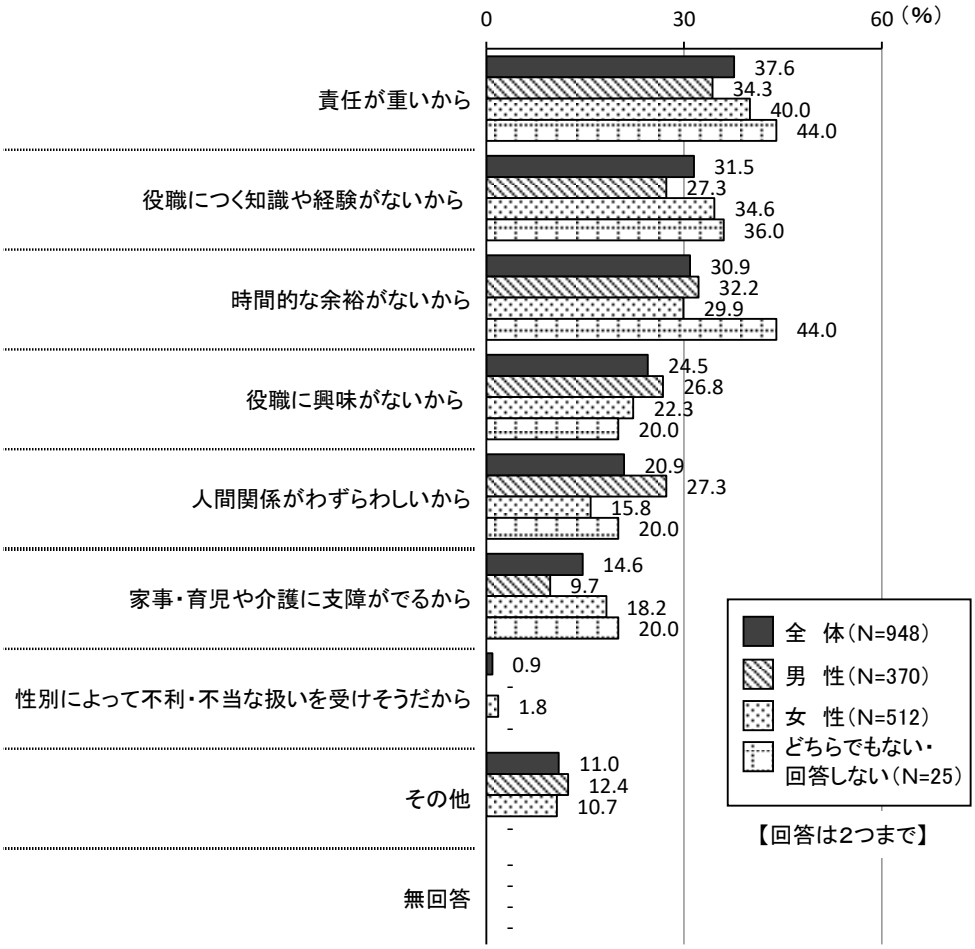
（２）地域の役職・公職を断る理由

【問７で、ア～オのうち、１つでも「なるべく断る」、「断る」を選んだ方に】

問７－１　断る理由は何ですか。(○は２つまで)

●地域の役職・公職を断る理由は、「責任が重いから」が約４割、「役職につく知識や経験がないから」「時間的な余裕がないから」が各々約３割。

図表３ - ５　地域の役職・公職を断る理由［全体、性別］



役職・公職への就任や立候補を『断る』と回答した人にその理由をたずねた。「責任が重いから」が 37.6%で最も高く、次いで「役職につく知識や経験がないから」が 31.5%、「時間的な余裕がないから」が 30.9%である。

性別にみると、男性は「役職に興味がないから」（男性 26.8%、女性 22.3%）や「人間関係がわずらわしいから」（同 27.3%、15.8%）などが 4.5～11.5 ポイント女性よりも高く、女性は「責任が重いから」（同 34.3%、40.0%）、「役職につく知識や経験がないから」（同 27.3%、34.6%）、「家事・育児や介護に支障がでるから」（同 9.7%、18.2%）などの割合が 5.7～8.5 ポイント男性よりも高い。

図表３－６　地域の役職・公職を断る理由［全体、役職・公職別、年齢別］

（%）

		標本数	責任が重いから	家事・育児や介護に支障がでるから	役職につく知識や経験がないから	時間的な余裕がないから	人間関係がわずらわしいから	性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから	役職に興味がないから	その他	無回答
全体		948 100.0	356 37.6	138 14.6	299 31.5	293 30.9	198 20.9	9 0.9	232 24.5	104 11.0	－ －
役職・公職別	PTA会長・子ども会会長	848	37.0	14.9	30.8	31.8	21.7	0.8	24.2	11.1	－
	自治会長	889	34.0	13.9	27.7	28.8	20.6	0.8	22.9	9.7	－
	地域団体の役員（自治会役員など）	816	37.0	15.2	30.1	31.4	22.4	0.9	25.0	10.5	－
	県や市の審議会や委員会のメンバー	832	38.6	14.9	32.1	30.9	20.3	0.7	25.6	9.9	－
	県・市議会議員	896	38.2	14.5	32.4	30.9	20.2	1.0	25.0	10.5	－
年齢別	男性：18～29歳	33	33.3	9.1	33.3	39.4	9.1	－	36.4	12.1	－
	男性：30～39歳	44	31.8	18.2	25.0	40.9	25.0	－	20.5	4.5	－
	男性：40～49歳	70	28.6	12.9	14.3	40.0	32.9	－	24.3	12.9	－
	男性：50～59歳	58	24.1	8.6	20.7	46.6	27.6	－	24.1	10.3	－
	男性：60～69歳	78	46.2	10.3	33.3	28.2	21.8	－	26.9	7.7	－
	男性：70歳以上	85	36.5	3.5	36.5	11.8	35.3	－	30.6	22.4	－
	女性：18～29歳	43	46.5	16.3	25.6	20.9	23.3	－	25.6	7.0	－
	女性：30～39歳	83	31.3	44.6	19.3	41.0	18.1	1.2	20.5	7.2	－
	女性：40～49歳	83	34.9	24.1	25.3	41.0	14.5	2.4	22.9	9.6	－
	女性：50～59歳	103	35.9	12.6	31.1	41.7	14.6	2.9	27.2	6.8	－
	女性：60～69歳	113	48.7	8.8	50.4	21.2	14.2	1.8	25.7	8.0	－
	女性：70歳以上	85	43.5	5.9	47.1	9.4	15.3	1.2	11.8	25.9	－
	どちらでもない・回答しない	25	44.0	20.0	36.0	44.0	20.0	－	20.0	－	－
	無回答	45	33.3	11.1	26.7	26.7	26.7	－	31.1	6.7	－

役職・公職別にみると、いずれの役職・公職も「責任が重いから」の理由が最も高い。次いで「ＰＴＡ会長・子ども会会長」「自治会長」「地域団体の役員（自治会役員など）」は「時間的な余裕がないから」、「県や市の審議会や委員会のメンバー」「県・市議会議員」は「役職につく知識や経験がないから」の理由が上がっている。

年齢別にみると、男女の 30 代から 50 代では「時間的な余裕がないから」が４割台、女性の 30 代では「家事・育児や介護に支障がでるから」が 44.6％と他の年代に比べて高い。また、女性の 18～29 歳と 60 代以上では「責任が重いから」が４割を超え、女性の 60 代以上では「役職につく知識や経験がないから」が約５割と高い。

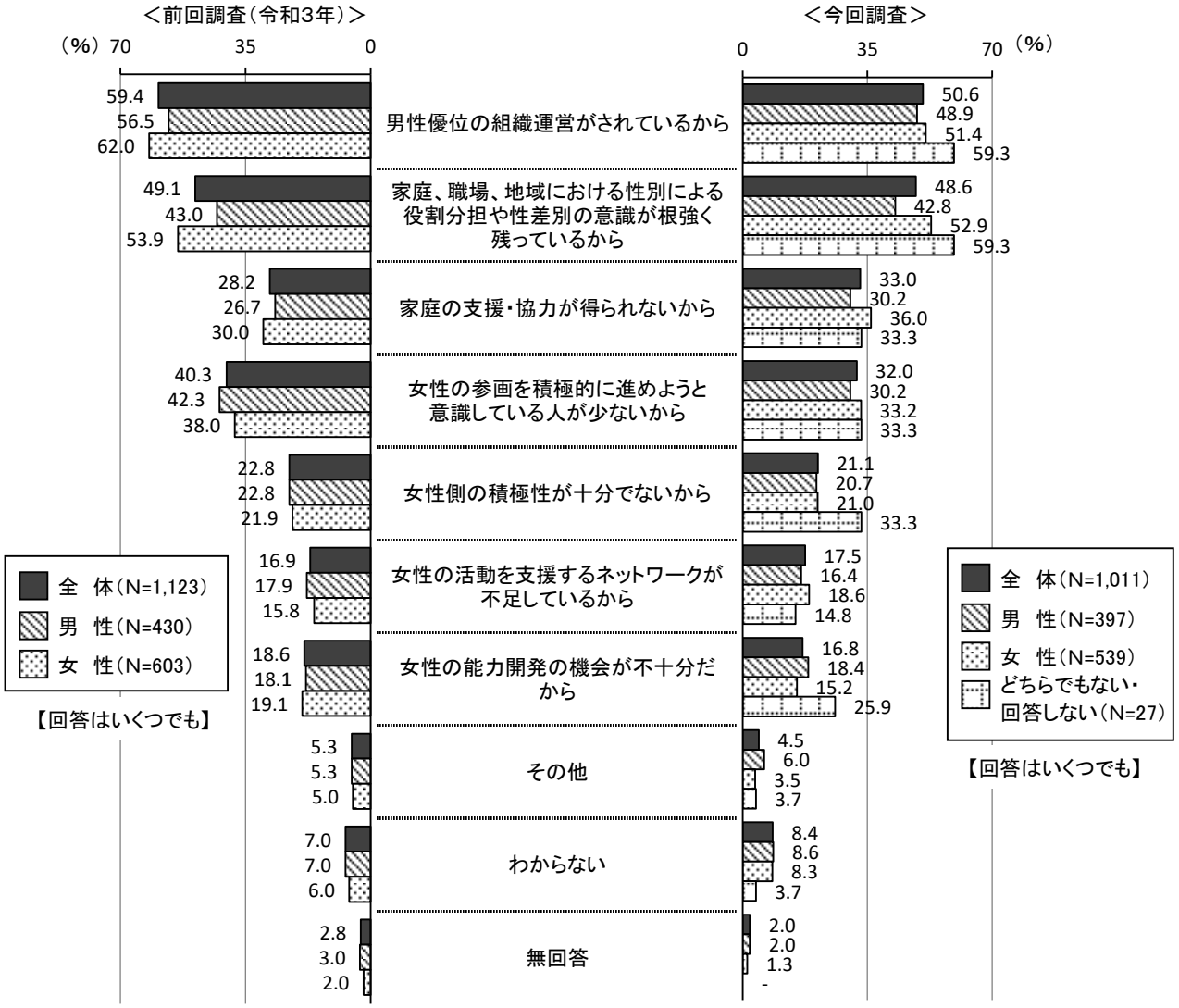
３．政策の企画・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由

問８　あなたは、政治や行政、地域の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。（〇はいくつでも）

※男女共同参画社会実現のためには、社会における女性の参画が重要であるとして、国においても、「指導的地位に占める女性の割合を 30%程度」とする目標を掲げて取組を進めています。

●政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は「男性優位の組織運営がされているから」、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから」が約５割。「家庭の支援・協力が得られないから」は男女とも前回調査より割合が増えている。

図表３－７　政策の企画・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由［全体、性別］（前回調査比較）



政治や行政、地域の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由をたずねたところ、「男性優位の組織運営がされているから」が 50.6%と最も高く、次いで「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから」が 48.6%、「家庭の支援・協力が得られないから」が 33.0%、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」が 32.0%であげられている。

性別にみると、女性は「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから」（男性 42.8、女性 52.9%）が 10.1 ポイント、「家庭の支援・協力が得られないから」（同 30.2%、36.0%）が 5.8 ポイント男性よりも高い。その他の項目は男女で差はあまりみられない。

前回調査と比べると、「男性優位の組織運営がされているから」は男女とも割合が 7.6～10.6 ポイント、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」は 4.8～12.1 ポイント減っている。「家庭の支援・協力が得られないから」は男女とも 3.5～6.0 ポイント増えている。

図表３－８　政策の企画・方針決定の過程に女性の参画が少ない理由［全体、年齢別］

(%)

		標本数	家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから	男性優位の組織運営がされているから	家庭の支援・協力が得られないから	女性の能力開発の機会が不十分だから	女性の活動を支援するネットワークが不足しているから	女性側の積極性が十分でないから	女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから	その他	わからない	無回答
全体		1,011	491	512	334	170	177	213	324	46	85	20
		100.0	48.6	50.6	33.0	16.8	17.5	21.1	32.0	4.5	8.4	2.0
年齢別	男性:18～29歳	37	37.8	27.0	18.9	21.6	10.8	13.5	35.1	5.4	8.1	5.4
	男性:30～39歳	49	51.0	44.9	26.5	16.3	10.2	30.6	22.4	12.2	2.0	2.0
	男性:40～49歳	73	31.5	54.8	34.2	20.5	15.1	16.4	27.4	8.2	6.8	－
	男性:50～59歳	62	40.3	50.0	27.4	8.1	11.3	19.4	27.4	8.1	9.7	－
	男性:60～69歳	83	43.4	51.8	34.9	14.5	16.9	26.5	34.9	1.2	12.0	1.2
	男性:70歳以上	91	49.5	50.5	31.9	27.5	26.4	16.5	31.9	4.4	9.9	4.4
	女性:18～29歳	47	48.9	53.2	27.7	12.8	14.9	21.3	27.7	4.3	12.8	2.1
	女性:30～39歳	88	52.3	52.3	48.9	13.6	19.3	21.6	22.7	6.8	11.4	－
	女性:40～49歳	83	60.2	56.6	45.8	10.8	24.1	19.3	30.1	4.8	4.8	－
	女性:50～59歳	106	54.7	55.7	34.0	16.0	15.1	23.6	38.7	4.7	4.7	0.9
	女性:60～69歳	121	54.5	48.8	33.9	17.4	20.7	20.7	32.2	1.7	6.6	3.3
	女性:70歳以上	92	45.7	44.6	25.0	18.5	16.3	19.6	44.6	－	10.9	1.1
	どちらでもない・回答しない	27	59.3	59.3	33.3	25.9	14.8	33.3	33.3	3.7	3.7	－
	無回答	52	42.3	51.9	21.2	15.4	15.4	19.2	32.7	3.8	13.5	9.6

年齢別にみると、「男性優位の組織運営がされているから」は男性の 40 代以上と女性の 50 代以下で５割を超えている。「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから」は女性の 40 代で 60.2%と最も高く、その他 30 代や 50 代と 60 代、男性の 30 代で５割を超えている。「家庭の支援・協力が得られないから」は女性の 30 代と 40 代で４割台半ばから約５割、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」は女性 70 歳以上で 44.6%と高い。「女性側の積極性が十分でないから」は男性の 30 代で 30.6%と高い。

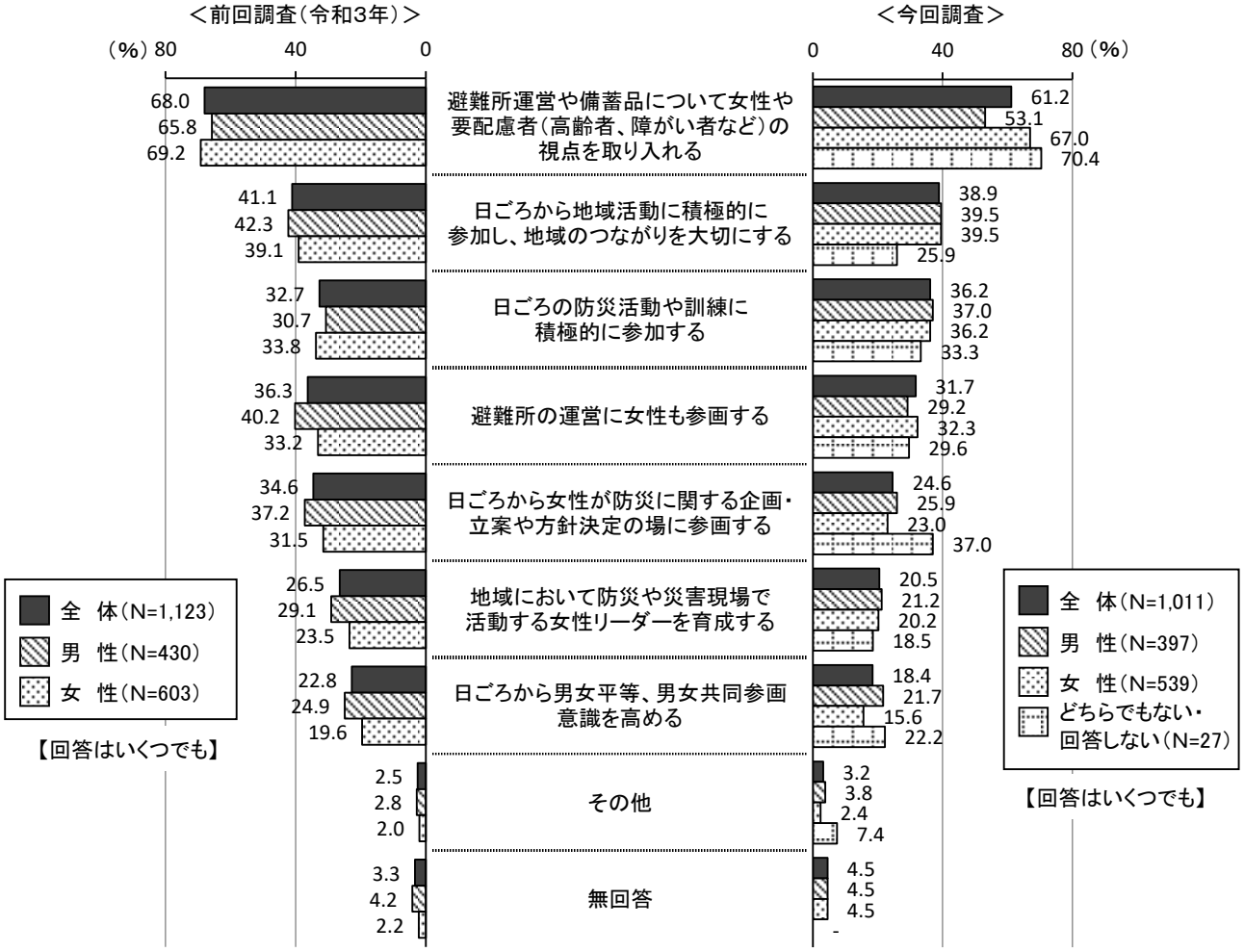
４．災害に備えるために必要な男女共同参画の視点

問９　災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

※近年の大規模災害における経験から、日ごろの防災や災害発生後の対応に女性の視点を取り入れることが重要だと言われています。

●災害に備えるために必要な男女共同参画の視点は、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を取り入れる」が約６割で最も高い。

図表３－９　災害に備えるために必要な男女共同参画の視点［全体、性別］（前回調査比較）



災害に備えるために必要な男女共同参画の視点は、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を取り入れる」が 61.2%で最も高い。次いで「日ごろから地域活動に積極的に参加し、地域のつながりを大切にする」が 38.9%、「日ごろの防災活動や訓練に積極的に参加する」が 36.2%「避難所の運営に女性も参画する」が 31.7%となっている。

性別にみると、女性は「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を取り入れる」（男性 53.1%、女性 67.0%）が男性より 13.9 ポイント、男性は「日ごろから男女平等、男女共同参画意識を高める」（同 21.7%、15.6%）が 6.1 ポイント高いが、その他の項目は男女で差はあまりみられない。

前回調査と比べると、ほとんどの項目は男女とも割合が減っており、特に「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を取り入れる」「避難所の運営に女性も参画する」「日ごろから女性が防災に関する企画・立案や方針決定の場に参画する」は男性で 10 ポイント以上割合が減っている。

図表３ - 10　災害に備えるために必要な男女共同参画の視点［全体、年齢別］

(%)

		標本数	日ごろから女性が防災に関する企画・立案や方針決定の場に参画する	日ごろから地域活動に積極的に参加し、地域のつながりを大切にする	日ごろから男女平等、男女共同参画意識を高める	日ごろの防災活動や訓練に積極的に参加する	避難所の運営に女性も参画する	地域において防災や災害現場で活動する女性リーダーを育成する	避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を取り入れる	その他	無回答
全体		1,011	249	393	186	366	320	207	619	32	46
		100.0	24.6	38.9	18.4	36.2	31.7	20.5	61.2	3.2	4.5
年齢別	男性:18～29歳	37	18.9	35.1	24.3	43.2	21.6	10.8	43.2	5.4	2.7
	男性:30～39歳	49	14.3	34.7	16.3	36.7	22.4	12.2	42.9	10.2	－
	男性:40～49歳	73	19.2	32.9	23.3	28.8	34.2	24.7	46.6	1.4	5.5
	男性:50～59歳	62	27.4	40.3	22.6	35.5	22.6	21.0	58.1	6.5	4.8
	男性:60～69歳	83	31.3	42.2	21.7	34.9	30.1	25.3	59.0	2.4	4.8
	男性:70歳以上	91	35.2	45.1	22.0	44.0	36.3	24.2	59.3	1.1	6.6
	女性:18～29歳	47	23.4	36.2	17.0	44.7	27.7	25.5	66.0	8.5	6.4
	女性:30～39歳	88	22.7	26.1	12.5	40.9	33.0	19.3	68.2	4.5	4.5
	女性:40～49歳	83	30.1	30.1	18.1	24.1	28.9	18.1	75.9	－	2.4
	女性:50～59歳	106	22.6	33.0	16.0	34.9	35.8	18.9	59.4	4.7	2.8
	女性:60～69歳	121	25.6	46.3	15.7	38.8	34.7	25.6	73.6	－	3.3
	女性:70歳以上	92	14.1	60.9	15.2	35.9	30.4	15.2	59.8	－	7.6
	どちらでもない・回答しない	27	37.0	25.9	22.2	33.3	29.6	18.5	70.4	7.4	－
	無回答	52	23.1	36.5	19.2	32.7	42.3	17.3	55.8	3.8	9.6

年齢別にみると、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を取り入れる」は女性の 40 代以下と 60 代で６割台半ばから７割台半ばと高い。「日ごろから地域活動に積極的に参加し、地域のつながりを大切にする」は男性の 50 代以上と女性の 60 代以上で、「日ごろの防災活動や訓練に積極的に参加する」は男性の 18～29 歳と 70 歳以上、女性の 18～29 歳と 30 代で４割を超えて高い。「日ごろから女性が防災に関する企画・立案や方針決定の場に参画する」は男性の 60 代以上と女性の 40 代で約３割から３割台半ばと高くなっている。

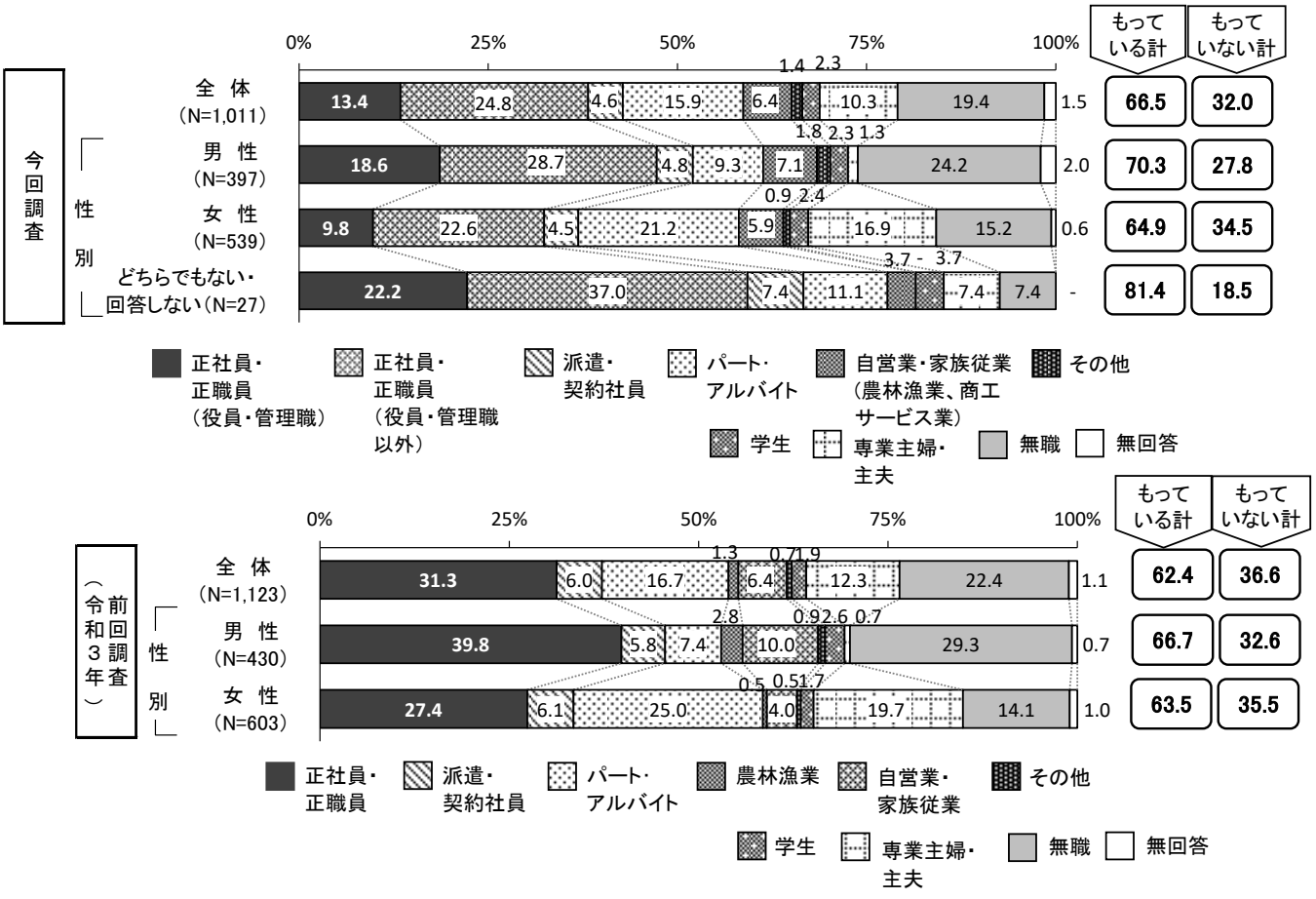
第４章　就労について

１．職業の有無

問１０　あなたは、現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか（育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします）。（○は主なものに１つ）

●現在、職業をもっている人は 66.5%、もっていない人は 32.0%。
●女性では『正社員・正職員』で働く人が前回調査よりやや増えている。
●女性の既婚で共働きの人は非正規よりも『正社員・正職員』で働く人の方が多い。

図表４ - １　職業の有無［全体、性別］（前回調査比較）



現在の職業について、「正社員・正職員（役員・管理職）」の 13.4%と「正社員・正職員（役員・管理職以外）」の 24.8%をあわせた『正社員・正職員』は 38.2%、「パート・アルバイト」が 15.9%、「自営業・家族従業(農林漁業、商工サービス業)」が 6.4%、「派遣・契約社員」が 4.6%で、職業をもっている人は 66.5%である。他方、「学生」(2.3%)、「専業主婦・主夫」(10.3%)、「無職」(19.4%) をあわせた職業をもっていない人は 32.0%である。

性別にみると、職業をもっている男性は 70.3%、女性は 64.9%で、内訳をみると、『正社員・正職員』は男性 47.3%、女性 32.4%、「パート・アルバイト」は男性 9.3%、女性 21.2%、「派遣・契約社員」は男性 4.8%、女性 4.5%と非正規で働いている人は女性の方が多い。職業をもっていない男性は 27.8%、女性は 34.5%である。

前回調査と比べると、男女とも『正社員・正職員』の割合が 5.0～7.5 ポイント増えている。女性は「パート・アルバイト」が 3.8 ポイント減、「派遣・契約社員」もやや減っており、女性では非正規の働きがやや減っている。

図表４－２　職業の有無［全体、年齢別、配偶関係別］

(%)

		標本数	正社員・正職員（役員・管理職）	正社員・正職員（1以外）	派遣・契約社員	パート・アルバイト	自営業・家族従業（農林漁業、商工サービス業）	その他	学生	専業主婦・主夫	無職	無回答
全体		1,011	135	251	47	161	65	14	23	104	196	15
		100.0	13.4	24.8	4.6	15.9	6.4	1.4	2.3	10.3	19.4	1.5
年齢別	男性:18～29歳	37	10.8	37.8	5.4	8.1	2.7	8.1	24.3	－	2.7	－
	男性:30～39歳	49	20.4	63.3	－	4.1	－	2.0	－	－	8.2	2.0
	男性:40～49歳	73	30.1	46.6	5.5	6.8	5.5	－	－	－	5.5	－
	男性:50～59歳	62	35.5	30.6	4.8	4.8	11.3	－	－	1.6	8.1	3.2
	男性:60～69歳	83	13.3	18.1	9.6	15.7	10.8	－	－	1.2	28.9	2.4
	男性:70歳以上	91	5.5	1.1	2.2	11.0	7.7	3.3	－	3.3	62.6	3.3
	女性:18～29歳	47	2.1	38.3	4.3	17.0	2.1	2.1	27.7	2.1	4.3	－
	女性:30～39歳	88	8.0	39.8	5.7	22.7	2.3	1.1	－	11.4	8.0	1.1
	女性:40～49歳	83	13.3	33.7	4.8	31.3	6.0	－	－	7.2	3.6	－
	女性:50～59歳	106	17.0	31.1	2.8	23.6	6.6	－	－	13.2	5.7	－
	女性:60～69歳	121	10.7	5.0	8.3	19.8	9.1	2.5	－	27.3	17.4	－
	女性:70歳以上	92	2.2	1.1	－	12.0	6.5	－	－	29.3	46.7	2.2
	どちらでもない・回答しない	27	22.2	37.0	7.4	11.1	3.7	－	3.7	7.4	7.4	－
	無回答	52	5.8	11.5	3.8	15.4	7.7	3.8	－	11.5	32.7	7.7
配偶関係別	男性:未婚	100	10.0	33.0	6.0	12.0	5.0	3.0	8.0	1.0	20.0	2.0
	男性:配偶者がいる(共働きである)	140	31.4	42.9	5.0	8.6	8.6	1.4	－	－	－	2.1
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	125	12.8	12.0	4.0	5.6	7.2	1.6	0.8	3.2	52.0	0.8
	男性:配偶者とは死・離別した	27	14.8	22.2	3.7	18.5	3.7	－	－	－	33.3	3.7
	女性:未婚	110	10.0	37.3	4.5	8.2	1.8	1.8	10.9	－	25.5	－
	女性:配偶者がいる(共働きである)	204	16.7	30.4	6.9	34.3	10.3	1.0	－	－	－	0.5
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	138	0.7	1.4	0.7	10.1	3.6	0.7	0.7	59.4	22.5	－
	女性:配偶者とは死・離別した	83	8.4	18.1	4.8	24.1	4.8	－	－	10.8	26.5	2.4
	どちらでもない・回答しない	27	22.2	37.0	7.4	11.1	3.7	－	3.7	7.4	7.4	－
	無回答	57	3.5	12.3	3.5	15.8	8.8	3.5	－	10.5	33.3	8.8

年齢別にみると、男女とも 50 代以下で『正社員・正職員』が４割台から８割台と高い。男性の50代は『正社員・正職員』のうち「役員・管理職」が35.5%と最も高い。「パート・アルバイト」は女性の40代では31.3%と最も多く、30代と50代でも２割台であり、「専業主婦・主夫」の割合より高い。職業をもっていない人は男女とも60代以上で多い。

配偶関係別にみると、女性の未婚は『正社員・正職員』が 47.3%、既婚で共働きの人は 47.1%と同程度となっている。既婚で共働きの人では「パート・アルバイト」が 34.3%、「派遣・契約社員」が 6.9%と正規で働く人の方が多い。

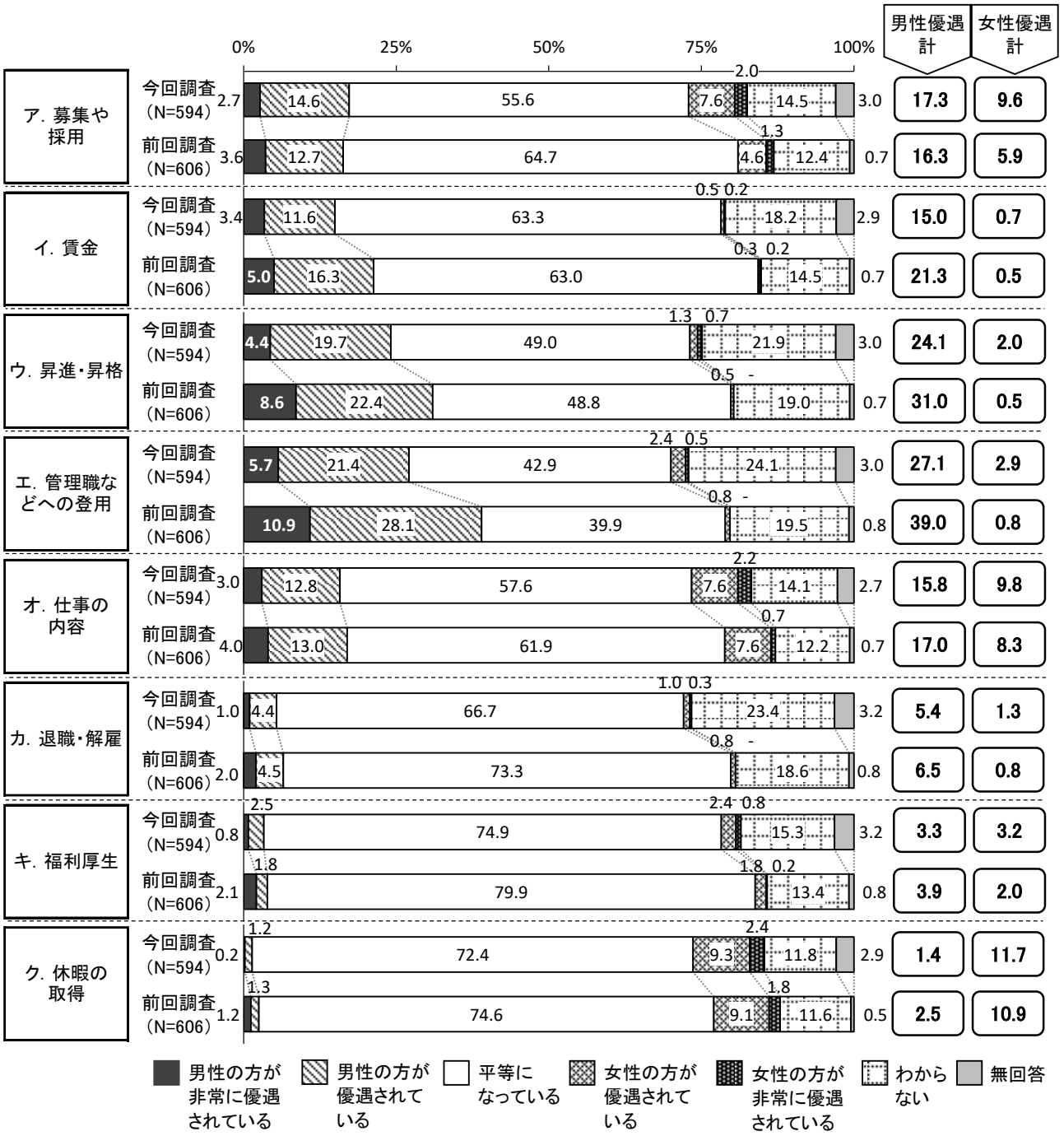
２．職場における男女の扱いについて

【問１０で「１．正社員・正職員（役員・管理職）」「２．正社員・正職員（１以外）」「３．派遣・契約社員」「４．パート･アルバイト」のいずれかを選ばれた方に】

問１０－１　あなたの今の職場では、男女の扱いは平等になっていると思いますか。次のア～クの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

●職場での男女の扱いはすべての項目で「平等になっている」の割合が最も高い。
●前回調査より「管理職などへの登用」「昇進・昇格」「賃金」などの『男性優遇』の割合は約６～12 ポイント減っている。

図表４ - ３　職場における男女の扱い［全体］（前回調査比較）



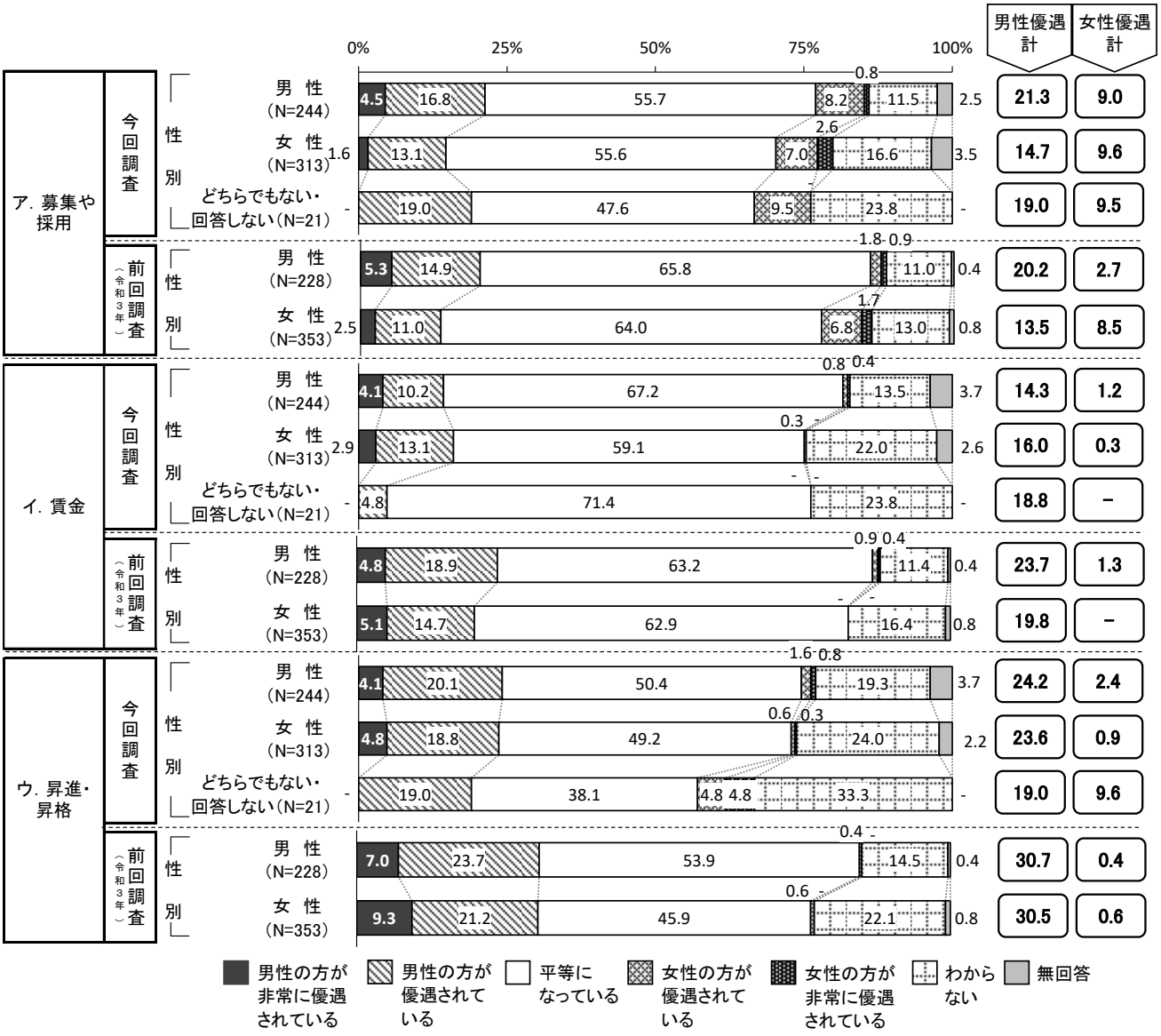
Ⅱ　調査結果

現在、「正社員・正職員」「パート・アルバイト」「派遣・契約社員」で働いている人の職場における男女の扱いについてたずねた。「男性の方が非常に優遇されている」と「男性の方が優遇されている」をあわせた『男性優遇』が最も高いのは「エ．管理職等への登用」で 27.1%、以下、「ウ．昇進・昇格」24.1%、「オ．仕事の内容」15.8%などである。

「平等になっている」が最も高いのは「キ．福利厚生」が 74.9%で、その他「ク.休暇の取得」（72.4%）が７割台、「カ．退職・解雇」（66.7%）、「イ．賃金」（63.3%）などが６割台となっている。

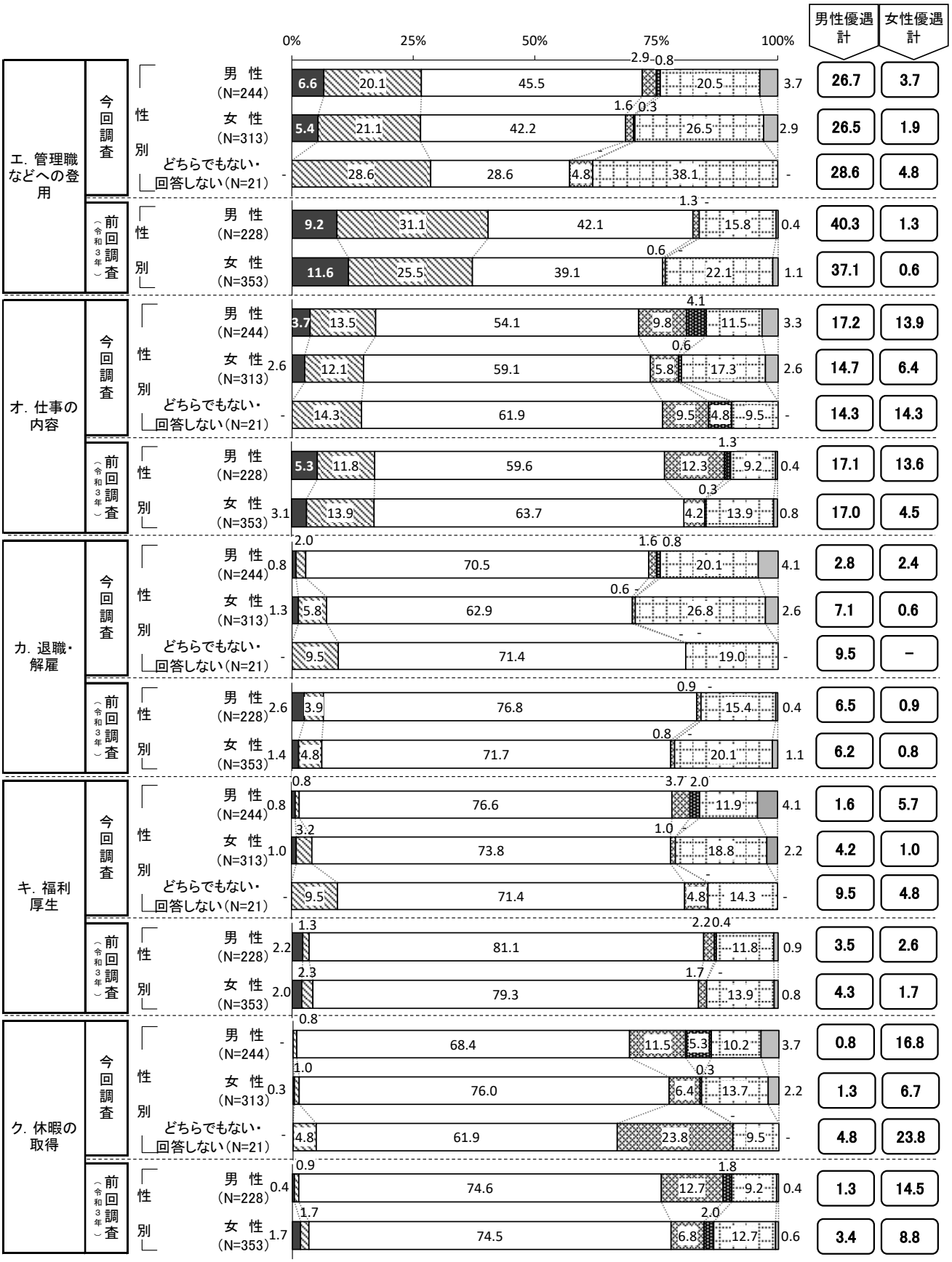
前回調査と比べると、「エ．管理職等への登用」は『男性優遇』が 11.9 ポイント減少し、また「ウ．昇進・昇格」や「イ．賃金」は 6.3～6.9 ポイント減っている。しかし、ほとんどの扱いで「平等になっている」の割合は同程度か減っているものが多く、「わからない」が増えている。

図表４－４（１）　職場における男女の扱い［性別］（前回調査比較）



性別にみると、男性は「ア.募集や採用」の『男性優遇』の割合が女性よりも 6.6 ポイント高く、「オ．仕事の内容」「ク．休暇の取得」の『女性優遇』の割合が女性よりも 7.5～10.1 ポイント高い。

図表４－４（２）　職場における男女の扱い［性別］（前回調査比較）

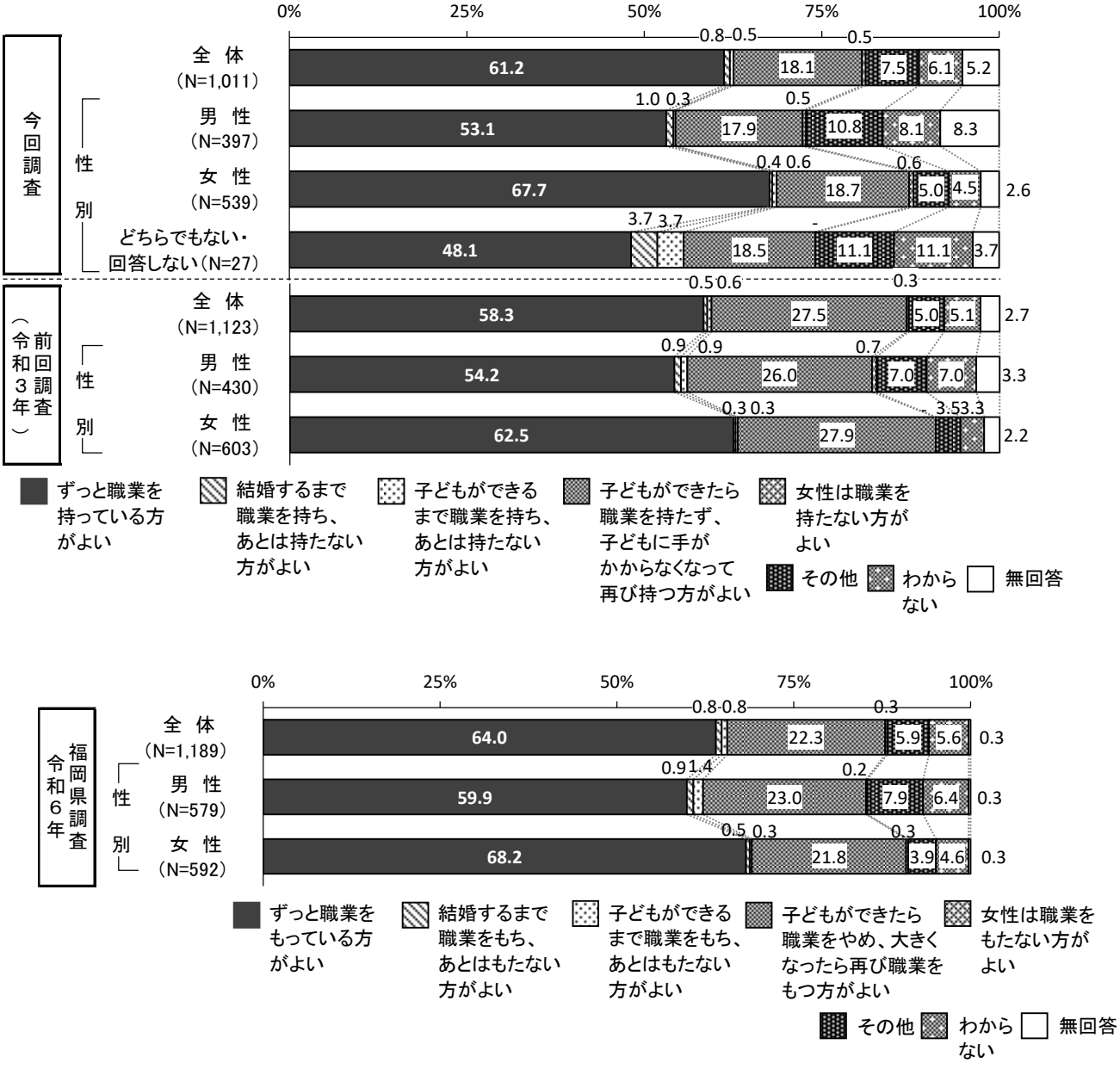


３．女性が職業を持つことについての考え方

問１１　「女性が職業を持つこと」について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（○は１つ）

●女性が職業を持つことについて、「就労継続」という考えが約６割で最も多い。
●「就労継続」の割合は女性の方が男性よりも 14.6 ポイント高く、女性の 60 代で７割を超えて特に高い。
●前回調査よりも女性は「就労継続」が 5.2 ポイント増加。

図表４－５　女性が職業を持つことについての考え方［全体、性別］（前回・福岡県調査比較）



資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果

女性が職業を持つことについて考え方をたずねた。「ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が 61.2%で最も高い。次いで「子どもができたら職業を持たず、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」という子育て期に就労を中断する働き方が 18.1%となっている。「結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい」（0.8%）、「子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい」（0.5%）、「女性は職業を持たない方がよい」（0.5%）などはいずれも専業主婦を志向する項目だが、これらの合計は 1.8%と低く、女性が職業を持つことは肯定的にとらえられている。

性別にみると、女性の就労継続は 67.7%で男性（53.1%）を 14.6 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、女性は就労継続が 5.2 ポイント増え、子育て期に就労を中断する働き方は男女とも 8.1～9.2 ポイント減っている。

福岡県調査と比べると、男性の就労継続は今回調査の方が 6.8 ポイント低い。女性はあまり大きな違いはみられない。

図表４－６　女性が職業を持つことについて考え方［全体、年齢別］

（%）

		標本数	ずっと職業を持っている方がよい	結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい	子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい	子どもができたら職業を持たず、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい	職業を持たない方がよい	その他	わからない	無回答
全体		1,011	619	8	5	183	5	76	62	53
		100.0	61.2	0.8	0.5	18.1	0.5	7.5	6.1	5.2
年齢別	男性:18～29歳	37	48.6	－	－	13.5	－	21.6	16.2	－
	男性:30～39歳	49	59.2	2.0	－	6.1	－	20.4	6.1	6.1
	男性:40～49歳	73	52.1	－	1.4	17.8	－	17.8	6.8	4.1
	男性:50～59歳	62	58.1	－	－	14.5	－	8.1	4.8	14.5
	男性:60～69歳	83	56.6	－	－	14.5	1.2	3.6	12.0	12.0
	男性:70歳以上	91	47.3	3.3	－	30.8	1.1	4.4	5.5	7.7
	女性:18～29歳	47	66.0	－	－	23.4	2.1	－	8.5	－
	女性:30～39歳	88	61.4	－	－	15.9	1.1	10.2	6.8	4.5
	女性:40～49歳	83	67.5	－	1.2	13.3	1.2	9.6	7.2	－
	女性:50～59歳	106	67.9	1.9	－	19.8	－	5.7	1.9	2.8
	女性:60～69歳	121	72.7	－	0.8	19.0	－	2.5	1.7	3.3
	女性:70歳以上	92	67.4	－	1.1	22.8	－	1.1	4.3	3.3
	どちらでもない・回答しない	27	48.1	3.7	3.7	18.5	－	11.1	11.1	3.7
	無回答	52	61.5	1.9	－	13.5	－	5.8	5.8	11.5

年齢別にみると、女性はいずれの年代も就労継続は６割を超え、特に 60 代で 72.7％と高い。男性は 30 代で 59.2％、50 代で 58.1％と約６割と高い。子育て期に就労を中断する働き方は男女の 70 歳以上と女性の 18～29 歳で２割台から約３割と他の年代に比べて高い。

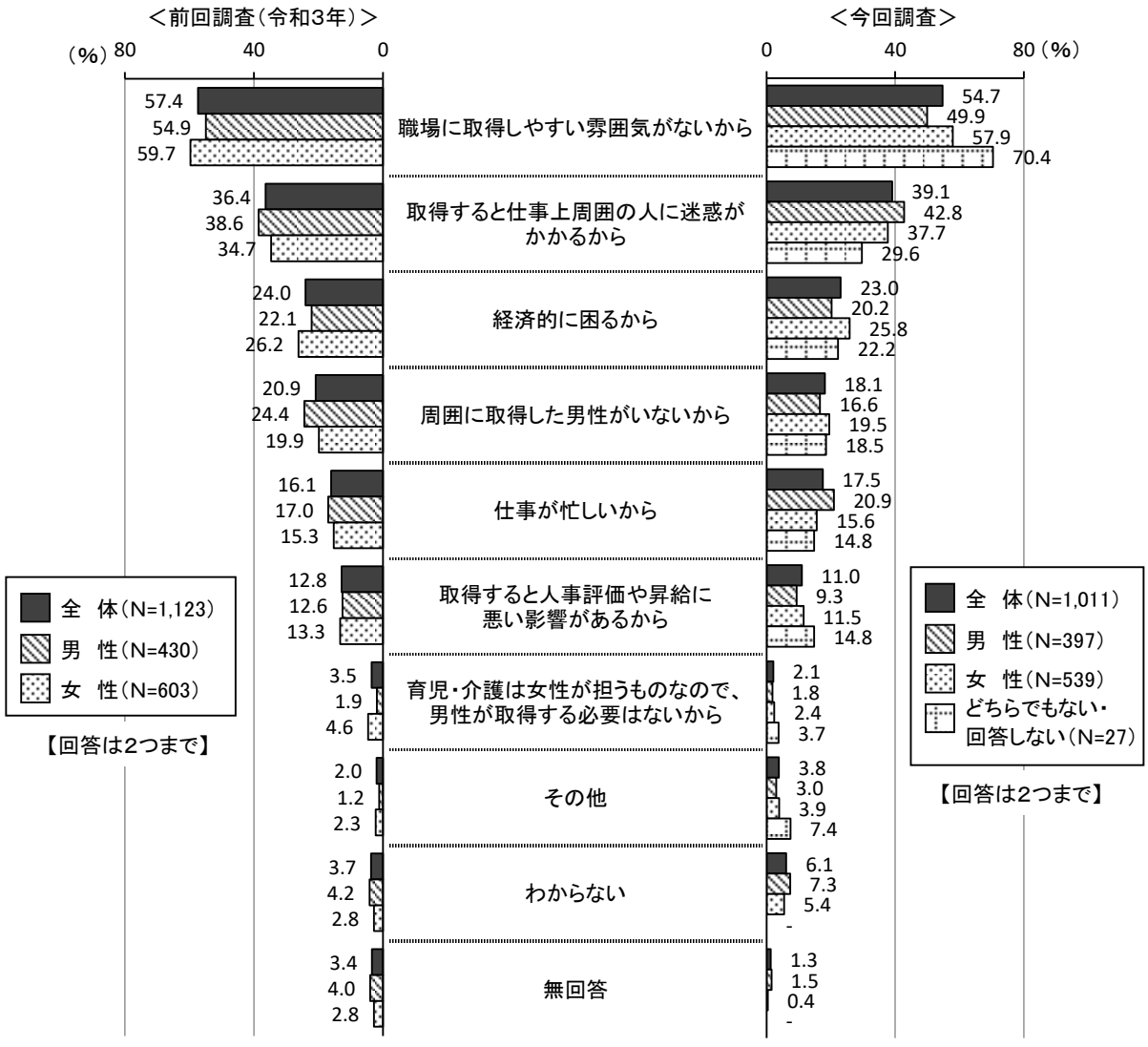
４．男性が育児休業などを取得しない（できない）理由

問１２　あなたは男性の約６割が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思いますか。（○は２つまで）

※厚生労働省：令和6年度雇用均等基本調査(全国)によると、女性の育児休業取得率は 86.6%であるのに対し、男性の育児休業取得率は 40.5%となっています。

●男性が育児休業を取得しない（できない）理由は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が５割台半ばで最も高い。

図表４－７　男性が育児休業などを取得しない（できない）理由［全体、性別］（前回調査比較）



男性の約６割が育児休業などを取得しない（できない）理由をたずねたところ、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が 54.7%と最も高く、次いで「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が 39.1%、「経済的に困るから」が 23.0%、「周囲に取得した男性がいないから」が 18.1%などとなっている。

性別にみると、男性は「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」（同 42.8%、37.7%）、「仕事が忙しいから」（同 20.9%、15.6%）などが 5.1～5.3 ポイント女性よりも高く、女性は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」（同 49.9%、57.9%）や「経済的に困るから」（同 20.2%、25.8%）などが 5.6～8.0 ポイント男性よりも高い。

前回調査と比べると、男性は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」や「周囲に取得した男性がいないから」は 5.0～7.8 ポイント減っているが、「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」や「仕事が忙しいから」が 3.9～4.2 ポイント増えている。

図表４－８　男性が育児休業などを取得しない（できない）理由［全体、年齢別、就業形態別］

(%)

		標本数	周囲に取得した男性がいないから	職場に取得しやすい雰囲気がないから	仕事が忙しいから	取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから	取得すると人事評価や昇給に悪い影響があるから	経済的に困るから	育児・介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから	その他	わからない	無回答
全体		1,011	183	553	177	395	111	233	21	38	62	13
		100.0	18.1	54.7	17.5	39.1	11.0	23.0	2.1	3.8	6.1	1.3
年齢別	男性:18～29歳	37	18.9	54.1	18.9	27.0	13.5	29.7	－	8.1	8.1	－
	男性:30～39歳	49	22.4	55.1	34.7	28.6	12.2	18.4	－	6.1	2.0	－
	男性:40～49歳	73	9.6	52.1	24.7	43.8	12.3	23.3	2.7	4.1	2.7	－
	男性:50～59歳	62	16.1	37.1	35.5	40.3	14.5	19.4	1.6	3.2	8.1	1.6
	男性:60～69歳	83	21.7	47.0	12.0	50.6	4.8	18.1	1.2	1.2	8.4	1.2
	男性:70歳以上	91	13.2	53.8	9.9	50.5	4.4	17.6	3.3	－	12.1	4.4
	女性:18～29歳	47	29.8	53.2	10.6	36.2	10.6	23.4	4.3	8.5	4.3	－
	女性:30～39歳	88	26.1	55.7	12.5	33.0	12.5	37.5	1.1	9.1	1.1	－
	女性:40～49歳	83	18.1	57.8	16.9	34.9	14.5	34.9	1.2	3.6	－	－
	女性:50～59歳	106	19.8	61.3	21.7	37.7	8.5	17.9	2.8	1.9	5.7	－
	女性:60～69歳	121	15.7	62.8	18.2	34.7	13.2	28.9	2.5	－	6.6	－
	女性:70歳以上	92	14.1	52.2	9.8	48.9	9.8	13.0	3.3	4.3	12.0	2.2
	どちらでもない・回答しない	27	18.5	70.4	14.8	29.6	14.8	22.2	3.7	7.4	－	－
	無回答	52	15.4	51.9	11.5	30.8	15.4	15.4	－	5.8	9.6	9.6
就業形態別	男性:役員・管理職	74	16.2	44.6	39.2	48.6	8.1	17.6	－	1.4	2.7	－
	男性:正社員・正職員	114	16.7	47.4	29.8	42.1	10.5	25.4	1.8	5.3	1.8	－
	男性:派遣・契約社員	19	31.6	63.2	10.5	31.6	5.3	31.6	5.3	－	5.3	－
	男性:パート・アルバイト	37	18.9	54.1	5.4	40.5	8.1	24.3	－	2.7	8.1	2.7
	女性:役員・管理職	53	15.1	50.9	22.6	43.4	15.1	24.5	3.8	1.9	5.7	－
	女性:正社員・正職員	122	20.5	62.3	11.5	39.3	9.8	34.4	2.5	4.1	－	－
	女性:派遣・契約社員	24	29.2	58.3	4.2	20.8	16.7	29.2	4.2	4.2	8.3	－
	女性:パート・アルバイト	114	25.4	58.8	18.4	35.1	10.5	21.9	2.6	1.8	3.5	－
	どちらでもない・回答しない	27	18.5	70.4	14.8	29.6	14.8	22.2	3.7	7.4	－	－
	無回答	427	15.2	54.1	13.6	38.9	11.5	19.4	1.9	4.4	10.5	2.8

年齢別にみると、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」は女性の 50 代と 60 代で６割台と高い。「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」は男性では 18～29 歳、30 代では約３割であるが、その後は年齢が高くなるにつれ割合が高くなる傾向にあり、60 代以上では約５割となっている。男性の 18～29 歳では「経済的に困るから」（29.7％）、30 代では「周囲に取得した男性がいないから」（22.4％）と「仕事が忙しいから」（34.7％）は男性の 50 代でも 35.5％と男性の中では他の年代に比べて高くなっている。

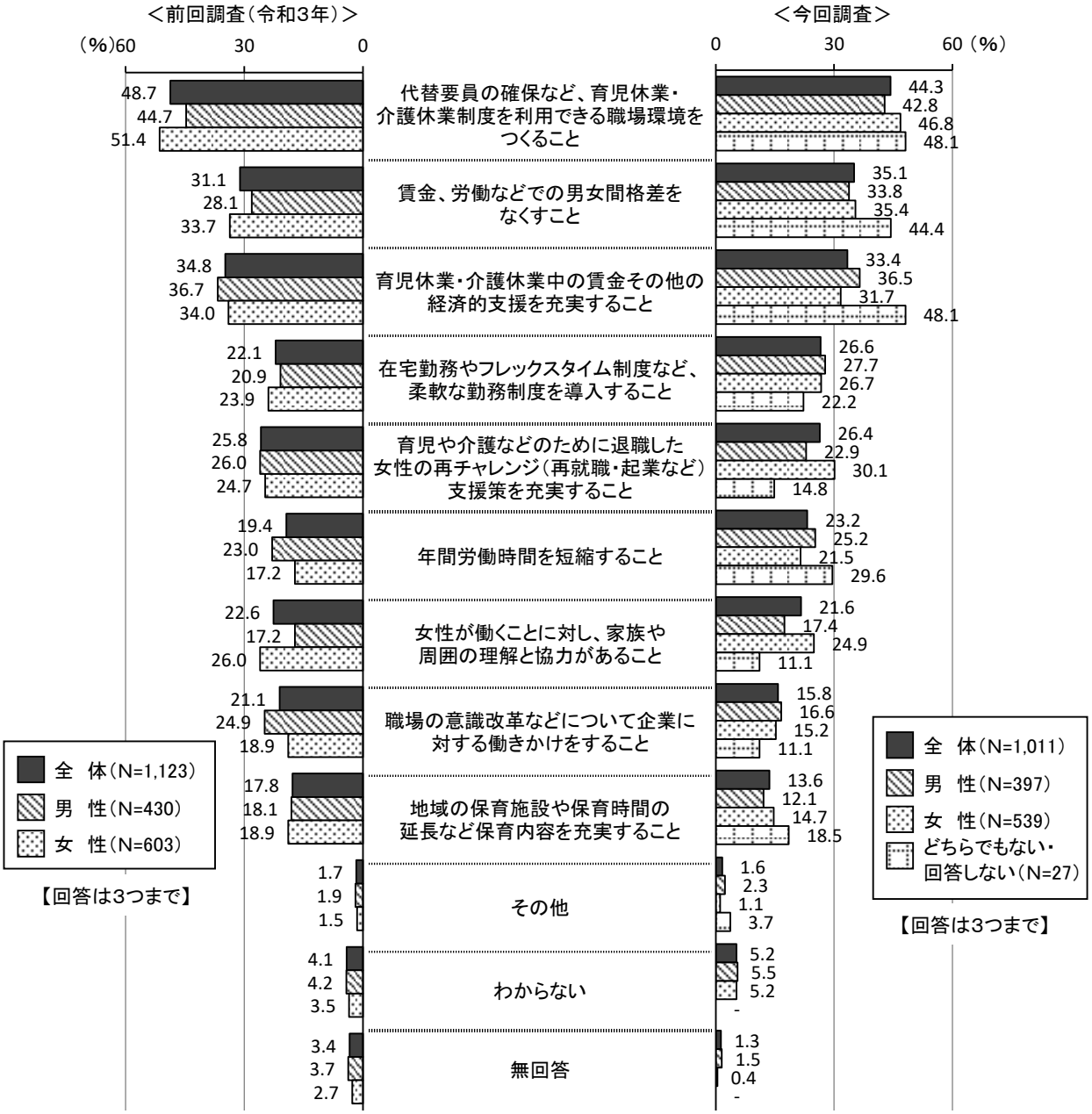
就業形態別でみると、男性の役員・管理職で「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が 48.6％と最も高く、「仕事が忙しいから」も 39.2％とその他の就労形態に比べて高くなっている。その他の就業形態では男女とも「職場に取得しやすい雰囲気がないから」の理由を第１位にあげている。また、男性の派遣・契約社員と女性の正社員・正職員では「経済的に困るから」が３割台と他の就業形態に比べ割合が高くなっている。

５．男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件

問１３　男女が共に仕事と家庭や地域活動を両立できるワーク・ライフ・バランスを実現していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。（○は３つまで）

●男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件は「代替要員の確保など育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が４割台半ばで第１位。

図表４－９　男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件［全体、性別］
（前回調査比較）



男女が共に仕事と家庭や地域活動を両立できるワーク・ライフ・バランスを実現していくために必要な条件は「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が 44.3%と最も高く、次いで「賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと」が 35.1%、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」が 33.4%となっている。

性別にみると、男性は「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」（男性 36.5%、女性 31.7%）や「年間労働時間を短縮すること」（同 25.2%、21.5%）などが女性よりも 3.7～4.8 ポイント高く、女性は「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」（同 42.8%46.8%）や「育児や介護などのために退職した女性の再チャレンジ（再就職・起業など）支援策を充実すること」（同 22.9%30.2%）、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」（同 17.4%、24.9%）などが 4.0～7.5 ポイント男性よりも高い。

前回調査と比べると、男性は「賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと」や「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」が 5.7～6.8 ポイント増え、女性は「育児や介護等のために退職した女性の再チャレンジ（再就職・起業等）支援策を充実すること」や「年間労働時間を短縮すること」が 4.3～5.4 ポイント増えている。

図表４ - 10　男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件
［全体、年齢別、就業形態別］

（%）

		標本数	賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと	年間労働時間を短縮すること	代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること	育児や介護などのために退職した女性の再チャレンジ（再就職・起業など）支援策を充実すること	育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること	地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること	在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること	女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	職場の意識改革などについて企業に対する働きかけをすること	その他	わからない	無回答
全体		1,011	355	235	448	267	338	138	269	218	160	16	53	13
		100.0	35.1	23.2	44.3	26.4	33.4	13.6	26.6	21.6	15.8	1.6	5.2	1.3
年齢別	男性:18～29歳	37	32.4	24.3	37.8	18.9	32.4	18.9	43.2	8.1	13.5	2.7	8.1	－
	男性:30～39歳	49	26.5	40.8	44.9	18.4	44.9	4.1	32.7	16.3	14.3	2.0	2.0	－
	男性:40～49歳	73	26.0	37.0	39.7	23.3	37.0	13.7	37.0	5.5	15.1	4.1	4.1	－
	男性:50～59歳	62	27.4	30.6	43.5	19.4	32.3	11.3	22.6	19.4	21.0	4.8	4.8	1.6
	男性:60～69歳	83	45.8	14.5	44.6	20.5	39.8	10.8	24.1	21.7	13.3	－	7.2	2.4
	男性:70歳以上	91	37.4	13.2	44.0	31.9	33.0	14.3	18.7	25.3	20.9	1.1	6.6	3.3
	女性:18～29歳	47	38.3	31.9	42.6	21.3	40.4	8.5	40.4	17.0	12.8	－	4.3	－
	女性:30～39歳	88	36.4	36.4	44.3	29.5	35.2	14.8	30.7	15.9	10.2	2.3	2.3	－
	女性:40～49歳	83	37.3	25.3	51.8	28.9	27.7	9.6	31.3	18.1	19.3	1.2	3.6	－
	女性:50～59歳	106	36.8	24.5	49.1	26.4	28.3	18.9	23.6	22.6	17.0	1.9	5.7	－
	女性:60～69歳	121	34.7	11.6	50.4	27.3	38.0	18.2	24.0	33.1	17.4	0.8	4.1	－
	女性:70歳以上	92	31.5	8.7	40.2	43.5	23.9	13.0	18.5	34.8	13.0	－	10.9	2.2
	どちらでもない・回答しない	27	44.4	29.6	48.1	14.8	48.1	18.5	22.2	11.1	11.1	3.7	－	－
	無回答	52	36.5	23.1	26.9	21.2	19.2	11.5	19.2	26.9	17.3	－	5.8	9.6
就業形態別	男性:役員・管理職	74	28.4	40.5	44.6	17.6	40.5	8.1	40.5	12.2	10.8	1.4	4.1	－
	男性:正社員・正職員	114	33.3	29.8	45.6	23.7	40.4	12.3	28.9	14.0	14.9	1.8	1.8	0.9
	男性:派遣・契約社員	19	42.1	5.3	42.1	26.3	52.6	21.1	10.5	47.4	10.5	－	5.3	－
	男性:パート・アルバイト	37	32.4	29.7	48.6	27.0	35.1	10.8	18.9	21.6	13.5	－	8.1	－
	女性:役員・管理職	53	37.7	24.5	43.4	18.9	22.6	3.8	30.2	24.5	28.3	3.8	3.8	－
	女性:正社員・正職員	122	35.2	27.0	52.5	25.4	42.6	13.9	35.2	16.4	9.8	0.8	1.6	－
	女性:派遣・契約社員	24	29.2	25.0	58.3	25.0	37.5	20.8	33.3	16.7	16.7	－	4.2	－
	女性:パート・アルバイト	114	30.7	21.9	48.2	30.7	29.8	18.4	21.9	27.2	11.4	0.9	7.9	－
	どちらでもない・回答しない	27	44.4	29.6	48.1	14.8	48.1	18.5	22.2	11.1	11.1	3.7	－	－
	無回答	427	37.2	17.3	39.3	29.5	27.9	14.1	23.2	24.6	19.0	1.9	7.0	2.8

年齢別にみると、「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること」は男性の30代と女性の18～29歳で４割台と高い。その他、男女の18～29歳では「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」（40.4%）、男性の30代で「年間労働時間を短縮すること」（40.8%）が約４割と他の年代に比べて高い。

就業形態別にみると、男性の役員・管理職では「年間労働時間を短縮すること」や「在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること」（同率40.5%）が他の就業形態に比べ割合が高い。

第5章　人権に関することについて

１．ドメスティック・バイオレンスについて

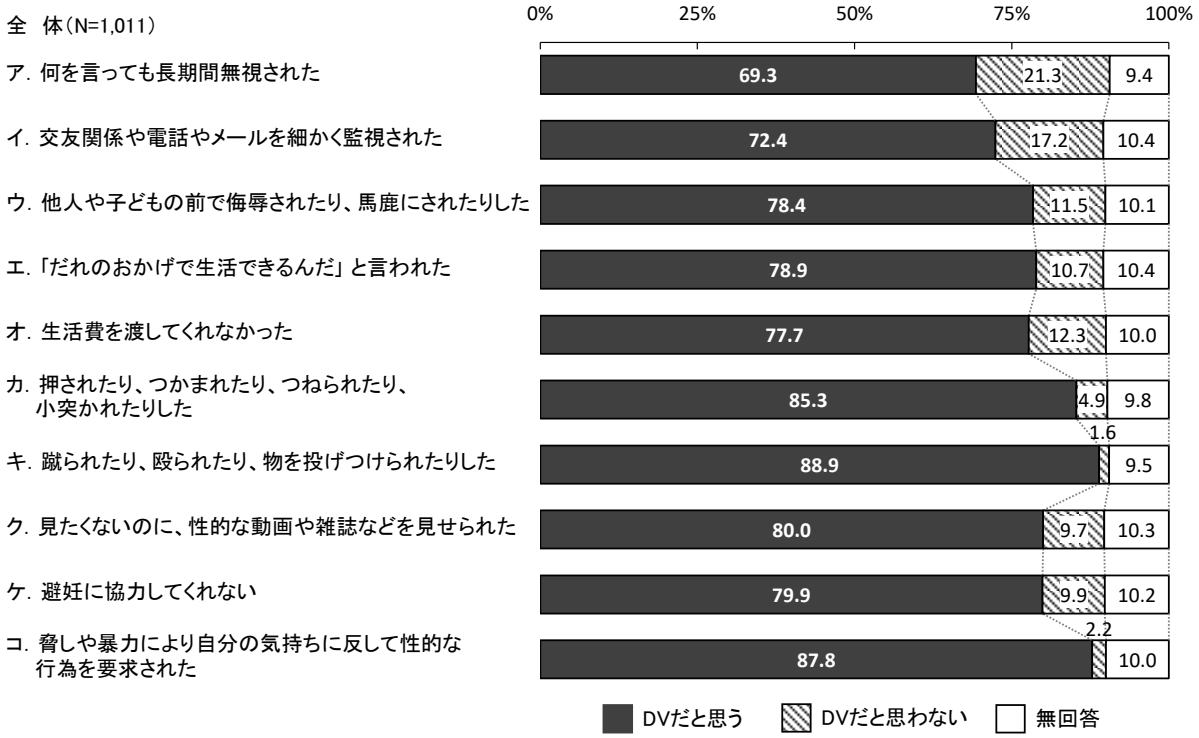
（１）ドメスティック・バイオレンスだと思うもの

問１４　配偶者、パートナー、交際相手など親密な関係にある（あった）人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）についておたずねします。

(A) あなたは、ア～コのような行為がドメスティック・バイオレンス（DV)にあたると思いますか。１、２のいずれかに○をつけてください。(○はそれぞれ１つずつ)

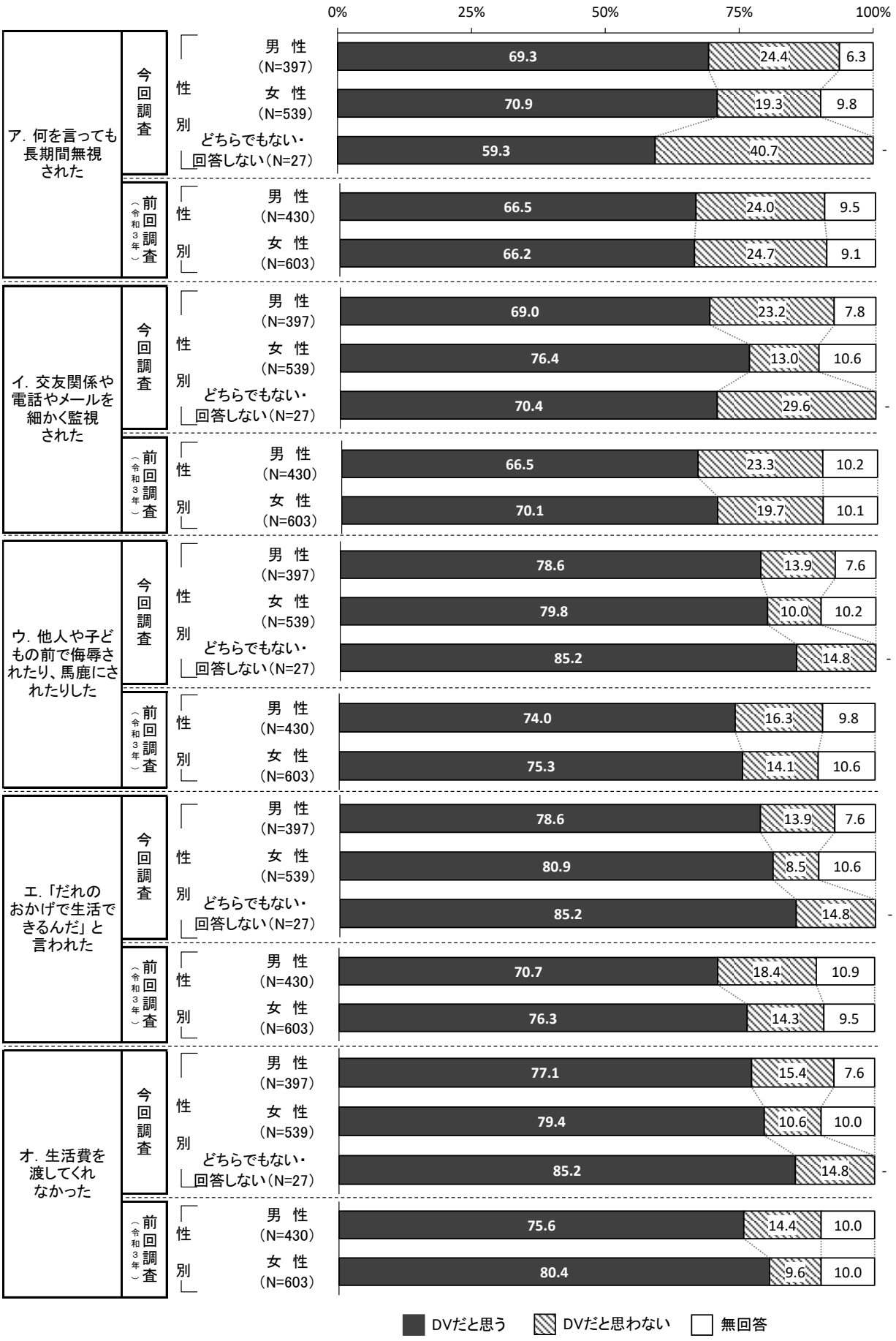
●ＤＶであるとの認識は精神的暴力は身体的暴力や性暴力に比べて暴力であるとの認識が低い。
●前回調査よりもＤＶであるとの認識の割合は特に男性で高くなっている。

図表５－１　ドメスティック・バイオレンスだと思うもの［全体］

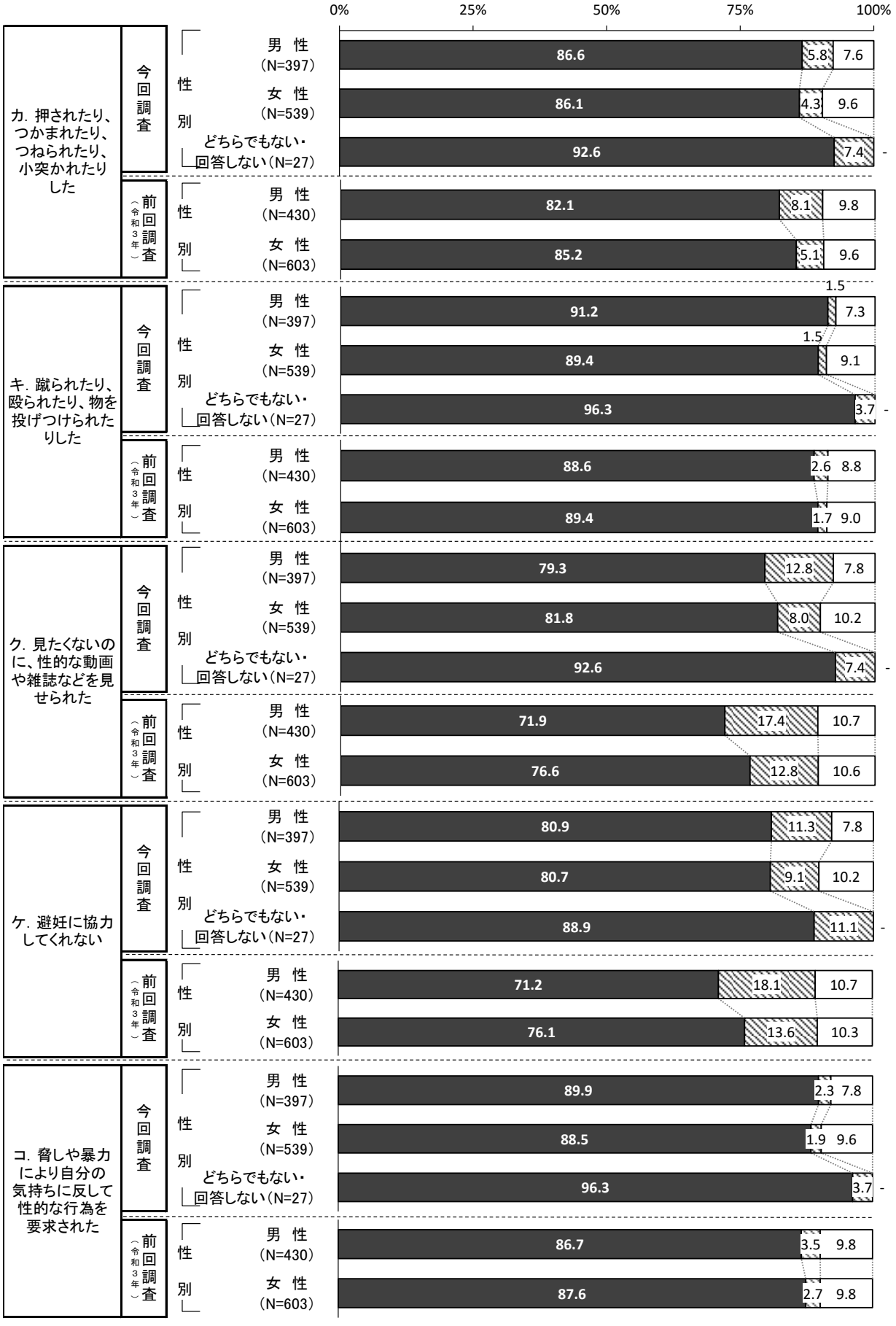


ドメスティック・バイオレンス（以下、ＤＶという）である 10 項目をあげ、ＤＶだと思うかどうかをたずねた。「ア．何を言っても長期間無視された」と「イ．交友関係や電話やメールを細かく監視された」などの精神的暴力は「ＤＶだと思う」が約７割と低く、「ＤＶだと思わない」が約２割ある。その他「ウ．他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」「エ．「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた」などの精神的暴力、「オ．生活費を渡してくれなかった」の経済的暴力、「ケ．見たくないのに、性的な動画や雑誌などを見せられた」「コ．避妊に協力してくれない」などの性的暴力はＤＶであるとの認識は約８割である。「カ．押されたり、つかまれたり、つねられたり、小突かれたりした」「キ．蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした」「コ．脅しや暴力により自分の気持ちに反して性的な行為を要求された」などの身体的暴力は８割台半ばから約９割が暴力であると認識しているが、「ＤＶとは思わない」との回答も低いながらもある。

図表５－２（１）　ドメスティック・バイオレンスだと思うもの［性別］（前回調査比較）



図表５－２（２）　ドメスティック・バイオレンスだと思うもの［性別］（前回調査比較）



性別にみると、「ア．何を言っても長期間無視された」「ウ．他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」「カ．押されたり、つかまれたり、つねられたり、小突かれたりした」「コ．避妊に協力してくれない」「コ．脅しや暴力により自分の気持ちに反して性的な行為を要求された」などはＤＶであるとの認識は性別での差はあまりみられない。「キ．蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした」は男性、「イ．交友関係や電話やメールを細かく監視された」「エ．「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた」「オ．生活費を渡してくれなかった」「ケ．見たくないのに、性的な動画や雑誌などを見せられた」などは女性の方がＤＶであるとの認識が高い。

前回調査と比べると、男性はすべての項目で前回調査よりＤＶであるとの認識が高くなっており、特に「エ．「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた」「ク．見たくないのに、性的な動画や雑誌などを見せられた」「ケ．避妊に協力してくれない」などは 7.4～9.7 ポイント高くなっている。

女性もほとんどの項目でＤＶであるとの認識は高くなっているが、「オ．生活費を渡してくれなかった」「カ．押されたり、つかまれたり、つねられたり、小突かれたりした」「キ．蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした」「コ．脅しや暴力により自分の気持ちに反して性的な行為を要求された」などは前回調査とあまり変わらない。

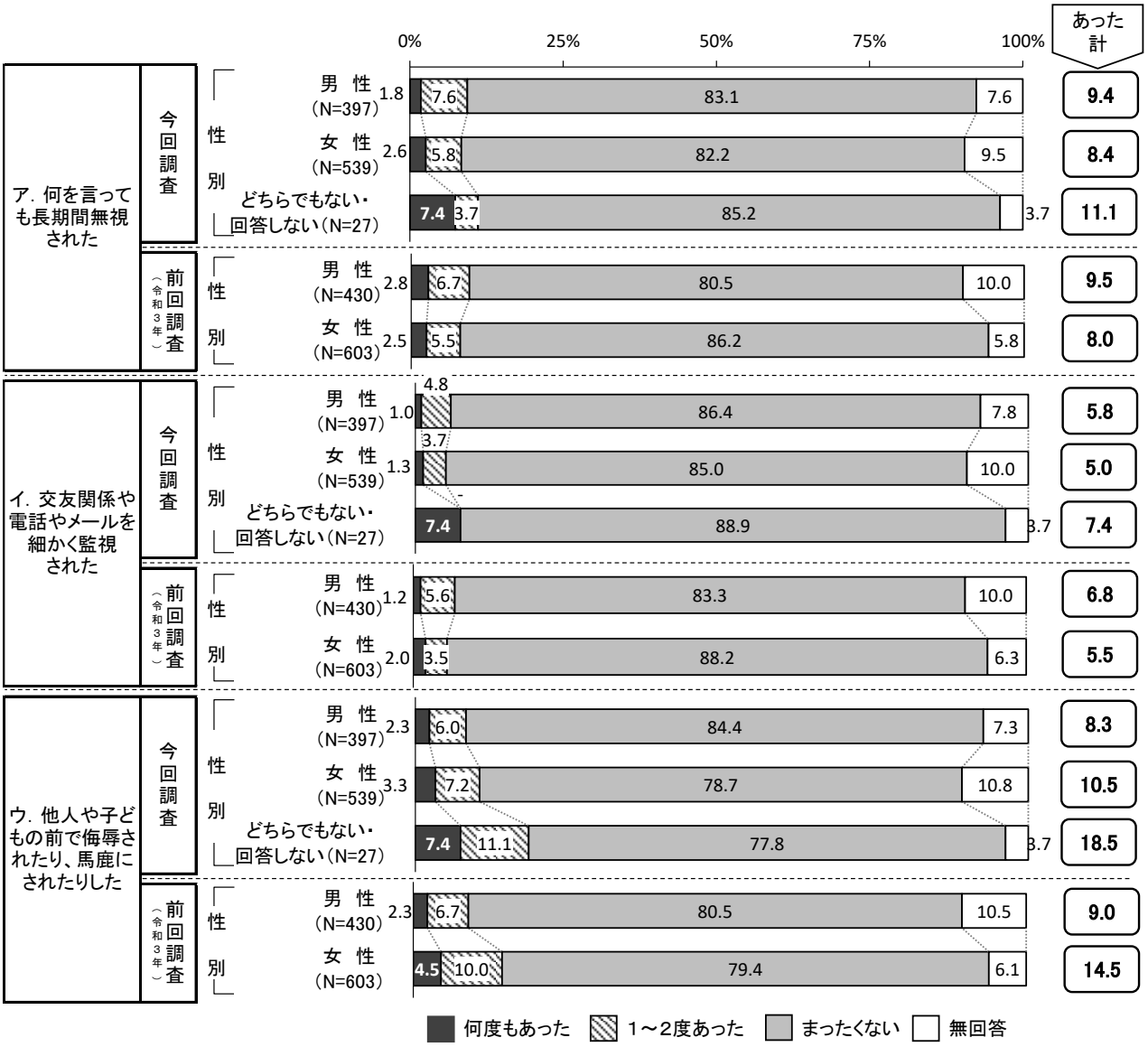
（２）ドメスティック・バイオレンスの経験

問１４　配偶者、パートナー、交際相手など親密な関係にある（あった）人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）についておたずねします。

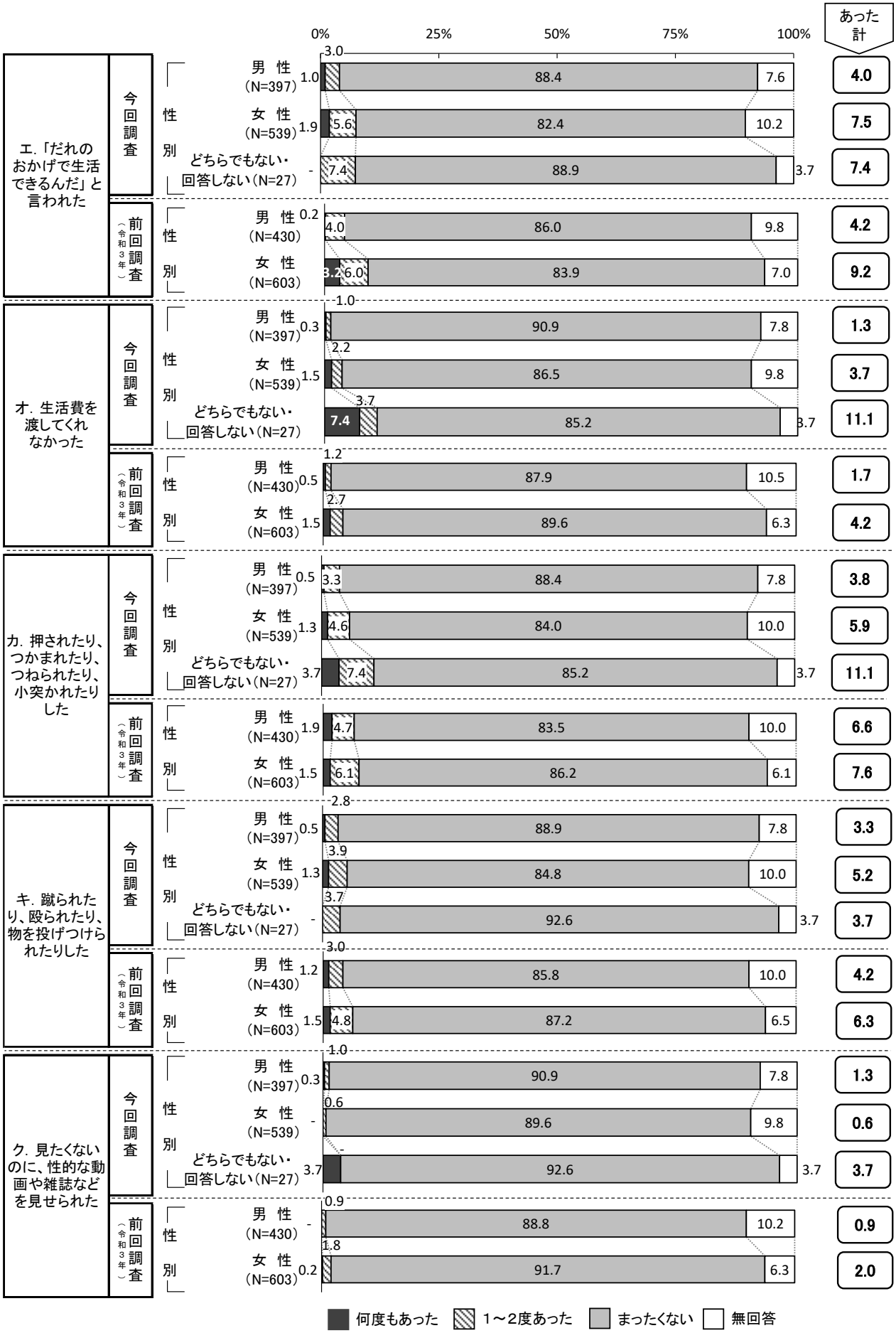
(B)過去３年間においてあなたは配偶者、パートナー、交際相手などから、ア～コのような行為を受けたことがありますか。１～３のいずれかに○をつけてください。
(○はそれぞれ１つずつ)

●ＤＶの被害経験は男性 18.6%、女性 22.4%。「何を言っても長期間無視された」「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」などの精神的暴力が多い。
●前回調査に比べ、ＤＶ被害の経験者は男女ともやや減少。

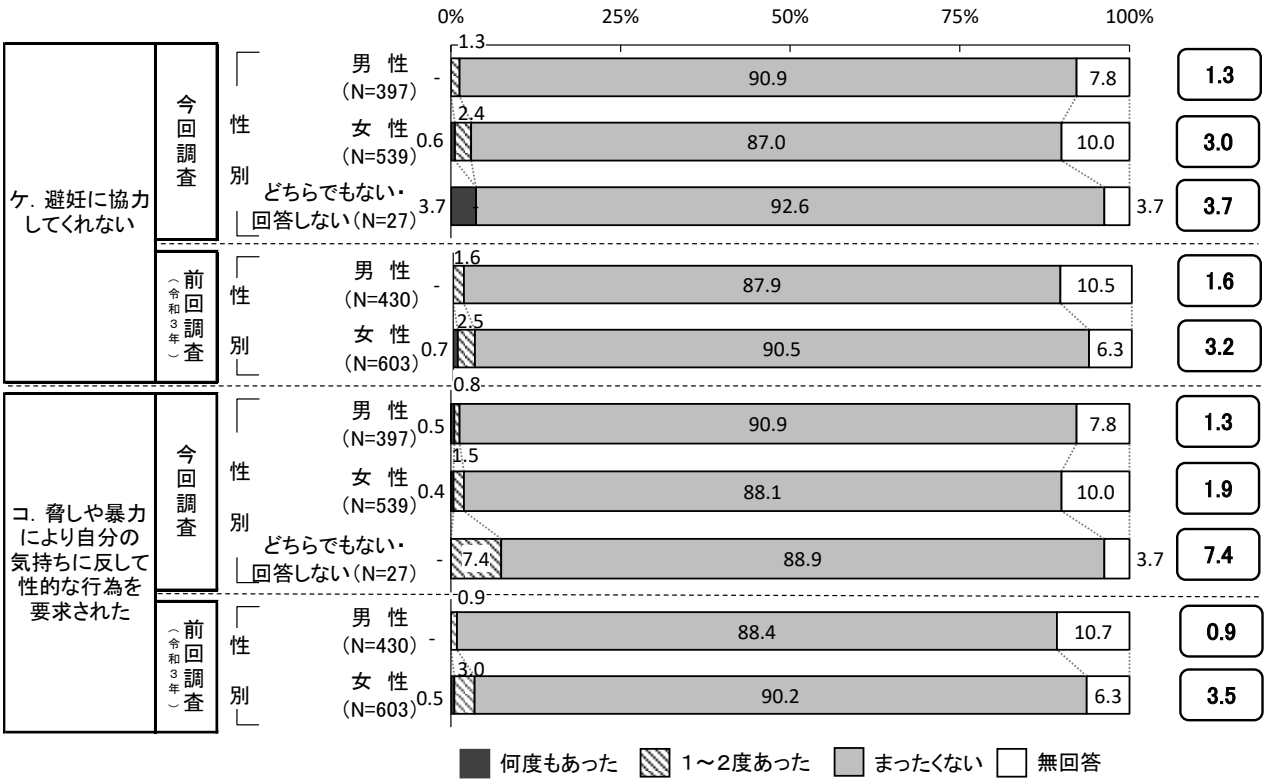
図表５－３（１）　ドメスティック・バイオレンスの経験［性別］（前回調査比較）



図表５－３（２）　ドメスティック・バイオレンスの経験［性別］（前回調査比較）



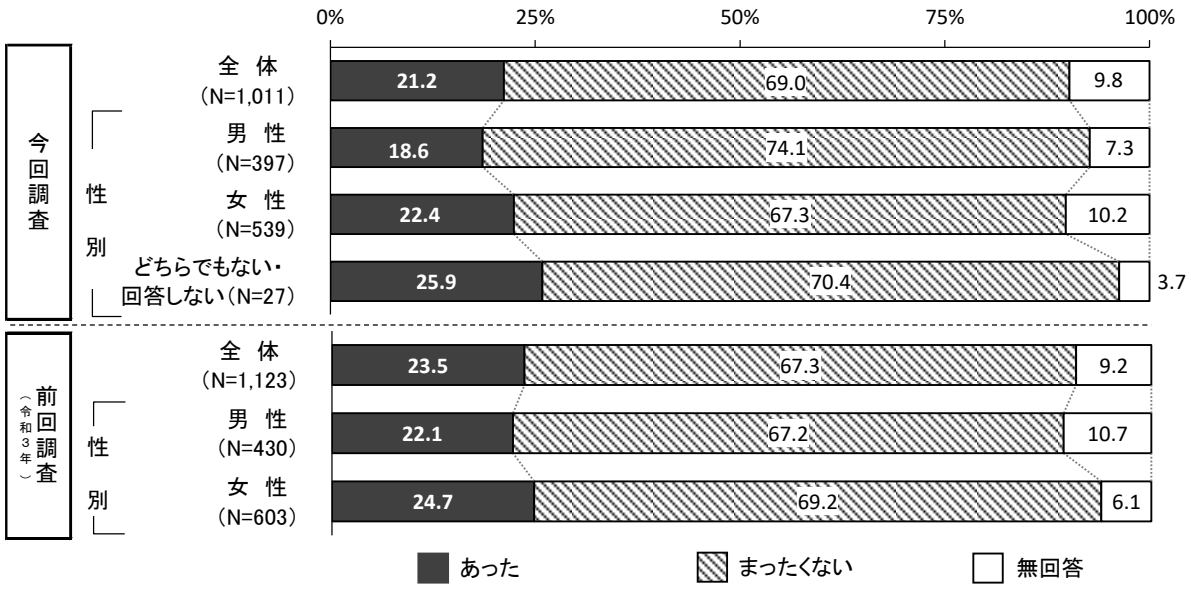
図表５－３（３）　ドメスティック・バイオレンスの経験［性別］（前回調査比較）



ＤＶの経験について「何度もあった」と「１～２度あった」をあわせた人はいずれの暴力でも該当者はいる。男性は「ア．何を言っても長期間無視された」（男性 9.4%、女性 8.4%）、「イ．交友関係や電話やメールを細かく監視された」（同 5.8%、5.0%）「ク．見たくないのに、性的な動画や雑誌などを見せられた」（同 1.3%、0.6%）などが女性よりも多い。その他の項目は女性の被害が多く、特に「ウ．他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」（同 8.3%、10.5%）は約１割となっている。

前回調査と比べると、男女ともすべての項目で被害経験は少なくなっている。

図表５－４　ドメスティック・バイオレンスの経験（まとめ）［全体、性別］（前回調査比較）



すべての項目の暴力に一つでも「何度もあった」と「１～２度あった」と回答した人は 21.2%、「まったくない」は 69.0%である。男性のＤＶ被害経験が「あった」は 18.6%、女性は 22.4%となっている。

前回調査と比べると男女とも被害の経験はやや減少している。

図表５－５　ドメスティック・バイオレンスの経験（まとめ）［全体、年齢別、配偶関係別］

（%）

		標本数	あった	まったくない	無回答
全体		1,011 100.0	214 21.2	698 69.0	99 9.8
年齢別	男性:18～29歳	37	10.8	89.2	0.0
	男性:30～39歳	49	20.4	73.5	6.1
	男性:40～49歳	73	28.8	65.8	5.5
	男性:50～59歳	62	9.7	83.9	6.5
	男性:60～69歳	83	19.3	75.9	4.8
	男性:70歳以上	91	17.6	67.0	15.4
	女性:18～29歳	47	23.4	72.3	4.3
	女性:30～39歳	88	20.5	68.2	11.4
	女性:40～49歳	83	28.9	66.3	4.8
	女性:50～59歳	106	15.1	82.1	2.8
	女性:60～69歳	121	28.1	64.5	7.4
	女性:70歳以上	92	19.6	51.1	29.3
	どちらでもない・回答しない	27	25.9	70.4	3.7
	無回答	52	25.0	48.1	26.9
配偶関係別	男性:未婚	100	11.0	79.0	10.0
	男性:配偶者がいる(共働きである)	140	21.4	74.3	4.3
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	125	22.4	72.0	5.6
	男性:配偶者とは死・離別した	27	14.8	74.1	11.1
	女性:未婚	110	14.5	67.3	18.2
	女性:配偶者がいる(共働きである)	204	26.5	70.6	2.9
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	138	27.5	65.9	6.5
	女性:配偶者とは死・離別した	83	15.7	61.4	22.9
	どちらでもない・回答しない	27	25.9	70.4	3.7
	無回答	57	22.8	45.6	31.6

年齢別でみると、男女の 40 代と女性の 60 代で「あった」が約３割と高い。また、男女の 30 代と女性の 18～29 歳で２割台、男性の 60 代と女性の 70 歳以上で約２割ある。

配偶関係別でみると、男女とも未婚で約１割から１割台半ばの人がＤＶの被害経験がある。また、男女とも配偶者がいる場合に被害経験が２割を超えている。

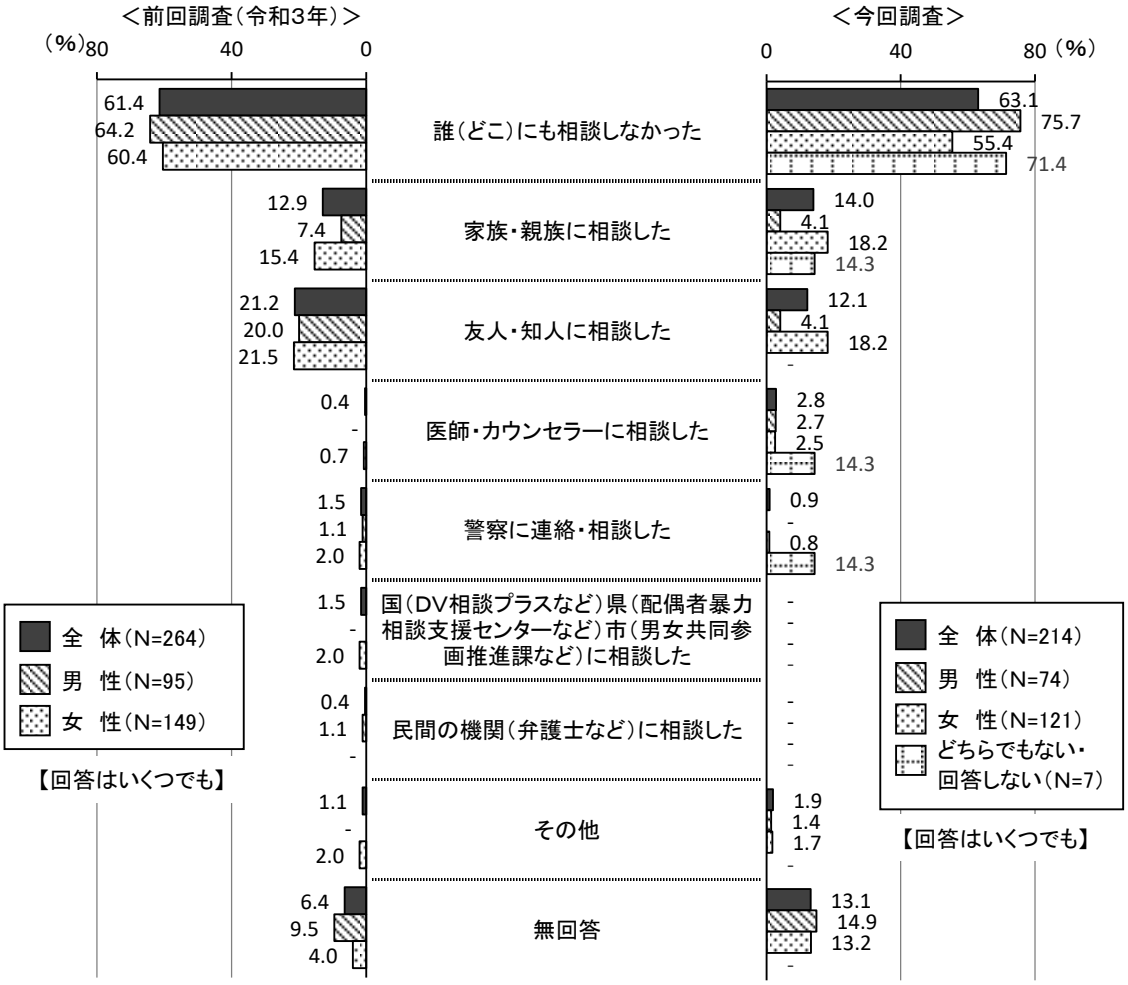
（３）ドメスティック・バイオレンス被害の相談先

【問１４（Ｂ）で１つでも「１．何度もあった」「２．１～２度あった」を選んだ方に】

問１４－１　あなたがドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）の被害にあったとき、誰(どこ)かに相談しましたか。（○はいくつでも）

●ＤＶの被害にあったときの相談先について「誰（どこ）にも相談しなかった」が男性は７割台半ば、女性５割台半ば。男性は前回調査より 11.5 ポイント増加。
●主な相談先は「友人・知人に相談した」、「家族・親族に相談した」。

図表５－６　ドメスティック・バイオレンス被害の相談先［全体、性別］（前回調査比較）



すべての項目の暴力に一つでも「何度もあった」と「１～２度あった」と回答した人に、被害にあったとき、誰（どこ）かに相談したかをたずねたところ、「誰（どこ）にも相談しなかった」が 63.1%で最も高かった。相談した人の中では「家族・親族に相談した」（14.0%）、「友人・知人に相談した」（12.1%）が主な相談先となっている。公的な相談機関、民間の機関への相談は該当がなかった。

性別にみると、男性は「誰（どこ）にも相談しなかった」（男性 75.7%、女性 55.4%）が女性よりも 20.3 ポイント高い。女性は「家族・親族に相談した」（同 4.1%、18.2%）や「友人・知人に相談した」（同 4.1%、18.2%）が男性よりも 14.1 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は「友人・知人に相談した」が 15.9 ポイント減り、「誰（どこ）にも相談しなかった」が 11.5 ポイント増えている。

図表５－７　ドメスティック・バイオレンス被害の相談先［全体、年齢別］

（%）

		標本数	誰（どこ）にも相談しなかった	警察に連絡・相談した	国（DV相談プラスなど）県（配偶者暴力相談支援センターなど）市（男女共同参画推進課など）に相談した	民間の機関（弁護士など）に相談した	医師・カウンセラーに相談した	家族・親族に相談した	友人・知人に相談した	その他	無回答
全体		214 100.0	135 63.1	2 0.9	－ －	－ －	6 2.8	30 14.0	26 12.1	4 1.9	28 13.1
年齢別	男性:18～29歳	4	75.0	－	－	－	25.0	25.0	25.0	－	－
	男性:30～39歳	10	70.0	－	－	－	－	10.0	10.0	10.0	－
	男性:40～49歳	21	90.5	－	－	－	－	－	－	－	9.5
	男性:50～59歳	6	83.3	－	－	－	－	－	－	－	16.7
	男性:60～69歳	16	50.0	－	－	－	6.3	－	6.3	－	37.5
	男性:70歳以上	16	81.3	－	－	－	－	6.3	－	－	12.5
	女性:18～29歳	11	45.5	－	－	－	－	18.2	36.4	－	9.1
	女性:30～39歳	18	50.0	5.6	－	－	16.7	22.2	22.2	5.6	11.1
	女性:40～49歳	24	66.7	－	－	－	－	20.8	16.7	4.2	4.2
	女性:50～59歳	16	62.5	－	－	－	－	18.8	12.5	－	6.3
	女性:60～69歳	34	50.0	－	－	－	－	14.7	20.6	－	20.6
	女性:70歳以上	18	55.6	－	－	－	－	16.7	5.6	－	22.2
	どちらでもない・回答しない	7	71.4	14.3	－	－	14.3	14.3	－	－	－
	無回答	13	61.5	－	－	－	－	30.8	7.7	7.7	7.7

年齢別でみると、男性の 40 代と 50 代は「誰（どこ）にも相談しなかった」が約８割から９割と高く、相談先の該当がない。「友人・知人に相談した」は女性の 18～29 歳で 36.4%と最も高く、男性の 18～29 歳、女性の 30 代と 60 代でも２割台と多い。また、「家族・親族に相談した」も男女の 18～29 歳、女性の 30 代で２割台と多い。「医師・カウンセラーに相談した」は男性の 18～29 歳と 60 代、女性の 30 代、性別がどちらでもない・回答しない人でみられる。

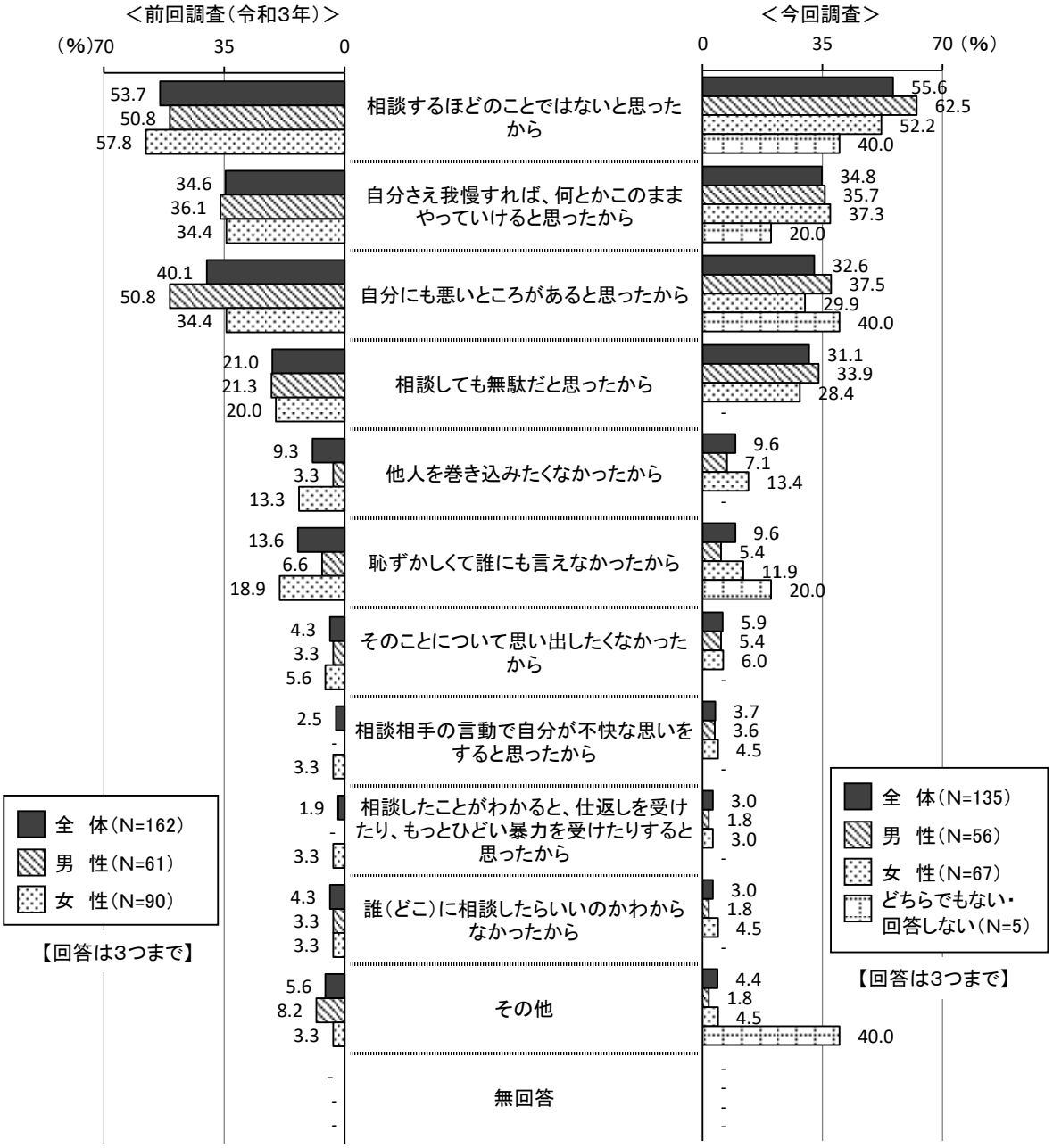
（４）ドメスティック・バイオレンス被害について相談をしなかった理由

【問１４－１で「１．誰（どこ）にも相談しなかった」を選んだ方に】

問１４－２　その理由は何ですか。（○は３つまで）

●ＤＶ被害について相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が上位３位。

図表５－８　ドメスティック・バイオレンス被害について相談をしなかった理由［全体、性別］
（前回調査比較）



ＤＶ被害について「誰（どこ）にも相談しなかった」と回答した人に相談しなかった理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が 55.6%と最も多く、次いで「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が 34.8%、「自分にも悪いところがあると思ったから」が 32.6%、「相談しても無駄だと思ったから」が 31.1%などとなっている。

性別にみると、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」（男性62.5%、女性52.2%）が 10.3 ポイント、「自分にも悪いところがあると思ったから」（37.5%、29.9%）が 7.6 ポイント、「相談しても無駄だと思ったから」（同 33.9%、28.4%）が 5.5 ポイント女性よりも高い。女性は「他人を巻き込みたくなかったから」（同 7.1%、13.4%）「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」（同 5.4%、11.9%）、などが 6.3～6.5 ポイント男性よりも高くなっている。

前回調査と比べると、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が 13.3 ポイント減り、「相談するほどのことではないと思ったから」が 11.7 ポイント、「相談しても無駄だと思ったから」が 12.6 ポイント増えている。

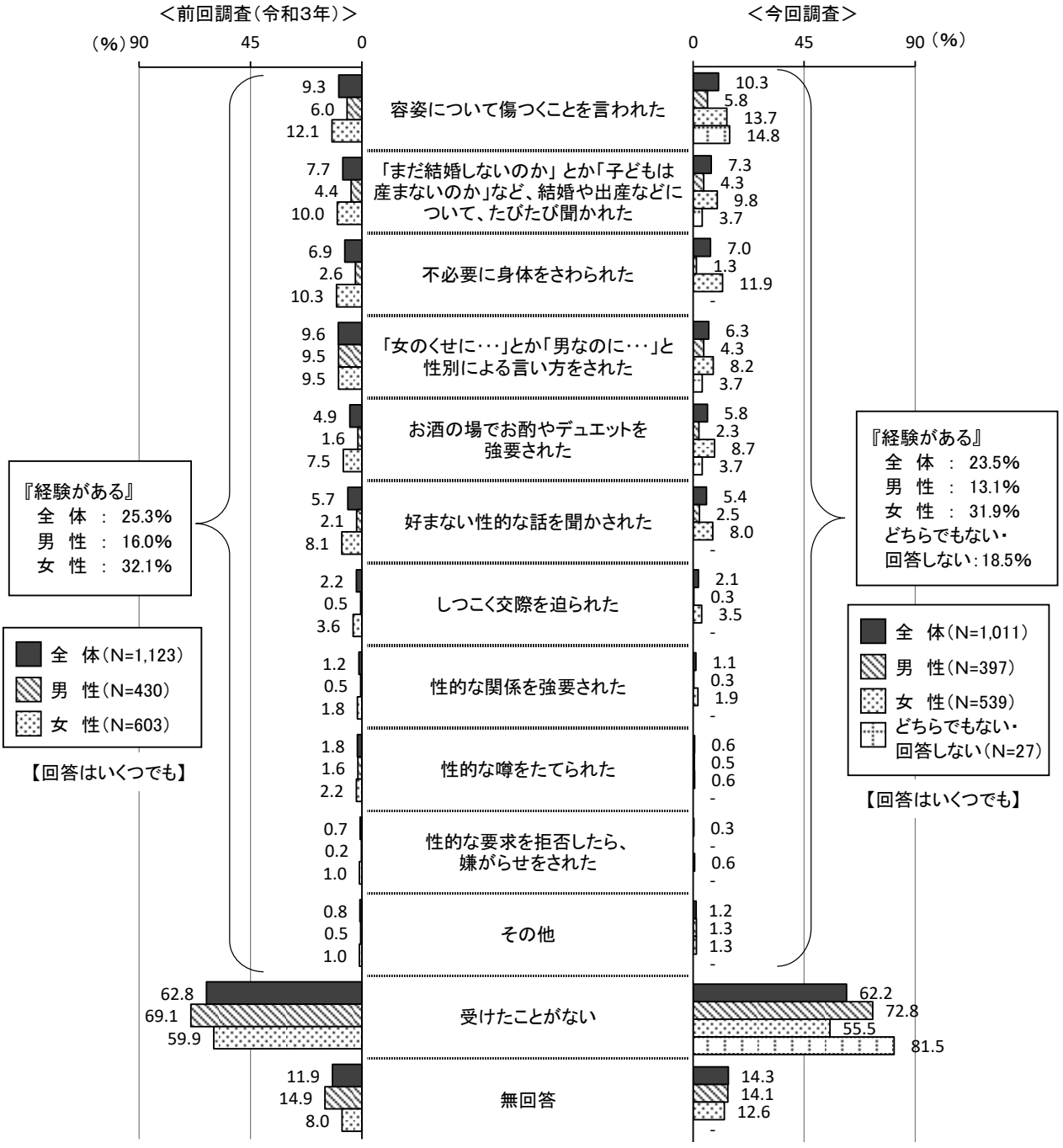
２．セクシュアル・ハラスメントについて

（１）セクシュアル・ハラスメントの経験

問１５　あなたは、職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。受けたことがあるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

●セクシュアル・ハラスメントを受けた経験は男性１割台半ば、女性約３割。
●女性は「容姿について傷つくことを言われた」「不必要に身体にさわられた」「結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」などの被害が約１割と多い。

図表５－９　セクシュアル・ハラスメントの経験［全体、性別］（前回調査比較）



職場、地域、学校などでのセクシュアル・ハラスメント（以下、セクハラという）の経験をたずねたところ、「受けたことがない」が 62.2%でこれと無回答（14.3%）を除いた 23.5%の人がセクハラを受けた経験がある。内容としては「容姿について傷つくことを言われた」が 10.3%、「「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」が 7.3%、「不必要に身体をさわられた」が 7.0%となっている。

性別にみると、セクハラを受けた経験がある人は男性が 13.1%、女性が 31.9%と女性の方が多い。女性は「容姿について傷つくことを言われた」（男性 5.8%、女性 13.7%）、「「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」（同 4.3%、9.8%）、「不必要に身体をさわられた」（同 1.3%、11.9%）、「お酒の場でお酌やデュエットを強要された」（同 2.3%、8.7%）、「好まない性的な話を聞かされた」（同 2.5%、8.0%）などは女性の方が 5.5～10.6 ポイント男性よりも高い。

前回調査と比べると、男女ともあまり大きな変化はみられないが、男性は「「女のくせに･･･」とか「男なのに･･･」と性別による言い方をされた」が 5.2 ポイント減っている。

図表５ - 10　セクシュアル・ハラスメントの経験［全体、年齢別］

(%)

		標本数	好まない性的な話を聞かされた	容姿について傷つくことを言われた	「女のくせに・・・」とか「男なのに・・・」と性別による言い方をされた	お酒の場でお酌やデュエットを強要された	不必要に身体をさわられた	しつこく交際を迫られた	性的な噂をたてられた	「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた	性的な関係を強要された	性的な要求を拒否したら、嫌がらせをされた	その他	受けたことがない	無回答	経験がある
全体		1,011 100.0	55 5.4	104 10.3	64 6.3	59 5.8	71 7.0	21 2.1	6 0.6	74 7.3	11 1.1	3 0.3	12 1.2	629 62.2	145 14.3	**23.5**
年齢別	男性:18～29歳	37	2.7	5.4	－	－	2.7	－	－	2.7	－	－	2.7	91.9	－	**8.1**
	男性:30～39歳	49	4.1	6.1	6.1	2.0	4.1	－	－	10.2	－	－	－	77.6	6.1	**16.3**
	男性:40～49歳	73	5.5	12.3	5.5	2.7	1.4	1.4	1.4	6.8	1.4	－	1.4	76.7	4.1	**19.2**
	男性:50～59歳	62	3.2	1.6	8.1	1.6	1.6	－	－	4.8	－	－	－	66.1	16.1	**17.8**
	男性:60～69歳	83	1.2	6.0	3.6	3.6	－	－	－	3.6	－	－	2.4	73.5	13.3	**13.2**
	男性:70歳以上	91	－	3.3	2.2	2.2	－	－	1.1	－	－	－	1.1	62.6	31.9	**5.5**
	女性:18～29歳	47	12.8	21.3	6.4	2.1	12.8	17.0	－	6.4	－	2.1	2.1	51.1	2.1	**46.8**
	女性:30～39歳	88	11.4	19.3	8.0	6.8	13.6	3.4	－	18.2	2.3	2.3	2.3	53.4	6.8	**39.8**
	女性:40～49歳	83	10.8	14.5	9.6	10.8	18.1	2.4	－	12.0	3.6	－	2.4	53.0	7.2	**39.8**
	女性:50～59歳	106	5.7	14.2	4.7	10.4	9.4	0.9	1.9	10.4	0.9	－	1.9	67.9	3.8	**28.3**
	女性:60～69歳	121	9.1	14.0	10.7	14.9	15.7	3.3	0.8	10.7	2.5	－	－	54.5	11.6	**33.9**
	女性:70歳以上	92	1.1	3.3	8.7	2.2	2.2	1.1	－	－	1.1	－	－	47.8	40.2	**12.0**
	どちらでもない･回答しない	27	－	14.8	3.7	3.7	－	－	－	3.7	－	－	－	81.5	－	**18.5**
	無回答	52	3.8	5.8	3.8	3.8	3.8	1.9	1.9	5.8	－	－	－	44.2	40.4	**15.4**

年齢別にみると、セクハラを受けた経験がある人は女性の 18～29 歳で 46.8%と最も高く、女性の 30 代と 40 代で約４割、50 代と 60 代で約３割となっている。内容は 18～29 歳と 30 代で「容姿について傷つくことを言われた」が約２割、30 代では「「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」（18.2%）、40 代では「不必要に身体をさわられた」（18.1%）が多い。

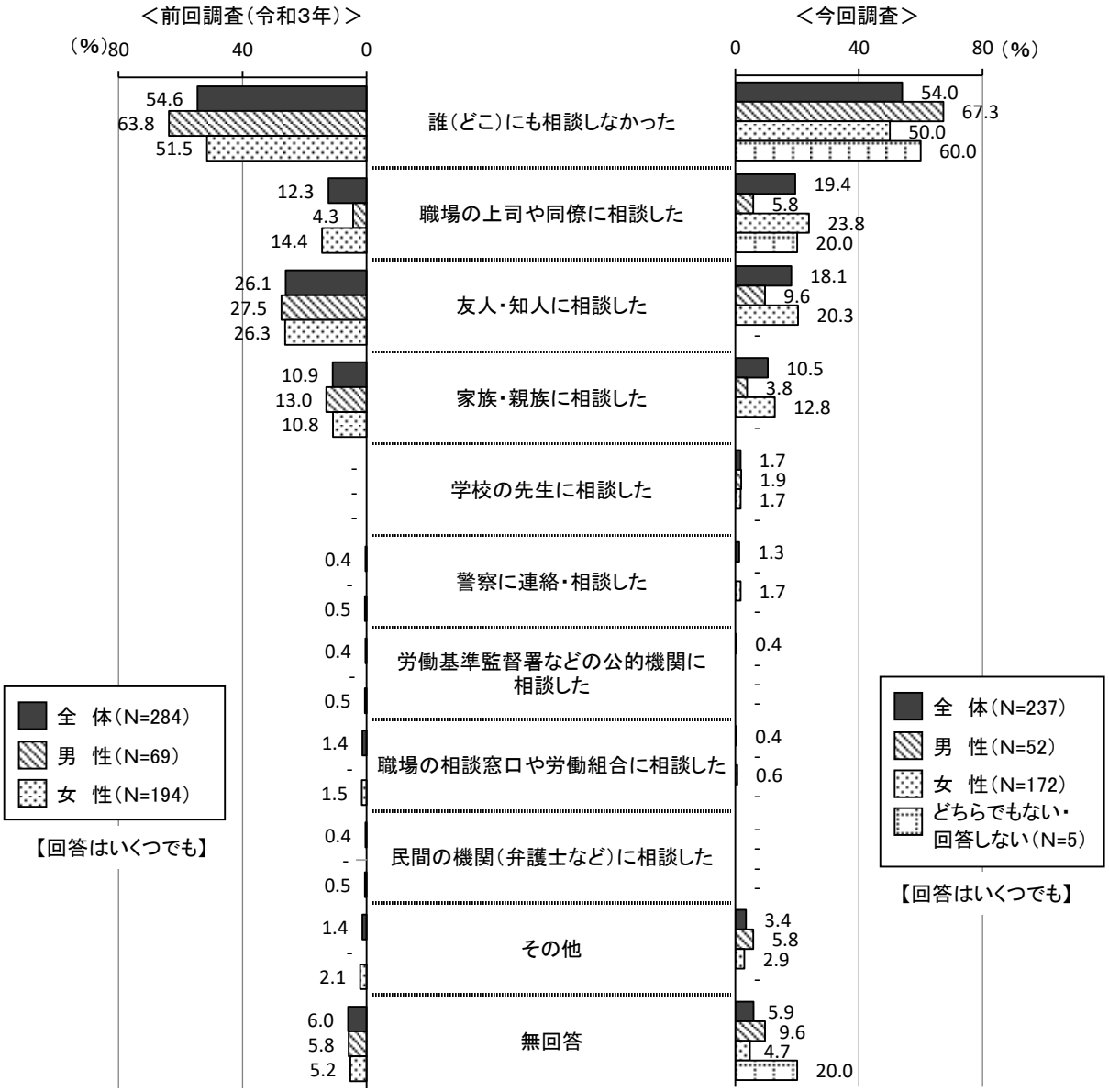
（２）セクシュアル・ハラスメント被害の相談先

【問１５でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験がある方に】

問１５－１　あなたがセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたとき、誰(どこ)かに相談しましたか。（○はいくつでも）

●セクハラの被害にあったときの相談先について「誰（どこ）にも相談しなかった」が男性約７割、女性５割。男性は前回調査よりやや増えている。
●主な相談先は「職場の上司や同僚に相談した」、「友人・知人に相談した」、「家族・親族に相談した」。

図表５ - 11　セクシュアル・ハラスメント被害の相談先［全体、性別］（前回調査比較）



セクハラの被害を受けた人に被害にあったとき、誰（どこ）かに相談したかをたずねたところ、「誰（どこ）にも相談しなかった」が 54.0%と最も多い。相談した人の中では「職場の上司や同僚に相談した」(19.4%)、「友人・知人に相談した」(18.1%)、「家族・親族に相談した」(10.5%)が主な相談先となっている。警察や公的な相談機関、専門家等への相談した人はわずかであった。

性別にみると、男性は「誰（どこ）にも相談しなかった」（男性 67.3%、女性 50.0%）が女性よりも 17.3 ポイント高く、女性は「職場の上司や同僚に相談した」（同 5.8%、23.8%）が 18.0 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は「友人・知人に相談した」や「家族・親族に相談した」が 9.2～17.9 ポイント減り、「誰（どこ）にも相談しなかった」が 3.5 ポイント増えている。女性は「友人・知人に相談した」が 6.0 ポイント減り、「職場の上司や同僚に相談した」が 9.4 ポイント増えている。

図表５ - 12　セクシュアル・ハラスメント被害の相談先［全体、年齢別］

(%)

		標本数	誰（どこ）にも相談しなかった	警察に連絡・相談した	労働基準監督署などの公的機関に相談した	民間の機関（弁護士など）に相談した	職場の相談窓口や労働組合に相談した	職場の上司や同僚に相談した	学校の先生に相談した	家族・親族に相談した	友人・知人に相談した	その他	無回答
全体		237	128	3	1	－	1	46	4	25	43	8	14
		100.0	54.0	1.3	0.4	－	0.4	19.4	1.7	10.5	18.1	3.4	5.9
年齢別	男性:18～29歳	3	66.7	－	－	－	－	－	－	－	－	33.3	33.3
	男性:30～39歳	8	62.5	－	－	－	－	12.5	－	12.5	12.5	－	－
	男性:40～49歳	14	71.4	－	－	－	－	7.1	7.1	－	－	－	14.3
	男性:50～59歳	11	81.8	－	－	－	－	9.1	－	9.1	9.1	－	－
	男性:60～69歳	11	63.6	－	－	－	－	－	－	－	18.2	18.2	－
	男性:70歳以上	5	40.0	－	－	－	－	－	－	－	20.0	－	40.0
	女性:18～29歳	22	31.8	9.1	－	－	－	22.7	13.6	40.9	27.3	－	－
	女性:30～39歳	35	57.1	2.9	－	－	－	31.4	－	14.3	14.3	5.7	－
	女性:40～49歳	33	27.3	－	－	－	3.0	39.4	－	18.2	24.2	－	6.1
	女性:50～59歳	30	63.3	－	－	－	－	16.7	－	－	10.0	6.7	6.7
	女性:60～69歳	41	63.4	－	－	－	－	12.2	－	2.4	26.8	2.4	2.4
	女性:70歳以上	11	45.5	－	－	－	－	18.2	－	9.1	18.2	－	27.3
	どちらでもない・回答しない	5	60.0	－	－	－	－	20.0	－	－	－	－	20.0
	無回答	8	50.0	－	12.5	－	－	12.5	－	12.5	37.5	－	－

年齢別にみると、「誰（どこ）にも相談しなかった」は男性の 70 歳以上を除く年代で６割台から約８割と高い。女性は 50 代と 60 代で６割台と女性の中では高い。女性の 18～29 歳で「家族・親族に相談した」が 40.9%と最も高い。「職場の上司や同僚に相談した」は女性の 40 代で 39.4%と高く、30 代でも 31.4%ある。「友人・知人に相談した」は女性の 18～29 歳と 40 代、60 代で２割台と高い。

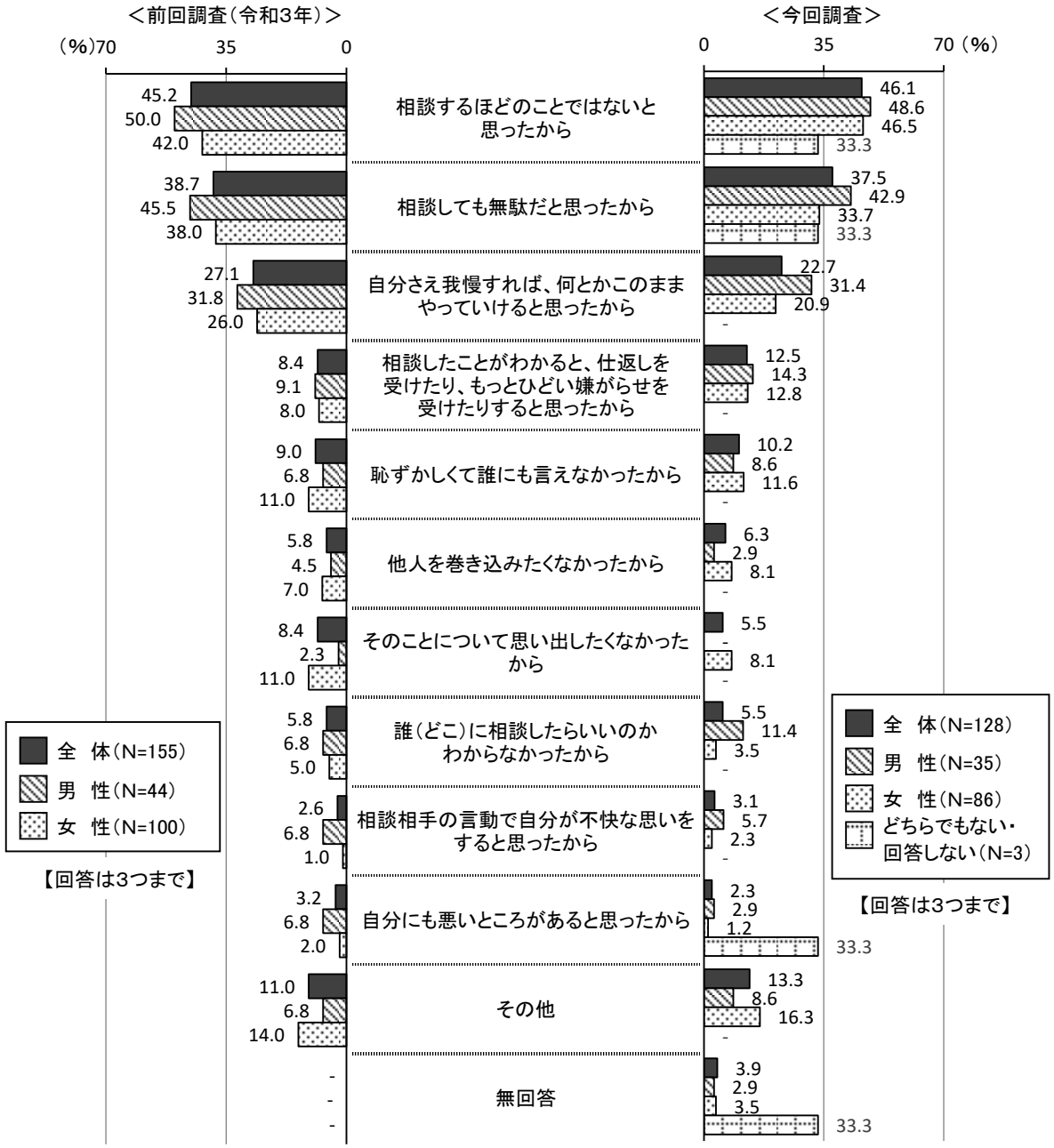
（３）セクシュアル・ハラスメント被害について相談をしなかった理由

【問１５－１で「１．誰（どこ）にも相談しなかった」を選んだ方に】

問１５－２　その理由は何ですか。（○は３つまで）

●セクハラ被害について相談しなかった理由は「相談するほどのことではないと思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が上位３位。

図表５ - 13　セクシュアル・ハラスメント被害について相談をしなかった理由［全体、性別］
（前回調査比較）



セクハラの被害について「誰（どこ）にも相談しなかった」と回答した人に相談しなかった理由をたずねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が 46.1％と最も多く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が 37.5％、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」が 22.7％となっている。

性別にみると、男性は「相談しても無駄だと思ったから」（男性 42.9％、女性 33.7％）、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから」（同 31.4％、20.9％）の割合が女性よりも 9.2～10.5 ポイント高い。女性は「他人を巻き込みたくなかったから」（同 2.9％、8.1％）、「そのことについて思い出したくなかったから」（同 0.0％、8.1％）が男性よりも 5.2～8.1 ポイント高い。また、男性は「誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかったから」が女性よりも 7.9 ポイント高い。

前回調査と比べると、「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい嫌がらせを受けたりすると思ったから」が男女とも 4.8～5.2 ポイント増えている。

第６章　女性の性と生殖に関する健康・権利（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）について

１．リプロダクティブ・ヘルス／ライツについての考え方

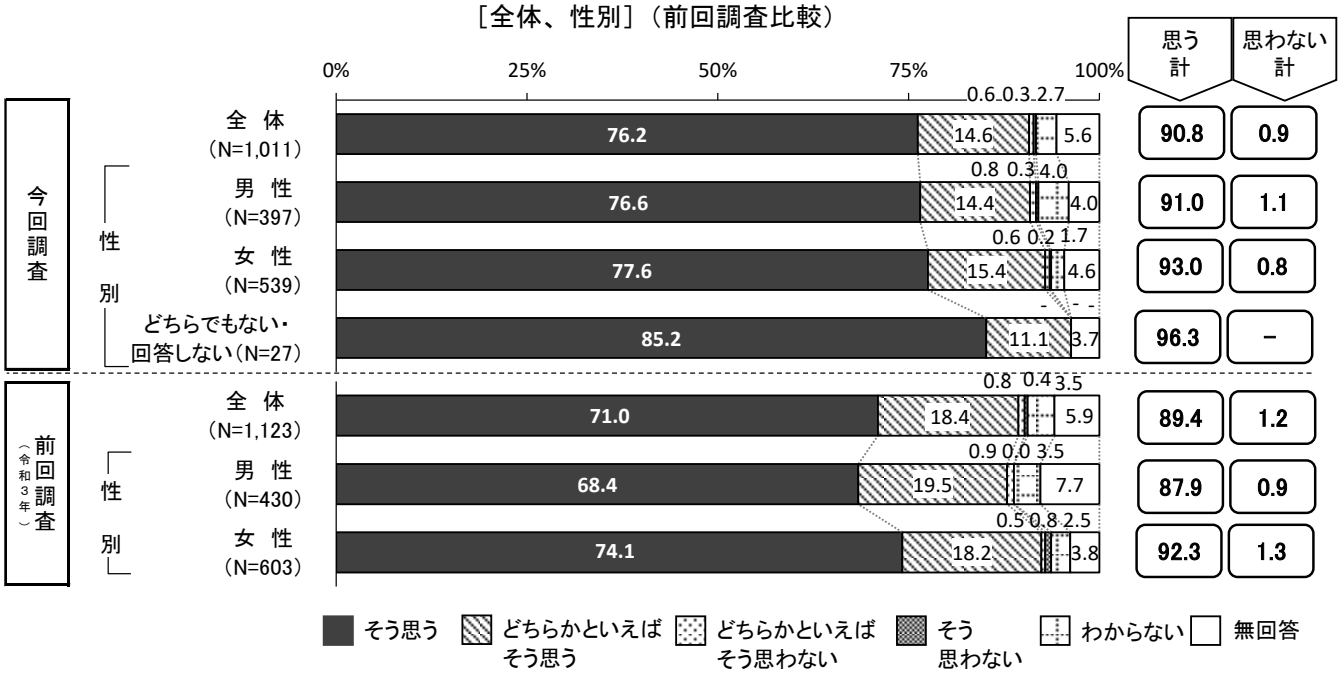
※性と生殖に関する健康／権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)とは
国連の国際人口開発会議(カイロ、1994 年)で提唱された権利。人々が政治的・社会的に左右されず、安全で満ち足りた性生活を営むことができ、子どもを「持つ」「持たない」「何人持つか」を決める自由を持ち、子どもの数、出産時期を自由に決定し、そのための健康を享受できること、またそれに関する情報と手段を得ることができることが認められています。

問１６　次のア、イの各項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

●「妊娠や性に関して夫婦等の間で十分に話し合うべき」は『思う』が約９割、「妊娠や性に関して夫婦等の間で合意できないときは女性の意思を尊重すべき」は約８割。
●「妊娠や性に関して夫婦等の間で合意できないときは女性の意思を尊重すべき」の方が『思う』の割合は 13.7 ポイント低い。

ア．妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で十分話し合うべきである

図表６－１　妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で十分話し合うべきである［全体、性別］（前回調査比較）



「ア．妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で十分話し合うべきである」という考え方について、「そう思う」が 76.2%と最も高く、「どちらかといえばそう思う」が 14.6%でこれらをあわせた『思う』は 90.8%となっている。「そう思わない」（0.3%）と「どちらかといえばそう思う」（0.6%）をあわせた『思わない』は 0.9%とわずかである。

性別にみてもあまり大きな差はみられない。

前回調査と比べると、男性は『思う』がやや増えているが、その内訳をみると強い「そう思う」が 8.2 ポイント増えている。

図表６－２　妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で十分話し合うべきである
［全体、年齢別、配偶関係別］

(%)

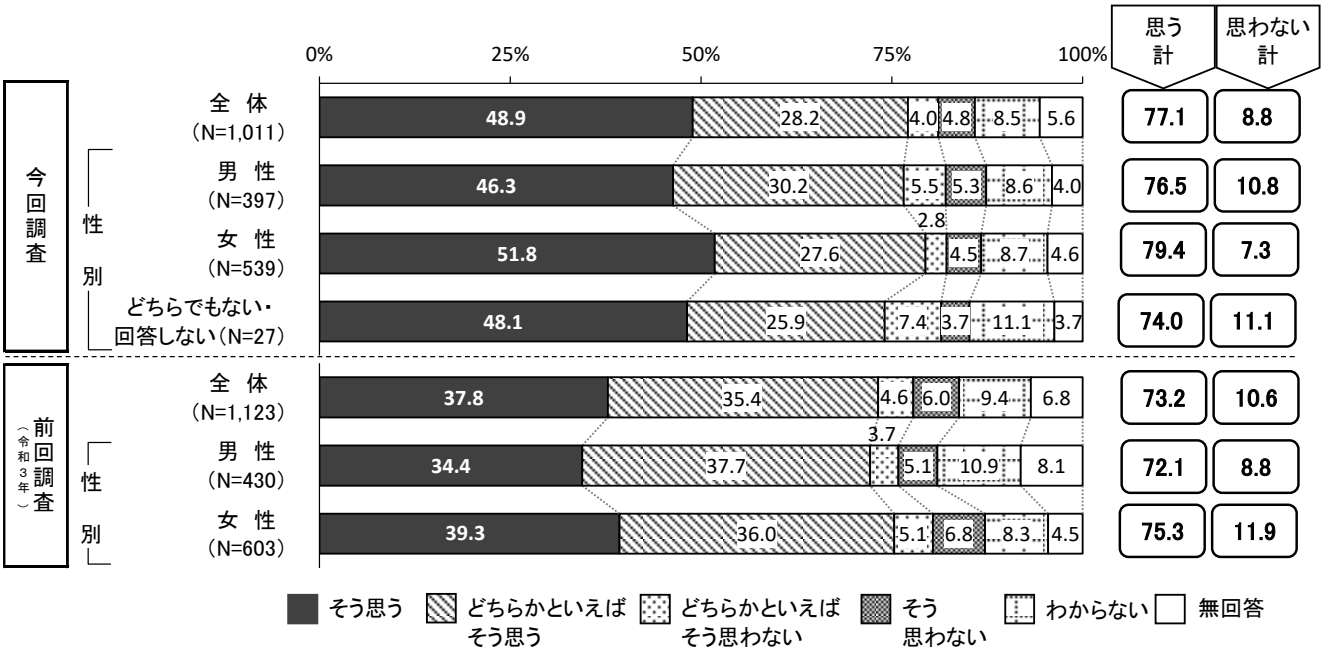
		標本数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	思う計	思わない計
全体		1,011 100.0	770 76.2	148 14.6	6 0.6	3 0.3	27 2.7	57 5.6	**918** **90.8**	**9** **0.9**
年齢別	男性:18～29歳	37	97.3	－	－	－	2.7	－	**97.3**	**－**
	男性:30～39歳	49	83.7	14.3	2.0	－	－	－	**98.0**	**2.0**
	男性:40～49歳	73	76.7	17.8	1.4	－	2.7	1.4	**94.5**	**1.4**
	男性:50～59歳	62	75.8	16.1	1.6	－	3.2	3.2	**91.9**	**1.6**
	男性:60～69歳	83	73.5	16.9	－	－	6.0	3.6	**90.4**	**－**
	男性:70歳以上	91	67.0	14.3	－	1.1	6.6	11.0	**81.3**	**1.1**
	女性:18～29歳	47	85.1	8.5	－	－	4.3	2.1	**93.6**	**－**
	女性:30～39歳	88	80.7	15.9	1.1	－	1.1	1.1	**96.6**	**1.1**
	女性:40～49歳	83	85.5	10.8	－	－	1.2	2.4	**96.3**	**－**
	女性:50～59歳	106	77.4	21.7	－	－	0.9	－	**99.1**	**－**
	女性:60～69歳	121	79.3	14.0	1.7	－	1.7	3.3	**93.3**	**1.7**
	女性:70歳以上	92	60.9	17.4	－	1.1	2.2	18.5	**78.3**	**1.1**
	どちらでもない・回答しない	27	85.2	11.1	－	－	－	3.7	**96.3**	**－**
	無回答	52	55.8	9.6	－	1.9	3.8	28.8	**65.4**	**1.9**
配偶関係別	男性:未婚	100	79.0	12.0	－	－	7.0	2.0	**91.0**	**－**
	男性:配偶者がいる(共働きである)	140	80.0	13.6	1.4	－	0.7	4.3	**93.6**	**1.4**
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	125	76.8	14.4	0.8	0.8	4.0	3.2	**91.2**	**1.6**
	男性:配偶者とは死・離別した	27	55.6	25.9	－	－	11.1	7.4	**81.5**	**－**
	女性:未婚	110	73.6	19.1	0.9	－	2.7	3.6	**92.7**	**0.9**
	女性:配偶者がいる(共働きである)	204	83.8	12.7	－	－	1.5	2.0	**96.5**	**－**
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	138	79.7	11.6	1.4	－	2.2	5.1	**91.3**	**1.4**
	女性:配偶者とは死・離別した	83	65.1	22.9	－	1.2	－	10.8	**88.0**	**1.2**
	どちらでもない・回答しない	27	85.2	11.1	－	－	－	3.7	**96.3**	**－**
	無回答	57	50.9	12.3	－	1.8	3.5	31.6	**63.2**	**1.8**

年齢別にみると、男性は年齢が低い層で『思う』の割合が高い傾向がみられる。女性は 50 代で 99.1%と最も高く、18～29 歳では 93.6%とやや低くなり、「わからない」の割合が 4.3%と他の年代に比べて高くなっている。

配偶関係別にみると、男女とも既婚の共働きで『思う』（男性 93.6%、女性 96.5%）の割合が他の配偶関係に比べて高い。

イ．妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである

図表６－３　妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである［全体、性別］（前回調査比較）



「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである」という考え方について、「そう思う」（48.9%）と「どちらかといえばそう思う」（28.2%）をあわせた『思う』は 77.1%である。「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で十分話し合うべきである」に比べ、『思う』の割合が 13.7 ポイント低く、特に強い「そう思う」の割合は 27.3 ポイントと低く、やや消極的な「どちらかといえばそう思う」の割合が 13.6 ポイント高くなっている。「そう思わない」（4.8%）と「どちらかといえばそう思わない」（4.0%）をあわせた『思わない』は 8.8%である。

性別にみると、女性は『思う』が 79.4%で、そのうち強い「そう思う」は 51.8%と男性（46.3%）を 5.5 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、男女とも強い「そう思う」が 11.9～12.5 ポイント増えている。

図表６－４　妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである［全体、年齢別、配偶関係別］

(%)

		標本数	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	無回答	思う計	思わない計
全体		1,011 100.0	494 48.9	285 28.2	40 4.0	49 4.8	86 8.5	57 5.6	**779** **77.1**	**89** **8.8**
年齢別	男性:18～29歳	37	40.5	32.4	5.4	16.2	5.4	－	**72.9**	**21.6**
	男性:30～39歳	49	49.0	20.4	10.2	8.2	12.2	－	**69.4**	**18.4**
	男性:40～49歳	73	43.8	35.6	5.5	8.2	5.5	1.4	**79.4**	**13.7**
	男性:50～59歳	62	37.1	38.7	8.1	3.2	9.7	3.2	**75.8**	**11.3**
	男性:60～69歳	83	47.0	34.9	3.6	1.2	9.6	3.6	**81.9**	**4.8**
	男性:70歳以上	91	54.9	19.8	3.3	2.2	8.8	11.0	**74.7**	**5.5**
	女性:18～29歳	47	59.6	23.4	－	6.4	10.6	－	**83.0**	**6.4**
	女性:30～39歳	88	51.1	30.7	2.3	9.1	4.5	2.3	**81.8**	**11.4**
	女性:40～49歳	83	42.2	33.7	2.4	4.8	14.5	2.4	**75.9**	**7.2**
	女性:50～59歳	106	61.3	23.6	3.8	3.8	7.5	－	**84.9**	**7.6**
	女性:60～69歳	121	54.5	28.9	3.3	1.7	8.3	3.3	**83.4**	**5.0**
	女性:70歳以上	92	42.4	23.9	3.3	3.3	8.7	18.5	**66.3**	**6.6**
	どちらでもない・回答しない	27	48.1	25.9	7.4	3.7	11.1	3.7	**74.0**	**11.1**
	無回答	52	38.5	21.2	1.9	5.8	3.8	28.8	**59.7**	**7.7**
配偶関係別	男性:未婚	100	34.0	30.0	11.0	8.0	15.0	2.0	**64.0**	**19.0**
	男性:配偶者がいる(共働きである)	140	50.7	34.3	2.9	5.7	2.1	4.3	**85.0**	**8.6**
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	125	53.6	25.6	4.0	4.0	9.6	3.2	**79.2**	**8.0**
	男性:配偶者とは死・離別した	27	40.7	29.6	7.4	－	14.8	7.4	**70.3**	**7.4**
	女性:未婚	110	46.4	25.5	4.5	7.3	12.7	3.6	**71.9**	**11.8**
	女性:配偶者がいる(共働きである)	204	53.4	29.4	1.5	6.4	7.4	2.0	**82.8**	**7.9**
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	138	54.3	30.4	2.9	0.7	6.5	5.1	**84.7**	**3.6**
	女性:配偶者とは死・離別した	83	51.8	21.7	3.6	2.4	9.6	10.8	**73.5**	**6.0**
	どちらでもない・回答しない	27	48.1	25.9	7.4	3.7	11.1	3.7	**74.0**	**11.1**
	無回答	57	35.1	21.1	1.8	5.3	5.3	31.6	**56.2**	**7.1**

年齢別にみると、女性は 40 代と 70 歳以上を除く年代で『思う』が８割を超えて高い。『思わない』は男性の 18～29 歳で 21.6%、30 代で 18.4%と年齢の低い層で高い傾向がみられる。

配偶関係別にみると、男女の既婚の共働きと女性の既婚の共働きでない人で『思う』の割合が８割超え他の配偶関係に比べて高い。男女の未婚では『思わない』の割合が１割台と比較的高い。

第７章　悩みや困りごとについて

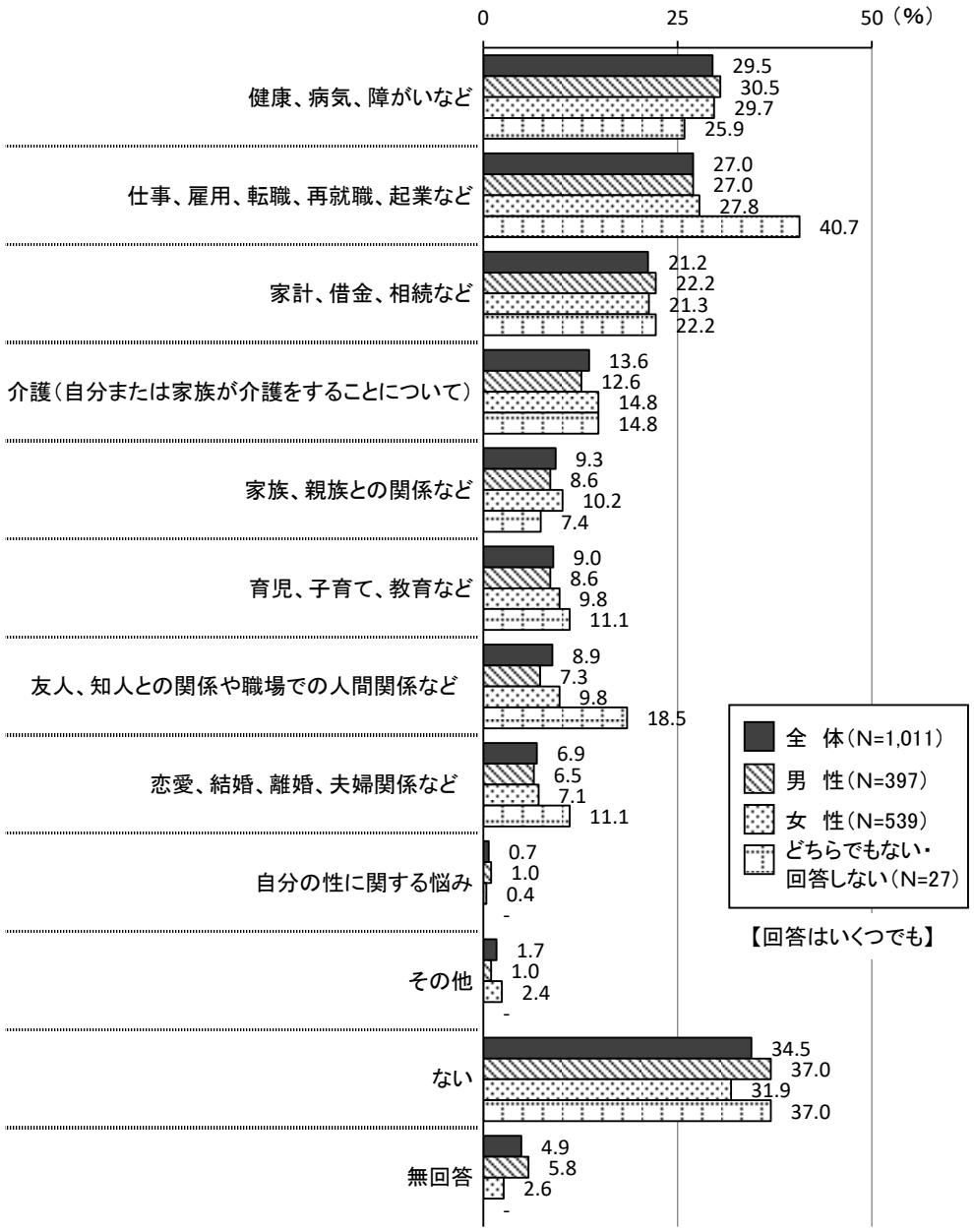
１．悩みや困りごとについて

（１）悩みや困りごとの有無

問１７　あなたは、現在、次のような悩みや困りごとがありますか。（○はいくつでも）

●現在、悩みや困りごとを抱えている人は男性約６割、女性６割台半ば。
●悩みや困りごとの内容は「健康、病気、障がいなど」「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」「家計、借金、相続など」が上位３位。

図表７ - １　悩みや困りごとの有無［全体、性別］



現在の悩みや困りごとをたずねたところ、「ない」が 34.5%と最も多く、これと無回答を除く60.6%の人が悩みや困りごとを抱えている。悩みや困りごととして「健康、病気、障がいなど」が 29.5%、「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」が 27.0%、「家計、借金、相続など」が21.2%となっている。

性別にみると、「ない」は男性が37.0%、女性が31.9%で、悩みや困りごとを抱えている人は、男性が 57.2%、女性が 65.5%と女性の方が 8.3 ポイント高い。悩みや困りごとについて、男女であまり大きな差はみられない。

図表７ - ２　悩みや困りごとの有無［全体、年齢別、配偶関係別］

(%)

		標本数	仕事、雇用、転職、再就職、起業など	健康、病気、障がいなど	家計、借金、相続など	友人、知人との関係や職場での人間関係など	恋愛、結婚、離婚、夫婦関係など	家族、親族との関係など	育児、子育て、教育など	介護（自分または家族が介護をすることについて）	自分の性に関する悩み	その他	ない	無回答
全体		1,011	273	298	214	90	70	94	91	137	7	17	349	50
		100.0	27.0	29.5	21.2	8.9	6.9	9.3	9.0	13.6	0.7	1.7	34.5	4.9
年齢別	男性:18～29歳	37	21.6	8.1	13.5	10.8	10.8	5.4	－	2.7	－	－	56.8	－
	男性:30～39歳	49	44.9	28.6	34.7	10.2	14.3	6.1	16.3	2.0	4.1	－	34.7	4.1
	男性:40～49歳	73	39.7	34.2	34.2	9.6	11.0	21.9	26.0	15.1	－	－	27.4	－
	男性:50～59歳	62	40.3	29.0	25.8	6.5	8.1	11.3	8.1	19.4	1.6	1.6	35.5	3.2
	男性:60～69歳	83	18.1	32.5	19.3	7.2	－	2.4	1.2	9.6	－	2.4	44.6	3.6
	男性:70歳以上	91	8.8	37.4	9.9	3.3	2.2	4.4	1.1	18.7	1.1	1.1	30.8	17.6
	女性:18～29歳	47	29.8	14.9	10.6	10.6	14.9	10.6	10.6	2.1	－	4.3	36.2	－
	女性:30～39歳	88	50.0	26.1	30.7	17.0	6.8	12.5	27.3	6.8	－	4.5	20.5	1.1
	女性:40～49歳	83	39.8	27.7	31.3	15.7	13.3	9.6	15.7	16.9	2.4	2.4	21.7	1.2
	女性:50～59歳	106	33.0	30.2	18.9	10.4	7.5	8.5	6.6	16.0	－	1.9	32.1	0.9
	女性:60～69歳	121	17.4	38.8	23.1	5.0	3.3	14.0	2.5	19.0	－	2.5	37.2	2.5
	女性:70歳以上	92	3.3	30.4	9.8	3.3	2.2	5.4	1.1	20.7	－	－	41.3	8.7
	どちらでもない・回答しない	27	40.7	25.9	22.2	18.5	11.1	7.4	11.1	14.8	－	－	37.0	－
	無回答	52	9.6	19.2	9.6	5.8	5.8	5.8	1.9	5.8	1.9	－	46.2	25.0
配偶関係別	男性:未婚	100	38.0	29.0	19.0	11.0	13.0	10.0	3.0	11.0	2.0	3.0	36.0	2.0
	男性:配偶者がいる(共働きである)	140	27.9	28.6	27.1	5.0	5.0	7.9	17.1	10.0	0.7	－	36.4	4.3
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	125	19.2	35.2	20.8	6.4	3.2	6.4	4.0	16.8	0.8	－	38.4	7.2
	男性:配偶者とは死・離別した	27	22.2	29.6	18.5	11.1	7.4	18.5	7.4	14.8	－	3.7	37.0	11.1
	女性:未婚	110	39.1	33.6	23.6	19.1	13.6	19.1	0.9	11.8	1.8	4.5	26.4	1.8
	女性:配偶者がいる(共働きである)	204	37.7	24.5	27.5	12.3	7.4	7.8	17.2	12.7	－	2.9	27.5	1.0
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	138	10.9	29.0	13.0	0.7	5.1	8.0	7.2	18.1	－	0.7	40.6	2.9
	女性:配偶者とは死・離別した	83	16.9	37.3	18.1	6.0	1.2	8.4	8.4	19.3	－	1.2	34.9	7.2
	どちらでもない・回答しない	27	40.7	25.9	22.2	18.5	11.1	7.4	11.1	14.8	－	－	37.0	－
	無回答	57	10.5	21.1	8.8	7.0	5.3	5.3	1.8	5.3	1.8	－	42.1	28.1

年齢別にみると、男性の 18～29 歳は「ない」が 56.8%と最も高い。「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」は男性の 30 代から 50 代、女性の 30 代と 40 代で約４割から５割と高い。「家計、借金、相続など」は男女の 30 代と 40 代で３割台、また「育児、子育て、教育など」も 30 代と 40 代で１割台半ばから約３割と高い。

配偶関係別にみると、「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」は男女の未婚と女性の既婚の共働きで約４割と高く、「家計、借金、相続など」は男女の既婚の共働きと男性の共働きでない人、女性の未婚で２割台と他の配偶関係に比べて割合が高い。

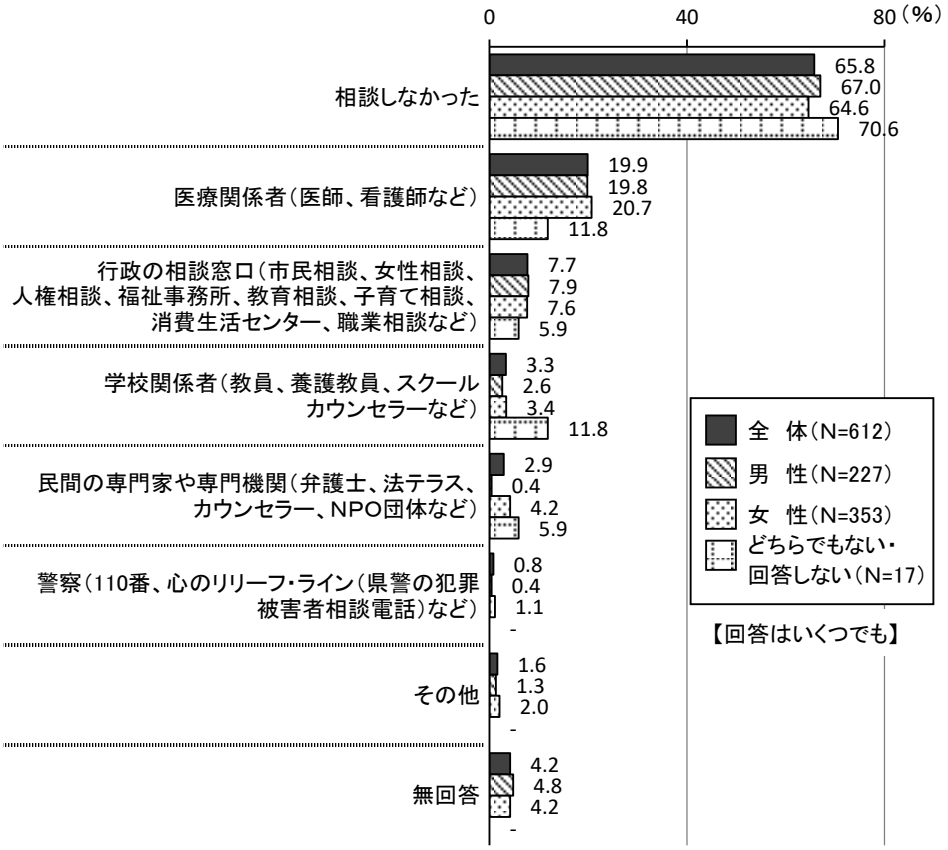
（２）悩みや困りごとの相談先

【問１７で「１.」～「10.」のいずれかを選んだ方に】

問１７－１　あなたは、悩みや困りごとについて、相談機関や公的機関に相談したことがありますか。(○はいくつでも)

●悩みや困りごとについて「相談しなかった」が男女とも６割台半ば。
●相談先は「医療関係者」が約２割で最も多い。

図表７ - ３　悩みや困りごとの相談先［全体、性別］



悩みや困りごとがある人に相談機関や公的機関に相談したことがあるかたずねたところ、「相談しなかった」が 65.8%と最も多い。相談した人では「医療関係者」が 19.9%と最も多く、次いで「行政の相談窓口」が 7.7%、「学校関係者」が 3.3%、「民間の専門家や専門機関」が 2.9%である。

性別にみてもあまり大きな差はみられない。

図表７－４　悩みや困りごとの相談先［全体、年齢別］

（%）

		標本数	相談しなかった	医療関係者（医師、看護師など）	学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）	民間の専門家や専門機関（弁護士、法テラス、カウンセラー、NPO団体など）	行政の相談窓口（市民相談、女性相談、人権相談、福祉事務所、教育相談、子育て相談、消費生活センター、職業相談など）	警察（110番、心のリリーフ・ライン（県警の犯罪被害者相談電話）など）	その他	無回答
全体		612 100.0	403 65.8	122 19.9	20 3.3	18 2.9	47 7.7	5 0.8	10 1.6	26 4.2
年齢別	男性:18～29歳	16	50.0	12.5	18.8	－	6.3	－	6.3	6.3
	男性:30～39歳	30	83.3	10.0	－	－	3.3	－	－	3.3
	男性:40～49歳	53	75.5	13.2	1.9	1.9	3.8	1.9	－	5.7
	男性:50～59歳	38	81.6	13.2	2.6	－	5.3	－	2.6	2.6
	男性:60～69歳	43	46.5	32.6	2.3	－	23.3	－	2.3	2.3
	男性:70歳以上	47	59.6	29.8	－	－	4.3	－	－	8.5
	女性:18～29歳	30	60.0	10.0	6.7	－	－	3.3	6.7	20.0
	女性:30～39歳	69	63.8	17.4	2.9	1.4	8.7	1.4	1.4	5.8
	女性:40～49歳	64	76.6	9.4	4.7	4.7	1.6	1.6	1.6	4.7
	女性:50～59歳	71	64.8	25.4	5.6	4.2	8.5	－	－	－
	女性:60～69歳	73	56.2	31.5	1.4	9.6	9.6	1.4	4.1	－
	女性:70歳以上	46	65.2	23.9	－	2.2	15.2	－	－	4.3
	どちらでもない・回答しない	17	70.6	11.8	11.8	5.9	5.9	－	－	－
	無回答	15	73.3	13.3	－	6.7	6.7	－	－	－

年齢別にみると、「相談しなかった」は男性の 30 代から 50 代、女性の 40 代で７割台半ばから約８割と高い。「医療関係者」と「行政の相談窓口」への相談は男女とも年齢の高い層で割合が高い傾向がみられる。「学校関係者」は男性の 18～29 歳で 18.8％と他の年代に比べて高い。

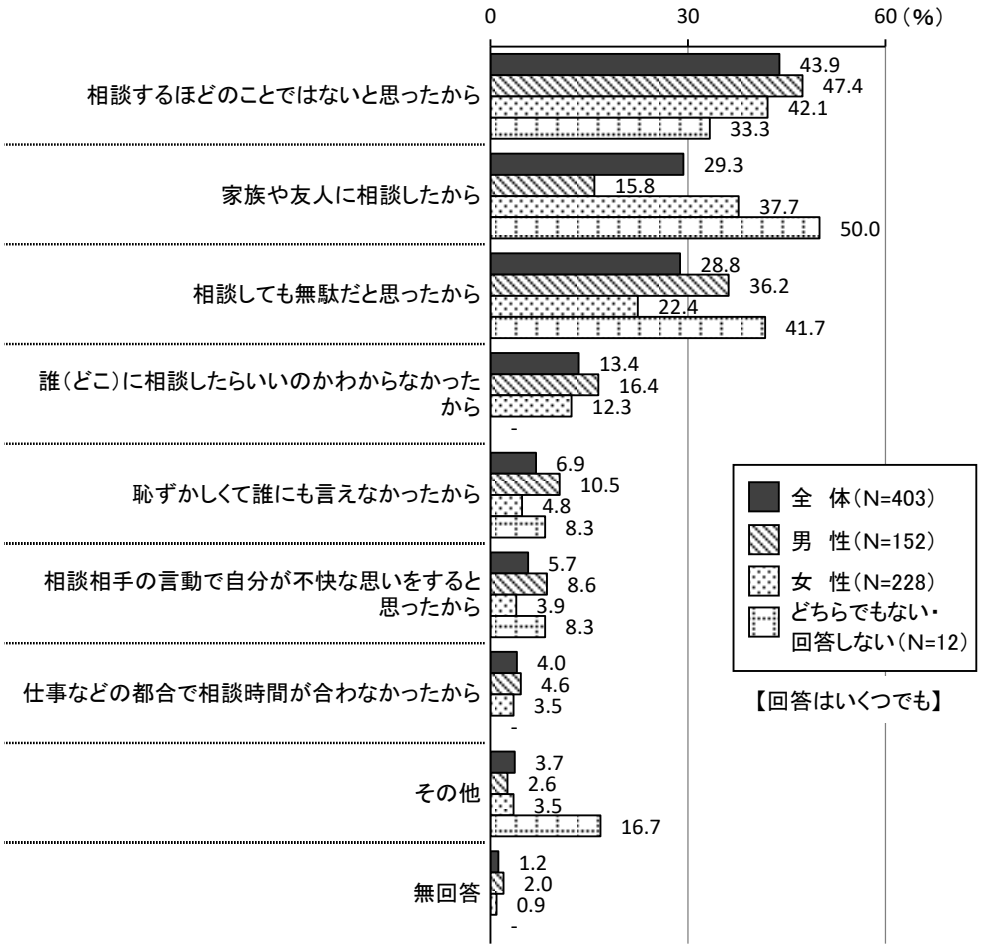
（３）悩みや困りごとを相談しなかった理由

【問１７－１で「１.相談しなかった」を選んだ方に】

問１７－２　相談しなかった、できなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

●悩みや困りごとを相談しなかった最も大きな理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」。

図表７ - ５　悩みや困りごとを相談しなかった理由［全体、性別］



悩みや困りごとを相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が43.9%と最も多い。次いで「家族や友人に相談したから」(29.3%)、「相談しても無駄だと思ったから」(28.8%) が約３割である。「誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかったから」は13.4%である。

性別にみると、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」(男性 47.4%、女性42.1%)、「相談しても無駄だと思ったから」(同 36.2%、22.4%)、「誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかったから」(同 16.4%、12.3%) などほとんどの項目で女性よりも割合が高い項目が多い。女性は「家族や友人に相談したから」(同 15.8%、37.7%) が男性を 21.9 ポイント上回る。

図表７－６　悩みや困りごとを相談しなかった理由［全体、年齢別］

（%）

		標本数	相談しても無駄だと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	恥ずかしくて誰にも言えなかったから	家族や友人に相談したから	仕事などの都合で相談時間が合わなかったから	誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかったから	相談相手の言動で自分が不快な思いをすると思ったから	その他	無回答
全体		403	116	177	28	118	16	54	23	15	5
		100.0	28.8	43.9	6.9	29.3	4.0	13.4	5.7	3.7	1.2
年齢別	男性:18～29歳	8	25.0	－	12.5	37.5	－	37.5	12.5	－	－
	男性:30～39歳	25	40.0	52.0	24.0	16.0	8.0	20.0	8.0	－	－
	男性:40～49歳	40	35.0	57.5	7.5	17.5	5.0	10.0	7.5	5.0	－
	男性:50～59歳	31	32.3	38.7	6.5	6.5	9.7	22.6	6.5	3.2	3.2
	男性:60～69歳	20	40.0	50.0	5.0	20.0	－	15.0	10.0	－	－
	男性:70歳以上	28	39.3	50.0	10.7	14.3	－	10.7	10.7	3.6	7.1
	女性:18～29歳	18	27.8	55.6	－	44.4	－	11.1	－	－	－
	女性:30～39歳	44	22.7	56.8	4.5	20.5	4.5	13.6	－	4.5	－
	女性:40～49歳	49	28.6	28.6	8.2	40.8	6.1	18.4	10.2	2.0	－
	女性:50～59歳	46	23.9	50.0	－	39.1	2.2	6.5	2.2	2.2	2.2
	女性:60～69歳	41	19.5	29.3	4.9	53.7	4.9	14.6	－	2.4	－
	女性:70歳以上	30	10.0	40.0	10.0	30.0	－	6.7	10.0	10.0	3.3
	どちらでもない・回答しない	12	41.7	33.3	8.3	50.0	－	－	8.3	16.7	－
	無回答	11	45.5	45.5	－	18.2	9.1	9.1	－	9.1	－

年齢別にみると、「相談しても無駄だと思った」は男性の 30 代と 60 代で４割と高く、「誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかったから」は男性の 18～29 歳で 37.5%、30 代で 20.0%、50 代で 22.6%と他の年代に比べて割合が高い。

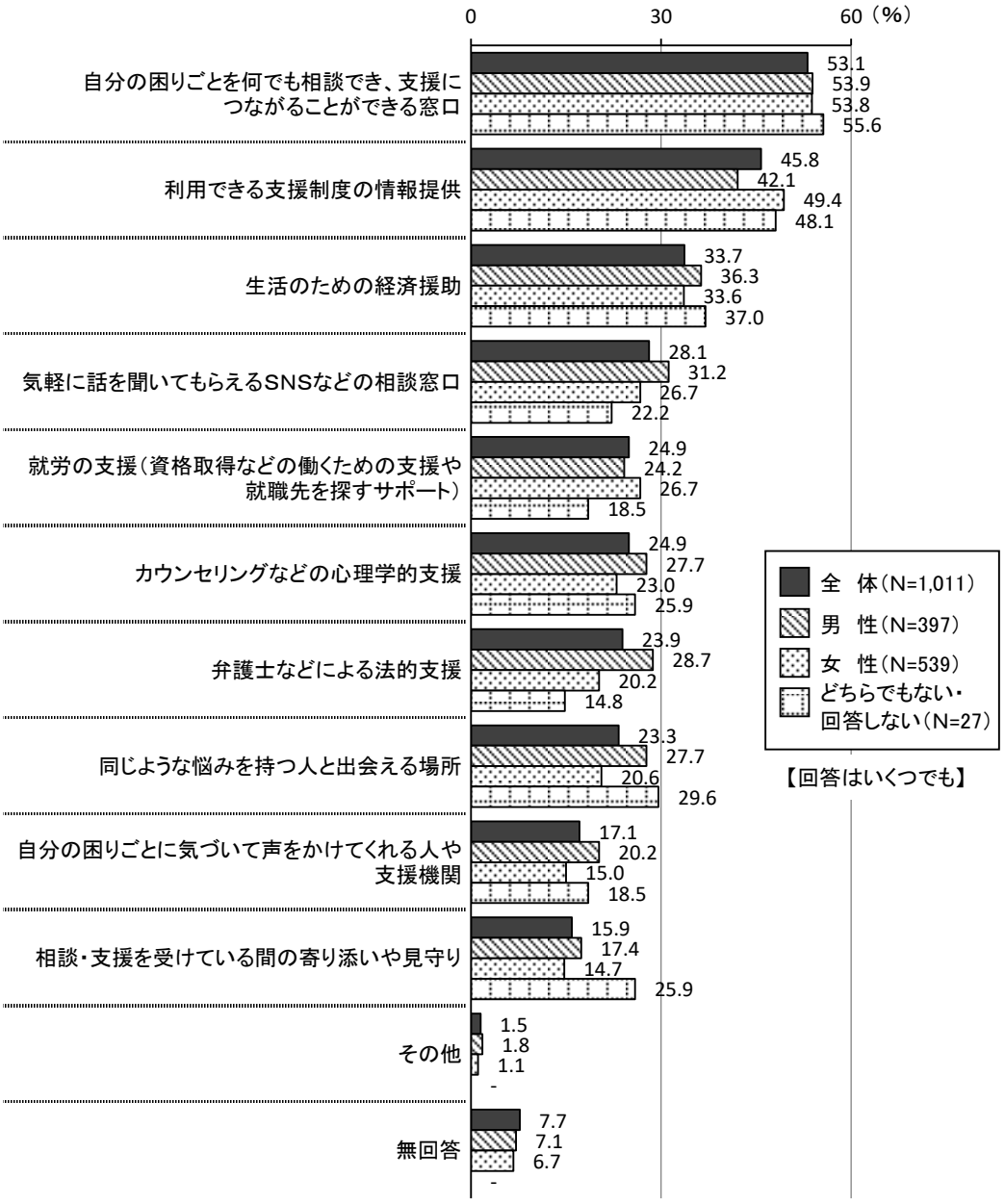
２．悩みや困りごとを解決するためにあるとよいと思う環境や支援

問１８　さまざまな問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するために、どのような環境や支援があるとよいと思いますか。(○はいくつでも)

※令和6年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）」が施行されました。

●さまざまな問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するために必要な環境や支援は「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口」が５割を超え第１位。

図表７ - ７　悩みや困りごとを解決するためにあるとよいと思う環境や支援［全体、性別］



さまざまな問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するために必要と思われる環境や支援をたずねた。「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口」が 53.1％と最も高く、次いで「利用できる支援制度の情報提供」が 45.8％、「生活のための経済援助」が 33.7％、「気軽に話を聞いてもらえるＳＮＳなどの相談窓口」が 28.1％など多岐にわたってあげられている。

性別にみると、「利用できる支援制度の情報提供」は女性が 49.4％と男性（42.1％）より 7.3 ポイント高く、「就労の支援（資格取得などの働くための支援や就職先を探すサポート）」も女性が 26.7％と男性よりやや高い。その他の項目は男性の割合が高い項目が多く、特に「弁護士などによる法的支援」（男性 28.7％、女性 20.2％）や「同じような悩みを持つ人と出会える場所」（同 27.7％、20.6％）「自分の困りごとに気づいて声をかけてくれる人や支援機関」（同 20.2％、15.0％）などが女性よりも 5.2～8.5 ポイント高い。

図表７－８　悩みや困りごとを解決するためにあるとよいと思う環境や支援［全体、年齢別］

（％）

		標本数	気軽に話を聞いてもらえるＳＮＳなどの相談窓口	自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口	利用できる支援制度の情報提供	同じような悩みを持つ人と出会える場所	相談・支援を受けている間の寄り添いや見守り	自分の困りごとに気づいて声をかけてくれる人や支援機関	生活のための経済援助	就労の支援（資格取得などの働くための支援や就職先を探すサポート）	カウンセリングなどの心理学的支援	弁護士などによる法的支援	その他	無回答
全体		1,011	284	537	463	236	161	173	341	252	252	242	15	78
		100.0	28.1	53.1	45.8	23.3	15.9	17.1	33.7	24.9	24.9	23.9	1.5	7.7
年齢別	男性:18～29歳	37	43.2	43.2	21.6	37.8	5.4	13.5	27.0	27.0	27.0	13.5	5.4	－
	男性:30～39歳	49	36.7	44.9	38.8	38.8	22.4	20.4	46.9	22.4	26.5	32.7	2.0	2.0
	男性:40～49歳	73	39.7	47.9	45.2	24.7	17.8	21.9	45.2	19.2	27.4	24.7	2.7	5.5
	男性:50～59歳	62	33.9	54.8	29.0	22.6	12.9	16.1	25.8	24.2	25.8	29.0	3.2	6.5
	男性:60～69歳	83	28.9	60.2	42.2	31.3	20.5	20.5	37.3	26.5	28.9	33.7	－	8.4
	男性:70歳以上	91	16.5	61.5	58.2	19.8	18.7	23.1	31.9	25.3	28.6	30.8	－	13.2
	女性:18～29歳	47	27.7	29.8	27.7	27.7	10.6	12.8	31.9	25.5	21.3	17.0	－	17.0
	女性:30～39歳	88	40.9	47.7	50.0	28.4	15.9	19.3	39.8	33.0	28.4	12.5	－	4.5
	女性:40～49歳	83	43.4	45.8	47.0	16.9	22.9	18.1	43.4	26.5	33.7	24.1	2.4	2.4
	女性:50～59歳	106	29.2	55.7	49.1	18.9	8.5	11.3	40.6	28.3	20.8	19.8	0.9	2.8
	女性:60～69歳	121	17.4	66.1	57.9	20.7	19.0	11.6	28.9	27.3	23.1	28.9	0.8	6.6
	女性:70歳以上	92	7.6	62.0	52.2	14.1	9.8	18.5	18.5	19.6	12.0	15.2	2.2	10.9
	どちらでもない・回答しない	27	22.2	55.6	48.1	29.6	25.9	18.5	37.0	18.5	25.9	14.8	－	－
	無回答	52	21.2	36.5	34.6	17.3	13.5	15.4	15.4	15.4	23.1	30.8	3.8	28.8

年齢別にみると、「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口」は男女とも 60 代以上で６割台、「利用できる支援制度の情報提供」は女性の 60 代と男性の 70 歳以上で約６割と年齢の高い層で割合が高い。「生活のための経済援助」は男女とも 30 代と 40 代、女性の 50 代で４割台、「気軽に話を聞いてもらえるＳＮＳなどの相談窓口」は男性の 18～29 歳と女性の 30 代と 40 代で４割台、「同じような悩みを持つ人と出会える場所」は男性の 18～29 歳と 30 代で約４割と年齢の低い層で割合が高い。「就労の支援（資格取得などの働くための支援や就職先を探すサポート）」は女性の 30 代で 33.0％と高い。

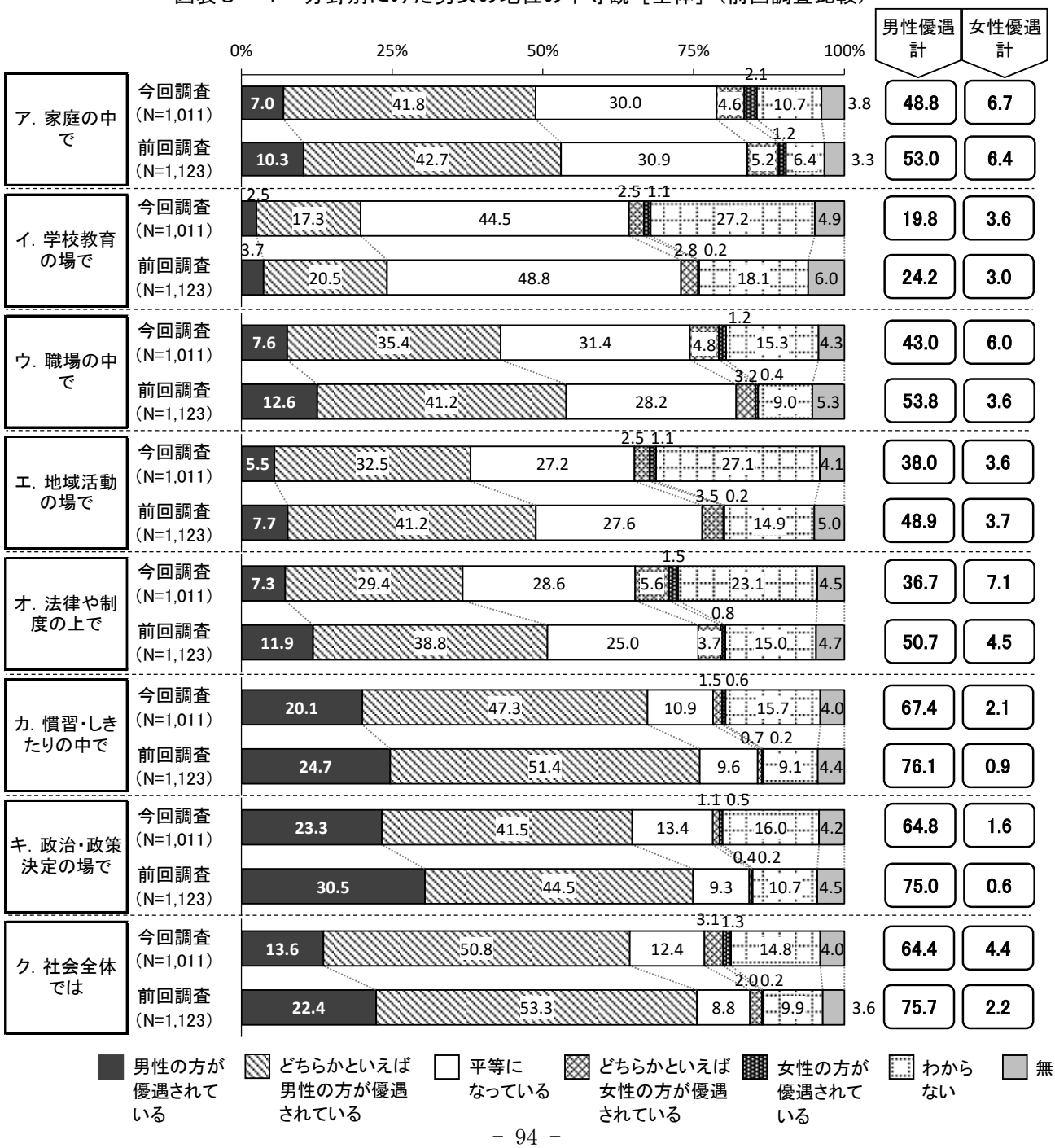
第８章　男女の平等観について

１．分野別にみた男女の地位の平等観

問１９　現在の社会において、男女の地位は平等になっていると思いますか。次のア～クの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

●「平等になっている」が高い分野は「学校教育の場」が 44.5%。その他の分野は『男性優遇』の方が高く、特に「慣習・しきたり」（67.4%）「政治・政策決定の場」（64.8%）、「社会全体」（64.4%）では６割を超えている。
●いずれの分野も前回調査より『男性優遇』の割合は減少。「わからない」が増えているため「平等になっている」の割合は同程度か微増にとどまる。

図表８－１　分野別にみた男女の地位の平等観［全体］（前回調査比較）

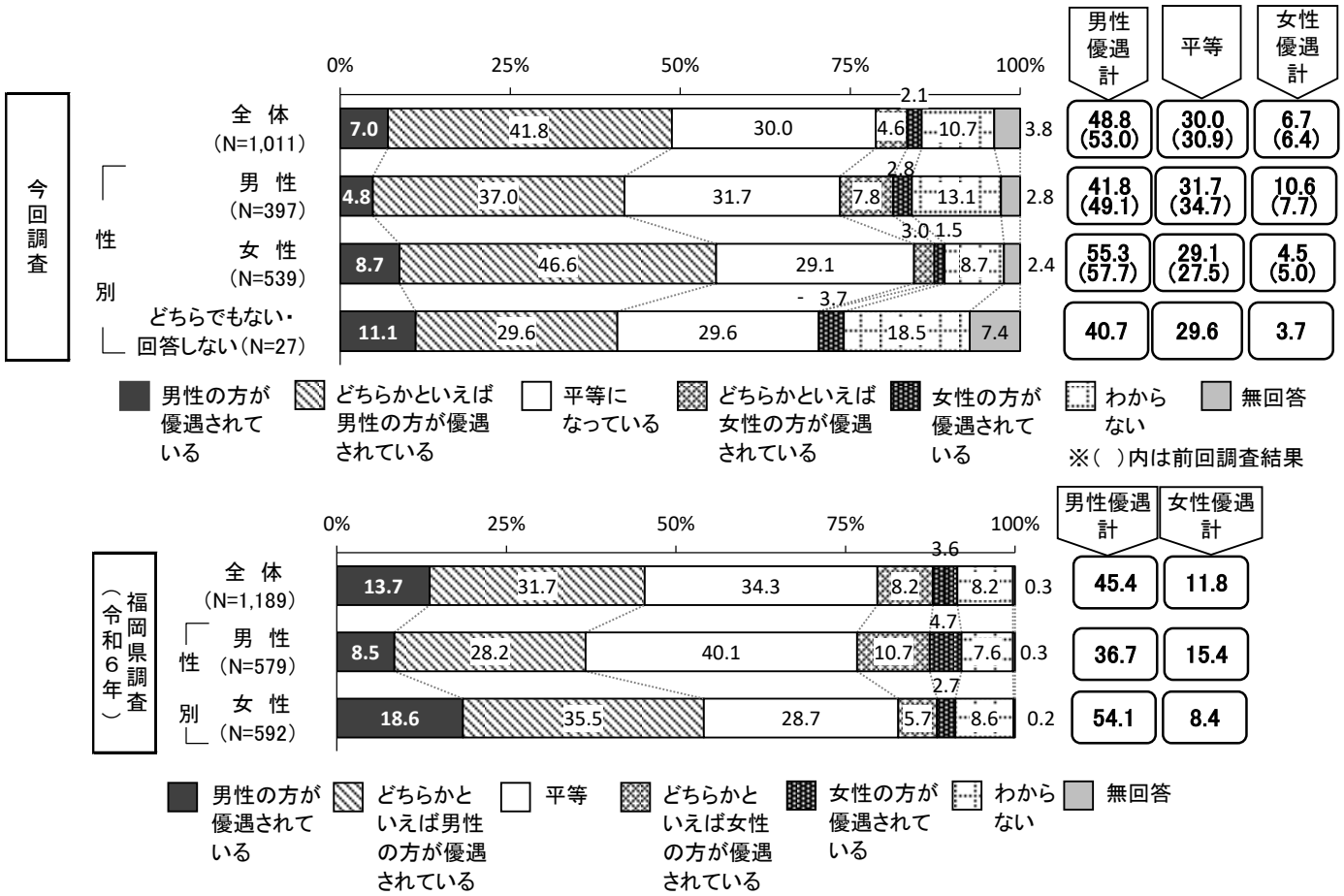


社会における８種類の分野において、男女の地位の平等観について、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等になっている」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」の５段階でたずねた。

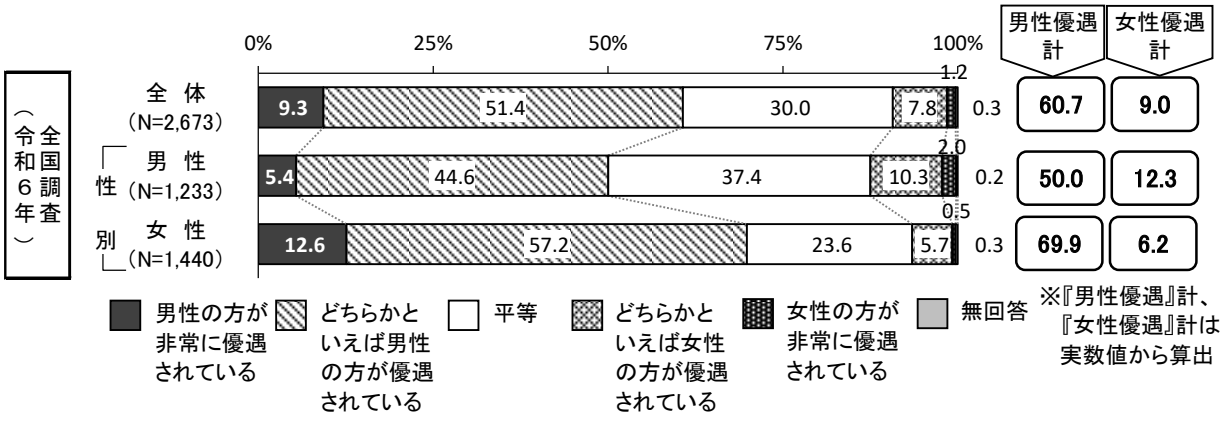
「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計を『男性優遇』、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計を『女性優遇』とする。

ア．家庭の中で

図表８－２　家庭の中での男女の地位の平等観［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）



資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和６年 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査結果

Ⅱ　調査結果

家庭の中では、『男性優遇』は 48.8%、「平等になっている」は 30.0%、『女性優遇』は 6.7%である。『男性優遇』は約５割あるが、「平等になっている」の割合は８分野中３番目に高い結果となっている。

性別にみると、『男性優遇』は、女性が 55.3%、男性は 41.8%と女性の方が 13.5 ポイント高いが、「平等になっている」は男性が 31.7%、女性が 29.1%と同程度となっている。

前回調査と比べると、男性は『男性優遇』が 7.3 ポイント減少し、「平等になっている」が 3.0 ポイント増えている。女性は『男性優遇』「平等になっている」の割合はあまり変わらない。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男性は『男性優遇』の割合が 5.1 ポイント高い。

全国調査と比べると、設問項目の違いがあるため正確な比較はできないが、「平等になっている」は今回調査の女性は 5.5 ポイント高く、『男性優遇』が 14.6 ポイント低い。

図表８－３　家庭の中での男女の地位の平等観［全体、年齢別、配偶関係別］

(%)

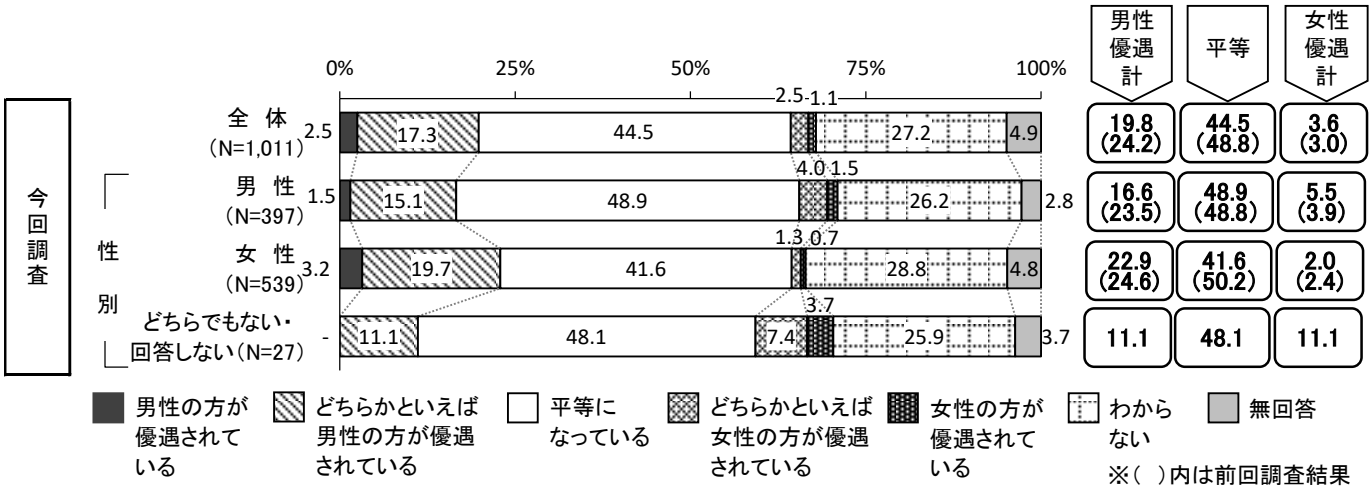
		標本数	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	**男性優遇計**	**女性優遇計**
全体		1,011 100.0	71 7.0	423 41.8	303 30.0	47 4.6	21 2.1	108 10.7	38 3.8	**494 48.8**	**68 6.7**
年齢別	男性:18～29歳	37	2.7	18.9	43.2	16.2	2.7	16.2	－	**21.6**	**18.9**
	男性:30～39歳	49	6.1	26.5	34.7	14.3	4.1	12.2	2.0	**32.6**	**18.4**
	男性:40～49歳	73	4.1	37.0	30.1	11.0	5.5	9.6	2.7	**41.1**	**16.5**
	男性:50～59歳	62	－	40.3	29.0	6.5	1.6	21.0	1.6	**40.3**	**8.1**
	男性:60～69歳	83	7.2	38.6	30.1	4.8	1.2	14.5	3.6	**45.8**	**6.0**
	男性:70歳以上	91	6.6	46.2	29.7	2.2	2.2	8.8	4.4	**52.8**	**4.4**
	女性:18～29歳	47	10.6	34.0	36.2	－	2.1	14.9	2.1	**44.6**	**2.1**
	女性:30～39歳	88	8.0	45.5	27.3	5.7	3.4	10.2	－	**53.5**	**9.1**
	女性:40～49歳	83	9.6	44.6	31.3	2.4	1.2	8.4	2.4	**54.2**	**3.6**
	女性:50～59歳	106	6.6	53.8	24.5	2.8	－	11.3	0.9	**60.4**	**2.8**
	女性:60～69歳	121	10.7	50.4	33.1	1.7	0.8	1.7	1.7	**61.1**	**2.5**
	女性:70歳以上	92	6.5	42.4	26.1	4.3	2.2	10.9	7.6	**48.9**	**6.5**
	どちらでもない・回答しない	27	11.1	29.6	29.6	－	3.7	18.5	7.4	**40.7**	**3.7**
	無回答	52	5.8	36.5	25.0	－	1.9	7.7	23.1	**42.3**	**1.9**
配偶関係別	男性:未婚	100	4.0	31.0	27.0	11.0	3.0	21.0	3.0	**35.0**	**14.0**
	男性:配偶者がいる(共働きである)	140	5.7	36.4	33.6	10.0	3.6	7.9	2.9	**42.1**	**13.6**
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	125	5.6	44.0	36.8	3.2	2.4	7.2	0.8	**49.6**	**5.6**
	男性:配偶者とは死・離別した	27	－	29.6	18.5	7.4	－	40.7	3.7	**29.6**	**7.4**
	女性:未婚	110	11.8	45.5	20.9	2.7	1.8	14.5	2.7	**57.3**	**4.5**
	女性:配偶者がいる(共働きである)	204	7.8	45.6	36.8	2.0	1.5	6.4	－	**53.4**	**3.5**
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	138	8.0	52.2	27.5	2.9	0.7	6.5	2.2	**60.2**	**3.6**
	女性:配偶者とは死・離別した	83	7.2	41.0	25.3	6.0	2.4	9.6	8.4	**48.2**	**8.4**
	どちらでもない・回答しない	27	11.1	29.6	29.6	－	3.7	18.5	7.4	**40.7**	**3.7**
	無回答	57	5.3	36.8	22.8	－	1.8	8.8	24.6	**42.1**	**1.8**

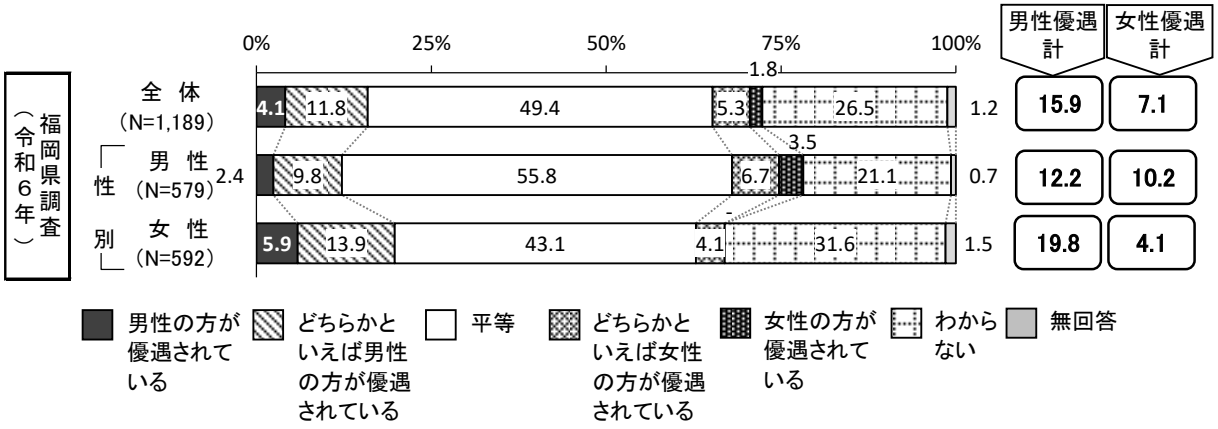
年齢別にみると、女性の50代と60代で『男性優遇』が約６割と高く、また30代と40代、男性の70歳以上でも５割台である。男性の18～29歳では「平等になっている」が43.2%と最も高い。

配偶関係別にみると、女性の既婚で共働きでない人の『男性優遇』は 60.2%と最も高く、共働きである人（53.4%）より 6.8 ポイント高く、「平等になっている」（共働きである 36.8%、共働きでない27.5%）は9.3ポイント低い。

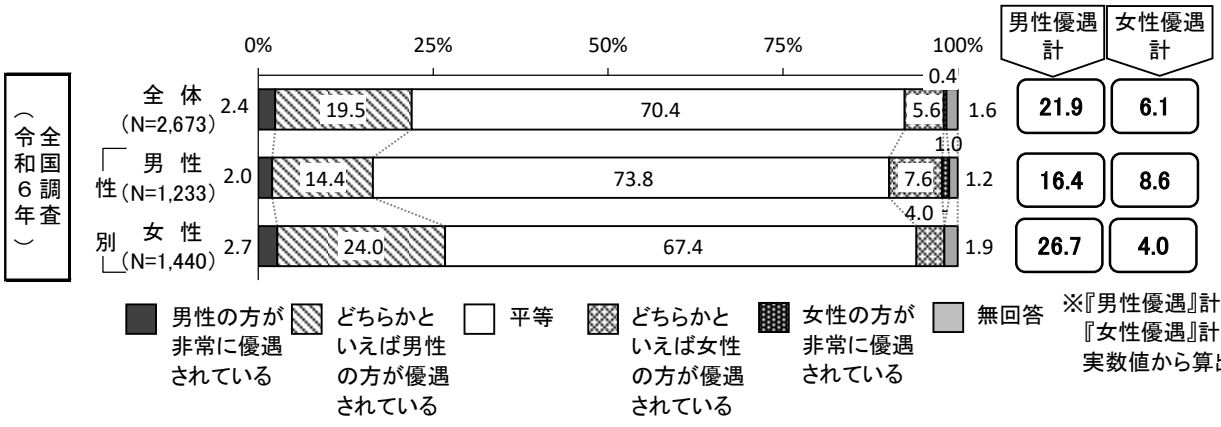
イ．学校教育の場で

図表８－４　学校教育の場での男女の地位の平等観［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）





資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和６年 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査結果

Ⅱ　調査結果

学校教育の場では、８分野の中で「平等になっている」が 44.5%と最も高い。ただし、「わからない」は 27.2%と高く、学校に関わる機会の少ない人では実際の様子が把握しにくいという状況もうかがえる。

性別にみると、「平等になっている」（男性 48.9%、女性 41.6%）は女性が 7.3 ポイント低く、『男性優遇』（同 16.6%、22.9%）が 6.3 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は『男性優遇』が 6.9 ポイント、女性は「平等になっている」が 8.6 ポイント減少している。

福岡県調査と比べると、男性で「平等になっている」が今回調査の方が 6.9 ポイント低い。

全国調査は「わからない」という項目がないため、今回調査の方が男女とも「平等になっている」は男性で 24.9 ポイント、女性で 25.8 ポイント低い。

図表８ - ５　学校教育の場での男女の地位の平等観［全体、年齢別、同居家族別］

(%)

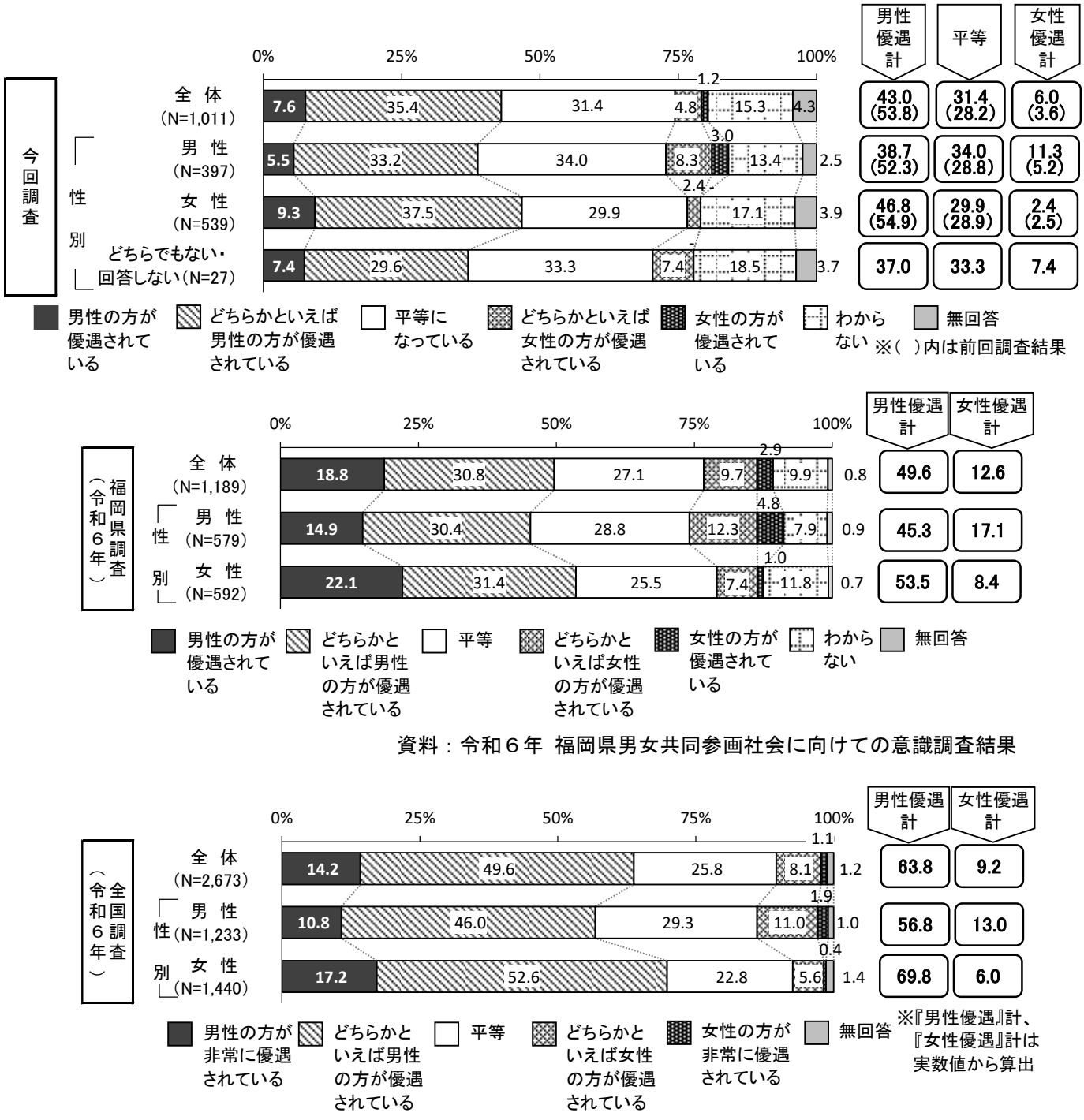
		標本数	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,011	25	175	450	25	11	275	50	200	36
		100.0	2.5	17.3	44.5	2.5	1.1	27.2	4.9	19.8	3.6
年齢別	男性:18～29歳	37	－	2.7	56.8	13.5	2.7	24.3	－	2.7	16.2
	男性:30～39歳	49	2.0	8.2	46.9	2.0	4.1	36.7	－	10.2	6.1
	男性:40～49歳	73	2.7	16.4	49.3	4.1	2.7	23.3	1.4	19.1	6.8
	男性:50～59歳	62	－	19.4	54.8	3.2	－	19.4	3.2	19.4	3.2
	男性:60～69歳	83	－	15.7	47.0	4.8	1.2	28.9	2.4	15.7	6.0
	男性:70歳以上	91	3.3	17.6	45.1	1.1	－	26.4	6.6	20.9	1.1
	女性:18～29歳	47	4.3	14.9	51.1	－	2.1	23.4	4.3	19.2	2.1
	女性:30～39歳	88	4.5	13.6	43.2	3.4	1.1	33.0	1.1	18.1	4.5
	女性:40～49歳	83	6.0	24.1	44.6	－	－	22.9	2.4	30.1	－
	女性:50～59歳	106	2.8	21.7	37.7	0.9	1.9	34.0	0.9	24.5	2.8
	女性:60～69歳	121	2.5	22.3	42.1	1.7	－	27.3	4.1	24.8	1.7
	女性:70歳以上	92	－	18.5	34.8	1.1	－	29.3	16.3	18.5	1.1
	どちらでもない・回答しない	27	－	11.1	48.1	7.4	3.7	25.9	3.7	11.1	11.1
	無回答	52	3.8	15.4	40.4	－	－	17.3	23.1	19.2	－
同居家族別	乳幼児(3歳未満)	55	－	14.5	52.7	5.5	3.6	20.0	3.6	14.5	9.1
	未就学児	66	3.0	16.7	43.9	4.5	3.0	27.3	1.5	19.7	7.5
	小・中学生	153	2.6	15.0	56.9	2.6	0.7	20.9	1.3	17.6	3.3
	高校生	70	5.7	18.6	55.7	1.4	－	15.7	2.9	24.3	1.4
	専門学校生	13	15.4	15.4	53.8	－	－	15.4	－	30.8	－
	大学・短大生	48	4.2	8.3	62.5	2.1	4.2	16.7	2.1	12.5	6.3
	65歳以上の人	416	1.9	19.5	43.5	1.4	0.7	24.8	8.2	21.4	2.1
	上記以外の人	759	3.2	16.9	44.3	3.0	1.3	28.1	3.3	20.1	4.3
	無回答	18	－	22.2	38.9	－	－	11.1	27.8	22.2	－

年齢別にみると、「平等になっている」は男女の 18～29 歳と男性の 50 代で５割を超えて高い。女性の 40 代では『男性優遇』が 30.1%と他の年代に比べ高くなっている。

同居家族別にみると、大学・短大生で「平等になっている」が 62.5%と最も高く、小・中学生、高校生、乳幼児（３歳未満）が同居家族にいる世帯でも５割を超えて高い。

ウ．職場の中で

図表８－６　職場の中での男女の地位の平等観［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）



資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果

資料：令和６年 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査結果

職場での『男性優遇』は 43.0%、「平等になっている」は 31.4%と８分野中２番目の高さである。

性別にみると、女性の『男性優遇』が 46.8%と男性（38.7%）より 8.1 ポイント高い。

前回調査と比べると、男性は『男性優遇』が 13.6 ポイント減少し、「平等になっている」が 5.2 ポイント増加している。女性も『男性優遇』が 8.1 ポイント減少しているが、「平等になっている」の割合は変わらない。

福岡県調査と比べると、男女とも『男性優遇』が 6.6～6.7 ポイント今回調査の方が低く、「平等になっている」が 4.4～5.2 ポイント高い。

全国調査と比べると、男女とも「平等になっている」が 4.7～7.1 ポイント今回調査の方が高く、『男性優遇』が 18.1～23.0 ポイント低い。

図表８ - ７　職場の中での男女の地位の平等観［全体、年齢別、職業の有無別］

(%)

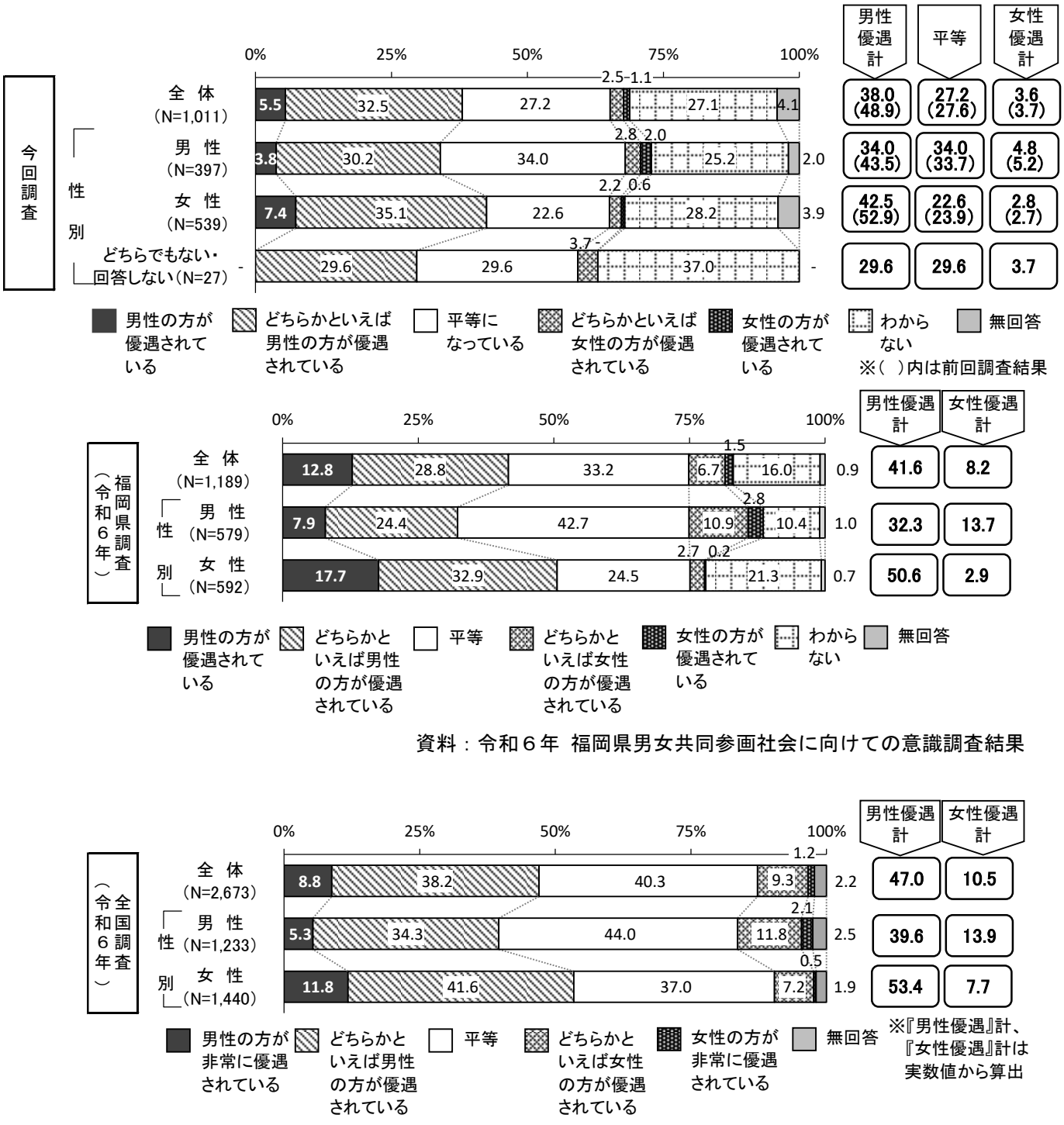
		標本数	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	**男性優遇計**	**女性優遇計**
全 体		1,011 100.0	77 7.6	358 35.4	317 31.4	49 4.8	12 1.2	155 15.3	43 4.3	**435 43.0**	**61 6.0**
年齢別	男性:18～29歳	37	5.4	18.9	37.8	16.2	0.0	21.6	0.0	**24.3**	**16.2**
	男性:30～39歳	49	10.2	24.5	34.7	10.2	12.2	8.2	0.0	**34.7**	**22.4**
	男性:40～49歳	73	11.0	20.5	38.4	13.7	6.8	6.8	2.7	**31.5**	**20.5**
	男性:50～59歳	62	3.2	33.9	43.5	4.8	1.6	11.3	1.6	**37.1**	**6.4**
	男性:60～69歳	83	2.4	39.8	32.5	9.6	0.0	13.3	2.4	**42.2**	**9.6**
	男性:70歳以上	91	2.2	47.3	24.2	1.1	0.0	19.8	5.5	**49.5**	**1.1**
	女性:18～29歳	47	6.4	23.4	36.2	4.3	0.0	23.4	6.4	**29.8**	**4.3**
	女性:30～39歳	88	11.4	26.1	40.9	3.4	0.0	18.2	0.0	**37.5**	**3.4**
	女性:40～49歳	83	10.8	34.9	34.9	2.4	0.0	14.5	2.4	**45.7**	**2.4**
	女性:50～59歳	106	4.7	42.5	29.2	3.8	0.0	18.9	0.9	**47.2**	**3.8**
	女性:60～69歳	121	9.9	45.5	29.8	0.8	0.0	10.7	3.3	**55.4**	**0.8**
	女性:70歳以上	92	12.0	42.4	10.9	1.1	0.0	21.7	12.0	**54.4**	**1.1**
	どちらでもない・回答しない	27	7.4	29.6	33.3	7.4	0.0	18.5	3.7	**37.0**	**7.4**
	無回答	52	7.7	32.7	26.9	1.9	0.0	9.6	21.2	**40.4**	**1.9**
職業の有無別	男性:職業をもっている	279	6.8	28.3	40.9	9.7	3.6	9.0	1.8	**35.1**	**13.3**
	男性:職業をもっていない	110	2.7	45.5	18.2	5.5	1.8	24.5	1.8	**48.2**	**7.3**
	女性:職業をもっている	350	7.7	34.0	39.7	3.4	0.0	12.6	2.6	**41.7**	**3.4**
	女性:職業をもっていない	186	12.4	44.6	11.8	0.5	0.0	24.2	6.5	**57.0**	**0.5**
	どちらでもない・回答しない	27	7.4	29.6	33.3	7.4	0.0	18.5	3.7	**37.0**	**7.4**
	無回答	59	5.1	32.2	22.0	1.7	0.0	15.3	23.7	**37.3**	**1.7**

年齢別にみると、「平等になっている」は男性の 50 代と女性の 30 代で４割台と高い。『男性優遇』は男女とも年齢の高い層で割合が高い傾向がみられる。

職業の有無別でみると、男女とも職業をもっていない人の方がもっている人よりも『男性優遇』の割合が 13.1～15.3 ポイント高く、「平等になっている」はもっている人の方が 22.7～27.9 ポイント高い。

エ．地域活動の場で

図表８－８　地域活動の場での男女の地位の平等観［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）



※自治会やPTAなどの地域活動の場

資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果

資料：令和６年 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査結果

地域活動の場では、『男性優遇』が 38.0%、「平等である」は 27.2%である。

性別にみると、「平等になっている」は男性が 34.0%、女性が 22.6%と男性の方が 11.4 ポイント高く、『男性優遇』は男性が 34.0%、女性は 42.5%と女性の方が 8.5 ポイント高い。

Ⅱ　調査結果

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が 9.5～10.4 ポイント減っているが、「平等になっている」は男女とも前回調査と同程度の割合である。

福岡県調査と比べると、女性の『男性優遇』は今回調査の方が 8.1 ポイント低く、男性は「平等になっている」が 8.7 ポイント低い。

全国調査と比べると、今回調査の方が男女とも「平等になっている」は 10.0～14.4 ポイント低く、地域活動での平等観は、男女とも全国と比べると低い。

図表８ - ９　地域活動の場での男女の地位の平等観［全体、年齢別］

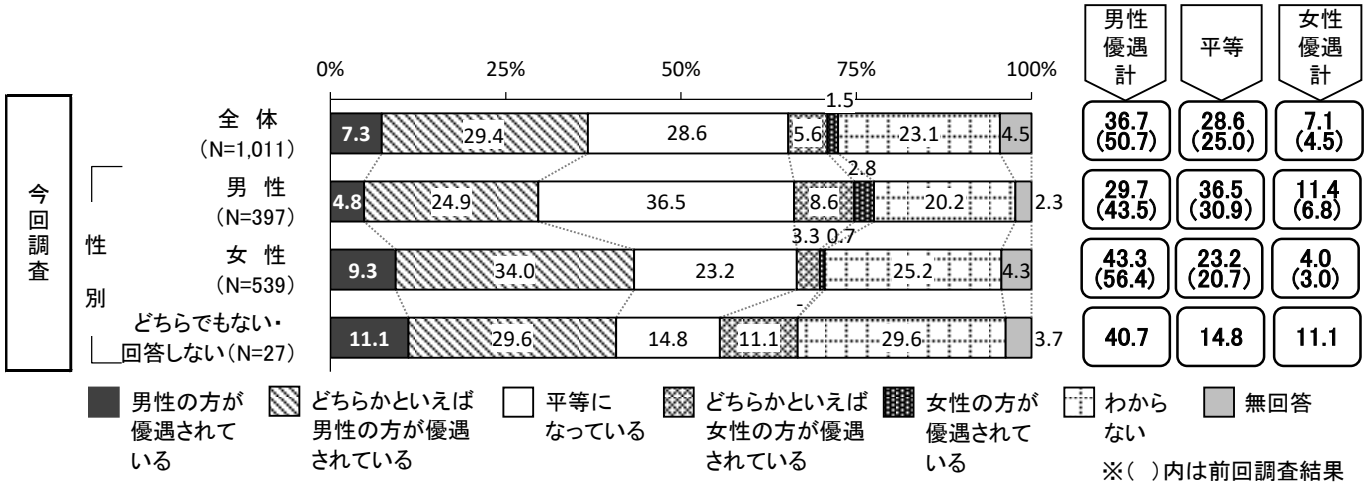
(%)

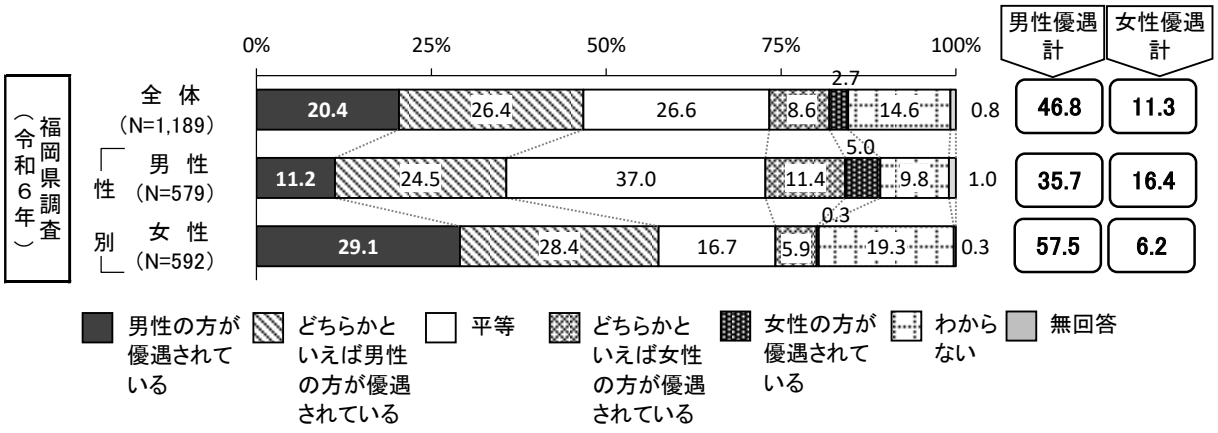
		標本数	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	**男性優遇計**	**女性優遇計**
全体		1,011	56	329	275	25	11	274	41	**385**	**36**
		100.0	5.5	32.5	27.2	2.5	1.1	27.1	4.1	**38.0**	**3.6**
年齢別	男性:18～29歳	37	－	8.1	43.2	5.4	2.7	40.5	－	**8.1**	**8.1**
	男性:30～39歳	49	2.0	22.4	24.5	6.1	6.1	38.8	－	**24.4**	**12.2**
	男性:40～49歳	73	5.5	24.7	37.0	2.7	2.7	26.0	1.4	**30.2**	**5.4**
	男性:50～59歳	62	4.8	38.7	24.2	6.5	1.6	22.6	1.6	**43.5**	**8.1**
	男性:60～69歳	83	4.8	33.7	38.6	－	1.2	19.3	2.4	**38.5**	**1.2**
	男性:70歳以上	91	2.2	38.5	36.3	－	－	18.7	4.4	**40.7**	**－**
	女性:18～29歳	47	10.6	21.3	29.8	2.1	－	31.9	4.3	**31.9**	**2.1**
	女性:30～39歳	88	4.5	26.1	23.9	3.4	－	40.9	1.1	**30.6**	**3.4**
	女性:40～49歳	83	9.6	36.1	18.1	2.4	－	31.3	2.4	**45.7**	**2.4**
	女性:50～59歳	106	7.5	44.3	17.0	1.9	－	28.3	0.9	**51.8**	**1.9**
	女性:60～69歳	121	5.8	38.8	29.8	1.7	1.7	19.0	3.3	**44.6**	**3.4**
	女性:70歳以上	92	8.7	34.8	18.5	2.2	1.1	22.8	12.0	**43.5**	**3.3**
	どちらでもない・回答しない	27	－	29.6	29.6	3.7	－	37.0	－	**29.6**	**3.7**
	無回答	52	3.8	25.0	21.2	1.9	－	25.0	23.1	**28.8**	**1.9**

年齢別にみると、『男性優遇』は女性の 50 代で 51.8%と最も高く、また 40 代と 60 代でも４割台半ばである。地域活動を行うと思われる年代の女性では男性優遇との認識が高い。男性の 18～29 歳では「平等になっている」が 43.2%と最も高く、また 40 代と 60 代でも約４割と他の年代に比べて高くなっている。

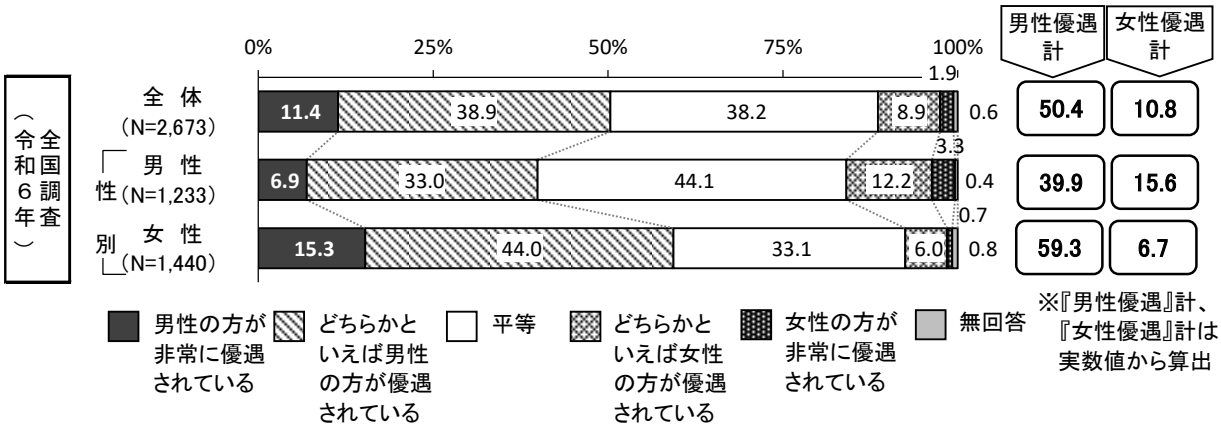
オ．法律や制度の上で

図表８ - 10　法律や制度の上での男女の地位の平等観［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）





資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和６年 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査結果

法律や制度の上での『男性優遇』は 36.7%、「平等になっている」は 28.6%である。

性別にみると、「平等になっている」は男性が 36.5%、女性は 23.2%と男性の方が 13.3 ポイント高く、『男性優遇』は女性が 43.3%、男性は 29.7%と女性の方が 13.6 ポイント高いなど、男女の認識の差が大きい分野である。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が13.1～13.8ポイント減り、「平等になっている」が2.5～5.6ポイント増えている。

福岡県調査と比べると、男女とも『男性優遇』が今回調査の方が 6.0～14.2 ポイント低く、「平等になっている」は女性で今回調査の方が6.5ポイント高くなっている。

全国調査と比べると、男女とも「平等になっている」は今回調査の方が 7.6～9.9 ポイント低い。

図表８ - 11　法律や制度の上での男女の地位の平等観［全体、年齢別］

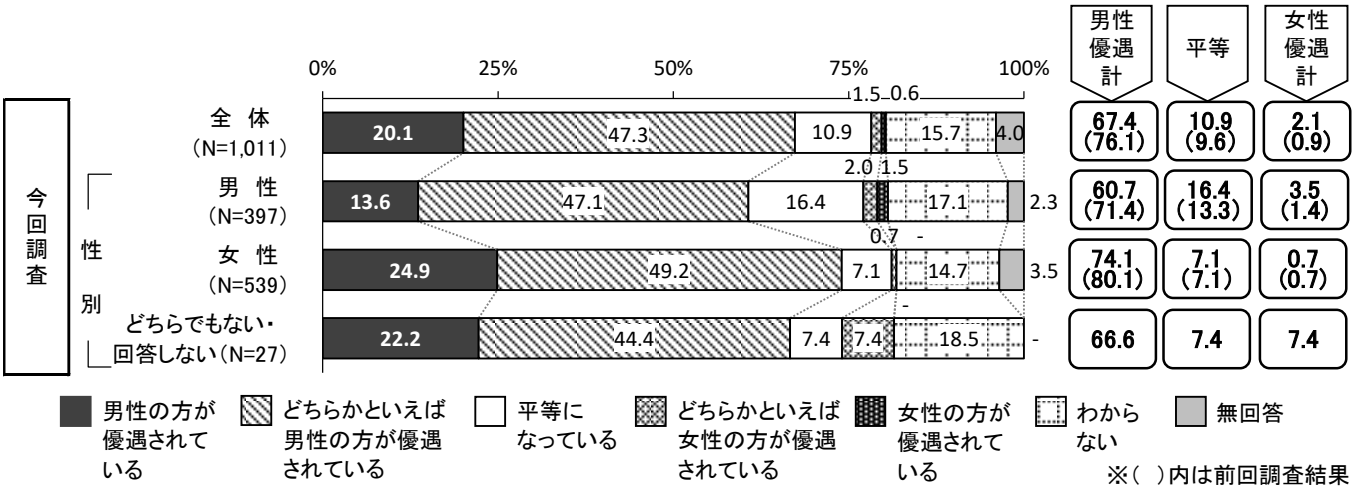
(%)

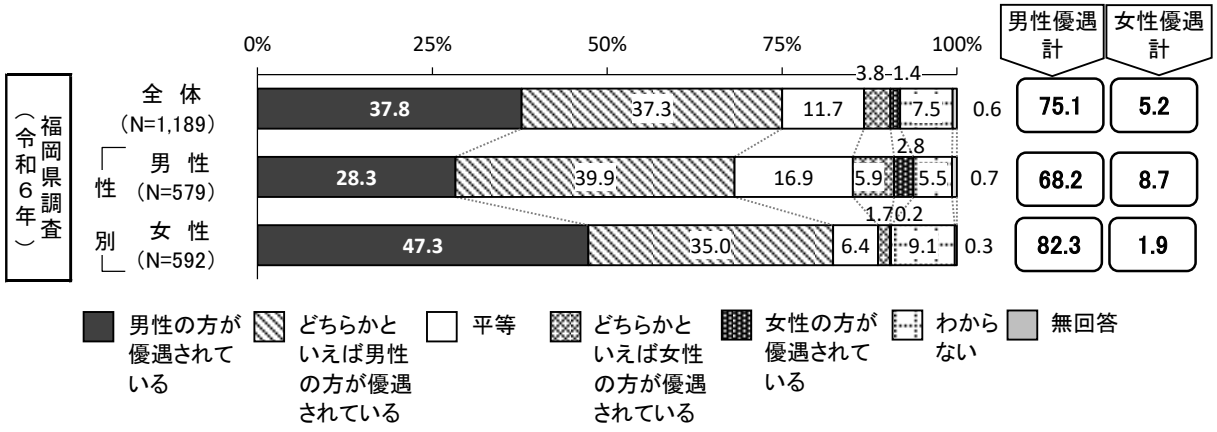
		標本数	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,011 100.0	74 7.3	297 29.4	289 28.6	57 5.6	15 1.5	234 23.1	45 4.5	**371** **36.7**	**72** **7.1**
年齢別	男性:18～29歳	37	5.4	16.2	27.0	13.5	2.7	35.1	－	**21.6**	**16.2**
	男性:30～39歳	49	8.2	12.2	30.6	20.4	12.2	16.3	－	**20.4**	**32.6**
	男性:40～49歳	73	5.5	23.3	38.4	8.2	4.1	19.2	1.4	**28.8**	**12.3**
	男性:50～59歳	62	3.2	29.0	32.3	9.7	1.6	22.6	1.6	**32.2**	**11.3**
	男性:60～69歳	83	3.6	31.3	37.3	6.0	－	19.3	2.4	**34.9**	**6.0**
	男性:70歳以上	91	3.3	27.5	45.1	2.2	－	16.5	5.5	**30.8**	**2.2**
	女性:18～29歳	47	19.1	31.9	17.0	2.1	2.1	23.4	4.3	**51.0**	**4.2**
	女性:30～39歳	88	11.4	30.7	22.7	6.8	1.1	26.1	1.1	**42.1**	**7.9**
	女性:40～49歳	83	13.3	33.7	16.9	4.8	－	28.9	2.4	**47.0**	**4.8**
	女性:50～59歳	106	10.4	39.6	16.0	1.9	0.9	29.2	1.9	**50.0**	**2.8**
	女性:60～69歳	121	5.0	38.0	30.6	1.7	－	21.5	3.3	**43.0**	**1.7**
	女性:70歳以上	92	3.3	27.2	30.4	3.3	1.1	21.7	13.0	**30.5**	**4.4**
	どちらでもない・回答しない	27	11.1	29.6	14.8	11.1	－	29.6	3.7	**40.7**	**11.1**
	無回答	52	5.8	15.4	30.8	3.8	－	21.2	23.1	**21.2**	**3.8**

年齢別でみると、女性の 18～29 歳と 40 代、50 代では「平等になっている」が１割台半ばと他の年代に比べて低く、『男性優遇』が５割前後と高いことから、この年代で男性優遇との認識が高いようである。

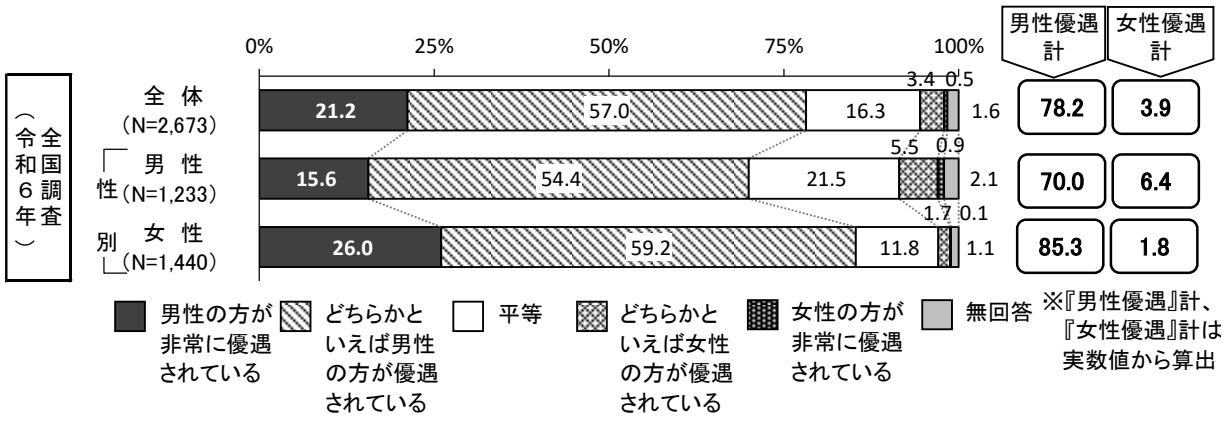
カ．慣習・しきたりの中で

図表８ - 12　慣習・しきたりの中での男女の地位の平等観［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）





資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和６年 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査結果

慣習・しきたりの中で、「平等である」は 10.9％と低く、『男性優遇』は 67.4％と８分野中最も高く、男性優遇が強く認識されている分野である。

性別にみると、『男性優遇』は女性が 74.1％と男性（60.7％）を 13.4 ポイント上回り、女性の方が慣習・しきたりの中では男性優遇との認識が高い。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が今回調査の方が 6.0～10.7 ポイント減り、特に男性の減り幅の方が大きい。

福岡県調査と比べると、男女とも『男性優遇』は今回調査の方が 7.5～8.2 ポイント低い。

全国調査と比べると、男女とも「平等になっている」は今回調査の方が 4.7～5.1 ポイント低い。

図表８ - 13　慣習・しきたりの中での男女の地位の平等観［全体、年齢別］

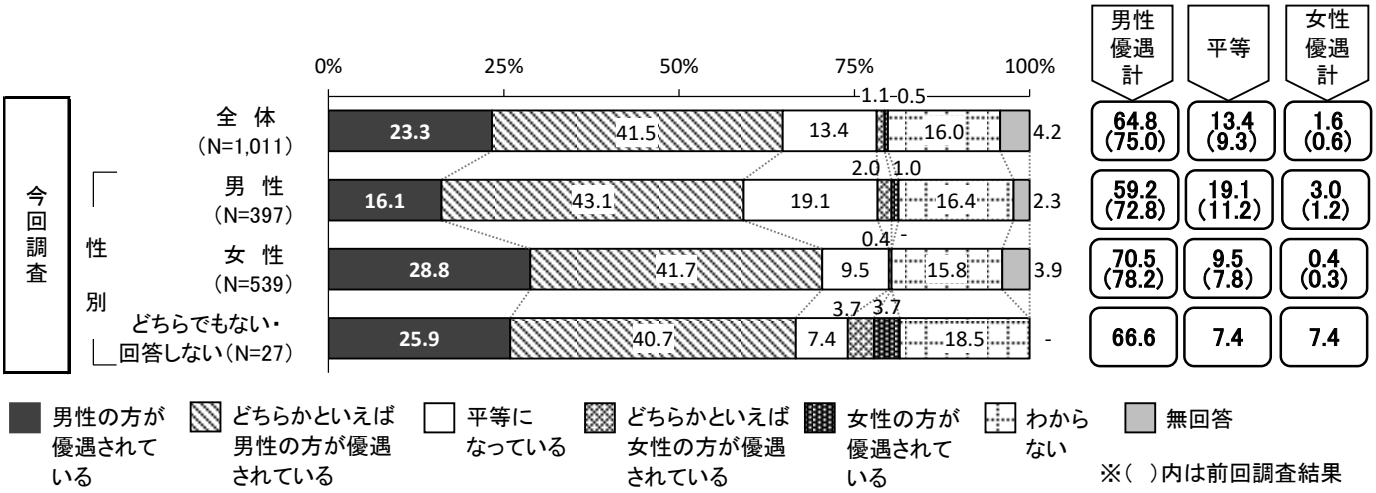
(%)

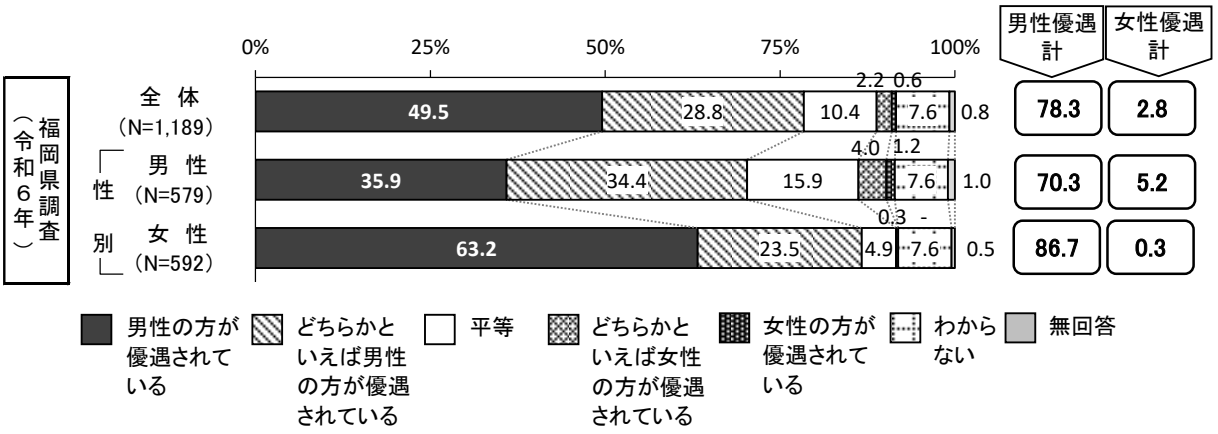
		標本数	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	男性優遇計	女性優遇計
全体		1,011 100.0	203 20.1	478 47.3	110 10.9	15 1.5	6 0.6	159 15.7	40 4.0	**681** **67.4**	**21** **2.1**
年齢別	男性:18～29歳	37	5.4	32.4	21.6	2.7	2.7	35.1	－	**37.8**	**5.4**
	男性:30～39歳	49	16.3	36.7	16.3	4.1	6.1	20.4	－	**53.0**	**10.2**
	男性:40～49歳	73	16.4	50.7	15.1	－	2.7	13.7	1.4	**67.1**	**2.7**
	男性:50～59歳	62	19.4	41.9	16.1	－	－	21.0	1.6	**61.3**	**－**
	男性:60～69歳	83	12.0	48.2	14.5	4.8	－	18.1	2.4	**60.2**	**4.8**
	男性:70歳以上	91	9.9	58.2	17.6	1.1	－	7.7	5.5	**68.1**	**1.1**
	女性:18～29歳	47	29.8	31.9	8.5	－	－	25.5	4.3	**61.7**	**－**
	女性:30～39歳	88	26.1	44.3	8.0	1.1	－	19.3	1.1	**70.4**	**1.1**
	女性:40～49歳	83	33.7	44.6	6.0	1.2	－	12.0	2.4	**78.3**	**1.2**
	女性:50～59歳	106	23.6	51.9	3.8	0.9	－	17.9	1.9	**75.5**	**0.9**
	女性:60～69歳	121	24.0	57.9	5.8	－	－	9.1	3.3	**81.9**	**－**
	女性:70歳以上	92	16.3	52.2	10.9	1.1	－	10.9	8.7	**68.5**	**1.1**
	どちらでもない・回答しない	27	22.2	44.4	7.4	7.4	－	18.5	－	**66.6**	**7.4**
	無回答	52	19.2	30.8	11.5	1.9	－	13.5	23.1	**50.0**	**1.9**

年齢別にみると、女性は18～29歳と70歳以上を除く年代で『男性優遇』が７割を超えており、特に60代は81.9%と最も高い。

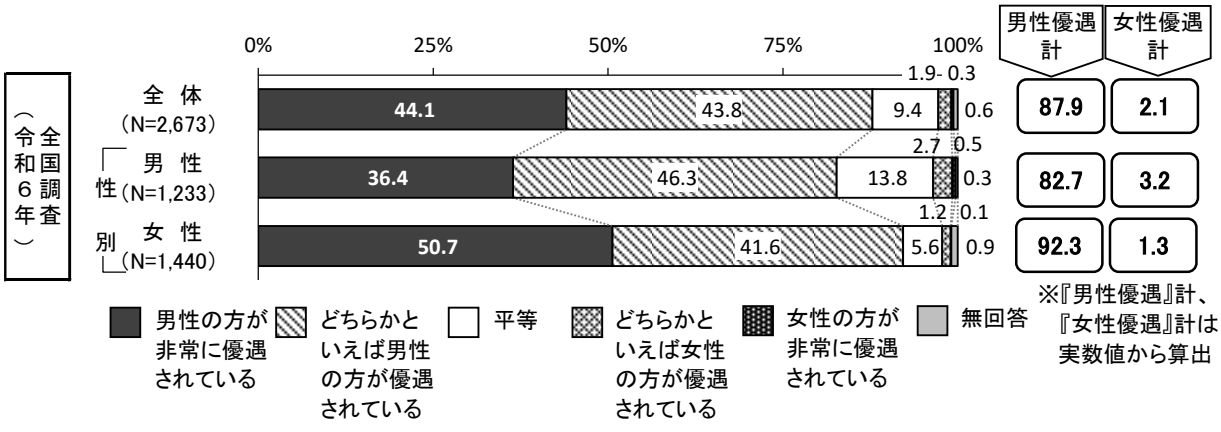
キ．政治・政策決定の場で

図表８ - 14　政治・政策決定の場での男女の地位の平等観［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）





資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和６年 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査結果

政治・政策決定の場では、「平等になっている」は 13.4%と低く、『男性優遇』は 64.8%と高く、慣習・しきたりと同様に男性優遇が強く認識されている分野である。

性別にみると、『男性優遇』は男性で 59.2%、女性は 70.5%と女性の方が 11.3 ポイント高く、女性の方が政治・政策決定の場では男性優遇との認識が高い。

前回調査と比べると、男性で「平等になっている」が 7.9 ポイント増え、『男性優遇』が 13.6 ポイント減っており、今回調査の方が男性優遇との認識は低くなっている。

福岡県調査と比べると、男女とも『男性優遇』の割合が 11.1～16.2 ポイント低く、「平等になっている」は 3.2～4.6 ポイント高い。福岡県に比べて男性優遇との認識が低い。

全国調査と比べると、男女とも「平等になっている」は 3.9～5.3 ポイント高く、全国に比べ男性優遇との認識は低い。

図表８ - 15　政治・政策決定の場での男女の地位の平等観［全体、年齢別］

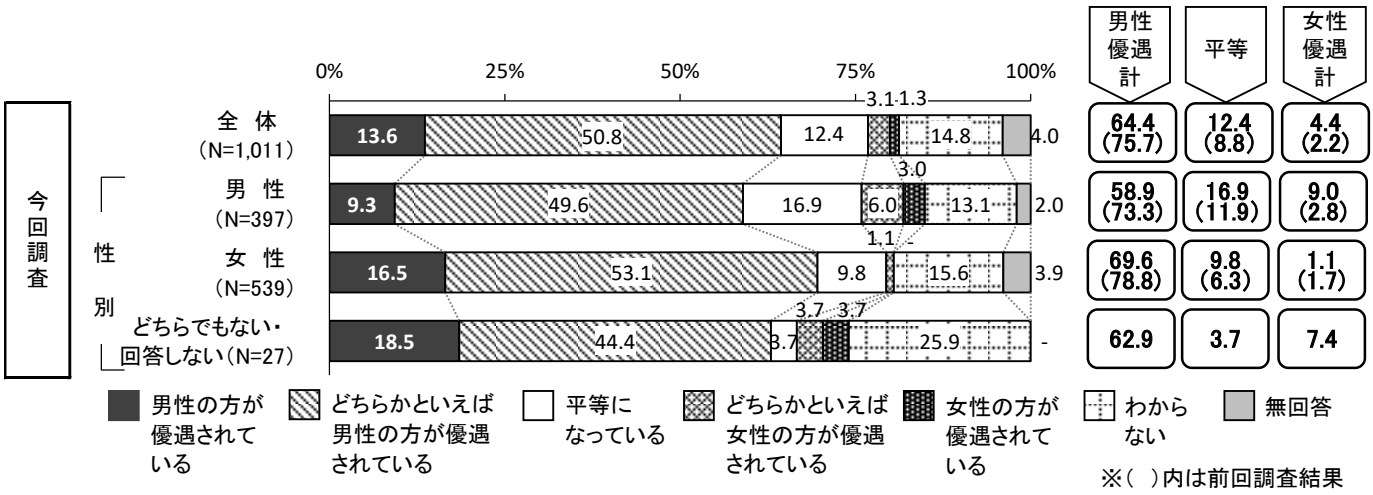
(%)

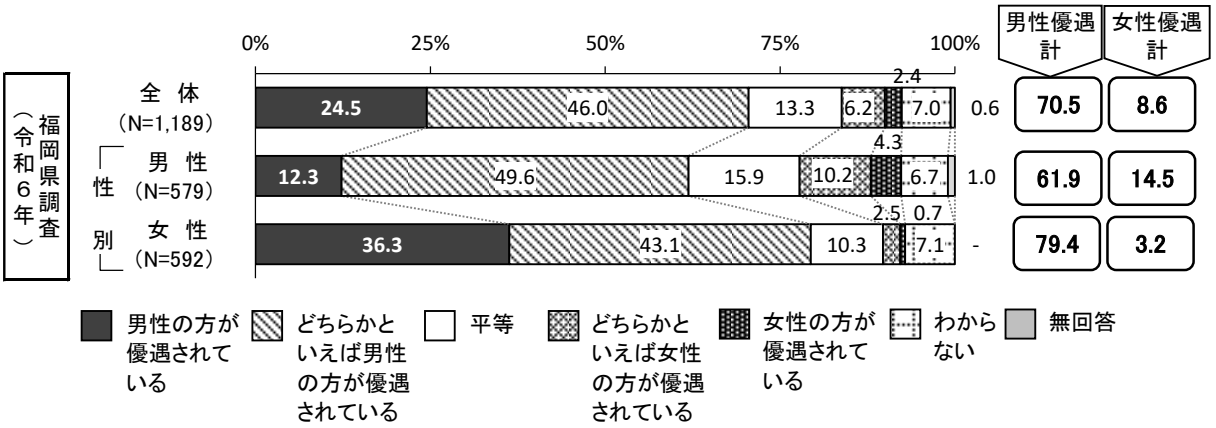
		標本数	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	**男性優遇計**	**女性優遇計**
全体		1,011 100.0	236 23.3	420 41.5	135 13.4	11 1.1	5 0.5	162 16.0	42 4.2	**656 64.8**	**16 1.6**
年齢別	男性:18～29歳	37	13.5	37.8	18.9	2.7	－	27.0	－	**51.3**	**2.7**
	男性:30～39歳	49	24.5	36.7	14.3	－	6.1	18.4	－	**61.2**	**6.1**
	男性:40～49歳	73	20.5	35.6	21.9	5.5	1.4	13.7	1.4	**56.1**	**6.9**
	男性:50～59歳	62	11.3	46.8	17.7	3.2	－	19.4	1.6	**58.1**	**3.2**
	男性:60～69歳	83	16.9	43.4	20.5	1.2	－	15.7	2.4	**60.3**	**1.2**
	男性:70歳以上	91	11.0	51.6	19.8	－	－	12.1	5.5	**62.6**	**－**
	女性:18～29歳	47	38.3	31.9	8.5	2.1	－	14.9	4.3	**70.2**	**2.1**
	女性:30～39歳	88	34.1	31.8	14.8	－	－	18.2	1.1	**65.9**	**－**
	女性:40～49歳	83	34.9	39.8	6.0	1.2	－	15.7	2.4	**74.7**	**1.2**
	女性:50～59歳	106	29.2	45.3	5.7	－	－	18.9	0.9	**74.5**	**－**
	女性:60～69歳	121	27.3	49.6	9.1	－	－	10.7	3.3	**76.9**	**－**
	女性:70歳以上	92	15.2	43.5	12.0	－	－	17.4	12.0	**58.7**	**－**
	どちらでもない・回答しない	27	25.9	40.7	7.4	3.7	3.7	18.5	－	**66.6**	**7.4**
	無回答	52	21.2	28.8	13.5	－	－	13.5	23.1	**50.0**	**－**

年齢別でみると、男女とも年齢の高い層で『男性優遇』の割合が高い傾向がみられるが、女性の 18～29 歳では 70.2%と 30 代よりも 4.3 ポイント高く、同年代の男性と比べて 18.9 ポイント高い。

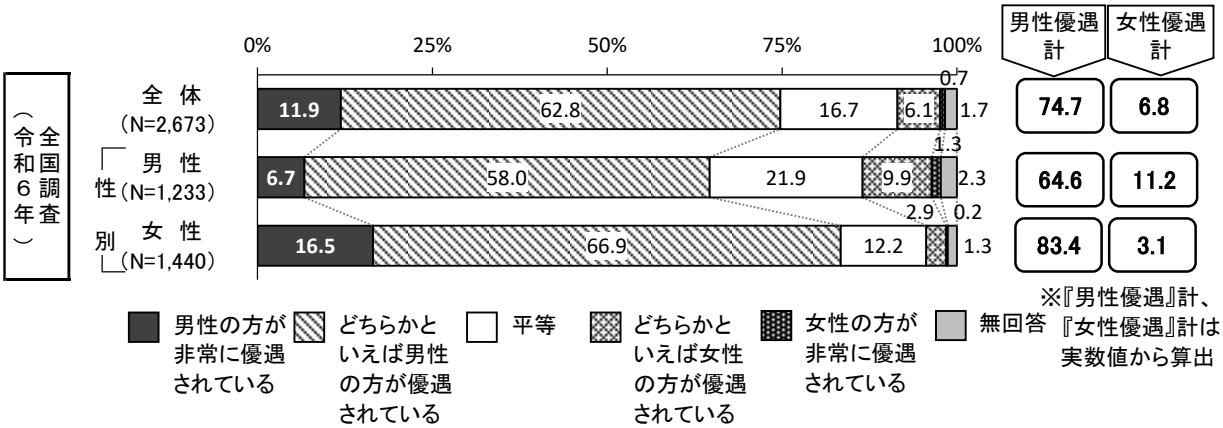
ク．社会全体では

図表８ - 16　社会全体での男女の地位の平等観［全体、性別］（前回・福岡県・全国調査比較）





資料：令和６年 福岡県男女共同参画社会に向けての意識調査結果



資料：令和６年 内閣府男女共同参画社会に関する世論調査結果

社会全体でみると、『男性優遇』は 64.4%、「平等になっている」は 12.4%と男性優遇の社会ととらえられている。

性別にみると、『男性優遇』は女性で 69.6%、男性で 58.9%と女性の方が 10.7 ポイント高い。

前回調査と比べると、男女とも『男性優遇』が 9.2～14.4 ポイント減り、「平等になっている」は 3.5～5.0 ポイント高く、今回調査の方が男性優遇との認識は低くなっている。

福岡県調査と比べると、今回調査の方が男女とも『男性優遇』は 3.0～9.8 ポイント低く、特に女性の減り幅が大きい。

全国調査と比べると、「平等になっている」の割合は男女とも今回調査の方が低く、特に男性は 5.0 ポイント低い。

図表８ - 17　社会全体での男女の地位の平等観［全体、年齢別］

(%)

		標本数	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない	無回答	**男性優遇計**	**女性優遇計**
全 体		1,011 100.0	138 13.6	514 50.8	125 12.4	31 3.1	13 1.3	150 14.8	40 4.0	**652 64.4**	**44 4.4**
年齢別	男性:18～29歳	37	5.4	35.1	16.2	18.9	2.7	21.6	－	**40.5**	**21.6**
	男性:30～39歳	49	8.2	46.9	18.4	14.3	6.1	6.1	－	**55.1**	**20.4**
	男性:40～49歳	73	11.0	41.1	19.2	6.8	8.2	12.3	1.4	**52.1**	**15.0**
	男性:50～59歳	62	6.5	48.4	17.7	4.8	1.6	19.4	1.6	**54.9**	**6.4**
	男性:60～69歳	83	10.8	53.0	18.1	2.4	1.2	12.0	2.4	**63.8**	**3.6**
	男性:70歳以上	91	11.0	60.4	13.2	－	－	11.0	4.4	**71.4**	－
	女性:18～29歳	47	17.0	44.7	10.6	－	－	23.4	4.3	**61.7**	－
	女性:30～39歳	88	15.9	46.6	12.5	2.3	－	20.5	2.3	**62.5**	**2.3**
	女性:40～49歳	83	20.5	49.4	6.0	2.4	－	18.1	3.6	**69.9**	**2.4**
	女性:50～59歳	106	16.0	56.6	8.5	0.9	－	17.0	0.9	**72.6**	**0.9**
	女性:60～69歳	121	15.7	61.2	11.6	0.8	－	7.4	3.3	**76.9**	**0.8**
	女性:70歳以上	92	15.2	52.2	9.8	－	－	13.0	9.8	**67.4**	－
	どちらでもない・回答しない	27	18.5	44.4	3.7	3.7	3.7	25.9	－	**62.9**	**7.4**
	無回答	52	13.5	42.3	7.7	－	－	15.4	21.2	**55.8**	－

年齢別でみると、『男性優遇』は女性の 60 代で 76.9%と最も高く、また 50 代と男性の 70 歳以上でも７割台と高い。

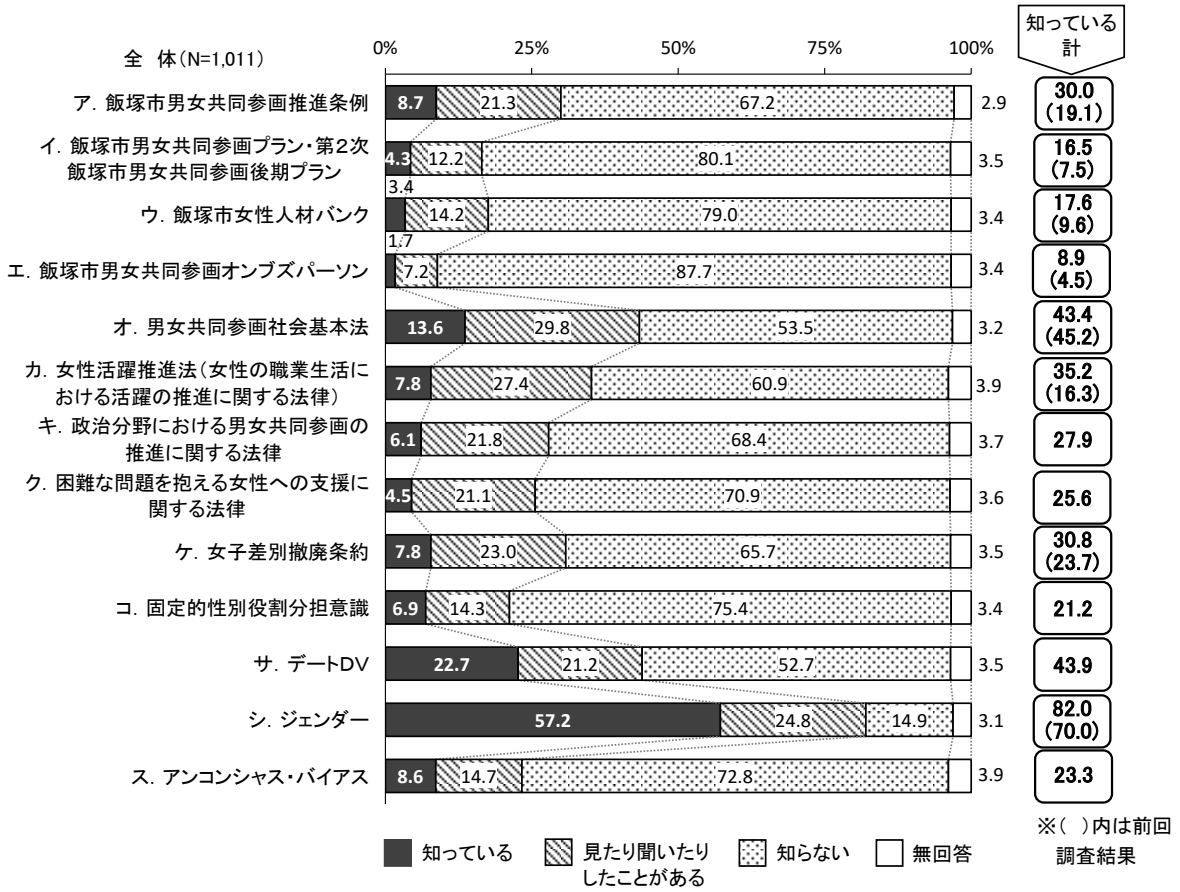
第９章　男女共同参画社会の実現について

１．男女共同参画に関する言葉やことがらの認知

問２０　次のア～スの言葉やことがらで知っているものはありますか。各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

●「ジェンダー」の認知は 82.0%と最も高い。「男女共同参画社会基本法」「デートＤＶ」は４割台、「女性活躍推進法」「女子差別撤廃条約」「飯塚市男女共同参画推進条例」は３割台の認知。
●飯塚市の取組みについての認知は前回調査より上昇。

図表９－１　男女共同参画に関する言葉やことがらの認知［全体］（前回調査比較）



男女共同参画に関する言葉やことがらの認知をたずねた。「知っている」「見たり聞いたりしたことがある」をあわせた認知が最も高いのは「ジェンダー」で 82.0%である。次いで「男女共同参画社会基本法」（43.4%）、「デートＤＶ」（43.9%）が４割台、「女性活躍推進法」（35.2%）、「女子餌別撤廃条約」（30.8%）、「飯塚市男女共同参画推進条例」（30.0%）などが３割台となっている。その他、飯塚市の取り組みである「飯塚市男女共同参画プラン・第２次飯塚市男女共同参画後期プラン」は 16.5%、「飯塚市女性人材バンク」は 17.6%、「飯塚市男女共同参画オンブズパーソン」は 8.9%である。

前回調査と比べると、前回は複数回答で見たり聞いたりしたものをたずねているため正確な比較はできないが、「男女共同参画社会基本法」は同程度で、その他の比べられる項目のほとんどは認知が今回調査の方が高くなっている。

Ⅱ　調査結果

飯塚市の取組みの認知を性別にみると、男女ともあまり大きな違いはみられないが、「飯塚市女性人材バンク」は女性の認知が 20.9％と男性（12.3％）よりも 8.6 ポイント高い。

年齢別にみると、男女とも年齢の高い層で認知が高い傾向がみられるが、「飯塚市男女共同参画オンブズパーソン」は男性の 40 代と 50 代、女性の 18～29 歳と 60 代で認知が 1 割台と他の年齢に比べて高い。

図表９－２（１）　男女共同参画に関する言葉やことがらの認知［全体、性別、年齢別］

（%）

		標本数	ア. 飯塚市男女共同参画推進条例					イ. 飯塚市男女共同参画プラン・第2次飯塚市男女共同参画後期プラン				
			知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている	知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている
全体		1,011	88	215	679	29	**303**	43	123	810	35	**166**
		100.0	8.7	21.3	67.2	2.9	**30.0**	4.3	12.2	80.1	3.5	**16.5**
性別	男性	397	8.8	20.9	68.5	1.8	**29.7**	5.0	10.8	82.4	1.8	**15.8**
	女性	539	7.6	22.8	67.0	2.6	**30.4**	3.5	13.4	79.6	3.5	**16.9**
	どちらでもない・回答しない	27	14.8	7.4	77.8	－	**22.2**	3.7	11.1	85.2	－	**14.8**
	無回答	48	16.7	14.6	52.1	16.7	**31.3**	6.3	10.4	64.6	18.8	**16.7**
年齢別	男性:18～29歳	37	8.1	8.1	83.8	－	**16.2**	5.4	5.4	89.2	－	**10.8**
	男性:30～39歳	49	8.2	14.3	77.6	－	**22.5**	8.2	8.2	83.7	－	**16.4**
	男性:40～49歳	73	8.2	24.7	65.8	1.4	**32.9**	2.7	13.7	82.2	1.4	**16.4**
	男性:50～59歳	62	4.8	22.6	72.6	－	**27.4**	4.8	6.5	88.7	－	**11.3**
	男性:60～69歳	83	4.8	25.3	66.3	3.6	**30.1**	3.6	15.7	77.1	3.6	**19.3**
	男性:70歳以上	91	15.4	22.0	59.3	3.3	**37.4**	5.5	11.0	80.2	3.3	**16.5**
	女性:18～29歳	47	4.3	21.3	72.3	2.1	**25.6**	4.3	10.6	83.0	2.1	**14.9**
	女性:30～39歳	88	5.7	15.9	78.4	－	**21.6**	3.4	9.1	87.5	－	**12.5**
	女性:40～49歳	83	7.2	15.7	74.7	2.4	**22.9**	3.6	12.0	81.9	2.4	**15.6**
	女性:50～59歳	106	9.4	20.8	68.9	0.9	**30.2**	5.7	10.4	83.0	0.9	**16.1**
	女性:60～69歳	121	6.6	29.8	62.0	1.7	**36.4**	2.5	14.9	78.5	4.1	**17.4**
	女性:70歳以上	92	10.9	30.4	50.0	8.7	**41.3**	2.2	21.7	65.2	10.9	**23.9**
	どちらでもない・回答しない	27	14.8	7.4	77.8	－	**22.2**	3.7	11.1	85.2	－	**14.8**
	無回答	52	17.3	13.5	53.8	15.4	**30.8**	7.7	9.6	65.4	17.3	**17.3**

		標本数	ウ. 飯塚市女性人材バンク					エ. 飯塚市男女共同参画オンブズパーソン				
			知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている	知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている
全体		1,011	34	144	799	34	**178**	17	73	887	34	**90**
		100.0	3.4	14.2	79.0	3.4	**17.6**	1.7	7.2	87.7	3.4	**8.9**
性別	男性	397	3.0	9.3	85.9	1.8	**12.3**	1.5	8.1	88.7	1.8	**9.6**
	女性	539	3.5	17.4	75.7	3.3	**20.9**	1.5	6.7	88.7	3.2	**8.2**
	どちらでもない・回答しない	27	7.4	18.5	74.1	－	**25.9**	7.4	3.7	88.9	－	**11.1**
	無回答	48	2.1	16.7	62.5	18.8	**18.8**	2.1	8.3	68.8	20.8	**10.4**
年齢別	男性:18～29歳	37	5.4	－	94.6	－	**5.4**	5.4	－	94.6	－	**5.4**
	男性:30～39歳	49	4.1	10.2	85.7	－	**14.3**	2.0	6.1	91.8	－	**8.1**
	男性:40～49歳	73	－	15.1	83.6	1.4	**15.1**	－	12.3	86.3	1.4	**12.3**
	男性:50～59歳	62	－	12.9	87.1	－	**12.9**	－	11.3	88.7	－	**11.3**
	男性:60～69歳	83	2.4	9.6	84.3	3.6	**12.0**	－	7.2	89.2	3.6	**7.2**
	男性:70歳以上	91	5.5	5.5	85.7	3.3	**11.0**	2.2	7.7	86.8	3.3	**9.9**
	女性:18～29歳	47	－	17.0	78.7	4.3	**17.0**	－	10.6	87.2	2.1	**10.6**
	女性:30～39歳	88	2.3	14.8	83.0	－	**17.1**	2.3	3.4	94.3	－	**5.7**
	女性:40～49歳	83	4.8	14.5	78.3	2.4	**19.3**	2.4	4.8	90.4	2.4	**7.2**
	女性:50～59歳	106	6.6	20.8	71.7	0.9	**27.4**	0.9	5.7	92.5	0.9	**6.6**
	女性:60～69歳	121	1.7	19.8	76.0	2.5	**21.5**	1.7	8.3	86.8	3.3	**10.0**
	女性:70歳以上	92	4.3	16.3	69.6	9.8	**20.6**	1.1	8.7	80.4	9.8	**9.8**
	どちらでもない・回答しない	27	7.4	18.5	74.1	－	**25.9**	7.4	3.7	88.9	－	**11.1**
	無回答	52	3.8	15.4	61.5	19.2	**19.2**	3.8	7.7	69.2	19.2	**11.5**

国や世界の取組みについての認知を性別にみると、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」は男女とも２割台半ばと同程度の認知で、その他の取組みは男性の方が認知は高い。

年齢別にみると、ほとんどの項目で男女とも年齢の低い層で認知が高い傾向がみられ、特に女性に顕著で 18～29 歳の認知が高い。しかし、「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」のみは女性の 70 歳以上の認知が 38.1％と最も高い。

図表９－２（２）　男女共同参画に関する言葉やことがらの認知［全体、性別、年齢別］

(%)

		標本数	オ. 男女共同参画社会基本法					カ. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）					キ. 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律				
			知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている	知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている	知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている
全体		1,011	137	301	541	32	**438**	79	277	616	39	**356**	62	220	692	37	**282**
		100.0	13.6	29.8	53.5	3.2	**43.4**	7.8	27.4	60.9	3.9	**35.2**	6.1	21.8	68.4	3.7	**27.9**
性別	男性	397	17.4	30.7	50.1	1.8	**48.1**	8.8	30.5	58.2	2.5	**39.3**	8.3	25.9	64.0	1.8	**34.2**
	女性	539	10.6	30.6	55.8	3.0	**41.2**	7.1	26.3	63.1	3.5	**33.4**	4.3	19.7	72.4	3.7	**24.0**
	どちらでもない・回答しない	27	18.5	18.5	63.0	－	**37.0**	14.8	11.1	74.1	－	**25.9**	11.1	11.1	77.8	－	**22.2**
	無回答	48	12.5	18.8	50.0	18.8	**31.3**	4.2	22.9	52.1	20.8	**27.1**	6.3	16.7	56.3	20.8	**23.0**
年齢別	男性:18～29歳	37	45.9	13.5	40.5	－	**59.4**	13.5	29.7	54.1	2.7	**43.2**	21.6	18.9	59.5	－	**40.5**
	男性:30～39歳	49	20.4	24.5	55.1	－	**44.9**	10.2	30.6	59.2	－	**40.8**	10.2	20.4	69.4	－	**30.6**
	男性:40～49歳	73	13.7	42.5	42.5	1.4	**56.2**	13.7	41.1	42.5	2.7	**54.8**	9.6	28.8	60.3	1.4	**38.4**
	男性:50～59歳	62	11.3	38.7	50.0	－	**50.0**	6.5	37.1	54.8	1.6	**43.6**	6.5	29.0	64.5	－	**35.5**
	男性:60～69歳	83	12.0	27.7	56.6	3.6	**39.7**	8.4	22.9	65.1	3.6	**31.3**	4.8	24.1	67.5	3.6	**28.9**
	男性:70歳以上	91	16.5	28.6	51.6	3.3	**45.1**	4.4	24.2	68.1	3.3	**28.6**	5.5	28.6	62.6	3.3	**34.1**
	女性:18～29歳	47	25.5	40.4	31.9	2.1	**65.9**	25.5	27.7	44.7	2.1	**53.2**	12.8	27.7	55.3	4.3	**40.5**
	女性:30～39歳	88	15.9	28.4	55.7	－	**44.3**	5.7	27.3	67.0	－	**33.0**	5.7	15.9	78.4	－	**21.6**
	女性:40～49歳	83	7.2	25.3	65.1	2.4	**32.5**	6.0	27.7	62.7	3.6	**33.7**	3.6	13.3	80.7	2.4	**16.9**
	女性:50～59歳	106	11.3	29.2	58.5	0.9	**40.5**	5.7	31.1	61.3	1.9	**36.8**	4.7	16.0	77.4	1.9	**20.7**
	女性:60～69歳	121	5.8	30.6	61.2	2.5	**36.4**	5.0	19.8	72.7	2.5	**24.8**	1.7	19.8	76.0	2.5	**21.5**
	女性:70歳以上	92	6.5	34.8	48.9	9.8	**41.3**	4.3	26.1	58.7	10.9	**30.4**	2.2	29.3	57.6	10.9	**31.5**
	どちらでもない・回答しない	27	18.5	18.5	63.0	－	**37.0**	14.8	11.1	74.1	－	**25.9**	11.1	11.1	77.8	－	**22.2**
	無回答	52	11.5	19.2	51.9	17.3	**30.7**	3.8	25.0	51.9	19.2	**28.8**	5.8	17.3	55.8	21.2	**23.1**

		標本数	ク. 困難な問題を抱える女性への支援に関する法律					ケ. 女子差別撤廃条約				
			知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている	知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている
全体		1,011	45	213	717	36	**258**	79	233	664	35	**312**
		100.0	4.5	21.1	70.9	3.6	**25.6**	7.8	23.0	65.7	3.5	**30.8**
性別	男性	397	3.8	21.4	72.8	2.0	**25.2**	9.3	25.9	63.0	1.8	**35.2**
	女性	539	4.6	21.0	71.1	3.3	**25.6**	6.1	22.1	68.5	3.3	**28.2**
	どちらでもない・回答しない	27	14.8	11.1	74.1	－	**25.9**	14.8	22.2	63.0	－	**37.0**
	無回答	48	2.1	25.0	52.1	20.8	**27.1**	10.4	10.4	58.3	20.8	**20.8**
年齢別	男性:18～29歳	37	13.5	13.5	73.0	－	**27.0**	32.4	13.5	54.1	－	**45.9**
	男性:30～39歳	49	2.0	28.6	69.4	－	**30.6**	14.3	24.5	61.2	－	**38.8**
	男性:40～49歳	73	5.5	26.0	67.1	1.4	**31.5**	4.1	37.0	57.5	1.4	**41.1**
	男性:50～59歳	62	3.2	21.0	75.8	－	**24.2**	3.2	25.8	71.0	－	**29.0**
	男性:60～69歳	83	2.4	19.3	74.7	3.6	**21.7**	7.2	26.5	62.7	3.6	**33.7**
	男性:70歳以上	91	1.1	18.7	75.8	4.4	**19.8**	7.7	22.0	67.0	3.3	**29.7**
	女性:18～29歳	47	6.4	27.7	63.8	2.1	**34.1**	17.0	27.7	53.2	2.1	**44.7**
	女性:30～39歳	88	6.8	12.5	80.7	－	**19.3**	9.1	17.0	73.9	－	**26.1**
	女性:40～49歳	83	4.8	13.3	79.5	2.4	**18.1**	7.2	14.5	75.9	2.4	**21.7**
	女性:50～59歳	106	5.7	25.5	67.0	1.9	**31.2**	5.7	20.8	71.7	1.9	**26.5**
	女性:60～69歳	121	2.5	15.7	79.3	2.5	**18.2**	2.5	25.6	69.4	2.5	**28.1**
	女性:70歳以上	92	3.3	34.8	51.1	10.9	**38.1**	2.2	27.2	59.8	10.9	**29.4**
	どちらでもない・回答しない	27	14.8	11.1	74.1	－	**25.9**	14.8	22.2	63.0	－	**37.0**
	無回答	52	1.9	25.0	53.8	19.2	**26.9**	9.6	13.5	57.7	19.2	**23.1**

関連用語の認知を性別にみると、「ジェンダー」は男女とも８割を超えて同程度の割合である。「固定的性別役割分担意識」と「アンコンシャス・バイアス」は男性、「デートＤＶ」は女性の認知が高い。

年齢別にみると、いずれの項目も男女とも年齢の低い層での認知が高い傾向がみられる。

図表９－２（３）　男女共同参画に関する言葉やことがらの認知［全体、性別、年齢別］

（%）

		標本数	コ. 固定的性別役割分担意識					サ. デートDV				
			知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている	知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている
全体		1,011	70	145	762	34	**215**	229	214	533	35	**443**
		100.0	6.9	14.3	75.4	3.4	**21.2**	22.7	21.2	52.7	3.5	**43.9**
性別	男性	397	7.6	15.4	75.1	2.0	**23.0**	19.1	20.4	58.2	2.3	**39.5**
	女性	539	5.8	13.9	77.4	3.0	**19.7**	24.7	23.2	49.0	3.2	**47.9**
	どちらでもない・回答しない	27	11.1	14.8	74.1	－	**25.9**	29.6	11.1	59.3	－	**40.7**
	無回答	48	12.5	10.4	56.3	20.8	**22.9**	25.0	10.4	45.8	18.8	**35.4**
年齢別	男性:18～29歳	37	18.9	16.2	64.9	－	**35.1**	29.7	24.3	45.9	－	**54.0**
	男性:30～39歳	49	6.1	14.3	79.6	－	**20.4**	20.4	14.3	65.3	－	**34.7**
	男性:40～49歳	73	6.8	19.2	72.6	1.4	**26.0**	21.9	26.0	50.7	1.4	**47.9**
	男性:50～59歳	62	6.5	19.4	74.2	－	**25.9**	24.2	19.4	56.5	－	**43.6**
	男性:60～69歳	83	7.2	12.0	77.1	3.6	**19.2**	13.3	24.1	59.0	3.6	**37.4**
	男性:70歳以上	91	5.5	12.1	78.0	4.4	**17.6**	13.2	15.4	65.9	5.5	**28.6**
	女性:18～29歳	47	8.5	17.0	72.3	2.1	**25.5**	38.3	25.5	34.0	2.1	**63.8**
	女性:30～39歳	88	8.0	10.2	81.8	－	**18.2**	31.8	13.6	54.5	－	**45.4**
	女性:40～49歳	83	8.4	7.2	81.9	2.4	**15.6**	28.9	21.7	47.0	2.4	**50.6**
	女性:50～59歳	106	4.7	18.9	75.5	0.9	**23.6**	28.3	27.4	43.4	0.9	**55.7**
	女性:60～69歳	121	4.1	15.7	78.5	1.7	**19.8**	18.2	28.1	51.2	2.5	**46.3**
	女性:70歳以上	92	3.3	14.1	71.7	10.9	**17.4**	12.0	20.7	56.5	10.9	**32.7**
	どちらでもない・回答しない	27	11.1	14.8	74.1	－	**25.9**	29.6	11.1	59.3	－	**40.7**
	無回答	52	11.5	11.5	57.7	19.2	**23.0**	25.0	11.5	46.2	17.3	**36.5**

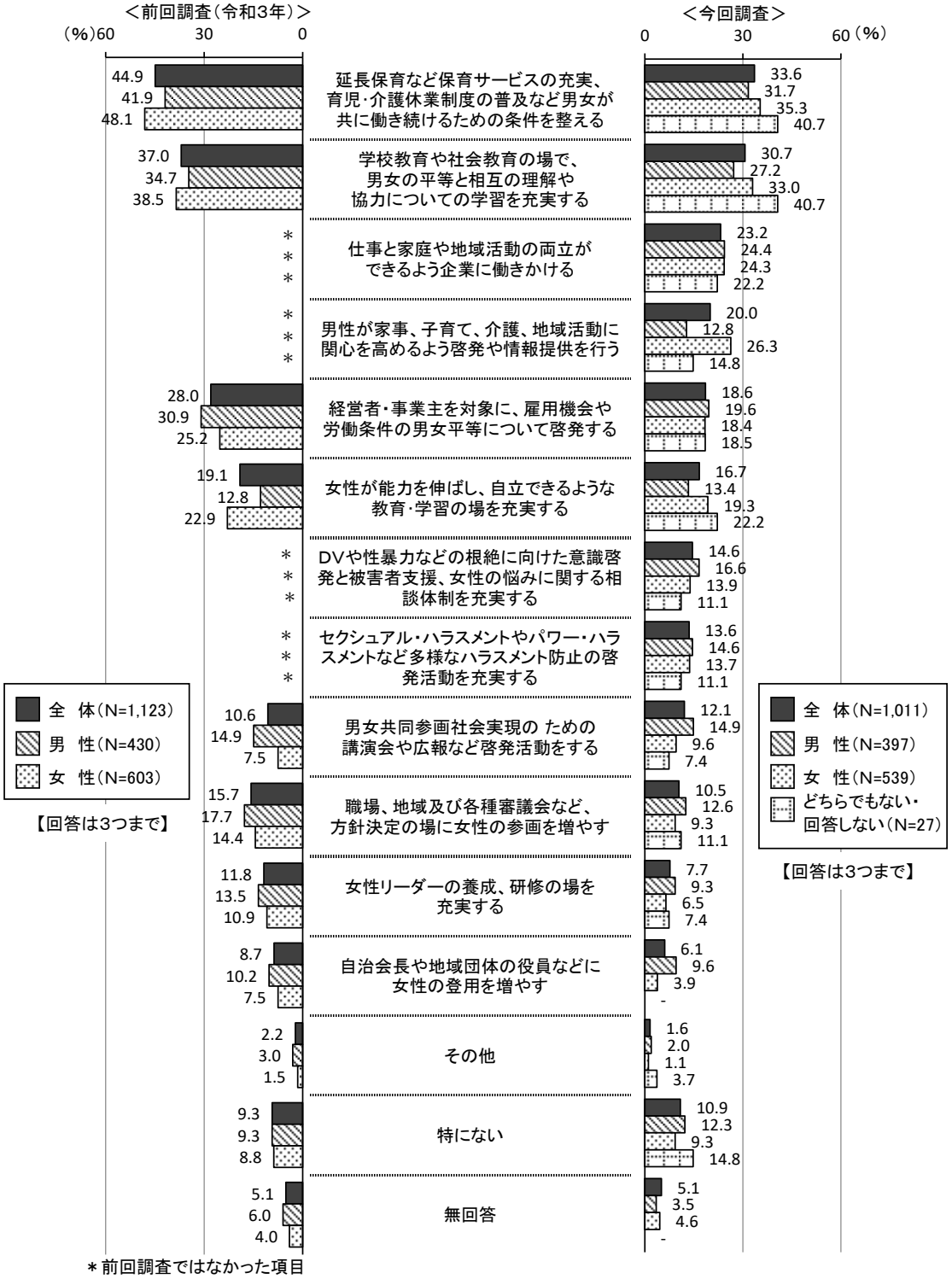
		標本数	シ. ジェンダー					ス. アンコンシャス・バイアス				
			知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている	知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答	計 知っている
全体		1,011	578	251	151	31	**829**	87	149	736	39	**236**
		100.0	57.2	24.8	14.9	3.1	**82.0**	8.6	14.7	72.8	3.9	**23.3**
性別	男性	397	57.7	24.7	16.1	1.5	**82.4**	9.1	17.4	71.3	2.3	**26.5**
	女性	539	57.7	25.8	13.4	3.2	**83.5**	8.3	13.4	74.8	3.5	**21.7**
	どちらでもない・回答しない	27	51.9	25.9	22.2	－	**77.8**	11.1	18.5	70.4	－	**29.6**
	無回答	48	50.0	14.6	18.8	16.7	**64.6**	6.3	6.3	64.6	22.9	**12.6**
年齢別	男性:18～29歳	37	78.4	10.8	10.8	－	**89.2**	21.6	27.0	51.4	－	**48.6**
	男性:30～39歳	49	63.3	26.5	10.2	－	**89.8**	14.3	18.4	67.3	－	**32.7**
	男性:40～49歳	73	63.0	23.3	12.3	1.4	**86.3**	9.6	12.3	76.7	1.4	**21.9**
	男性:50～59歳	62	58.1	25.8	16.1	－	**83.9**	14.5	16.1	67.7	1.6	**30.6**
	男性:60～69歳	83	56.6	21.7	18.1	3.6	**78.3**	2.4	27.7	66.3	3.6	**30.1**
	男性:70歳以上	91	42.9	31.9	23.1	2.2	**74.8**	3.3	7.7	84.6	4.4	**11.0**
	女性:18～29歳	47	74.5	12.8	10.6	2.1	**87.3**	10.6	21.3	66.0	2.1	**31.9**
	女性:30～39歳	88	63.6	22.7	13.6	－	**86.3**	10.2	12.5	77.3	－	**22.7**
	女性:40～49歳	83	63.9	21.7	12.0	2.4	**85.6**	14.5	13.3	69.9	2.4	**27.8**
	女性:50～59歳	106	60.4	27.4	11.3	0.9	**87.8**	7.5	16.0	75.5	0.9	**23.5**
	女性:60～69歳	121	52.1	30.6	14.0	3.3	**82.7**	5.8	9.1	81.8	3.3	**14.9**
	女性:70歳以上	92	42.4	31.5	17.4	8.7	**73.9**	4.3	12.0	71.7	12.0	**16.3**
	どちらでもない・回答しない	27	51.9	25.9	22.2	－	**77.8**	11.1	18.5	70.4	－	**29.6**
	無回答	52	50.0	15.4	17.3	17.3	**65.4**	5.8	9.6	63.5	21.2	**15.4**

２．男女共同参画社会を実現するために望む施策

問２１　男女共同参画社会を実現していくために、あなたは飯塚市に対してどのようなことを望みますか。（○は３つまで）

●男女共同参画社会を実現するために飯塚市に望むことは、「延長保育など保育サービスの充実、育児･介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件を整える」が第１位。上位２位は前回調査と変わらない。

図表９－３　男女共同参画社会を実現するために望む施策［全体、性別］（前回調査比較）



Ⅱ　調査結果

男女共同参画社会を実現するために飯塚市に望むことは、「延長保育など保育サービスの充実、育児･介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件を整える」が 33.6%と最も高く、次いで「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が 30.7%、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」が 23.2%で上位３位となっている。「特にない」は 10.9%である。

性別にみると、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」や「経営者・事業主を対象に、雇用機会や労働条件の男女平等について啓発する」は男女とも同程度の割合であるが、それらを除く上位６位までにあげられている項目については、女性の割合が男性よりも高い。特に「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」（男性 12.8%、女性 26.3%）は 13.5 ポイントの差がある。

前回調査にはなかった項目が今回調査は４項目増えている。全体に割合は減っているが、上位２位は前回調査と同様の項目があげられている。

図表９－４　男女共同参画社会を実現するために望む施策［全体、年齢別］

（%）

		標本数	男女共同参画社会実現のための講演会や広報など啓発活動をする	学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	経営者・事業主を対象に、雇用機会や労働条件の男女平等について啓発する	女性が能力を伸ばし、自立できるような教育・学習の場を充実する	延長保育など保育サービスの充実、育児・介護休業制度の普及など男女が共に働き続けるための条件を整える	職場、地域及び各種審議会など、方針決定の場に女性の参画を増やす	自治会長や地域団体の役員などに女性の登用を増やす	女性リーダーの養成、研修の場を充実する	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う	仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける	ＤＶや性暴力などの根絶に向けた意識啓発と被害者支援、女性の悩みに関する相談体制を充実する	セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントなど多様なハラスメント防止の啓発活動を充実する	その他	特にない	無回答
全体		1,011	122	310	188	169	340	106	62	78	202	235	148	138	16	110	52
		100.0	12.1	30.7	18.6	16.7	33.6	10.5	6.1	7.7	20.0	23.2	14.6	13.6	1.6	10.9	5.1
年齢別	男性:18～29歳	37	10.8	32.4	2.7	18.9	24.3	5.4	5.4	8.1	21.6	29.7	27.0	21.6	5.4	13.5	－
	男性:30～39歳	49	8.2	20.4	10.2	20.4	26.5	10.2	6.1	4.1	18.4	38.8	16.3	10.2	2.0	14.3	－
	男性:40～49歳	73	5.5	28.8	23.3	19.2	32.9	11.0	11.0	15.1	17.8	26.0	16.4	8.2	2.7	8.2	2.7
	男性:50～59歳	62	8.1	22.6	17.7	6.5	30.6	14.5	6.5	8.1	14.5	19.4	14.5	21.0	3.2	17.7	1.6
	男性:60～69歳	83	24.1	32.5	25.3	9.6	32.5	16.9	9.6	10.8	4.8	19.3	19.3	15.7	1.2	12.0	3.6
	男性:70歳以上	91	23.1	26.4	25.3	11.0	36.3	13.2	14.3	7.7	8.8	22.0	12.1	13.2	－	9.9	8.8
	女性:18～29歳	47	8.5	25.5	12.8	29.8	29.8	10.6	4.3	6.4	34.0	21.3	23.4	19.1	2.1	10.6	2.1
	女性:30～39歳	88	5.7	25.0	12.5	20.5	42.0	8.0	3.4	4.5	21.6	29.5	13.6	13.6	4.5	11.4	2.3
	女性:40～49歳	83	7.2	31.3	20.5	19.3	30.1	12.0	4.8	6.0	36.1	33.7	9.6	8.4	－	10.8	2.4
	女性:50～59歳	106	4.7	37.7	21.7	21.7	33.0	10.4	3.8	7.5	22.6	23.6	16.0	10.4	0.9	10.4	2.8
	女性:60～69歳	121	13.2	38.8	23.1	12.4	37.2	9.1	2.5	9.1	24.0	23.1	12.4	15.7	－	6.6	5.8
	女性:70歳以上	92	16.3	32.6	15.2	19.6	35.9	6.5	5.4	4.3	26.1	14.1	13.0	17.4	－	7.6	10.9
	どちらでもない･回答しない	27	7.4	40.7	18.5	22.2	40.7	11.1	－	7.4	14.8	22.2	11.1	11.1	3.7	14.8	－
	無回答	52	21.2	26.9	11.5	11.5	28.8	5.8	5.8	7.7	9.6	3.8	7.7	7.7	1.9	15.4	25.0

年齢別にみると、「延長保育など保育サービスの充実、育児･介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件を整える」は女性の 30 代で 42.0%と最も高い。「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」は女性の 50 代と 60 代で約４割、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」は男性の 30 代で 38.8%と高い。その他「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」は女性の 40 代と 18～29 歳で３割台、「ＤＶや性暴力などの根絶に向けた意識啓発と被害者支援、女性の悩みに関する相談体制を充実する」や「セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントなど多様なハラスメント防止の啓発活動を充実する」は男女の 18～29 歳の割合が高い。

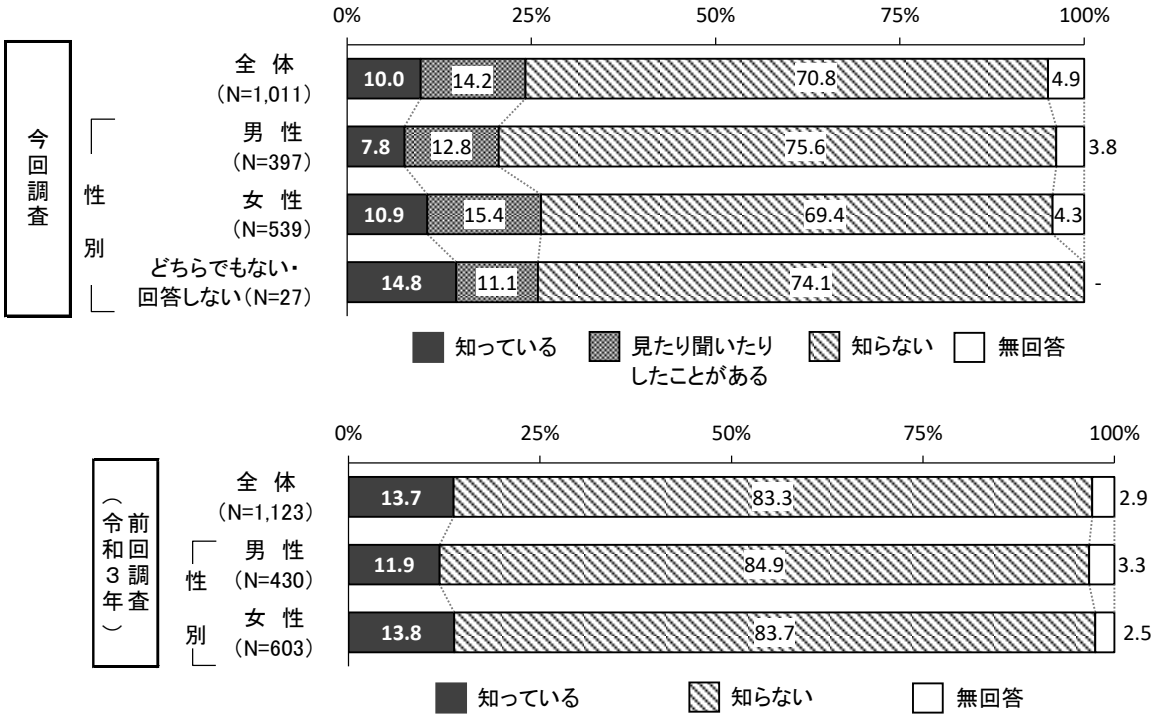
３．男女共同参画推進センター「サンクス」について

（１）男女共同参画推進センター「サンクス」の認知

問２２　あなたはイイヅカコミュニティセンター内に設置している飯塚市男女共同参画推進センター　サンクスを知っていますか。（○は１つ）

●飯塚市男女共同参画推進センター「サンクス」の認知について「知っている」は男女とも約１割。前回調査よりやや減少。
●「見たり聞いたりしたことがある」までの認知度は男性約２割、女性２割台半ば。

図表９－５　男女共同参画推進センター「サンクス」の認知［全体、性別］（前回調査比較）



飯塚市男女共同参画推進センター「サンクス」の認知について、「知っている」は 10.0%、「見たり聞いたりしたことがある」が 14.2%、「知らない」は 70.8%で、「見たり聞いたりしたことがある」を含めた認知度は 24.2%である。

性別にみると、女性の認知度（男性 20.6%、女性 26.3%）の方が 5.7 ポイント高い。

前回調査とは項目の違いがあるため正確な比較はできないが、男女とも「知っている」の割合はやや減少している。

図表９－６　男女共同参画推進センター「サンクス」の認知［全体、年齢別］

(%)

		標本数	知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない	無回答
全体		1,011 100.0	101 10.0	144 14.2	716 70.8	50 4.9
年齢別	男性:18～29歳	37	8.1	8.1	83.8	－
	男性:30～39歳	49	10.2	10.2	79.6	－
	男性:40～49歳	73	6.8	16.4	74.0	2.7
	男性:50～59歳	62	6.5	9.7	80.6	3.2
	男性:60～69歳	83	7.2	16.9	71.1	4.8
	男性:70歳以上	91	7.7	12.1	72.5	7.7
	女性:18～29歳	47	2.1	10.6	85.1	2.1
	女性:30～39歳	88	9.1	10.2	79.5	1.1
	女性:40～49歳	83	10.8	10.8	77.1	1.2
	女性:50～59歳	106	11.3	20.8	64.2	3.8
	女性:60～69歳	121	11.6	19.8	62.0	6.6
	女性:70歳以上	92	16.3	15.2	60.9	7.6
	どちらでもない・回答しない	27	14.8	11.1	74.1	－
	無回答	52	15.4	13.5	46.2	25.0

年齢別にみると、男女とも年齢の高い層で「知っている」の割合が高い傾向がみられ、女性の70 歳以上で 16.3%と最も高い。「見たり聞いたりしたことがある」は女性の 50 代と 60 代で約２割、男性の 40 代と 60 代で１割台半ばと比較的高い。

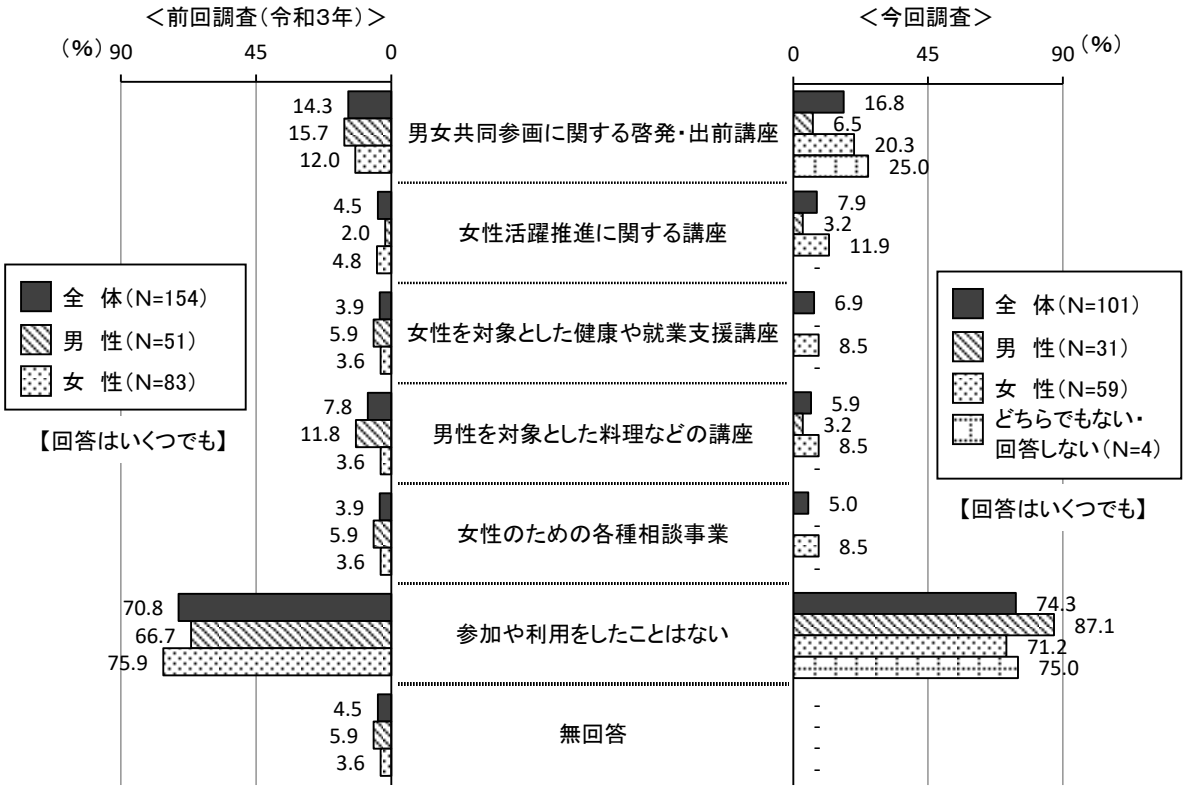
（２）男女共同参画推進センター「サンクス」で参加や利用したことがあるもの

【問２２で「１．知っている」を選んだ方に】

問２２－１　飯塚市男女共同参画推進センター　サンクスではさまざまな講座や事業を実施していますが、参加や利用をしたことがありますか。（○はいくつでも）

●男女共同参画推進センター「サンクス」での講座や事業に参加した人は男性で約１割、女性で約３割。

図表９－７　男女共同参画推進センター「サンクス」で参加や利用したことがあるもの［全体、性別］
（前回調査比較）



男女共同参画推進センター「サンクス」を知っている人に「サンクス」で参加や利用した事業をたずねたところ、「参加や利用したことはない」が 74.3%で最も高かった。何らかの講座や事業に参加した人は 25.7%で、参加した講座は「男女共同参画に関する啓発・出前講座」が 16.8%、「女性活躍推進に関する講座」が 7.9%となっている。

性別にみると、「参加や利用したことはない」は男性が 87.1%、女性が 71.2%と男性の方が高い。何らかの講座や事業に参加した人は男性が 12.9%、女性が 28.8%で女性の方が多く、「男女共同参画に関する啓発・出前講座」は 20.3%、「女性活躍推進に関する講座」は 11.9%が参加している。

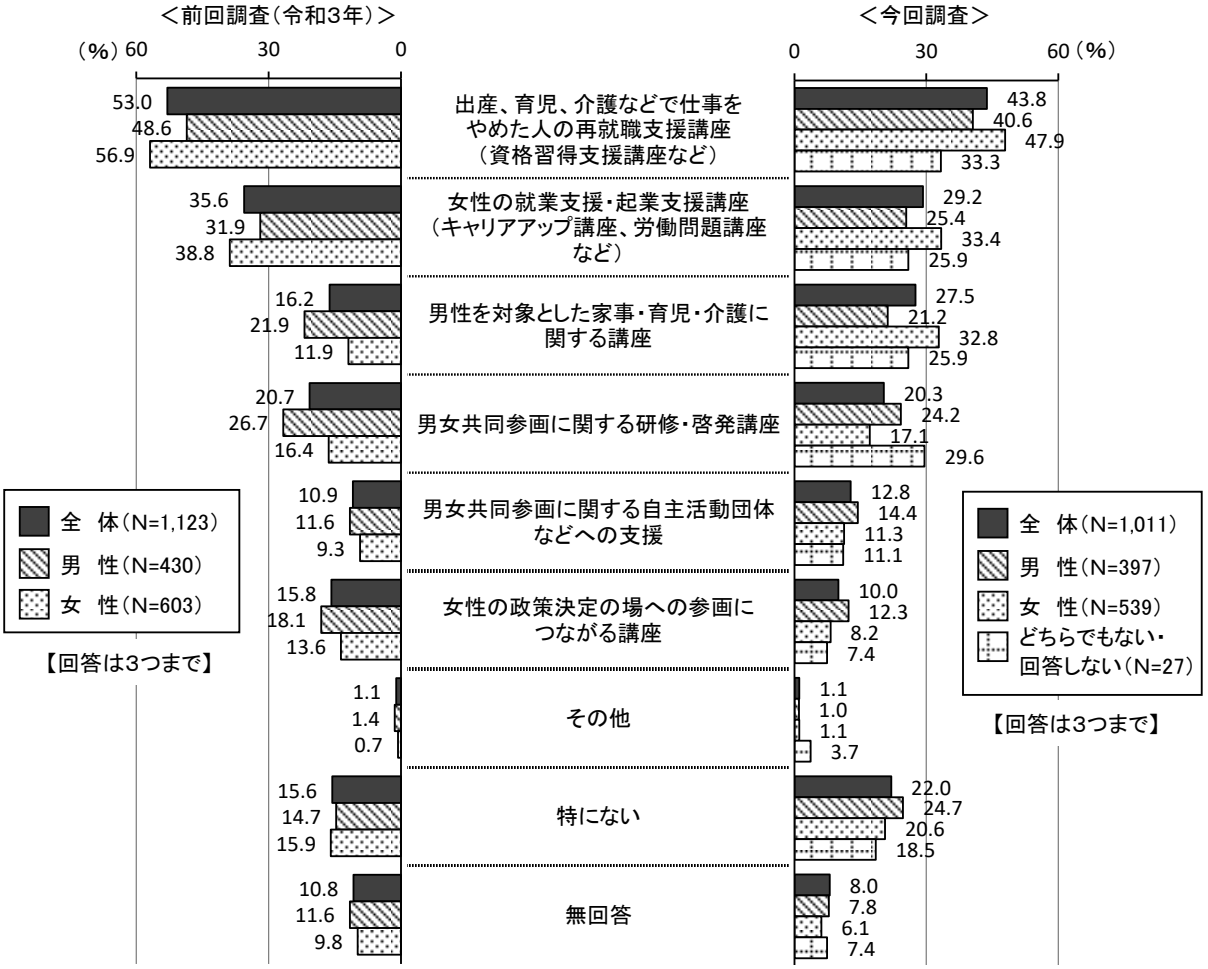
前回調査と比べると、前回調査では男性の方が参加は多かったが、今回調査では女性の方が参加は多い。「男性を対象とした料理などの講座」は前回調査の男性は 11.8%あったが、今回は 3.2%と 8.6 ポイント減少している。女性はすべての項目で割合が増加しており、特に「男女共同参画に関する啓発・出前講座」や「女性活躍推進に関する講座」は 7.1～8.3 ポイント高くなっている。

（３）男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業

問２３　あなたは飯塚市男女共同参画推進センター　サンクスでは、どのような事業をしてほしいと思いますか。（○は３つまで）

●男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業は「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」「女性の就業支援・起業支援講座」「男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座」が上位３位。

図表９－８　男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業［全体、性別］（前回調査比較）



男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業は「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)」が 43.8%で最も高く、次いで「女性の就業支援・起業支援講座（キャリアアップ講座、労働問題講座など)」が 29.2%、「男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座」が 27.5%となっている。「特にない」は 22.0%である。

性別にみると、女性は「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)」（男性 40.6%、女性 47.9%）や「女性の就業支援・起業支援講座（キャリアアップ講座、労働問題講座など)」（同 25.4%、33.4%)、「男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座」（同 21.2%、32.8%）などが男性よりも 7.3～11.6 ポイント高く、男性は「男女共同参画に関する研修・啓発講座」（同 24.2%、17.1%）や「女性の政策決定の場への参画につながる講座」（同 12.3%、8.2%）などが女性よりも 4.1～7.1 ポイント高い。

前回調査と比べると、「特にない」は今回調査の方が男女とも 4.7～10.0 ポイント高い。上位２

位にあげられた項目は前回と同じであるが、割合が男女とも 5.4～9.0 ポイント低くなっている。３位の「男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座」は前回調査では「男性を対象とした男女共同参画に関する講座」となっており、項目の違いはあるが、男性は同程度に比べ女性は 20.9 ポイント高くなっている。

図表９－９　男女共同参画推進センター「サンクス」で行ってほしい事業
［全体、年齢別、配偶関係別］

(%)

		標本数	男女共同参画に関する研修・啓発講座	男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座	女性の就業支援・起業支援講座（キャリアアップ講座、労働問題講座など）	出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座（資格習得支援講座など）	女性の政策決定の場への参画につながる講座	男女共同参画に関する自主活動団体などへの支援	その他	特にない	無回答
全体		1,011	205	278	295	443	101	129	11	222	81
		100.0	20.3	27.5	29.2	43.8	10.0	12.8	1.1	22.0	8.0
年齢別	男性:18～29歳	37	13.5	21.6	21.6	35.1	5.4	13.5	－	37.8	2.7
	男性:30～39歳	49	10.2	20.4	30.6	42.9	10.2	8.2	2.0	30.6	－
	男性:40～49歳	73	17.8	23.3	26.0	46.6	16.4	16.4	－	23.3	4.1
	男性:50～59歳	62	22.6	14.5	22.6	40.3	11.3	14.5	3.2	24.2	4.8
	男性:60～69歳	83	32.5	26.5	26.5	38.6	15.7	18.1	1.2	20.5	7.2
	男性:70歳以上	91	35.2	19.8	25.3	39.6	11.0	13.2	－	20.9	18.7
	女性:18～29歳	47	17.0	46.8	29.8	55.3	6.4	6.4	2.1	21.3	－
	女性:30～39歳	88	9.1	36.4	42.0	50.0	9.1	4.5	3.4	22.7	2.3
	女性:40～49歳	83	16.9	38.6	39.8	55.4	10.8	8.4	－	14.5	3.6
	女性:50～59歳	106	12.3	30.2	34.0	46.2	3.8	11.3	1.9	24.5	5.7
	女性:60～69歳	121	23.1	29.8	31.4	45.5	9.1	14.9	－	21.5	7.4
	女性:70歳以上	92	22.8	25.0	23.9	41.3	9.8	18.5	－	17.4	13.0
	どちらでもない・回答しない	27	29.6	25.9	25.9	33.3	7.4	11.1	3.7	18.5	7.4
	無回答	52	17.3	19.2	13.5	28.8	11.5	15.4	－	19.2	32.7
配偶関係別	男性:未婚	100	19.0	20.0	31.0	39.0	8.0	16.0	1.0	27.0	5.0
	男性:配偶者がいる(共働きである)	140	22.9	20.7	22.9	41.4	14.3	12.9	1.4	22.1	5.0
	男性:配偶者がいる(共働きでない)	125	30.4	24.0	24.0	42.4	14.4	15.2	0.8	24.0	10.4
	男性:配偶者とは死・離別した	27	25.9	18.5	29.6	40.7	11.1	14.8	－	33.3	7.4
	女性:未婚	110	16.4	40.9	37.3	50.9	11.8	7.3	2.7	19.1	6.4
	女性:配偶者がいる(共働きである)	204	11.3	34.8	39.2	47.5	8.3	10.3	1.5	20.6	3.4
	女性:配偶者がいる(共働きでない)	138	23.9	29.7	26.8	50.7	5.8	15.2	－	22.5	6.5
	女性:配偶者とは死・離別した	83	21.7	24.1	25.3	41.0	7.2	13.3	－	18.1	10.8
	どちらでもない・回答しない	27	29.6	25.9	25.9	33.3	7.4	11.1	3.7	18.5	7.4
	無回答	57	15.8	17.5	14.0	28.1	10.5	14.0	－	19.3	35.1

年齢別にみると、「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座(資格習得支援講座、パソコン講座など)」は女性の 18～29 歳から 40 代で５割台、「女性の就業支援・起業支援講座（キャリアアップ講座、労働問題講座など)」は女性の 30 代と 40 代で約４割、「男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座」は 18～29 歳で 46.8%と女性の年齢が低い層で割合が高い傾向がみられる。「男女共同参画に関する研修・啓発講座」は男女とも年齢が高い層で割合が高いが、特に男性で顕著である。

配偶関係別でみると、女性の未婚と既婚の共働きの人で「女性の就業支援・起業支援講座（キャリアアップ講座、労働問題講座など)」が約４割、「男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座」は女性の未婚で 40.9%と高い。

Ⅲ　調査結果のまとめ

Ⅲ　調査結果のまとめ

調査結果からみえる特徴と今後の課題

飯塚市は、令和３年に「第２次飯塚市男女共同参画後期プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを進めてきた。本調査は、令和９年度からの５年間を計画期間とする「第３次飯塚市男女共同参画プラン」の策定に向け、飯塚市のこれまでの取り組みの成果を検証するとともに、飯塚市における今後の男女共同参画を推進するうえでの課題を把握するための基礎データを得ることを目的として実施したものである。

回答者の特徴

回答者の性別は、「男性」が 39.3%、「女性」が 53.3%で、女性の方が 14.0 ポイント高くなっている。年代は、女性は「60～69 歳」が、男性は「70 歳以上」が最も多く、男女とも 60 歳以上が４割前後を占めている。

配偶関係は、男女とも「配偶者・パートナーがいる（共働きである）」が３割台半ばで最も高いが、男性は女性に比べて「未婚」「配偶者・パートナーがいる（共働きでない）」が、女性は男性に比べて「配偶者・パートナーとは死別または離別した」がやや高くなっている。

１．男女共同参画に関することについて

男女共同参画への関心の程度は、『関心がある』が５割強、『関心がない』が４割強で、『関心がある』が『関心がない』を約 10 ポイント上回っている。前回調査から大きな変化はみられず、男女共同参画への市民の関心の高まりはうかがえない。年代別でみると、男女とも 30 代で『関心がない』が相対的に高くなっている。30 代は職業をもっている人も多く、また、子育て期にあたる人も多いなど、本来男女共同参画に関連する課題に直面する年代であることから、この年代に向けた啓発の必要性が示唆される結果となっている。

２．家庭生活や子どもの育て方について

家庭内での男女の役割分担をみると、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」は、『主に男性』が約６割と高い。一方、『主に女性』については「炊事、掃除、洗濯などの家事」が７割台半ば、「日々の家計の管理」が６割台半ばと高く、「病人・高齢者の世話（介護）」や「育児、子どものしつけ」といった家族のケアも、女性が多く担っている。また、「車や高額商品の購入決定」「家庭の問題における最終的な決定」という家庭内の重要な決定については約半数が「両方同じくらい」と回答しているものの、『主に男性』が３割前後を占めている。また、「子どもの教育方針や進学目標の決定」も「両方同じくらい」が約半数を占めるが、『主に女性』も約２割となっている。

前回調査と比較すると、今回調査では配偶者やパートナー（事実婚含む）と同居している人に回答してもらっていること、前回調査にはなかった「左記以外」との選択肢を設けたことに留意が必要ではあるが、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」「炊事、掃除、洗濯などの家事」「車や高額商品の購入決定」などで「両方同じくらい」が４～６ポイント程度増加している。「育児・子どものしつけ」「子どもの教育方針や進学目標の決定」については「左記以外」と回答した割合が高い

ため、それを除いて比較すると、やはり「両方同じくらい」の割合が以前よりも高くなっていると思われる。一方、同じく「左記以外」の回答率が高い「病人・高齢者の世話（介護）」「自治会などの地域活動」については、「左記以外」を除いて比較しても「両方同じくらい」の割合に大きな変化はみられない。

「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識については、『反対派』は女性で 77.0%、男性は 67.7%で、前回調査に比べて『反対派』が女性で 8.2 ポイント、男性で 3.5 ポイント増加しており、男女とも性別役割分担を容認しない傾向がみられるが、特に女性の意識の変化が大きい。年代別では、『賛成派』が 70 歳以上男性で４割弱、60 代男性で３割弱と比較的高いが、すべての年代において『反対派』が多数を占めており、特に女性ではすべての年代で７～８割に上っている。男性でも 40 代以下では『反対派』が７割台後半から８割強と高く、また、国や福岡県の調査と比べても飯塚市では男女とも性別役割分担を容認しない人が多い。飯塚市においては、固定的な性別役割分担意識は解消されつつあると思われる。

子どもの育て方については、「男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい」という考え方への『反対派』が６割弱で『賛成派』の３割強を大きく上回り、また、前回調査よりも 7.1 ポイント増加した。「子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい」といういわゆる「３歳児神話」については『反対派』が『賛成派』をわずかに上回る程度だが、前回調査に比べて『反対派』が 8.1 ポイント増加しており、子育てに関しても意識の変化がみられる。

男女共同参画をすすめるために学校教育の場で力を入れるべきこととしては、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと」が約７割、「働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと」「生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること」がそれぞれ約５割となっている。また同居家族に高校生以下のこどもがいる家庭では「発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること」が約３割から５割と高くなっており、子どもの保護者が学校での性教育を望んでいることがわかる。

これらのことから、飯塚市においては、固定的な性別役割分担は意識面では相当程度解消されつつあり、子育てについても「男らしく、女らしく」といった意識は薄れつつある。一方、行動面では前回調査に比べると平等になりつつあるものの、依然として「稼得役割は男性、家事や家族のケアは女性」「重要事項の決定は男性」といった家庭内での性別役割分担が行われていることがうかがえる。今後は、意識面での変化をいかにして行動の変化につなげていくかを検討する必要がある。そのためには子どもの頃からの教育も重要になってくると思われる。調査結果からは、児童・生徒に対して学校教育の様々な場面において、男女共同参画や人権の視点に立った教育が実施されることが求められていることがわかる。教職員の男女共同参画への理解をより深めるため、市や県の事業や研修に関する情報などを積極的に提供するなど、学校と連携した取り組みが望まれる。

３．地域活動について

地域の役職に立候補を依頼された場合に引き受けるかどうかについては、いずれの役職についても『引き受ける』は１割弱から１割台の後半程度となっており、『断る』という人が男女とも大半を占める。役職別では、「自治会長」「県・市議会議員」は『引き受ける』と回答した割合が男性より女性で約４～５ポイント低くなっており、女性の方がより消極的である。他の役職については性別で大きな差はみられない。

役職を断る理由は、男女とも「責任が重いから」が最も高いが、特に女性で４割と高く、「役職につく知識や経験がないから」「家事・育児や介護に支障がでるから」も女性の方が高くなってい

る。年代別でみると、30～50 代では男女とも「時間的な余裕がないから」が高いが、30 代女性では「家事・育児や介護に支障がでるから」が高く、この年代の女性では家庭生活との両立が障壁となっていることがうかがえる。また、18～29 歳と 60 代以上の女性では「責任が重いから」が高くなっている。

男女共同参画の視点から災害へ備えるために地域で必要なこととしては、「避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を取り入れる」が男女とも最も高く、特に女性では７割弱と高くなっている。続いて「日ごろから地域活動に積極的に参加し、地域のつながりを大切にする」「日ごろの防災活動や訓練に積極的に参加する」「避難所の運営に女性も参画する」が３割台となっており、災害対策への男女共同参画の視点の反映や、平時からの防災活動や地域活動への参画などが必要と考えられている。

以上のことから、地域の役職への就任については男女ともに消極的だが、女性の場合は男性よりも責任の重さや知識・経験の不足への不安、家庭生活への影響などを懸念していることがうかがえる。しかし、災害対応に女性や要配慮者の視点を取り入れることは、特に女性から求められており、そのためには市や地域の意思決定過程に女性が参画することが必要である。役職者の負担を軽減するために活動の内容や役割分担を見直したり、活動の時間帯に配慮したりするなど、性別や年齢に関わらず地域活動に積極的に参画できるような環境づくりをすすめる必要がある。

４．就労について

回答者のうち職業を持っている人は、女性では 64.9％、男性では 70.3％で、年代別にみると 50 代以下女性の８割以上、50 代以下男性の９割以上が職業を持っている。就労形態をみると、男女とも「正社員・正職員」が最も高いが、女性は「パート・アルバイト」「派遣・契約社員」を合わせた非正規雇用者の割合が男性に比べて高くなっている。ただ、男女とも「正社員・正職員」の割合が前回調査より増加している。

雇用されている人に対して、「募集や採用」「賃金」「昇進・昇格」など８項目について、職場での男女の扱いが平等かどうかをたずねたところ、全ての項目で「平等になっている」の割合が最も高くなっているが、『男性優遇』が「管理職などへの登用」で３割弱、「昇進・昇格」で２割台半ば、「募集や採用」「賃金」が１割台半ばと比較的高い。ただ、それらのうち「募集や採用」以外の３項目は、前回調査に比べて『男性優遇』が減少している。

女性が職業を持つことについては、「ずっと職業を持っている方がよい」という就労継続が男女とも最も多く、女性は７割弱で男性より 14.6 ポイントと大きく上回っている。「子どもができたら職業を持たず、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい」といういわゆるM字型就労の働き方は、男女とも２割弱で２番目に多くなっているが、前回調査に比べて８～９ポイント程度減少しており、女性が結婚や出産に関わらず就労継続するのが望ましいと考える傾向がより強まっている。

男性が育児休業を取得しない（できない）理由については、「職場に取得しやすい雰囲気がないから」が男女とも最も高く、「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」「経済的に困るから」「周囲に取得した男性がいないから」などが続いている。性別にみると、男性は「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」「仕事が忙しいから」が女性に比べて高い。また、前回調査に比べ、男性は「職場に取得しやすい雰囲気がないから」「周囲に取得した男性がいないから」は減少したが、「取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」「仕事が忙しいから」が増加して

いる。また、これら２項目は男女とも「役員・管理職」で高くなっており、男性や管理職の意識が仕事優先になっていることがうかがえる。

ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要な条件整備は、「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくる」が４割台半ばで最も高く、次いで「賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと」「育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること」が３割台となっている。

以上のことから、女性が就労継続することが望ましいとする傾向は強まっており、仕事と家事や育児、介護との両立を可能にする環境整備がこれまで以上に求められることと思われる。育児休業制度が拡充され、全国的には男性の育児休業取得は進みつつあるが、職場に取得しやすい雰囲気がないと感じている人が多く、また、男性自身や取得を促すべき管理職の意識にも課題があることが示唆された。育児・介護休業法や女性活躍推進法等の法制度や、国や県の支援制度について、市内事業所への情報提供を行うとともに、経営者や管理職、労働者に対して男女共同参画やワーク・ライフ・バランスの重要性について意識啓発を行うことが必要である。

５．暴力などの人権侵害について

ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）にあたる行為について、暴力だと思うかどうかについては、「押されたり、つかまれたり、つねられたり、小突かれたりした」「蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした」などの身体的暴力はＤＶだとの認識が８割台半ばから約９割と高くなっている。一方、精神的暴力のうち「何を言っても長期間無視された」「交友関係や電話やメールを細かく監視された」などはＤＶとの認識が約７割と比較的低い。また、性的暴力については、「脅しや暴力により自分の気持ちに反して性的な行為を要求された」は９割弱がＤＶと認識しているが、「見たくないのに、性的な動画や雑誌などを見せられた」「避妊に協力してくれない」は８割程度にとどまっている。ただ、前回調査と比べると、「見たくないのに、性的な動画や雑誌などを見せられた」「避妊に協力してくれない」をＤＶと認識する人は増加しており、特に男性で高くなっている。その他の項目についても男女とも前回調査よりＤＶとの認識が高いか同程度となっており、ＤＶについての理解は広まっていると考えられる。

ＤＶの内容ごとにこの３年間で被害を受けた経験をたずねたところ、いずれのＤＶについても被害を経験した人の割合は前回調査より減少しているものの、すべての項目について被害経験がみられた。経験率が高いのは、「何を言っても長期間無視された」「他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした」で、男女とも１割前後が経験していた。また、「押されたり、つかまれたり、つねられたり、小突かれたりした」「蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした」という身体的暴力も、女性では５％を超える人が経験していた。

ＤＶ被害を受けた際に相談したかどうかについては、女性の５割台半ば、男性の７割台半ばが「誰（どこ）にも相談しなかった」と回答している。相談した場合でも、家族や友人などの身近な人への相談が多く、公的機関や専門機関への相談は非常に低くなっている。誰にも相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高く、女性で５割強、男性で６割強となっている。他に、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談しても無駄だと思ったから」が３割前後と高くなっており、特に「相談しても無駄だと思ったから」は前回調査から大きく増加している。

以上のことから、ＤＶについての認識は高まっており、ＤＶの被害経験が減少するなど、ＤＶ

についての状況は改善されつつある。一方で、身体的暴力を含むＤＶを受けている人がまだ存在しており、また、公的な機関への相談につながっていないことは問題である。引き続き、ＤＶの背景や相談窓口について、市民への啓発と情報提供を行うことが求められる。また、「相談するほどのことではないと思ったから」が高いことや、「相談しても無駄」と考えている人が増加していることから、早めの相談が重要であることや、どのような支援を受けることができるかなど、より具体的な情報を提供することも必要であろう。

職場、地域、学校などでセクシュアル・ハラスメントを受けた経験について、なんらかのセクシュアル・ハラスメントを受けた人の割合は、女性では３割強、男性の被害経験も１割台半ばとなっていた。セクシュアル・ハラスメントの態様について性別にみると、ほとんどの項目で女性の経験率が高く、「容姿について傷つくことを言われた」「不必要に身体をさわられた」「「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた」「「女のくせに…」とか「男のくせに…」と性別による言い方をされた」は女性の１割前後が経験していた。年齢別にみると、被害経験がある人は女性では 20 代以下で４割台半ばと最も高く、30～40 代で約４割、50～60 代でも約３割となっている。男性では 40 代で約２割と高い。

セクシュアル・ハラスメントを受けた際の相談先については、「誰（どこ）にも相談しなかった」が女性で５割、男性で７割弱と高く、セクシュアル・ハラスメントについても被害を受けても相談できていない人が多い。

現在、職場でのハラスメントについては、防止のための措置が事業主に義務づけられているが、2026 年からは就職活動中の学生など求職者に対するセクシュアル・ハラスメントも対象となる予定である。事業主に対してはより一層の取り組みが求められることになるため、市内事業所に対して積極的な啓発や情報提供を行うことが必要である。また、職場以外でのハラスメントについても市民や教職員に向けて啓発を行うことが望ましい。

６．女性の性と生殖に関する健康・権利（リプロダクティブ・ヘルス／ライツ）について

リプロダクティブ・ヘルス／ライツとは、子どもを産むか産まないか、子どもの数や出産間隔などを自分自身で決める自由をもつこととされ、特に女性の人権として国際的に認められている。

「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で十分話し合うべきである」という考え方については、『思う』は男女とも９割を超え、前回調査よりも男性の『思う』がやや増加し、また男女ともより積極的な「そう思う」が増加している。

一方、「妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである」についても『思う』が約８割に上り、前回調査に比べてやや増加しているが、積極的な「そう思う」は女性に比べて男性で 5.5 ポイント低くなっている。

妊娠や性に関してパートナー間で話し合うことについては大半が肯定的にとらえており、女性の意思の尊重についてもやや消極的な傾向がみられるとはいえ、肯定する割合が高い。リプロダクティブ・ヘルス／ライツは、性暴力やＤＶ、セクシュアル・ハラスメント防止のためにも重要な概念であり、近年では、「性的同意」について、国や県も啓発を進めている。飯塚市においても、地域や学校、市内事業所等とも連携しながら、リプロダクティブ・ヘルス／ライツについて市民に広く啓発することが望まれる。

７．悩みや困りごとについて

悩みや困りごとについては、女性の６割台半ば、男性の６割弱が何らかの悩みや困りごとを抱

えており、内容としては「健康、病気、障がいなど」が約３割、「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」が３割弱、「家計、借金、相続など」が２割強と高くなっている。

年齢別にみると、「仕事、雇用、転職、再就職、起業など」は 30～50 代男性、30～40 代女性で約４割から５割と高い。「家計、借金、相続など」「育児、子育て、教育など」は男女とも 30～40 代で高いなど、ライフステージによって悩みや困りごとが異なることが明らかになった。

悩みや困りごとの相談先としては、「相談しなかった」が６割台半ばと高く、「医療関係者（医師、看護師など)」が約２割となっており、それ以外の相談先に相談した人は低率である。

悩みや困りごとの解決のためにあるとよいと思う支援は、「自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口」が５割を超えて最も高く、次いで「利用できる支援制度の情報提供」が４割台半ば、「生活のための経済援助」「気軽に話を聞いてもらえるＳＮＳなどの相談窓口」が３割前後などとなっている。

2024 年に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行され、各自治体は、関係機関や民間団体と連携しながら支援にあたることが求められている。女性が抱える困難が、生活困窮、性暴力・性犯罪被害、家庭関係破綻など複雑化・多様化・複合化している現在、行政の相談窓口も幅広い相談に対応できる体制を整備するとともに、民間団体と協働しながら支援を行うことが必要である。また、法律では「当事者の意思の尊重」「人権擁護と男女平等の実現」などの理念が掲げられている。市民からの相談等に対応する職員がこれらの理念に基づいて適切な対応が行えるよう、法律の内容等について周知・啓発する機会を設けることも重要である。

８．男女平等に関する考え方について

社会における様々な分野での平等観について、『男性優遇』と考える人の割合は、「慣習・しきたり」「政治・政策決定の場」「社会全体」で６割台と高く、「家庭の中」「職場の中」で４割台、「地域活動の場」「法律や制度の上」で３割台などとなっている。「学校教育の場」については、「平等になっている」が４割台半ばと最も高くなっている。前回調査と比較すると、すべての分野で『男性優遇』の割合が５～14 ポイント程度低下しているが、今回調査ではいずれの分野でも「わからない」が増加しており、「平等になっている」の割合は、「職場の中」「法律や制度の上」「政治・政策決定の場」「社会全体」でやや増加したものの、それほど大きな変化はみられない。

性別にみると、ほとんどの分野について女性で『男性優遇』が高く、「平等になっている」が低い傾向がみられており、女性の方がより不平等感を覚えている。

社会の様々な場面において、現在も平等になっていないと認識されており、特に慣習や政治、社会全体で『男性優遇』との認識が根強い。また、『男性優遇』という認識が低下した分野においても、「わからない」との回答が増加しており、「平等になっている」との認識が大きく増加したわけではない。男女共同参画の実現に向けて、社会の様々な分野において取り組みを続けることが求められるとともに、男女共同参画に関する現状や法制度等について、市民の関心を高めていくことも必要である。

男女共同参画に関する言葉やことがらの認知度は、「ジェンダー」が８割強、「男女共同参画社会基本法」「デートＤＶ」が４割強、「女性活躍推進法」「女子差別撤廃条約」「飯塚市男女共同参画条例」が３割強などとなっている。条例以外の飯塚市の取組みについては、「飯塚市女性人材バンク」「飯塚市男女共同参画プラン・第２次飯塚市男女共同参画後期プラン」が１割台後半、「飯塚市男女共同参画オンブズパーソン」が１割弱となっており、認知度が高いとはいいがたい。

男女共同参画社会の実現のために市に望むこととしては「延長保育など保育サービスの充実、育児･介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件を整える」「学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」が３割台、「仕事と家庭

や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う」が２割台で上位となっている。

年齢別でみると、「延長保育など保育サービスの充実、育児･介護休業制度などの普及など男女が共に働き続けるための条件を整える」は 30 代女性で４割を超えて特に高い。また、「仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける」は 30 代男性で約４割と高いなど、性別や年代によって求める施策が異なっている。

飯塚市男女共同参画推進センター「サンクス」の認知度については、「知っている」は１割、「見たり聞いたりしたことがある」が１割台半ばで、男性より女性の認知度が高くなっている。

「サンクス」を知っている人に「サンクス」の事業への参加や利用の有無をたずねたところ、何らかの講座や事業に参加した人は男性が１割強、女性が３割弱で、「サンクス」を知っている人でも利用したことない人が７割を超えている。参加・利用したことがあるものでは「男女共同参画に関する啓発・出前講座」が最も高く、女性では約２割で前回調査より増加したが、男性は 6.5％で前回調査より大きく低下している。また、「男性を対象とした料理などの講座」についても、前回調査から大きく減少しており、男性の参加・利用が減少している。

「サンクス」でどのような事業を行ってほしいかについては、「出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座」が４割超、「女性の就業支援・起業支援講座」が約３割で、就労に関する項目への要望が高く、特に女性で高い。また、「男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座」も３割弱と高く、前回調査に比べて 10 ポイント以上、女性では 20 ポイント以上増加している。前述したように、家庭内での家事や育児の分担は十分に進んでいるとはいえず、男性の家庭参画を女性が求めているということであろう。今回調査では男性向けの料理講座の利用率は減少しているため、市民の参加を促すような内容や広報の工夫も求められる。また、今回調査では「特にない」も前回より増加しており、「サンクス」の事業に対する市民の関心を高めることが必要である。

■自由意見について

本調査の問 24 として男女共同参画推進についての意見・要望等を自由記述でたずねたところ、104 件の回答がありました。主な内容としては、「小さいころから教育することが大事」「発達段階に応じた性教育をしてほしい」など教育に関する意見、「ＳＮＳなどで積極的に発信してほしい」「小冊子などで市の取り組みや基本的な考え方をＰＲする必要がある」など広報や情報発信に関する意見、「子育て環境の充実を望む」「女性がのびのびと育児や仕事が出来るような社会になってほしい」など、出産・育児や仕事との両立に関する意見などがありました。

その他にも様々なご意見をいただきました。これらのご意見は、今後の男女共同参画施策推進に係る基礎資料とさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

◎参考資料

使用した調査票

男女共同参画に関する市民意識調査

アンケート調査ご協力のお願い

市民の皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

飯塚市では現在、男女共同参画社会（男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわりなく、その個性と能力を十分に発揮することができる社会）の実現に向けて、新たな第3次飯塚市男女共同参画プランの策定に取り組んでいます。

このたび、市民の皆様の男女共同参画に関するご意見をうかがい、計画の基礎資料とするために調査を実施することとなりました。この調査は市内に在住する18歳以上の市民の方から、3,000人を無作為に選ばせていただきました。お答えいただいた内容は統計的に処理し、個人が特定されることや、他の目的で使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和7年 10 月

飯塚市長 武井 政一

ご記入に際してのお願い

●この調査は、お送りした封筒の宛名の方、ご本人が記入してください。
●この調査は無記名ですので、名前を記入する必要はありません。
●ボールペンまたは鉛筆などで、はっきりと書いてください。
●各質問のあてはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。
●各項目で「その他」の場合は（　　）内に具体的な内容を記入してください。
●記入が済んだ調査票は、同封の返信用封筒に入れ、10 月 31 日（金）までにご返送ください。（記名や切手は必要ありません）
●インターネットによる回答をご希望の方は、右に記載の二次元コードの読み取りまたは、下記URLにアクセスしてください。

https://questant.jp/q/iizukashimin

（郵送とインターネット両方での回答はできません。）

〔お問合せ先〕飯塚市役所 市民協働部 男女共同参画推進課

電話 0948(96)8543（直通）

※アンケート調査にご回答いただくにあたり、サポートが必要な方はお気軽に担当までご連絡ください。

◎参考資料

男女共同参画に関することについておたずねします。

問１　あなたは、男女共同参画に関心がありますか。（○は１つ）

１．非常に関心がある
２．まあまあ関心がある
３．あまり関心がない
４．まったく関心がない

家庭生活や子どもの育て方についておたずねします。

【現在「配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している方」におたずねします。】

→「配偶者・パートナー（事実婚含む）と同居している方」以外の方は問３へ

問２　あなたのご家庭では、男女の役割分担はどのようになっていますか。次のア～ケの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

※項目ごとに横に見てお答えください	ほとんど男性	どちらかといえば男性	両方同じくらい	どちらかといえば女性	ほとんど女性	左記以外
ア．家計を支える（生活費を稼ぐ）	1	2	3	4	5	6
イ．炊事､掃除､洗濯などの家事	1	2	3	4	5	6
ウ．日々の家計の管理	1	2	3	4	5	6
エ．育児、子どものしつけ	1	2	3	4	5	6
オ．病人・高齢者の世話（介護）	1	2	3	4	5	6
カ．自治会などの地域活動	1	2	3	4	5	6
キ．子どもの教育方針や進学目標の決定	1	2	3	4	5	6
ク．車や高額商品の購入決定	1	2	3	4	5	6
ケ．家庭の問題における最終的な決定	1	2	3	4	5	6

問３　あなたは、次のような考え方に対してどのようにお考えですか。ア～ウの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

※項目ごとに横に見てお答えください	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
ア．「男は仕事、女は家庭」	1	2	3	4	5
イ．男の子は「男らしく」、女の子は「女らしく」育てる方がよい	1	2	3	4	5
ウ．子どもが３歳くらいまでは母親の手で育てる方がよい	1	2	3	4	5

問４　これからの社会で男女共同参画を進めていくためには、学校教育の場でどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。（○は３つまで）

１．一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶこと
２．発達段階に応じた性教育や性に関する指導を実施すること
３．家庭や家族の多様なあり方について学ぶこと
４．生活指導や進路指導において、性別にかかわり無く能力を活かせるよう配慮すること
５．ＰＴＡなどと連携して、男女平等な教育の理解と協力を深めること
６．働くことの意味や多様な働き方などについての学習や職場体験を行うこと
７．管理職（校長や教頭など）に女性を増やすこと
８．教職員に対する男女平等に関する研修を行うこと
９．その他（具体的に　　）

◎参考資料

問５　あなたは、男性が女性と共に家事、子育て、介護に積極的に参加していくためにどのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

１．男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと

２．家事、子育てや教育、介護などの分担について、家族で十分話し合い、協力し合うこと

３．年配者や周りの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること

４．男性による家事、子育て、介護について、社会の中での評価を高めること

５．労働時間短縮や休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること

６．男性が家事、子育て、介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと

７．家事などを男女で分担するような育て方をすること

８．学校で基本的人権の尊重や男女平等意識についてきちんと教えること

９．その他（具体的に　　）

地域活動についておたずねします。

問６　あなたは、この１年間に何か地域活動に参加したことがありますか。参加したことがあるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

１．地域の子ども育成に関する活動（ＰＴＡ、子ども会など）

２．自治会活動

３．清掃・リサイクル活動

４．安全・防犯活動

５．相互援助活動（読み聞かせなどの子育て支援、見守りなどの介護支援など）

６．国際交流活動（留学生の支援、外国人へのボランティアなど）

７．女性問題の学習や男女共同参画推進のための活動

８．その他（具体的に　　）

９．どの活動にも参加していない

問７　仮にあなたが、次のような役職・公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか。
次のア～オの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

※項目ごとに横に見てお答えください	引き受ける	なるべく引き受ける	なるべく断る	断る
ア．ＰＴＡ会長・子ども会会長	1	2	3	4
イ．自治会長	1	2	3	4
ウ．地域団体の役員（自治会役員など）	1	2	3	4
エ．県や市の審議会や委員会のメンバー	1	2	3	4
オ．県・市議会議員	1	2	3	4

１つでも「なるべく断る」、「断る」を選んだ方は**問７－１へ**

【問７で、ア～オのうち、１つでも「なるべく断る」、「断る」を選んだ方に】

問７－１　断る理由は何ですか。（○は２つまで）

１．責任が重いから
２．家事・育児や介護に支障がでるから
３．役職につく知識や経験がないから
４．時間的な余裕がないから
５．人間関係がわずらわしいから
６．性別によって不利・不当な扱いを受けそうだから
７．役職に興味がないから
８．その他（具体的に　　）

問８　あなたは、政治や行政、地域の場において、政策の企画や方針決定の過程に女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。（○はいくつでも）

※男女共同参画社会実現のためには、社会における女性の参画が重要であるとして、国においても、「指導的地位に占める女性の割合を 30%程度」とする目標を掲げて取組を進めています。

１．家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識が根強く残っているから
２．男性優位の組織運営がされているから
３．家庭の支援・協力が得られないから
４．女性の能力開発の機会が不十分だから
５．女性の活動を支援するネットワークが不足しているから
６．女性側の積極性が十分でないから
７．女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから
８．その他（具体的に　　）
９．わからない

◎参考資料

問９　災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

※近年の大規模災害における経験から、日ごろの防災や災害発生後の対応に女性の視点を取り入れることが重要だと言われています。

１．日ごろから女性が防災に関する企画・立案や方針決定の場に参画する
２．日ごろから地域活動に積極的に参加し、地域のつながりを大切にする
３．日ごろから男女平等、男女共同参画意識を高める
４．日ごろの防災活動や訓練に積極的に参加する
５．避難所の運営に女性も参画する
６．地域において防災や災害現場で活動する女性リーダーを育成する
７．避難所運営や備蓄品について女性や要配慮者（高齢者、障がい者など）の視点を取り入れる
８．その他（具体的に　　）

就労についておたずねします。

問１０　あなたは、現在、職業（収入のある仕事）をもっていますか（育児休業中、介護休業中などの人も働いているものとみなします）。（○は主なものに１つ）

はい		いいえ
１．正社員・正職員（役員・管理職） ２．正社員・正職員（１以外） ３．派遣・契約社員 ４．パート･アルバイト	５．自営業・家族従業 （農林漁業、商工サービス業） ６．その他（　　）	７．学生 ８．専業主婦・主夫 ９．無職
問１０－１へ	**問１１へ**	

【問１０で「１．正社員・正職員（役員・管理職）」「２．正社員・正職員（１以外）」「３．派遣･契約社員」「４．パート･アルバイト」のいずれかを選ばれた方に】

問１０－１　あなたの今の職場では、男女の扱いは平等になっていると思いますか。次のア～クの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

※項目ごとに横に見てお答えください	男性の方が非常に優遇されている	男性の方が優遇されている	平等になっている	女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
ア．募集や採用	1	2	3	4	5	6
イ．賃金	1	2	3	4	5	6
ウ．昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
エ．管理職などへの登用	1	2	3	4	5	6
オ．仕事の内容	1	2	3	4	5	6
カ．退職・解雇	1	2	3	4	5	6
キ．福利厚生	1	2	3	4	5	6
ク．休暇の取得	1	2	3	4	5	6

問１１　「女性が職業を持つこと」について、あなたはどのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（○は１つ）

１．ずっと職業を持っている方がよい
２．結婚するまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
３．子どもができるまで職業を持ち、あとは持たない方がよい
４．子どもができたら職業を持たず、子どもに手がかからなくなって再び持つ方がよい
５．職業を持たない方がよい
６．その他（具体的に　　）
７．わからない

◎参考資料

問１２　あなたは男性の約６割が育児休業などを取得しない（できない）理由は何だと思いますか。
（〇は２つまで）

※厚生労働省：令和6年度雇用均等基本調査(全国)によると、女性の育児休業取得率は 86.6%であるのに

対し、男性の育児休業取得率は 40.5%となっています。

１．周囲に取得した男性がいないから
２．職場に取得しやすい雰囲気がないから
３．仕事が忙しいから
４．取得すると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから
５．取得すると人事評価や昇給に悪い影響があるから
６．経済的に困るから
７．育児・介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから
８．その他（具体的に　　）
９．わからない

問１３　男女が共に仕事と家庭や地域活動を両立できるワーク・ライフ・バランスを実現していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。（〇は３つまで）

１．賃金、労働などでの男女間格差をなくすこと
２．年間労働時間を短縮すること
３．代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること
４．育児や介護などのために退職した女性の再チャレンジ（再就職・起業など）支援策を充実すること
５．育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的支援を充実すること
６．地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること
７．在宅勤務やフレックスタイム制度※など、柔軟な勤務制度を導入すること
８．女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
９．職場の意識改革などについて企業に対する働きかけをすること
10．その他（具体的に　　）
11．わからない

※フレックスタイム制度‥一定期間についてあらかじめ定めた総労働時間の範囲内で労働者が日々の始業･終業時刻、労働時間を自ら決めることができる制度

人権に関することについておたずねします。

問１４　配偶者、パートナー、交際相手など親密な関係にある（あった）人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）についておたずねします。次の（Ａ）と（Ｂ）の質問にそれぞれお答えください。

（Ａ） あなたは、ア～コのような行為がドメスティック・バイオレンス （ＤＶ）にあたると思いますか。
１、２のいずれかに○をつけてください。（○はそれぞれ１つずつ）

（Ｂ）過去３年間においてあなたは配偶者、パートナー、交際相手などから、ア～コのような行為を受けたことがありますか。
１～３のいずれかに○をつけてください。（○はそれぞれ１つずつ）

（Ａ）		項　　目	（Ｂ）		
ＤＶだと思う	ＤＶだと思わない		何度もあった	１～２度あった	まったくない
1	2	ア．何を言っても長期間無視された	1	2	3
1	2	イ．交友関係や電話やメールを細かく監視された	1	2	3
1	2	ウ．他人や子どもの前で侮辱されたり、馬鹿にされたりした	1	2	3
1	2	エ．「だれのおかげで生活できるんだ」と言われた	1	2	3
1	2	オ．生活費を渡してくれなかった	1	2	3
1	2	カ．押されたり、つかまれたり、つねられたり、小突かれたりした	1	2	3
1	2	キ．蹴られたり、殴られたり、物を投げつけられたりした	1	2	3
1	2	ク．見たくないのに、性的な動画や雑誌などを見せられた	1	2	3
1	2	ケ．避妊に協力してくれない	1	2	3
1	2	コ．脅しや暴力により自分の気持ちに反して性的な行為を要求された	1	2	3

１つでも「何度もあった」「１～２度あった」を選んだ方は問１４－１へ

◎参考資料

【問１４（Ｂ）で１つでも「１．何度もあった」「２．１～２度あった」を選んだ方に】

問１４－１　あなたがドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）の被害にあったとき、誰(どこ)かに相談しましたか。（○はいくつでも）

１．誰（どこ）にも相談しなかった　→**問１４－２へ**

２．警察に連絡・相談した
３．国（ＤＶ相談プラスなど）県（配偶者暴力相談支援センターなど）市（男女共同参画推進課など）に相談した
４．民間の機関（弁護士など）に相談した
５．医師・カウンセラーに相談した
６．家族・親族に相談した
７．友人・知人に相談した
８．その他（具体的に　　）

問１５へ

【問１４－１で「１．誰（どこ）にも相談しなかった」を選んだ方に】

問１４－２　その理由は何ですか。（○は３つまで）

１．自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
２．相談しても無駄だと思ったから
３．自分にも悪いところがあると思ったから
４．相談するほどのことではないと思ったから
５．他人を巻き込みたくなかったから
６．恥ずかしくて誰にも言えなかったから
７．そのことについて思い出したくなかったから
８．相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
９．誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかったから
10．相談相手の言動で自分が不快な思いをすると思ったから
11．その他（具体的に　　）

問１５　あなたは、職場、地域、学校などで、次のようなセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたことがありますか。受けたことがあるものをすべて選んでください。
（〇はいくつでも）

１．好まない性的な話を聞かされた
２．容姿について傷つくことを言われた
３．「女のくせに･･･」とか「男なのに･･･」と性別による言い方をされた
４．お酒の場でお酌やデュエットを強要された
５．不必要に身体をさわられた
６．しつこく交際を迫られた
７．性的な噂をたてられた
８．「まだ結婚しないのか」とか「子どもは産まないのか」など、結婚や出産などについて、たびたび聞かれた
９．性的な関係を強要された
10．性的な要求を拒否したら、嫌がらせをされた
11．その他（具体的に　　）

問１５－１へ

12．受けたことがない　**→問１６へ**

【問１５でセクシュアル・ハラスメントを受けた経験がある方に】

問１５－１　あなたがセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を受けたとき、誰（どこ）かに相談しましたか。（〇はいくつでも）

１．誰（どこ）にも相談しなかった　**→問１５－２へ**

２．警察に連絡・相談した
３．労働基準監督署などの公的機関に相談した
４．民間の機関（弁護士など）に相談した
５．職場の相談窓口や労働組合に相談した
６．職場の上司や同僚に相談した
７．学校の先生に相談した
８．家族・親族に相談した
９．友人・知人に相談した
10．その他（具体的に　　）

問１６へ

◎参考資料

【問１５－１で「１．誰（どこ）にも相談しなかった」を選んだ方に】

問１５－２　その理由は何ですか。（○は３つまで）

１．自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
２．相談しても無駄だと思ったから
３．自分にも悪いところがあると思ったから
４．相談するほどのことではないと思ったから
５．他人を巻き込みたくなかったから
６．恥ずかしくて誰にも言えなかったから
７．そのことについて思い出したくなかったから
８．相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい嫌がらせを受けたりすると思ったから
９．誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかったから
10．相談相手の言動で自分が不快な思いをすると思ったから
11．その他（具体的に　　）

女性の性と生殖に関する健康・権利（リプロダクティブ・ヘルス/ライツ）についておたずねします。

問１６　次のア、イの各項目について、あなたの考えに最も近いものを選んでください。
（○はそれぞれ１つずつ）

※項目ごとに横に見てお答えください	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
ア．妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で十分話し合うべきである	1	2	3	4	5
イ．妊娠や性に関して、配偶者・パートナー、交際相手などとの間で合意できない場合には女性の意思が尊重されるべきである	1	2	3	4	5

※性と生殖に関する健康／権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)とは

国連の国際人口開発会議(カイロ、1994 年)で提唱された権利。人々が政治的・社会的に左右されず、安全で満ち足りた性生活を営むことができ、子どもを「持つ」「持たない」「何人持つか」を決める自由を持ち、子どもの数、出産時期を自由に決定し、そのための健康を享受できること、またそれに関する情報と手段を得ることができることが認められています。

悩みや困りごとについておたずねします。

問１７　あなたは、現在、次のような悩みや困りごとがありますか。（○はいくつでも）

１．仕事、雇用、転職、再就職、起業など
２．健康、病気、障がいなど
３．家計、借金、相続など
４．友人、知人との関係や職場での人間関係など
５．恋愛、結婚、離婚、夫婦関係など
６．家族、親族との関係など
７．育児、子育て、教育など
８．介護（自分または家族が介護をすることについて）
９．自分の性に関する悩み
10．その他（具体的に　　）

→問１７－１へ

11．ない　**→問１８へ**

【問１７で「１.」～「10.」のいずれかを選んだ方に】

問１７－１　あなたは、悩みや困りごとについて、相談機関や公的機関に相談したことがありますか。（○はいくつでも）

１．相談しなかった　**→問１７－２へ**

２．医療関係者（医師、看護師など）
３．学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラーなど）
４．民間の専門家や専門機関（弁護士、法テラス、カウンセラー、ＮＰＯ団体など）
５．行政の相談窓口（市民相談、女性相談、人権相談、福祉事務所、教育相談、子育て相談、消費生活センター、職業相談など）
６．警察（110 番、心のリリーフ・ライン（県警の犯罪被害者相談電話）など）
７．その他（具体的に　　）

→問１８へ

【問１７－１で「１.相談しなかった」を選んだ方に】

問１７－２　相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

１．相談しても無駄だと思ったから
２．相談するほどのことではないと思ったから
３．恥ずかしくて誰にも言えなかったから
４．家族や友人に相談したから
５．仕事などの都合で相談時間が合わなかったから
６．誰（どこ）に相談したらいいのかわからなかったから
７．相談相手の言動で自分が不快な思いをすると思ったから
８．その他（具体的に　　）

◎参考資料

問１８　さまざまな問題を抱える女性の悩みや困りごとを解決するために、どのような環境や支援があるとよいと思いますか。（○はいくつでも）

※令和6年4月1日に「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律（女性支援新法）」が施行されました。

１．気軽に話を聞いてもらえるＳＮＳなどの相談窓口
２．自分の困りごとを何でも相談でき、支援につながることができる窓口
３．利用できる支援制度の情報提供
４．同じような悩みを持つ人と出会える場所
５．相談・支援を受けている間の寄り添いや見守り
６．自分の困りごとに気づいて声をかけてくれる人や支援機関
７．生活のための経済援助
８．就労の支援（資格取得などの働くための支援や就職先を探すサポート）
９．カウンセリングなどの心理学的支援
10．弁護士などによる法的支援
11．その他（具体的に　　）

男女の平等観についておたずねします。

問１９　現在の社会において、男女の地位は平等になっていると思いますか。次のア～クの各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

※項目ごとに横に見てお答えください	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
ア．家庭の中で	1	2	3	4	5	6
イ．学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
ウ．職場の中で	1	2	3	4	5	6
エ．地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
オ．法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6
カ．慣習・しきたりの中で	1	2	3	4	5	6
キ．政治・政策決定の場で	1	2	3	4	5	6
ク．社会全体では	1	2	3	4	5	6

男女共同参画社会の実現についておたずねします。

問２０　次のア～スの言葉やことがらで知っているものはありますか。各項目についてあてはまる番号を選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

※18 ページに言葉の説明があります。

※項目ごとに横に見てお答えください	知っている	見たり聞いたりしたことがある	知らない
飯塚市の取組み			
ア．飯塚市男女共同参画推進条例	1	2	3
イ．飯塚市男女共同参画プラン・第２次飯塚市男女共同参画後期プラン	1	2	3
ウ．飯塚市女性人材バンク	1	2	3
エ．飯塚市男女共同参画オンブズパーソン	1	2	3
国や世界の取組み			
オ．男女共同参画社会基本法	1	2	3
カ．女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3
キ．政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	1	2	3
ク．困難な問題を抱える女性への支援に関する法律	1	2	3
ケ．女子差別撤廃条約	1	2	3
関連用語			
コ．固定的性別役割分担意識	1	2	3
サ．デートＤＶ	1	2	3
シ．ジェンダー	1	2	3
ス．アンコンシャス・バイアス	1	2	3

◎参考資料

問２１　男女共同参画社会を実現していくために、あなたは飯塚市に対してどのようなことを望みますか。（○は３つまで）

１．男女共同参画社会実現のための講演会や広報など啓発活動をする
２．学校教育や社会教育の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
３．経営者・事業主を対象に、雇用機会や労働条件の男女平等について啓発する
４．女性が能力を伸ばし、自立できるような教育･学習の場を充実する
５．延長保育など保育サービスの充実、育児･介護休業制度の普及など男女が共に働き続けるための条件整備を整える
６．職場、地域及び各種審議会など、方針決定の場に女性の参画を増やす
７．自治会長や地域団体の役員などに女性の登用を増やす
８．女性リーダーの養成、研修の場を充実する
９．男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
10．仕事と家庭や地域活動の両立ができるよう企業に働きかける
11．ＤＶや性暴力などの根絶に向けた意識啓発と被害者支援、女性の悩みに関する相談体制を充実する
12．セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントなど多様なハラスメント防止の啓発活動を充実する
13．その他（具体的に　　）
14．特にない

※上記選択肢に関し、具体的な案をお持ちの方は次ページの問24 にお書きください。

問２２　あなたはイイヅカコミュニティセンター内に設置している飯塚市男女共同参画推進センターサンクスを知っていますか。（○は１つ）

１．知っている　　２．見たり聞いたりしたことがある　　３．知らない

→ 問２３へ

【問２２で「１．知っている」を選んだ方に】

問２２－１　飯塚市男女共同参画推進センター　サンクスではさまざまな講座や事業を実施していますが、参加や利用をしたことがありますか。（○はいくつでも）

１．男女共同参画に関する啓発・出前講座
２．男性を対象とした料理などの講座
３．女性を対象とした健康や就業支援講座
４．女性活躍推進に関する講座
５．女性のための各種相談事業
６．参加や利用をしたことはない

問２３　あなたは飯塚市男女共同参画推進センター　サンクスでは、どのような事業をしてほしいと思いますか。（○は３つまで）

１．男女共同参画に関する研修・啓発講座
２．男性を対象とした家事・育児・介護に関する講座
３．女性の就業支援・起業支援講座（キャリアアップ講座、労働問題講座など）
４．出産、育児、介護などで仕事をやめた人の再就職支援講座（資格習得支援講座など）
５．女性の政策決定の場への参画につながる講座
６．男女共同参画に関する自主活動団体などへの支援
７．その他（具体的に　　）
８．特にない

※飯塚市男女共同参画推進センター　サンクス

「サンクス」では性別や年齢にとらわれず、のびのびと暮らせる豊かなまちづくりを目指してさまざまな視点から、男女共同参画社会を考える講座や事業を実施しています。

問２４　飯塚市の男女共同参画推進について、ご意見、ご要望など、ご自由にお書きください。

次ページへ続く

◎参考資料

最後に、あなたご自身についておたずねします。

問２５　次の各項目についてあてはまる番号を１つずつ選んでください。（○はそれぞれ１つずつ）

性別（性自認）	１．男性　　２．女性　　３．どちらでもない・回答しない
年　　齢	１．20 歳未満 ２．20～29 歳 ３．30～39 歳 ４．40～49 歳 ５．50～59 歳 ６．60～69 歳 ７．70 歳以上
婚 姻 関 係 （事実婚も含む）	１．未婚 ２．配偶者・パートナーがいる（共働きである） ３．配偶者・パートナーがいる（共働きでない） ４．配偶者・パートナーとは死別又は離別した
同居の家族構成 （事実婚も含む）	１．本人だけ ２．夫婦・パートナーだけ ３．親・子（二世代） ４．親・子・孫（三世代） ５．その他（具体的に　　）
自分を含めた 同居の家族 （あてはまるもの すべてに○）	１．乳幼児（３歳未満） ２．未就学児 ３．小・中学生 ４．高校生 ５．専門学校生 ６．大学・短大生 ７．６５歳以上の人 ８．１～７以外の人
あなたの 令和６年中の年収 （令和６年１月１日～ １２月３１日まで）	１．収入なし ２．１３０万円未満 ３．３００万円未満 ４．５００万円未満 ５．５００万円以上

◇◇◇ご協力ありがとうございました◇◇◇

ご記入いただいた調査票は、返信用封筒（切手不要）に入れて
10 月 31 日（金）までにご返送ください。

≪(問 20)の言葉の説明≫

○飯塚市男女共同参画推進条例

飯塚市の男女共同参画推進の根拠条例。

○飯塚市男女共同参画プラン・第２次飯塚市男女共同参画後期プラン

飯塚市の男女共同参画推進に係る施策を総合的に実施するための計画。

○飯塚市女性人材バンク

女性の視点で意見を取り入れることを目的に女性の人材を募集し、市の審議会などにおける委員の候補者として推薦する人材リスト。

○飯塚市男女共同参画オンブズパーソン

男女共同参画に関する市の施策に対する苦情や性別に基づく人権侵害などを受けた人からの救済の申し出を、男女共同参画社会と人権の擁護者として公平かつ適切に処理する専門家による苦情処理機関。

○男女共同参画社会基本法

1999 年(平成 11 年)に施行。男女共同参画社会実現のための基本的考え方と、国、地方公共団体及び国民の男女共同参画社会の形成に関する取り組みを総合的かつ計画的に推進することを目的とする法律。

○女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

2016 年（平成 28 年）に施行。働くことを希望する女性が、職業生活においてその個性と能力を十分に発揮し、活躍できるよう、国や地方公共団体が必要な施策を策定・実施することに加え、事業主が女性の活躍推進に向けた取り組みを自ら実施することを促すための枠組みについて定めた法律。

○政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

2018 年（平成 30 年）に施行。衆議院、参議院及び地方議会の選挙において、男女の候補者の数ができる限り均等となることを目指すことなどを基本原則とし、国・地方公共団体の責務や、政党などが所属する男女のそれぞれの公職の候補者の数について目標を定めるなど、自主的に取り組むよう努めることなどを定める法律。

○困難な問題を抱える女性への支援に関する法律

2024 年（令和６年）に施行。生活困窮、ＤＶ被害、性的搾取などに苦しむ女性を公的枠組みで包括的に支援することを目的とした法律。

○女子差別撤廃条約

1979 年（昭和 54 年）に国連で採択され、女性に対するあらゆる差別の撤廃をめざして、法律や制度だけでなく、各国の慣習、慣行も対象に含めている条約。日本は、1985 年（昭和 60 年）に批准。

○固定的性別役割分担意識

性別を理由にして、役割を固定的に分ける考え方。例として、「男は仕事、女は家庭」、「男性は主要な業務、女性は補助的な業務」などがあげられる。

○デートＤＶ

交際中の相手との間に起こる暴力。暴力には、なぐる、けるといった身体的暴力だけでなく精神的な暴力、行動の制限などの社会的暴力なども含む。

○ジェンダー

社会的・文化的につくられた性のありようのこと。例えば、「男は仕事、女は家事・育児」など性別により期待される役割や、「女（男）はこうあるべき」といった固定観念や偏見、またはそれらに基づいてつくられた社会制度などを指す。

○アンコンシャス・バイアス

人が、無意識に持ってしまっている、特定の人や集団に対する偏った見方や考え方のこと

男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書

令和8年3月

発　　行　　福岡県飯塚市
企画・編集　　飯塚市市民協働部　男女共同参画推進課

〒820-8501　　福岡県飯塚市新立岩５番５号
TEL　（０９４８）９６-８５４３
FAX　（０９４８）２２-５５２６